



地域学校
協働活動
事例集

平成 29 年度

文部科学省
生涯学習政策局
初等中等教育局

平成29年度地域学校協働活動事例集の発行に当たって

地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を一層、推進するため、平成29年3月に、社会教育法が改正され、教育委員会による連携協力体制の整備や、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動推進員」に関する規定が整備されました。また、新学習指導要領においては、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視しており、そのためには学校が地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的・物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整え、地域学校協働活動を進めることが重要だとしています。そして、学校、家庭、地域社会がそれぞれの教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育が子供たちに対して行われることを目指しています。

さて、人生100年時代、さらにはSociety5.0の到来などの社会の大きな転換点にあつて、生涯学習の理念を踏まえた総合的な教育政策を推進することが必要であり、文部科学省では、平成30年10月に、新たに「総合教育政策局」を設置することとしています。これは、学校教育と社会教育の縦割りを克服し、より横断的・総合的なビジョンに基づく教育行政を戦略的に展開するため、文部科学省の機能を強化し、生涯学習の理念の実現を目指すものです。学校教育との連携・融合も強化しながら、幅広い分野での社会教育の振興を図り、学びを通じたより良い地域づくり、社会づくりにつなげていきたいと考えております。

本事例集は、全国で取り組まれている地域学校協働活動のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められる取組として、平成29年度に文部科学大臣から表彰を受けた150の活動を広く紹介するために作成したものです。本事例集が、各々の取組のみならず、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールといったように複数の取組を有機的に組み合わせた活動を推進するために、ご活用いただければ幸いです。なお、本事例集の内容は、文部科学省ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」(<http://manabi-mirai.mext.go.jp/>)にも過去の表彰事例とともに掲載しておりますので、あわせて御覧ください。

最後に、本事例集の作成に当たりまして、表彰団体や都道府県、市区町村等関係者の皆様方の多大な御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

平成30年4月

文部科学省

生涯学習政策局 社会教育課長 八木 和広

初等中等教育局 参事官 木村 直人

地域学校協働活動とは



地域学校協働活動は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。地域学校協働活動の推進により、それぞれの地域の未来を担う子供たちが、地域の方々に見守られ、支えられながら、豊かな学びや体験の機会を得て、健やかに成長していくことは、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人材の育成につながります。

地域学校協働活動は、平成 29 年 3 月の社会教育法の改正により、法律に位置づけられました。

改正後の社会教育法において、教育委員会は地域学校協働活動の機会を提供する事業を実施する際には、地域住民と学校との連携協力体制の整備や、普及啓発活動などの措置を講じることとされています。

また、地域と学校をつなぐコーディネーターとしての役割を果たす者について、「地域学校協働活動推進員」として教育委員会が委嘱できることとする規定が設けられました。



地域と学校が連携・協働した基盤的な活動

地域の持つ教育資源に精通しているコーディネーター役となる地域学校協働活動推進員が、学校と地域との連絡調整を行い、学校のニーズをもとに地域の協力者を集めます。学校と地域、双方向の意見をすり合わせ、互いの役割を認識しあって協働しながら、子供たちの育成につながる活動にしていきます。例えば、学びによるまちづくりや地域課題解決型学習、郷土学習、地域の行事・イベント・お祭り・ボランティア活動等への参画などがあります。

地域未来塾

大学生や元教員といった地域住民や、民間教育事業者、NPO 等の協力により、経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生・高校生等を対象として、学校や社会教育施設等を利用して行う、原則無料の学習支援事業です。



放課後子供教室

小学校の余裕教室等を活用して、多様な地域住民の参画を得て、子供たちとともに学ぶ学習やスポーツ、伝統文化体験や郷土学習、昔遊び等の取組です。共働き家庭の子供たちの生活の場である放課後児童クラブとの一体的、又は連携した実施により、放課後児童クラブの児童も含めた全ての子供たちの放課後の学習・体験活動を充実する等、総合的な放課後対策を推進しています。

外部人材を活用した教育支援活動

民間企業・団体等を中心として、多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、魅力ある学習・体験プログラムを実施したり、地域の民間企業等による職場体験活動等に取り組んだりしています。

「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の仕組みと連動した地域学校協働活動

地域住民や保護者の意見を学校運営に反映させる仕組みとして学校運営協議会が設置されている学校（コミュニティスクール）では、地域学校協働本部と学校運営協議会の双方を機能させることにより、「地域とともにある学校づくり」の実現を推進しています。



※なお、本事例集では、地方教育行政法に基づく形をとらずに、教育委員会がそれに近い形で独自の制度等で推進する仕組み（「〇〇型コミュニティ・スクール」「学校運営協議会制度導入前の準備段階」など）と連動した地域学校協働活動の事例も掲載しています。

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰について



表彰の趣旨

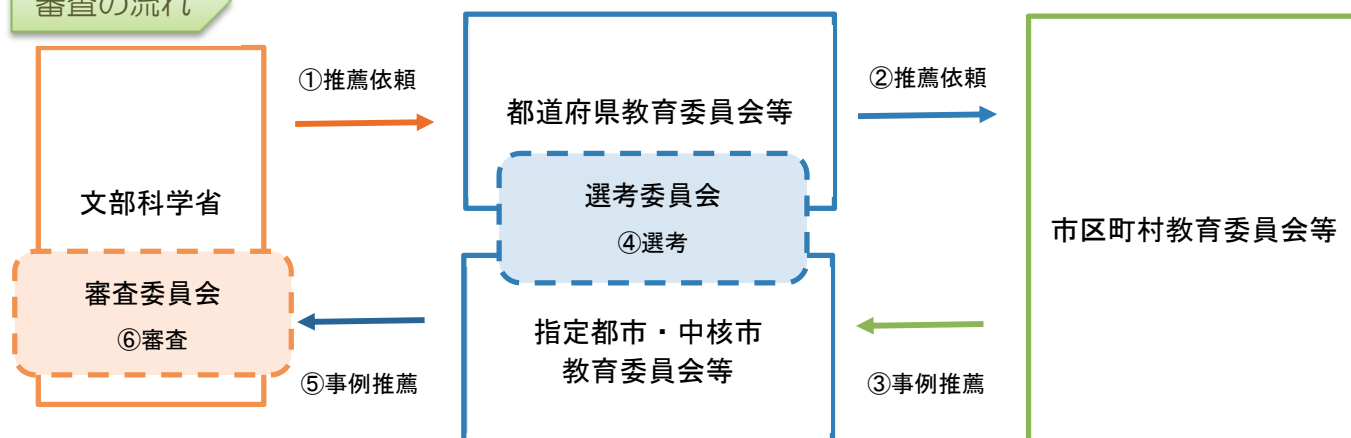
地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動のうち、その内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰です。

表彰の対象

- ①「地域と学校が連携・協働した基盤的な活動」
- ②「地域未来塾」
- ③「放課後子供教室」
- ④「外部人材を活用した教育支援活動」
- ⑤「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の仕組みと連動した地域学校協働活動



審査の流れ



審査員の先生方のプロフィールは次のページで紹介しています。



平成 29 年度の表彰式の様子

平成 29 年 12 月 7 日（木）、文部科学省講堂において、『「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰』の表彰式が開催されました。表彰式には、地域学校協働活動推進員や学校長など、300 人を超える関係者が出席しました。表彰式後は、社会教育・家庭教育の視点から大槌町教育委員会地域学校協働本部の事例が、学校教育の視点から大谷小学校運営協議会の事例がそれぞれ発表されました。その後のディスカッションでは、活動ごとに小グループを組み、地域と学校の連携・協働のさらなる推進のための方策について話し合われました。参加者は日頃の悩みや課題を共有したり、アドバイスあったりするなど、活発な意見交換の様子が見られました。



丹羽文部科学副大臣と受賞者



入江 優子

東京学芸大学児童・生徒支援連携センター
准教授

行政職として学校と地域の協働や家庭教育支援、被災地のコミュニティ再生支援などに従事。その実践に魅せられ、社会人として博士課程に進学。現在は、社会教育学の立場から、経済的に困難な家庭状況にある児童生徒へのパッケージ型支援に関するプロジェクト研究に携わる。



竹原 和泉

特定非営利活動法人 まちと学校のみらい
代表理事

横浜市立東山田中学校コミュニティハウス初代館長を務める。東山田中学校学校運営協議会会長・地域学校協働本部事務局として、さらにまちづくりの現場で学校と地域の新しい関係作りを進めている。



平岩 国泰

特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール
代表理事

平成 16 年、長女の誕生をきっかけに、“放課後 NPO”の活動開始。平成 23 年、会社を退職し、活動に専念。小学校施設を活用し、市民先生と共に地域で子供を育てる“アフタースクール”を開校している。



深作 拓郎

弘前大学生涯学習教育研究センター
講師

茨城県大洗町教育委員会、美野里町（みのり）役場に勤務。社会教育行政やまちづくりを担当。特に美野里町では、住民主体型の文化センター整備事業に携わる。子供の放課後や地域社会に関する研究に取り組んでいる。



四柳 千夏子

一般社団法人みたか SC サポートネット
代表理事

娘の小中学校 PTA 活動をきっかけに、学校や子供たちに関わる様々な地域団体で活動中。三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員として学校運営に参画。平成 23 年に任意団体を設立、地域とともにある学校を地域の側から支えている。

目次

- はじめに…………… 1
- 地域学校協働活動とは…………… 2
- 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰について …… 3
- 審査員紹介…………… 4
- 地域学校協働活動事例…………… 11

①地域と学校が連携・協働した基盤的な活動

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
青森県	八戸市	八戸市立中居林小学校 地域密着型教育	「子供と大人が共に学び、育ちあおう」という姿勢	13
	三沢市	古間木小学校支援ボランティア	地域の諸団体と学校間の連携	14
	板柳町	板柳東小学校地域学校協働活動事業	伝統芸能や地域の基幹産業（りんご栽培）といった地域の教育資源などの組織化	15
	むつ市	第二田名部小学校学校支援活動	企業と連携した学習支援（キャリア教育）が充実	16
岩手県	大槌町	大槌町教育委員会地域学校協働本部	「ふるさと科」の活動と「井戸端会議室」	17
	西和賀町	いのち輝く百年創造塾	西和賀高等学校が地域と連携し、地方創生を担う若者を育成	18
宮城県	仙台市	富沢小学校 学校支援地域本部 リンク！とみざわ	スーパーバイザーを核とした地域のネットワークづくり	19
	栗原市	花山小学校協働教育推進委員会	「小規模校だからこそできること」	20
	大和町	吉岡地域教育協議会	家庭教育の啓発活動と授業参観時の託児	21
秋田県	潟上市	天王中学校区地域学校協働活動	大学生や青年層など多彩な年齢層の参画	22
	大仙市	中仙小学校地域学校協働本部	公民館との連携	23
	鹿角市	尾去沢地域学校協働活動	学区の史跡（観光）での中学生のボランティアガイド	24
山形県	川西町	吉島小学校支援地域本部	地域のNPOが中心となった学校と地域の組織・機関の連携	25
福島県	国見町	国見町地域学校協働本部	幼稚園から中学校までの一体化	26
	玉川村	玉川村学校支援地域本部	地域に見守られている安心感	27
茨城県	つくば市	風の会（帰国・外国人児童への 日本語指導ボランティア活動）	学校だけでは解決できないテーマへの地域の力の活用	28
栃木県	日光市	今市第三小学校 「学校支援地域協議会」	地域連携担当教員の配置	29
	佐野市	三轟・唐沢スクールサポートセンター	中・高校生のボランティア活動による地域での循環	30
埼玉県	川越市	川越子どもサポート事業	様々な機会での地域の大人と子供との関わり	31
	羽生市	みなみっ子 日本文化体験活動	自治会や社会福祉協議会との関係の構築	32
千葉県	野田市	川間中学校区学校支援地域本部	教職員による地域や社会教育・生涯学習への意識啓発	33
東京都	江東区	やながわファミリー	新聞やカレンダーがつなぐ地域と学校	34
	板橋区	板一中 OSS	中学生の育ち	35
	杉並区	富士見丘中学校支援本部「JOINT」	生徒の社会貢献活動及び学習の支援	36

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
神奈川県	横浜市	「幸ヶ谷共育倶楽部」による地域学校協働活動	企業・NPO・大学と連携した教育活動	37
	横浜市	すすき野中学校支援会による地域学校協働活動	学校と地域、双方向の関係づくり	38
	川崎市	宿幼くまもと応援地域本部	地域の想いと保護者の想いとをマッチングさせたチャリティ活動	39
新潟県	新潟市	新津第一小学校地域学校協働活動本部	子供たちの地域愛の育成	40
	新潟市	笹口小学校地域学校協働活動本部	地域企業や商店街、専門学校と支え合う協働的な活動	41
	新発田市	二葉小学校地域連携ネットワーク会議	地域一体となった防災教育	42
石川県	金沢市	金沢市立中村町小地域学校協働本部	ジュニア金沢検定などの地域主体のふるさと学習を推進する創意工夫	43
山梨県	早川町	早川北小学校学校支援活動	地域での取材活動や調査研究	44
長野県	佐久市	中佐都小C S 応援団	体系的な組織と事業の実施体制	45
岐阜県	高山市	地域に根ざした保小中一貫教育推進事業	まちづくり協議会の社会教育部会が中心となった地域の意識形成	46
	高山市	朝高子どもしとねる会	積極的に子供と関わる機会の設定	47
静岡県	富士宮市	富士宮市立北山中学校支援地域本部	様々な生徒への寄り添い	48
愛知県	田原市	田原市地域学校協働本部	コーディネーターによる学校、地域、企業、団体の連携	49
	清須市	清須市学校支援地域本部	図書館と協働した読書活動	50
京都府	向日市	地域で支える学校教育推進事業第3向陽小学校実行委員会	学校支援地域本部と放課後子供教室との連携・協働	51
大阪府	茨木市	茨木支援学校学校支援活動(地域交流)	特別支援学校における児童生徒の社会性の育成	52
兵庫県	尼崎市	学校支援活動コーディネートモデル事業	地域組織のゆるやかなネットワーク化	53
	三田市	ゆりのき子どもネットワーク	統括的なコーディネーターの配置と次世代のコーディネーターの養成	54
奈良県	奈良市	京西中学校区地域教育協議会	総合コーディネーターと各校のコーディネーターの連携	55
	大淀町	地域と共にある大淀高校	高校と地域の課題解決のために生徒が主役となる地域貢献	56
	王寺町	王寺南小学校コミュニティ	高校生と小学生の先駆的な交流	57
和歌山県	橋本市	橋本市共育コミュニティ推進協議会	地域共育コミュニティの活動によるいきがいつくりとまちづくり	58
鳥取県	米子市	米子高等学校における地域のニーズに対応した地域貢献	高校生による地域連携・地域貢献	59
岡山県	井原市	荏原小学校支援地域本部(地域学校協働本部)	地域と学校の熟議による「目指す子供像」の共有	60
	久米南町	岡山県立誕生寺支援学校支援地域本部(地域学校協働本部)	アンテナショップによる学びの深化と人とのつながり	61
広島県	広島市	庚午中学校 学校協力者会議	学校・家庭・地域との連携によるまちぐるみ「教育の絆」プロジェクト	62
	廿日市市	地御前小学校区学校支援地域本部	学校支援ボランティアガイドによる事前研修	63
山口県	岩国市	岩国さんたいきょうネット	小中一貫教育を地域全体で支える体制	64
	柳井市	しらかべネット	合同の教職員研修や教育活動による連携・協働体制の構築	65
	防府市	「牟礼は一つ 地域まるごと学校」～牟礼ミラタネット～	公民館のコーディネート機能	66

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
徳島県	美馬市	江原中学校区学校支援地域本部	中学生の地域の担い手意識の醸成	67
香川県	高松市	屋島東地域連携活動	年度当初のボランティア計画の立案	68
	丸亀市	飯山中学校区地域学校協働本部	夜間に開催される出入り自由な「コミもぐ」による地域の交流促進と人材発掘	69
高知県	香美市	物部地域学校協働本部	PDCA サイクルの視点及び学校運営協議会と協働本部による一体的な取組	70
	越知町	越知小学校学校支援地域本部	地域コーディネーターの学校内の配置	71
	土佐市	新居小学校支援地域本部	地域の様々な支援による教職員の授業や生徒指導等に注力できる環境づくり	72
福岡県	久留米市	屏水中学校区スローメディア推進活動	学校・家庭・地域における課題「メディアとの付き合い方」の解決	73
長崎県	壱岐市	渡良っ子サポート会議	学校の教育目標の共有と関係団体による目標の実現に向けた活動計画の立案	74
熊本県	苓北町	志岐地区地域学校協働活動	多岐にわたる地域学校協働活動の展開	75
大分県	臼杵市	下ノ江地区ふれあい協議会	卒業生による学習支援や地元企業の協力による活動	76
宮崎県	川南町	Team Kawaminami 学びのネットワークづくり事業	生涯学習講座受講生による学習支援や役場職員による出前授業	77
	小林市	小林子ども遊学会による読書活動を通じた地域学校協働活動	多岐にわたる読書活動	78
鹿児島県	鹿児島市	学校支援ボランティア事業 和田小学校	大学との連携体制	79
	指宿市	川尻小学校支援地域本部	地域コーディネーターを中心としたPTAや地域住民の連携	80
	志布志市	通山小学校学校応援団	保護者や地域も巻き込んだ活動	81
沖縄県	浦添市	浦西中学校区地域学校協働本部	地域連携担当職員と地域コーディネーターの連携	82
	沖縄市	美東中学校地域学校協働本部	大学生による数学の学習支援	83
	沖縄市	中の町小学校地域学校協働本部	コーディネーターによるボランティアの心得の説明	84

②地域未来塾

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
埼玉県	さいたま市	上チャレ	地域のスタッフ同士や学校との情報共有・相談	85
東京都	町田市	町田第三中学校「Ⅲ中未来塾」	タブレット端末を使用した学習方法	86
富山県	朝日町	朝日中学校放課後学習相談教室	教員志望の学生と教員OBの関わり	87
京都府	福知山市	桃映中学校地域未来塾	学習支援を中心に据えた地域住民による居場所づくり	88
愛媛県	西条市	地域未来塾「さくら塾」	日本語に不慣れな外国人の子供に対する学習と生活文化の支援	89
熊本県	産山村	うぶやま夢塾	地域資源と外部資源を効果的に取り入れた実践活動	90

③放課後子供教室

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
宮城県	仙台市	東四かっこ放課後子ども教室	丁寧な学習支援と防災意識を高める取組	91
	山元町	放課後子ども教室「はまっこキッズ」	震災後の地域のコミュニティ再編	92

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
山形県	上山市	かみのやま寺子屋	武家屋敷を活用した学習支援やプログラムの展開	93
福島県	金山町	金小ゆうがたクラブ	異学年交流による学習のサポート	94
茨城県	稲敷市	古渡小学校放課後子ども教室	安全な居場所＋安心できる下校手段	95
群馬県	みなかみ町	新治きっずくらぶ	自然環境を活かした木育の取組	96
	嬭恋村	嬭恋村放課後子ども教室	異年齢での活動や東西両校の交流	97
埼玉県	さいたま市	辻小虹色チャレンジスクール	高校生による学習支援や企業を巻き込んだ展開	98
	川口市	朝日東ホッと大夢	継続したクラブ活動	99
	柏市	高柳西小学校ステップアップ学習会	学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的とした学習支援	100
千葉県	山武市	みどりみ子ども教室	半年を一つの区切りとした幅広い活動	101
	木更津市	木更津市放課後子ども教室	「子供たちの自由な遊びを地域の大人が見守る」という姿勢	102
東京都	あきる野市	あきるのクラブ（東京都立あきる野学園）	特別支援学校でのインクルーシブで多様な取組	103
神奈川県	湯河原町	湯河原小学校放課後まなび教室	プログラミング学習や子供が企画・運営する文化祭イベントなどの多様な活動	104
石川県	野々市市	館野小学校放課後子ども教室	公民館を活用し、地域を巻き込んだ活動	105
	輪島市	三井公民館子ども教室	小学校高学年を対象とした活動	106
山梨県	笛吹市	学びの広場ふえふき	子供教室、学童クラブ、学校支援の三位一体の活動	107
	富士吉田市	わくわく子ども教室	放課後子供教室と土曜日の特別教室をミックスした展開	108
長野県	小布施町	小布施町「子ども教室」	子供間の話合いや合意形成の機会の重視	109
愛知県	名古屋市	川原小学校トワイライトスクール	子供の意見をベースとした活動	110
	名古屋市	南陽小学校トワイライトルーム	多様なプログラムの展開と他校とのブロック交流会	111
京都府	京都市	九条弘道小学校放課後まなび教室	学童クラブとの連携	112
	井手町	井手町まなび教室「きらきらランド」	地域の子供を育む ～コーラス・文化・スポーツの三本柱～	113
	大阪市	榎本小学校「いきいき」活動	縦割活動の重視	114
大阪府	大阪市	大隅東小学校「いきいき」活動	大学生スタッフを中心とした活動の展開	115
	茨木市	水尾小学校区放課後子ども教室	豊かな体験活動と学校との協力体制	116
島根県	大田市	大田わんぱく遊び隊	中高生の関わり	117
	松江市	法吉子ども広場	公民館を舞台にした文化・芸術活動	118
広島県	神石高原町	ゆきキッズクラブ	地域の特産物を活かした取組	119
徳島県	鳴門市	大津西放課後子ども教室	地域の宝を活かした取組	120
	板野町	放課後子供教室 東っこ	遊びから学びにつなげる藍染め体験	121
愛媛県	内子町	小田小学校放課後子ども教室	学校外での活動の重視	122

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
愛媛県	宇和島市	高光放課後子ども教室	公民館の特徴を活かした取組	123
福岡県	直方市	直方市放課後学習	統括コーディネーターと地域コーディネーターの連携	124
	苅田町	馬場小学校区あそびの広場	学童クラブと放課後子供教室の連携	125
長崎県	佐世保市	猪調小放課後子ども教室	伝統文化、運動、音楽の三本柱	126
熊本県	和水町	菊水南小学校放課後子供教室	教員 OB の多数の参画	127
大分県	国東市	武蔵地域ネットワーク	学習支援・キャリア教育・家庭支援	128
宮崎県	延岡市	名水っ子放課後子ども教室	地域性を活かした体験型の交流活動	129

④外部人材を活用した教育支援活動

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
北海道	札幌市	伏古小サタデースクール	保護者の運営への参画や地域の専門家を招いた体験型学習の実施	130
	札幌市	サタデースクール「時習館」	学校への愛着を高める工夫と校区の自然を生かした取組	131
	遠別町	子どもチャレンジ教室	郷土学習と身体を動かす多彩な体験活動を組み合わせたプログラム	132
	白糠町	白糠町土曜授業	学校の授業とリンクさせたふるさと学習	133
岩手県	九戸村	九戸村学校支援地域本部事業（九曜塾）	地域の自然文化を活かした体験型学習と高校生ボランティアも参画する寺子屋	134
福島県	いわき市	みまや土曜たいけん隊	地元企業のCSR活動の活用	135
埼玉県	深谷市	がんばる〜ム	学習時間の合間の「ハーフタイム」での軽スポーツ	136
神奈川県	川崎市	東小倉小「地域の寺子屋事業」	イメージキャラクターなど子供が親しみを持てる工夫	137
	川崎市	遊びと学びの寺子屋	「学校の7時間目でも塾でもない」	138
富山県	高岡市	土曜古府っ子教室	親子参加型の土曜の取組	139
岐阜県	郡上市	「ふるさと」たんけん！郡上を体験！ 郡上こども講座	体験を通じた「郡上学」の学び	140
兵庫県	朝来市	竹田まなび隊（竹田地域自治協議会）	若者世代の地域団体による「シビックプライド」を育成	141
奈良県	天理市	福住S・ジョブズ・スクール	「小規模特認校」の特性を生かした活動	142
長崎県	時津町	とぎつサタデールーム	大学生の運営への参画	143
	五島市	エンジョイ サタデースクール	離島の子供たちへの体験の機会の提供	144

⑤「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の仕組みと連動した地域学校協働活動

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
群馬県	伊勢崎市	あずま南小学校学校運営協議会	地域の伝統や地域で特性を持った方々からの指導（教育課程に位置付け）	145
東京都	八王子市	八王子市立第六中学校学校運営協議会	生徒主体の学校運営協議会	146
新潟県	見附市	見附市立田井小学校学校運営協議会	地域、保護者、学校が一体となった活動	147
	上越市	三和の子どもを『共に』育てる会	地域課題である少子化の解決に向けた取組	148
長野県	駒ヶ根市	中沢小学校応援隊	「チョコッと部隊」による多くの人が少しずつ関わる仕組み	149

都道府県名	市区町村名	活動名	ポイント	ページ
岐阜県	岐阜市	黒野小学校学校運営協議会	「黒野ふるさと検定」など工夫された取組	150
愛知県	豊田市	浄水中学校区コミュニティ・スクール	多岐にわたる活動	151
	一宮市	丹陽中学校区学校運営協議会	領域部会ごとの「ねらい」をもった活動計画の立案	152
三重県	松阪市	第四小学校学校運営協議会	熟議を通じた保護者・地域・教職員の相互理解	153
	四日市市	四日市市立中部中学校学校運営協議会	学校運営協議会を中心とした地域住民が参画するシステムの構築	154
	亀山市	川崎小学校学校運営協議会	地域活動室の整備	155
滋賀県	長浜市	高月小学校学校運営協議会	子供の生活上の課題解決	156
	竜王町	竜王小学校学校運営協議会	拡大学運協やポスターセッションなどの周知・啓発	157
京都府	京都市	西陣中央小学校学校運営協議会	知・徳・体に分類された活動の柱	158
大阪府	河内長野市	河内長野市学校運営協議会連絡会議	校区の特色を活かしたふるさと学と学習室	159
広島県	府中町	府中町立府中南小学校学校運営協議会	ボランティアの質の向上	160
福岡県	春日市	大谷小学校学校運営協議会	子供が地域にどう貢献するかを考えた見通しのある活動	161
鹿児島県	南さつま市	坊津学園学校運営協議会	コーディネーターが中核となった活動	162

●参考資料	163
●都道府県別索引・連絡先一覧	168

活

動

事

例

※1 学校の基本データは、複数の学校で活動が実施されている場合は、活動の中心となっている学校、または平均的な規模の学校のデータを掲載しています。

開始年度	平成	26	年度	学級数	15	学級	児童・生徒数	408	人
------	----	----	----	-----	----	----	--------	-----	---

※2 ポイントは、5人の審査員の先生方のコメントを掲載しています。

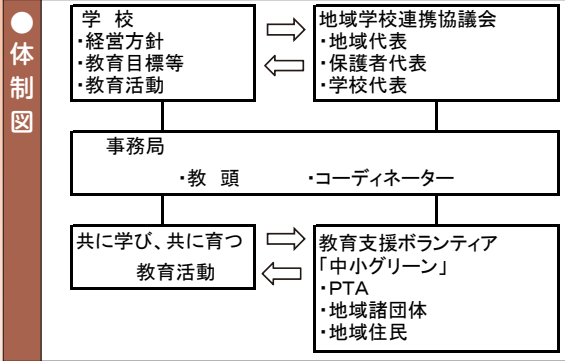
ポイント

郷土学習と、身体を動かす多彩な体験活動を組み合わせたプログラムが素晴らしいです。

※3 各事例についてのお問い合わせは、直接、連絡先までお電話ください。

地域・家庭・学校が、共に学び共に育つ「地域密着型教育」

青森県八戸市		● 活動名 八戸市立中居林小学校地域密着型教育		● 関係する学校名 八戸市立中居林小学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	15 学級	児童・生徒数	327 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（図書活動支援）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	中小グリーン
ボランティアの数	登録人数 84 人	属性	地域住民、保護者		
参考 URL	http://www.hachinohe.ed.jp/nakaib_e/index.html				
● 連絡先	八戸市立中居林小学校			☎ 0178-96-1030	
● 活動の概要・経緯	平成 21 年度に八戸市教育委員会の「地域密着型教育推進事業」の指定校となり、地域密着型教育を推進して今年度で 9 年目を迎える。地域密着型教育を推進するにあたり、地域・保護者・学校の代表者からなる「地域学校連携協議会」を設置し、学校の教育方針や教育活動、地域密着型教育への取組、教育支援ボランティアの状況等について協議している。また、教育支援ボランティアチーム「中小（なかしよ）グリーン」を組織し、2 名のコーディネーターが中心になって、ボランティアの募集・連絡・調整等を行い、子供たちのための地域・家庭・学校が連携・協働した活動となっている。				
	● 体制図				



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 図書活動支援
定期的に本の修理や整理、季節にあわせた装飾等といった図書室の環境整備及び読み聞かせ活動を行っている。
- 2 環境整備活動支援
学校農園の整備・耕作、校地内の花壇整備や草取り、側溝の泥あげ及び校内の子供の手が回らない場所の清掃等を行っている。
- 3 生活安全活動支援
毎朝夕の登下校の見守り及び交通安全指導やあいさつ運動を行っている。
- 4 学習活動支援
1 年生入学時におけるスタートカリキュラムに関わる支援、家庭科実習活動の補助、校外学習引率補助、放課後補充学習の丸つけ補助といった授業・学習に関わる支援や学校行事に関わる支援を行っている。また、もちつきや焼いも会、地域に伝わる芸能についての指導といった「地域・ふるさと学習」の支援を行っている。
- 5 部活動支援
部活動での技術指導の手伝い、練習時の安全見守りの手伝いを行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 1 地域学校連携協議会で学校の取組についての理解を得た上で、随時、コーディネーターを通じて地域関係団体に協力要請をするなど、地域や家庭と連携・協働できる体制をとっている。
- 2 地域との連携・協働を深めるために、コーディネーターが地域関係団体や人材等の情報収集に努めるとともに、地域連携だより「みどりの風」を作成・発行し、全町内会に回覧し、活動への理解を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地域学校連携協議会において、子供たちの地域での様子、交通事情や公園設置状況等の地域の状況に関わる情報共有ができ、地域・家庭・学校が連携した取組に結びついている。
- ・コーディネーターがボランティア活動の窓口及び推進役となることで教育活動推進の支援体制が整い、読書活動の推進や児童の計算力の向上等につながっている。また、地域の方々の教育活動への理解が進み、ボランティア登録者数が増加し協力団体が広がっている。
- ・保護者や地域の方々が、それぞれの立場での「できる時にできることの実践」を通して、子供たちのために連携・協働することで、地域の活性化につながっている。



「図書室整備」季節に合った飾りつけ



「総合 収穫を祝おう」もちつきの指導

ポイント

「子供と大人がともに学び、育ちあおう」という姿勢が実践の基本姿勢となって取り組まれ、そして地域全体で地域の子供の様子を共有し、様々な問題解決につなげようと発展しており、素晴らしいですね。

古間木小学校支援ボランティア

青森県三沢市		● 活動名 古間木小学校支援ボランティア			● 関係する学校名 三沢市立古間木小学校		
開始年度	平成 21 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	117 人		
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()						
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 4 人	連携団体・企業等			
ボランティアの数	登録人数 70 人	属性	地域住民 老人クラブ PTA 役員				
参考 URL							
● 連絡先 三沢市立古間木小学校				☎ 0176-53-3901			

● 体制図

```

    graph TD
      A[教育課題 教育目標] --- B[親の願い]
      A --- C[地域・児童の実態]
      A --- D[教職員 古間木小PTA]
      D --- E[古間木小学校 支援ボランティア コーディネーター]
      E --- F[保護者 地域住民]
      E --- G[地域諸団体]
      E --- H[全ての教育活動(行事・授業)]
      
```

● 活動の概要・経緯

長年にわたって、町内会や老人クラブによって学校支援ボランティアが行われてきた地域である。平成 21 年度に学校支援地域本部事業に取り組み、コーディネーターを中心にして活動を継続させ、地域の絆を結ぶ機会となっている。

活動に当たっては、教頭と学校支援ボランティアコーディネーター 4 名と事前打ち合わせをし、年度始めに学級担任を交えて行事や授業への支援要請について会議を行っている。年末には、ネットワーク形成のためのボランティア交流会を開き、さらに、学校支援ボランティア活動の現状と今後、次年度の学校運営等について協議する場としている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学校支援ボランティアコーディネーターがボランティアを募って活動している。
- 学校行事への支援（運動会での三沢音頭の指導、参観日の際の保護者懇談中の児童見守り等）は、学校と地域が協働で行い、児童の健全育成を図っている。
- 地域の人材を活用したクラブ活動への支援（手芸、キーホルダー、太極拳等）では、多種多様な学習の機会を提供している。
- 教科活動への支援（総合・キャリア教育、生活科・収穫祭料理作り、家庭科・ミシン縫い、体育科・水泳・スケート等）は、多くの地域の方と児童が関わりを持つことで、新たな知識の習得やコミュニケーション能力の向上を目的として実施している。
- 図書館指導への支援（図書帳整備、新刊図書整備、図書室装飾等）は、研修の機会も充実させ、図書館ボランティアのスキルアップを図ることにより、図書整備等の他、児童への図書指導も行っている。

★地域との交流

- PTA 活動への協力（年 5 回の環境整備）や七夕集会や豆まき集会を実施し、地域交流の場を充実させている。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターが地域の関係団体や人材等に関する情報の収集に努めるとともに、ボランティアを募るためのお便りを作成して、全町内会へ配布し、学校支援活動への理解を深めてもらうようにしている。

ボランティア交流会等を通して、学校側と学校支援ボランティア活動の企画調整の場を充実させ、連携を強化している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 「地域との共有」の考え方が浸透し、ボランティアに参加する地域の方々が増え、「私たちみんなの学校」という意識が高まっている。
- 登下校時に見守っている地域の方が児童と顔見知りになり、児童と地域の方々がつながってきている。
- 教育活動への支援により、安全に、そして継続的に多くの体験的な学習を行うことができています。
- 地域への愛着が強まり、児童のまちづくりへの意識が高まっている。地域行事への参加等も見られる。



運動会で披露する三沢音頭の指導



ボランティア交流会

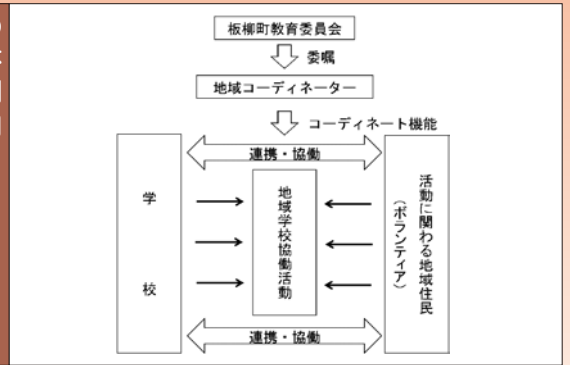
ポイント 地域の諸団体と学校間の連携が有効に図られており、地域のネットワーク形成という観点からも、参考となる事例ですね。

地域の方に学ぶ体験を通して、地域に感謝する心を育む活動です

青森県板柳町	● 活動名	● 関係する学校名
	板柳東小学校地域学校協働活動事業	板柳町立板柳東小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	63 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	五林平地区太刀振り保存会
ボランティアの数	登録人数 18 人	属性	地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 板柳町立板柳東小学校 ☎ 0172-77-2113

● 活動の概要・経緯

平成 20 年度、国庫委託事業の学校支援地域本部事業としてスタートし、教員が子供と向き合う時間の確保、地域住民の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を目指し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進して 10 年目を迎える。

板柳町教育委員会の委嘱により地域コーディネーターが 1 名配置され、学校と地域の両者の意向を踏まえた調整のもと、様々な地域学校協働活動が活発かつ継続的に実施されている。

具体的な実践として、「読み聞かせ」、「家庭科の学習指導補助」、「学習環境整備」、「学校行事支援」、「郷土学習」、「地域の主要産業としてのりんご栽培体験学習」、「地域の伝統芸能継承活動」等に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 地域の読み聞かせグループによる「おはなし広場」による読み聞かせを行っている。
- 2 指導者がすべて地域のゲストティーチャーによるクラブ活動（お囃子、スポーツチャンバラ、お花、手芸、おはなしの 5 クラブ）を実施し、成果を学習発表会で披露している。
- 3 「総合的な学習の時間」の指導
地域住民によるりんご栽培体験学習（5 年）、地域の特色を探る郷土探検（3・4 年）、板柳東部土地改良区と連携による地域の水利学習（5 年）
- 4 「五林平太刀振り舞」の学習
地域の太刀振り舞保存会の方々が指導し、運動会で発表する機会を設定するなど、成果を地域住民にも披露している。
- 5 家庭科の調理実習とミシンの指導の支援（5・6 年）を地域住民から受けている。
- 6 昔遊びの指導（1 年・生活科）では、すぐりやけん玉、お手玉などを地域のお年寄りに教えてもらっている。
- 7 学校菜園の整備やジャガイモの栽培（全校・学校行事）を地域住民に手伝ってもらっている。

【実施にあたっての工夫】

- ・活動にあたってはこれまでの積み重ねを大切に、可能な限り同じ地域の方々と協働で実施するようにしている。そのためスムーズな活動が可能になっている。
- ・学校と地域の両者の意向に沿った活動となるよう、地域コーディネーターが中心となって、必要に応じて丁寧な打合せを行うようにしている。
- ・学校と地域が連携協働して活動することが地域住民のやりがいや喜びにつながるよう、取組の様子を学校だより等で紹介するようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

【学校にとって】

- ・地域住民の経験や専門性を生かすことにより、教育内容が充実し、児童の学習意欲・興味・関心が高まってきている。
- ・教員の日常業務の負担軽減となり、児童と向き合う時間の確保にもつながっている。
- ・地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働してきたことにより、学校が地域の中心的役割を果たすようになってきている。

【地域にとって】

- ・「五林平太刀振り舞」の学習は、保存会の方々にとっては地元の伝統芸能を継承する貴重な機会となっている。
- ・地域住民にとっては社会参加活動の場となるとともに、自分の学んだことや経験を児童の学習に還元する機会にもなっている。



運動会で地域の伝統芸能「五林平太刀振り舞」を披露する子供たち



クラブ活動の指導はすべて地域のゲストティーチャー（写真：スポーツチャンバラ）

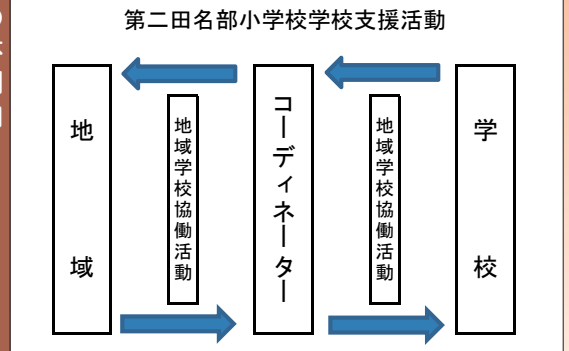
ポイント

地域の方々の専門的な知識や技術、伝統芸能や地域の基幹産業（りんご栽培）といった地域の教育資源などの組織化が図られ、教育活動に活かされている点が素晴らしいですね。

青森県むつ市	● 活動名	● 関係する学校名
	第二田名部小学校学校支援活動	むつ市立第二田名部小学校

開始年度	平成 14 年度	学級数	19 学級	児童・生徒数	443 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 12 人	属性	現PTA、元保護者		
参考 URL	https://anshin.city.mutsu.lg.jp/nita-sh/index.html				

● 体制図



● 連絡先 むつ市立第二田名部小学校 ☎ 0175-22-1450

● 活動の概要・経緯
平成 14 年度から、保護者が学習ボランティアとしてドリルの丸付けなどを中心に子供たちの学習の手伝いをしてきた。現在では、その当時の方々が地域の一人として学校支援ボランティアの団体となり、学校の教育を支えている。学校支援コーディネーターとボランティア及び学校の信頼関係が構築されており、連携が図られている。支援内容は、運動会での 1 年生の補助、学校図書館の本の管理・修繕、新入学生の 4 月当初の給食準備補助、家庭科実習の補助等、あらゆるニーズに応えたものであり、その協力で子供たちは充実した学校生活を送ることができている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・学習支援：国語の毛筆指導や算数のコース別プリント学習において授業時の講師や補助を行っている。また、家庭科の調理実習では、調理器具の後始末（ガスレンジの掃除、食器洗い、収納）の補助を行っている。さらに、仕事体験出前授業では子供の希望をもとに地元企業との調整を図り、複数のブースを設定している。
- ・環境整備：学校図書館の蔵書管理について、データベースへの入力作業をするとともに、破損した本の修繕や整理を行っている。
- ・子供たちの安全確保：新入生の下校安全指導や春と秋の交通安全指導、校外学習時の引率補助を行っている。
- ・学校行事：運動会での低学年の移動（種目やトイレ等）やスキー教室での補助を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・学校（教頭）とコーディネーターとの打合せを日常的に行っている。コーディネーターは子育て支援団体の代表でもあり、学区内外に広いネットワークと経験を有しており、学校支援活動が効果的に推進されている。これにより、コーディネーターと教職員と地域住民ボランティアの連携が円滑に図られ、家庭的な雰囲気での活動が行われている。
- ・随時更新される学校のホームページには、「学校支援ボランティア」の活動を紹介するコーナーがあり、地域住民は学校のニーズに応じた支援の様子や効果を知ることができ、幅広い地域住民が参画する契機となっている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校支援活動は小学校の経営方針『みんなで作る「一人一人を大切にする学校」』に則り、コーディネーターの調整において互いの連携・協働のもとに「一人一人を大切にする学校」の発展を目指し、幅広い地域住民の活動につながっている。平成 26 年度の優れた「地域による学校支援活動」推進表彰の受賞後も継続して活動し、企業を始め幅広い地域住民の参加が見られている。

● その他

仕事体験出前授業：むつ消防署、曹洞宗泉龍寺、ファミリーマートさとう、ケーキ屋タックン、ヴァンラーレ八戸、野村ホールディングス等

学習支援（授業時の講師・補助）：国語（毛筆指導）、算数（コース別プリント学習）等



運動会では出番を待つ子供たちの掌握や入賞した子供たちの移動を補助



学校図書館の本の管理・修繕

ポイント

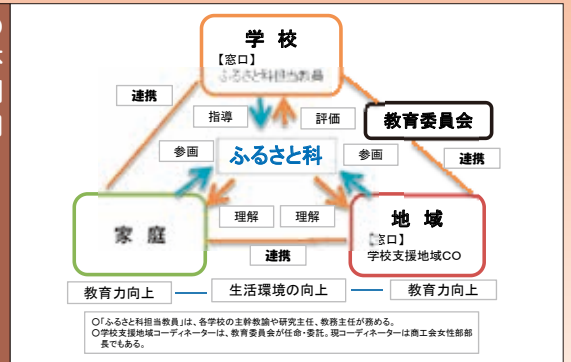
コーディネーターの活躍ぶりが良く伝わる実践だと思えます。企業と連携した学習支援（キャリア教育）が充実している点が素晴らしいですね。

「ふるさと科」を核として学校・家庭・地域が連携・協働する教育活動

岩手県大槌町	● 活動名	● 関係する学校名
	大槌町教育委員会地域学校協働本部	大槌町立大槌学園、大槌町立吉里吉里学園小学部、大槌町立吉里吉里学園中学部

開始年度	平成 24 年度	学級数	20 学級	児童・生徒数	627 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	大槌商工会
ボランティアの数	登録人数 74 人	属性	地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 大槌町教育委員会事務局学務課 ☎ 0193-42-6100

● 活動の概要・経緯

東日本大震災津波により大きな被害を受けた大槌町では、この震災から立ち上がる復興・防災を基盤とした「生きる力」・「ふるさと創生」の教育を推進し、ふるさととの将来を担う人材の育成を目指してきた。町では、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育む仕組みとして「小中一貫教育」を導入し、その柱として大槌町独自の学習領域「ふるさと科」を創設。「ふるさと科」に係る会議の中で、大槌町と提携している大学関係者から、「地域人材を効果的に活用しながら「ふるさと科」を充実させるには、地域と学校をつなぐ『学校支援地域コーディネーター』の設置が必要である」との助言を受け、以前から大槌町に居住し、各関係機関等ともつながりのあるコーディネーターを1名配置。学校支援地域カレンダーの作成やふるさと科のコーディネートを行う。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

コーディネーターが、学校や地域住民等との連絡・企画調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある活動を充実させている。「ふるさと科」では、復興に取り組む地域産業に関する学習、防災教育・ボランティア教育・福祉教育・キャリア教育といった必要な教育内容を盛り込み、継続性、系統性を重視したカリキュラムを9年間にわたって実施することにより、地域参加型の豊かな体験の創出と学びの充実を図っている。ここでは、多くの町内の個人商店をふるさと科の講師等として招くことで、「新巻鮭作り」や「わかめの学習」等の創意工夫のある多様な活動をサポートしている。また、地域と学校の教育活動について共有・理解が図られるように「学校支援地域カレンダー」を作成し、学校関係者や保護者、町内の企業、地域ボランティア等にも配布し、学校の予定を地域等と共有することによって、地域と学校の連携・協働の充実にも努めている。

【実施にあたっての工夫】

- 1 コーディネーターが、カレンダーの編集の際、一ヶ月ごと丁寧に、地域の方も一緒に写っている写真をバランスよく選定している。
- 2 「井戸端会議室」を設置して、コーディネーターが常駐することで、「地域学校協働本部」の拠点になっている。地元の有志「若だんな会」をはじめとする地域人材の活用による地域との連携・協働を推進している。
- 3 コーディネーターが各学校の計画に沿って、たくさん地域人材と連携・協働する機会を設定。新年度には共通理解を図るために、教育委員会と各学園の担当の先生方と「打ち合わせ会」を実施し、ふるさと科の1授業の度に少なくとも5回の打ち合わせを実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 1 カレンダーの写真を見た地域住民と保護者の学校や「ふるさと科」への理解が進んでいる。
- 2 地域の先生となったボランティアの方から「子供たちと関わりを持ってうれしい」「学校との距離がいつそう近くなった」等の声がある。
- 3 コーディネーターにより地域と学校が繋がれたことによる、互いの連携・協働の促進。また、コーディネーターが教育的価値に照らした地域人材を見出し、継続的につないでいくことにより「ふるさと科」が充実してきている。
- 4 「ふるさと科」の充実により、「ふるさと科が好き」と回答した児童生徒が8割（27年度）から9割（28年度）に上昇。

● その他

《連携している企業等》

- ・大槌町教育委員会・はまぎく若だんな会・大槌商工会・どっこいしょK・福幸きりり仮設商店街・新おおつち漁業協同組合
- ・大槌町農業協同組合・吉里吉里長寿会・沢山自治会・大槌町屋敷前災害公営住宅自治会・町内各事業所



ふるさと科「鮭学習」における新巻鮭作り
漁協・漁師・鮮魚店との連携・協働により実現



ふるさと科「職場体験」
学校支援地域コーディネーターが研修で学んだ職場体験の進め方を大槌版にアレンジし、町内約70事業者にコンタクトをとり実施。

ポイント

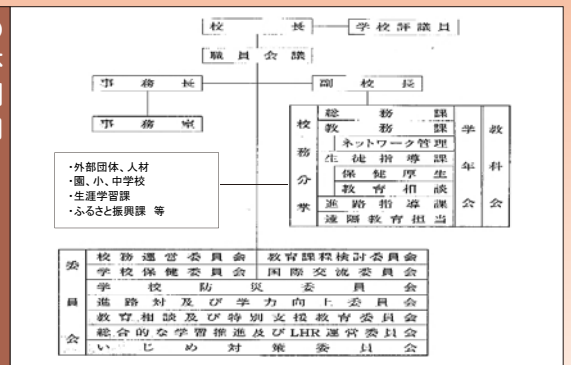
「ふるさと科」の活動を町内の様々な事業所と連携して実施している点、コーディネーターが核となり「井戸端会議室」を開放することで、日常的なつながりをつくっている点など地域事情に即した活動が素晴らしいですね。

西和賀高校から始める地方創生 —故郷の活性化を推進する若者の育成—

岩手県西和賀町	● 活動名	● 関係する学校名
	いのち輝く百年創造塾	岩手県立西和賀高等学校

開始年度	平成 18 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	95 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	西和賀町
ボランティアの数	登録人数 30 人	属性	地域住民		
参考 URL	http://www2.iwate-ed.jp/nwg-h/				

● 体制図



● 連絡先 岩手県立西和賀高等学校 ☎ 0197-84-2809

● 活動の概要・経緯

本活動の対象となっている西和賀高等学校は昭和47年4月に設立、創立45年を迎える。現在、1学年2学級で生徒数は95名。生徒減少に伴い、平成18年度から高校の魅力化を図る。小規模校という利点を生かし、生徒が「人生百年を自分で創る」という将来設計への意欲を持ち、主体的に生き方を模索して進路目標を決め、達成を目指す指導を展開。また、生徒が周囲に感謝するとともに社会に貢献し、社会で必要とされる人間として自己有用感を実感しながら生きること、実体験を積み重ね、深く考える力や推論する力、既成概念にとらわれず大胆に発想する力と豊かな感受性を育む教育を実践。そのために、地域と連携し、学年毎に体験的な学習を積み重ね、地方創生を担う若者を育成する事業を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1学年「故郷を知る」（講師は西和賀町在住者）
 - ・まちの碧祥寺博物館等の文化財や史跡を見学して歴史と文化を学び、自己有用感を高める。
 - ・まちの雪冷房施設や弁天島等の自然観察をとおして故郷に対する愛着を養う。
 - ・まちの主幹産業である農業の現状と郷土色の特徴を学び、食をとおした地域おこしを考える。
- 2学年「故郷で生きる」
 - ・働くことの意義を学び、希望する企業や学校等で職場体験学習を3日間行い、進路意識の高揚を図る。
- 3学年「故郷の未来を創る」（講師は西和賀町在住者並びに大学の研究者）
 - ・まちの企業訪問研修と森林組合の林業就業体験を行い、故郷の産業の現状を学び、今後の展望を考える。
 - ・町商工会主催のチャレンジグランプリを文化祭で開催し、生徒が考案した郷土料理から、得票数が最も多い作品を、駅前のレストランで商品化する。
 - ・町長や町立病院長から西和賀町の現状と医療、福祉について学び、大学の地方創生の専門家の指導の下に故郷の活性化策を提案する。
 - さらに、被災地におけるボランティアや高齢者宅での雪かきボランティアに加えて、小・中・高連携事業により「故郷の縁を結ぶ」
 - ・小学生を招いて理科教室を開催。
 - ・小学生と中学生を招いてボート部体験教室を開催。
 - ・小学校において陸上競技教室を開催。
 - ・保育所において読み聞かせ教室を開催。

【実施にあたっての工夫】

生徒が学年毎に実体験をとおして「人生百年をいかに生きるか」と自らに問い、真剣に考え、自己の使命を自覚し、支えていただいた地域の方への感謝の念を胸に刻み、社会に貢献することをとおして自己存在の証を立て、自信を持って社会へと羽ばたくように指導している。

● 事業を実施しての効果・成果

事業実施の効果として、生徒は自分の生まれ育った故郷について多面的に学び、誇りを胸にその地域社会に貢献することを希望している。具体的には高齢社会を支える医療系や福祉系学部への進学、地元の経済発展を図り多様な政策を提案して実践するために地域社会学や経営学、さらには農業の活性化を目指して農学生命科学部への進学、山間部に点在する各家庭を結び情報網の整備を目指して工学系や情報系学部への進学、地域社会に根ざした教育を実践できるよう教育学部への進学を果たしている。また、就職する生徒も自宅から通勤できる北上管内に就職し、定着率も高い。

事業をとおして培った故郷への愛着と誇りが生徒の自己有用感を高め、限界集落と指摘された故郷の未来を創造する意欲を高めている。そして、地域の方々とともに活動したことにより、地域の方々が寄せる本校への信頼や期待も次第に大きくなり、力強い支援につながっている。地方創生の担い手が着実に育っており、大きな成果を収めている。



1学年「故郷を知る」
—西和賀の自然体験—
志賀来遊歩道 六月二十八日



「復興交流事業」全校生徒
による金石市根浜海岸清掃
七月二一日

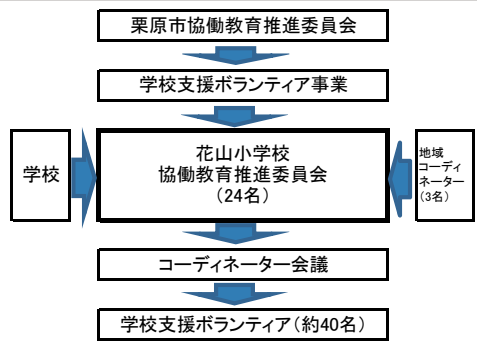
ポイント

県立高校を拠点とした学校支援事業ですが、保・小・中とのつながりがあること、かつては全国的にも注目された福祉・医療・社会教育を連携させた健康学習運動がこの活動にも活かされていますね。

「ふるさと花山を愛し、地域から学ぶ児童を育てる協働教育」

宮城県栗原市		● 活動名 花山小学校協働教育推進委員会		● 関係する学校名 栗原市立花山小学校	
開始年度	平成 24 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	26 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	(株)花山サンゼット
ボランティアの数	登録人数 40 人	属性	地域住民、宮城県環境教育リーダー		
参考 URL					
● 連絡先 栗原市立花山小学校		☎ 0228-56-2250			
● 活動の概要・経緯	<p>花山小学校協働教育推進委員会は、平成 24 年 6 月に「花山を愛し、夢や希望に向かって学ぶ児童を育てる協働教育」をテーマに設立された。以来、学校支援ボランティアによる「まるごと自然博物館」や「花山の未来と産業」や「環境整備作業」などへの支援を通じて、地域住民各層が主体的に学校と連携・協働し、地域資源を活用した学びの場を年間 40 回以上提供している。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

主な活動は、学習支援、学校行事支援、環境整備活動への支援である。主な内容としては、福祉教育の一環でもある花山小学校「さくら岡まつり」で児童自ら企画・運営を行い、地域の高齢者を招待してお祭りを開催し、出店で遊んだり、地域の方々と一緒にブースで楽しんだりしながら交流を深めている。また、山間地ならではの地域資源を活用した「きのご栽培」、「林業体験」、「ネイチャーラフト体験」、「沢遊び」、「こんにやくづくり」などを通じて、多くのことを学び、地域への愛着を育てている。

【実施にあたっての工夫】

推進委員会は、地域コーディネーター3名を含む24名で組織し、地元企業、幼稚園、観光協会、食生活改善推進員連絡協議会、婦人会、国立の教育機関などとの連携の下に年2回情報交換を行い、活動の充実に努めている。「協働教育だより」を月1回発行し、活動を地域に知ってもらうよう努めている。地域コーディネーターが中心となって、地域や市内外の講師をつなぎ、活動の充実に努めている。年間スケジュールを年度当初の情報交換会で決定し、積極的にコーディネーターが調整役を担うなど、学校との情報共有に努めている。予算が限られているため、学校支援ボランティア及び地域コーディネーターは無償ボランティアとしている。

● 事業を実施しての効果・成果

へき地1級の小規模校であり、全校児童26人の児童の教育環境の充実のため、地域一丸となって学校行事や授業の支援を行っている。地域コーディネーターが積極的に地域と学校の調整役を担っているため、教職員の負担軽減が図られ、大きな効果を上げている。また、児童の学ぶフィールドが広くなり、地域への理解が深まると同時に、地域住民の連携と多年代の交流促進につながり、地域住民の活力となっている。

● その他

- ・ 地元企業との関わり：(株)花山サンゼット＝地域再生エネルギー、6次産業、ヨガ教室など多角的な事業を展開し、市内外の人材等との地域コーディネーター役を担っている。
- ・ 学校支援＝総合、社会、理科、環境整備、卒業制作などへの協力がある。
- ・ ICT活用＝1年間の活動の様子をパワーポイントでプレゼンテーションをすることへの関わりがある。



はなやままるごと自然博物館・育樹体験・山林の下刈りの様子



はなやままるごと自然博物館・沢遊び・水の流れ体験の様子

ポイント

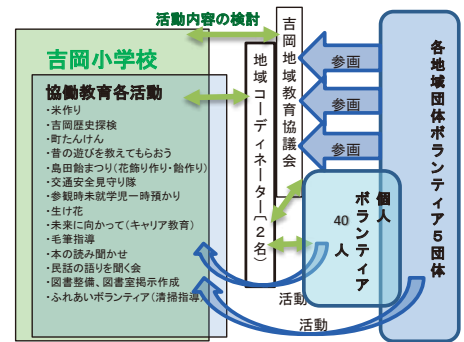
小規模校であることを強みとして捉え、「小規模校だからこそできること」、「だからこそやらねばならないこと」を地域で一丸となって実践されており、素晴らしいですね。

人が繋がり継続して子供を見守り育む地域 —地域の歴史とともに—

宮城県大和町	● 活動名	● 関係する学校名
	吉岡地域教育協議会	大和町立吉岡小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	25 学級	児童・生徒数	740 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	島田鮎まつり実行委員会 ほか
ボランティアの数	登録人数 40 人	属性	地域住民		
参考 URL	吉岡小学校 HP http://www.taiwa-tk.ed.jp/yoshioka-e/				

● 体制図



● 連絡先 大和町教育委員会生涯学習課 ☎ 022-345-7508

● 活動の概要・経緯
平成 21 年度に「吉岡地域教育協議会」として事業をスタートさせ、今年度で 9 年目を迎える。子供の安全確保や学習等の支援に、地域の人材を取り入れ、歴史や環境など地域の特色を生かした活動を展開している。吉岡は、「国恩記」が伝わる地域で、地域全体が未来を担う子供を大切に思うところであり、多種多様な活動が行われている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子供たちの登下校時には、「見守り隊」のほか住民が道路に出て子供たちの安全を見守っている。火曜日には図書ボランティアによる「読み聞かせ」、金曜日には「ふれあいボランティア」として吉岡婦人会と子供が共にトイレ清掃を行っている。更に、学習参観時には「未就学児一時預かり」が行われ、親が参観に集中できるように配慮されている。また、「米作り」「町たんけん」「島田鮎まつり」などの地域学習にも地域ボランティアが積極的に関わっている。学校では「はやね・はやおき・あさごはん」運動や、「午睡タイム」の導入も行われている。学校の取組を通して、家庭と地域に子供を育む為に必要な様々な情報が提供されている。併せて、家庭教育の重要性の啓発、情報提供がされている。

【実施にあたっての工夫】

地域教育協議会に各団体長が参加し、活動内容の調整が図られている。また、学校だよりやホームページを利用した活動報告が行われている。子供たちから、地域ボランティアへの感謝の気持ちが「御礼状」として渡されたり「標語」にして掲示されたりした。
・協働教育ニュース 全世帯に配付 年 2 回

● 事業を実施しての効果・成果

児童と保護者が地域を知るきっかけになっている。各団体の協力により様々な活動が展開され定着して行われている。震災の影響や企業の進出により、他県や他市町からの移住者も多くなっているが、従来の住民にとっては、改めて地域を見直す機会となるとともに、新規住民にとっては地域の住民と関わるきっかけともなっている。児童と地域の人々が顔見知りになることにより、町中であいさつが交わられるようになった。

児童にとっては、たくさんの経験や家族以外の大人から大切にされて育つという財産を得ている。3.11 震災時は、翌日の卒業式に備え 5.6 年生は清掃をしており、その他の学年は下校途中であったが、地域の方々は外に出て子供たちが安全に帰宅できるよう声掛けや避難をさせていたことが、アンケートから分かった。

● その他

【学校支援活動】

企業、NPO 等との連携：「町たんけん」吉岡飲食店組合、蜂谷新聞店等地域の商店
「島田鮎まつり」島田鮎まつり実行委員会
学習支援の詳細：児童に係る学習指導補助、メンタル面のサポート、特別な配慮を要する児童生徒の学習支援。
ICT（情報通信技術）活動内容の詳細：デジタル教科書の活用。



参観時一時託児支援



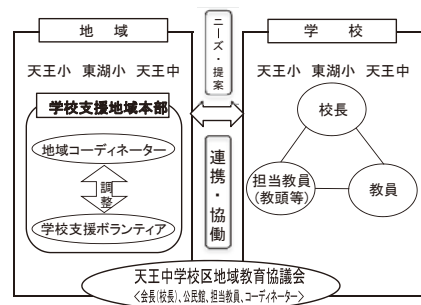
島田鮎まつり

目指せ「オール天王」地域の子供は地域で育てる！ 地域と学校をつなぐ応援団として

秋田県潟上市	● 活動名	● 関係する学校名
	天王中学校区地域学校協働活動	潟上市立天王中学校、潟上市立天王小学校 潟上市立東湖小学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	16 学級	児童・生徒数	389 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	マルカ三浦醤油店、(有)クイック、天王グリーンランド株式会社、等
ボランティアの数	登録人数 291 人	属性	地域住民、保護者、大学生、等		
参考 URL	http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/touko-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-ih/				

● 体制図



● 連絡先 潟上市教育委員会学校教育課 ☎ 018-853-5371

● 活動の概要・経緯
平成 24 年 4 月、同一中学校区内の小学校 2 校と中学校 1 校を活動単位としてスタートした。各校に 1 名ずつ配置された「地域コーディネーター」がつなぎ役となり、「地域の子供もは地域で育てる」という共通の意識の下、学校、地域、家庭が連携・協働する体制の構築を図っている。
義務教育 9 年間の健やかな育ちに向けて、コーディネーターと学校が、またコーディネーター同士が情報交換を密に行い、小中連携による学校支援活動の充実にも取り組んでいる。活動は、授業の補助、読み聞かせ、環境整備、登下校の安全指導、クラブ活動・学校行事の補助のほか、子供たちのためにできることは何かを考え、更なる活動の活性化を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の人材・団体等との連携・協働
 - ・市内味噌醤油事業所等と連携した、味噌づくりから味噌汁づくりまでの一連の体験活動の計画と実施
 - ・農家の協力による稲作体験と地域住民等の幅広いボランティア参加
 - ・地域の事業所における 4 日間の職場体験やボランティア活動の生徒受入れ
 - ・ボランティアグループによる小学生への読み聞かせ
- コーディネーター同士の連携・協働
 - ・コーディネーターの企画で実施した、他市中学生との交流事業における「味噌玉づくり」体験
- 子供の安全確保
 - ・「スクールガード」等による登下校の見守り（通年）
- 子供たちの地域支援活動
 - ・東湖八坂神社例大祭への大幣振等としての参加、市盆踊り大会参加等、地域貢献活動

【実施にあたっての工夫】

- ・職員室にコーディネーターの座席を設け、教職員とコミュニケーションを図ることができるようし、学校のニーズを把握している。
- ・コーディネーター同士が連携を深め、統括コーディネーターを中心にいつでも顔を合わせて情報交換したり共に活動したりできるようにしている。
- ・地域教育協議会で学校運営の方向性を共有したり、授業等の際は学習のねらいや留意点について教職員と共通理解を図ったりしている。
- ・ボランティアの充実感や市民の関心を高めるため、学校報や市広報等で取組を広く紹介している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・関係団体の青年部から高齢者まで、幅広い年齢層の参画が得られた。コーディネーターの積極的な働き掛けによって地域との連携の輪は更に広がった。平成 29 年度は農家の協力を得て、大豆栽培にも取り組むことになっている。
- ・地域住民が、学校の教育や学区の小・中学生への関心を高めることができた。また、小・中学生は、地域の人、産業、文化等に新たな魅力を発見し、地域に対する愛着心を深めた。地域との連携・協働による活動は、地域と学校両者の成長につながっている。
- ・学校報等により学校と地域の連携・協働の意義が理解・共有化されつつある。平成 30 年度のコミュニティ・スクール設置に向けて準備を進めている。

● その他

- ・学習支援は主に家庭科（調理実習、ミシン掛け等の被服実習）、国語科（書写）、クラブ活動、総合的な学習の時間に地域の方が関わっている。
- ・教職を目指す大学生が中心となって、月 4 回（平日放課後 3 回、土曜日夜 1 回）、公民館を会場に中・高校生を対象とした学習支援を行っている。（「寺子屋てんのう」）
- ・中学生の職場体験に約 30 の地域の事業所等の協力を得ている。



田んぼの先生、地域の方と一緒に稲刈り



コーディネーターによる企画「味噌玉づくり」を通じた中学生の交流

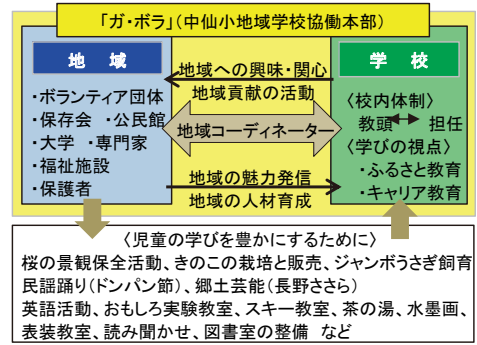
ポイント

高齢層だけでなく大学生や青年層など多彩な年齢層の参画が得られている様子が良く分かります。コーディネーターの拠点があるということも注目ポイントですね。

秋田県大仙市	● 活動名	● 関係する学校名
	中仙小学校地域学校協働本部	大仙市立中仙小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	184 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	大仙市中仙生涯学習奨励員、八乙女山を守る会、長野ささら保存会、秋田大学、国際教養大学、大仙市社会福祉協議会、JA秋田おほご農協
ボランティアの数	登録人数 540 人	属性	地域住民		
参考 URL	www.edu.city.daisen.akita.jp/~ns-nakasensyo/				

● 体制図



● 連絡先 大仙市立中仙小学校 ☎ 0187-56-2318

● 活動の概要・経緯
 平成 21 年度に「ガ・ボラ」(学校支援地域本部)を立ち上げ、地域と学校が一体となって取り組む活動を推進した。その結果、児童の学びを地域で支える機会が数多くあり、児童による地域貢献の活動も増えた。これは、児童の体験的な学びを深め自己有用感を高めたいという学校の願いと、ふるさとに誇りをもちふるさとの未来を担う人材を育成したいという地域の願いが合致していることにもよる。現在では、児童の地域における活動に大きな期待が寄せられ、地域と学校の「連携・協働」の取組が定着し、「ガ・ボラ」を平成 29 年度から地域学校協働本部に改めた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・児童のふるさと学習を支援・・・桜の景観保全活動(薬付けと施肥作業)、きのこの栽培と販売、ジャンボうさぎの飼育、まち探検(フィールドワーク)等
- ・児童の伝統芸能継承活動を支援・・・民謡踊り(ドンパン節、手踊り)、郷土芸能(長野ささら)など
- ・児童が専門的に学ぶ活動を支援・・・英語活動(留学生との交流)、おもしろ実験教室(大学との連携)、スキー教室、茶の湯、水墨画、命の学習、租税、さつまいも栽培等
- ・公民館・保護者による支援・・・表装教室、著名人に生き方を学ぶ集会(講演会)、読み聞かせボランティア、図書室の整備等

【実施にあたっての工夫】

- ・課題の共有・・・学校は課題に基づいた指導計画に明らかにする。地域は人材育成の視点で児童に関わる。
- ・連絡・調整・・・地域コーディネーターを通して学校担当者や地域住民(ボランティア団体、保存会等)の打合せを効率よく行う。
- ・地域人材の活用・・・地域の専門家(英語、理科実験、茶道、絵画、スキー等)の支援を受けて、児童の関心・意欲を高める。
- ・振り返り(評価)・・・活動後の児童の振り返り活動を充実させ、地域への関心を一層高める。
- ・情報の発信・・・ホームページで活動状況を紹介したり、通信で協力者を募ったりする。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・児童・・・地域の魅力に誇りをもち、その魅力を発信しようとする児童が増えた。あいさつやコミュニケーション等、社会性が高まっている。地域住民と交流し活動を称賛されることが多く、自己有用感を高めている。
- ・学校・・・児童の活躍を通して学校の活力を地域に発信できている。その結果、地域の支援が増え、地域からの期待や信頼の高さも感じる。また、学習指導や生徒指導の充実につながっている。
- ・地域・・・児童とのふれあいが生きがいづくりや自己実現につながっている。また、地域の活性化にも結び付いている。

● その他

- ・毎年夏休みに3～4日間、地域の方を講師に招き、「サマースクール」という学習支援を希望者対象に行っている。



桜の根元に施肥を行う。若芽が増え、樹勢が回復しつつあり、作業にも力が入る。



地域で演舞の後、保存会会員と記念撮影。会員も小学生のとき長野ささらを学んだ。

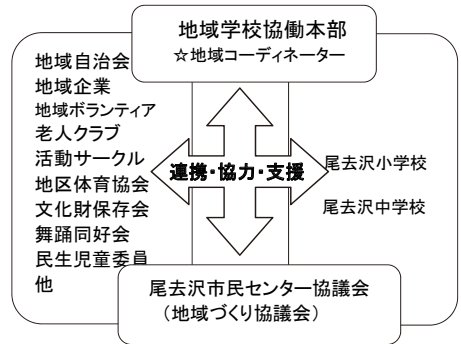
ポイント

ボランティアの登録数が目を引きます。活動が地域に浸透していることや、子供への関心の高さとともに地域への愛着の高さも伺えます。公民館との連携も注目ポイントですね。

地域の願いを学校に 学校の元気を地域に 「子どもをまん中」にした地域の一体感

秋田県鹿角市		● 活動名 尾去沢地域学校協働活動		● 関係する学校名 鹿角市立尾去沢中学校、鹿角市立尾去沢小学校	
開始年度	平成 23 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	118 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	尾去沢地域づくり協議会 尾去沢鉱山等
ボランティアの数	登録人数 330 人	属性	地域老人クラブ、PTA、地域住民等		
参考 URL	http://www.ink.or.jp/~osashou/ http://www.ink.or.jp/~kanayama/				
● 連絡先	鹿角市教育委員会生涯学習課			☎ 0186-30-0292	

● 体制図



● 活動の概要・経緯

平成 23 年度に尾去沢中学校区の学校支援本部が立ち上げられ、尾去沢小学校と尾去沢中学校に同一の地域コーディネーターを配置し、学校からの要望や希望に即した学校支援と学校による地域貢献の橋渡しを行っている。尾去沢市民センターを拠点にしているサークルのメンバー等が、ボランティアとして正課クラブの指導支援をしている。加えて、郷土学習や農業体験学習に際しては、多くの地域人材がボランティアとして参画している。

また、祭典の際は、全ての小中学生が参加して地域行事を盛り上げ、地域文化の保存継承を通して世代間交流も盛んである。中学生は、学校として史跡ボランティアガイドに取り組み、地域のよさを再確認し、自信をもって発信している。

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】**
- ・地域人材を指導者に招き、地域の産業や伝統文化を伝える小学校の体験学習「かなやまスクール」
 - ・保育園児から中学生までの全ての子供が練習し、祭典で披露する「かなやまソーラン」
 - ・市民センターの職員も加わり、地域の教育課題を議論し、健全育成やキャリア教育の推進を図る「共育を考える会」の定期開催
 - ・史跡尾去沢鉱山での中学生によるボランティアガイド
 - ・学校施設を開放し、学校と自治会が協働して実施する少年少女球技大会や地域スキー大会等の地域社会体育事業
 - ・社会福祉担当課と協働した高齢者家庭での除雪ボランティア

- 【実施にあたっての工夫】**
- ・地域コーディネーターは、図書整理や賞状書き、通学時の見守り等、教職員の要望を基にした支援のコーディネートをしており、授業の際は多くの地域ボランティアが教師と一緒に芸術文化体験や農業体験学習を支援している。
 - ・学校とコーディネーター、そして市民センターの職員の三者がバランスよく連携し、学習サークルのメンバーが日頃から学校で活動できる体制を整えている。学校行事と地域行事の日程調整や事業の周知に関しては、両校教員と市民センターの職員が適切に連絡を取り合い連携に努めている。
 - ・尾去沢地域づくり協議会の会員でもある地域住民は、地域づくりの観点からも、「次代を担う子どもたちの育成」を共通認識しており、地域文化の理解を深め、体験・交流機会を住民自ら企画し、学校と密に連携しながら事業展開している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地域の活性化を重要な課題と捉える尾去沢地域では、児童生徒の活動に住民も積極的に参画し、地域が一体となって郷土を担う子供たちを育てようとしている。学校側も率先して地域行事への参加を奨励しているので地域社会からも大きな信頼を得ている。
- ・過疎化が顕著な当地区にあっては、祭典等の地域文化の継承は子供たちの参加なくしては成り立たないため、地域行事で子供たちの元気な姿を見ることは住民の喜びにつながっている。
- ・地域の史跡を生かしたボランティアガイド活動は生徒の表現力の育成や地域理解にもつながっており、企業を含めた地域と学校の協働の成果が見える。

● その他

わくわく土曜教室（サタちびっ）では、実行委員会が市内の集落営農団体、職業能力開発協会、ヤクルト販売（株）等と協力して、子供たちへの体験活動機会を提供している。



ふれあひかなやまスクール
(地域ボランティアによる支援)
尾去沢小学校



かなやまソーラン
(地域祭典での披露)
尾去沢中学校・尾去沢小学校

ポイント

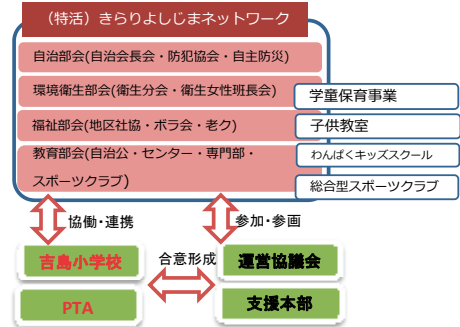
市民センター職員と連携している点が特徴です。また、学区の史跡（観光）での中学生のボランティアガイドなど、学校の外に積極的に出ていく姿にも興味が惹かれます。子供たちの輝いた眼が浮かんできます。

地域に開かれた学校と、ひとづくり活動

山形県川西町	● 活動名	● 関係する学校名
	吉島小学校支援地域本部	川西町立吉島小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	115 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	特定非営利活動法人きらりよししまネットワーク
ボランティアの数	登録人数	属性	PTA会員、地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 川西町立吉島小学校 ☎ 0238-44-2842

● 活動の概要・経緯

吉島地区は、人口約 2,500 人、世帯数が 727 戸の町を代表する農業主体の地域で、地域課題を解決していくために 2007 年から、吉島地区の地区計画（5 カ年）を策定し、同年 9 月に吉島地区の全世帯が加入する集落ネットワーク「特定非営利活動法人きらりよししまネットワーク」（以下「きらり」という。）を設立した。そして、地域全体の合意形成を図りながら地域課題の解決に向けて、組織構成を 4 つの部会制をしき住民参加の地域づくりに取り組んでいる。吉島小学校との連携協働も積極的に行われ、学校支援活動では、NPO、PTA をはじめ、地域のボランティア、JA 青年部、青年ボランティアサークル、老人クラブ等が学校経営に参画し、それぞれ教育の役割分担を意識して「地域の子供たちの育ち」が共有されている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

児童の学力・人間力の向上をめざし、放課後の不得意科目を克服する補習事業、福祉施設に従事している卒業生を講師に招いての地域福祉の授業（6 年生を対象）、「きらり」の職員が講師となって地域の支え合いについて学ぶ授業など、「きらり」と連携して学習支援活動に取り組んでいる。また、放課後子供教室の事業と連携して、3 年生から 6 年生を対象に、食や命の大切さを学ぶ場としての体験塾（「わんぱくキッズスクール」）を地域の人たちとの交流を大切にしながら月 1 回程度開催している。こうした活動は、児童のコミュニケーションを高めることにもつながっていると捉えている。

NPO が運営する学童保育には、全校児童 115 人のうち、70 人が通所しているが、単なる預かりの場にならないよう、地域の人を講師として招き、様々な学びの機会も設けるようにしている。社会教育、家庭教育の役割分担も意識しながら、連携協働した活動に取り組んでいる。

【実施にあたっての工夫】

学習指導においては、「きらり」から教員資格のあるスタッフを学校に派遣し、学校と打ち合わせをしながら、支援活動に積極的に取り組んでいただいている。また、地域住民と児童とのコミュニケーションを活発にするため、地区内の 40 カ所にのぼりを立て、地域の児童から高齢者までが日常的にあいさつを交わすことをめざす「キラリかけ愛運動」に取り組んでいる。児童のみならず、地域住民の意識の醸成につながっている。

幼稚園、小学校、中学校、交流センター（きらり）との合同連絡会議を定例で開催し、相互の情報共有と相互支援について協議する場を設けている。

● 事業を実施しての効果・成果

教育の多様化により、学校教育に期待される分野が増加傾向にあるが、本活動において、地域と学校がお互いの「強みと弱み」を共有することにより、「ちょっとしたムリ」を言い合える信頼関係ができてきている。

地域活動に積極的に参加する児童や、中学校へ進学後も地域のボランティア活動に参加する子供が増加していることは、小学生時代から地域と積極的に関わる環境が仕組み化されていることと、世代間がつながる事業が学校や地域の中に日常的に展開されている効果といえる。

● その他

特定非営利活動法人 きらりよししまネットワーク



環境整備（全校花植え）



全校読み聞かせ

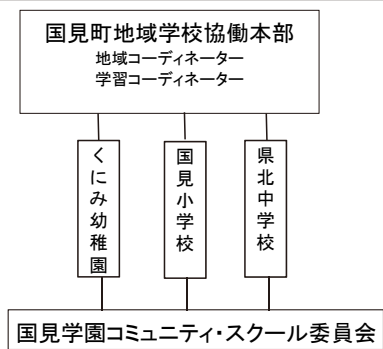
ポイント

地域の NPO が中心となり、学校と地域の組織・機関を紡いでいるところが特色です。学校教育への支援だけでなく地域・社会教育活動や学童保育、地域スポーツクラブなど多彩な広がりがあるところも素晴らしいですね。

子供たちの豊かな学びをみんなの力で 一学校・家庭・地域が一体となっ

福島県国見町		● 活動名 国見町地域学校協働本部		● 関係する学校名 国見町立県北中学校、国見町立国見小学校、国見町立くにみ幼稚園	
開始年度	平成 26 年度	学級数	18 学級	児童・生徒数	394 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 205 人	属性	地域住民等		
参考 URL	https://kunimi.fcs.ed.jp				
● 連絡先	国見町教育委員会生涯学習課		☎ 024-585-2676		
● 活動の概要・経緯	○平成 26 年 6 月に組織を立ち上げボランティア支援を開始した。				
	○町内の小学校、中学校、幼稚園そして保育所を含めた 4 つの学校等の要望内容に応じた支援を行っている。				
	○支援内容は、学習補助、体験活動、栽培活動、安全確保、環境整備等多岐にわたっている。				
	○コミュニティ・スクール委員と地域学校協働本部推進委員を兼務していただき、より連携を図った運営を行っている。				
○平成 29 年 4 月より放課後等の学習支援を開始した。					

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の文化団体、地区婦人会や交通安全協会等地域機関との連携を図りそれぞれの強みを発揮している。
- 「ふるさと国見」を積極的に学ぶことが本町教育の柱の一つである。町内史跡フィールドワーク、文化財や芸能学習、桃の栽培学習、郷土料理づくり（いか人参、ちまき）、国見の民話学習、地域に伝わる踊り等において、地域の方々から積極的な支援を受けている。
- 中学生の書写指導、和楽器体験指導等専門技能を活かした支援を行っていただいている。
- 放課後等の学習支援は、学校施設外において小学生、中学生、高校生を対象にフリー参加を主として、子供たちの課題解決への助言や補充指導を中心とした学習支援を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- 統括地域コーディネーターを中心に、学校支援コーディネーター、学習コーディネーターが協力し合いながら各事業のコーディネートを行っている。
- 各コーディネーターは学校の地域連携担当教員と各事業、学校支援等について連絡調整を行い、スムーズな支援ができるように配慮している。
- 学習のねらいが達成できるように、支援に入る前に支援の内容や方法について必要に応じて事前打合せを行うようにしている。
- ボランティア支援の内容を保護者・地域のみなさんにお知らせするため、文書（写真や言葉）を作成し、配布やHPへのアップを行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 様々な支援により子供たちの学びが体験的になり、専門的な知識や技術にふれる良い機会になっている。
- 地域にある教材を直接見学したり、地域の人々から直接聞いたりすることができ、より本質的な学びの機会を得ている。
- 安全確保の支援を含め、様々な支援は学校や教師の負担軽減につながっている。
- 学校と地域、学校と地域の人々との距離が近くなり、地域に開かれた学校の姿となっている。
- 地域の人々にとって、子供たちのふれあいや子供たちの学ぶ姿は大きなやりがいになっている。

● その他

「観月台フリー学習室」を月曜日から金曜日の夜、中学生、高校生を対象に、町施設（国見町観月台文化センター学習室）を会場に開催している。学校、家庭以外に落ち着いて自由に学習できる場を提供することを目的に、学習指導者 2 名から 3 名を配置し、子供たちの疑問や質問に対応できる体制をとっている。学校のテスト期間前は多くの子供たちが参加する傾向が見られる。



新入学児童下校時の安全ボランティア



あんぽ柿の皮むき体験

ポイント

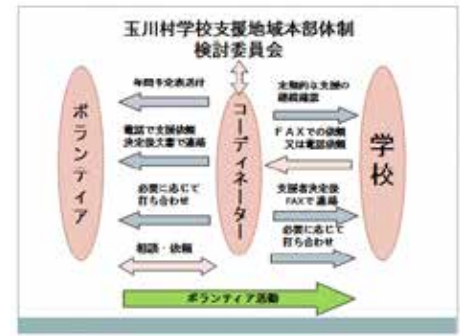
幼稚園から中学校までを一体化させて、地域と学校が「協働」していくという視点が大切にされ、まさしく地域が一体となって活動を行っています。これからの活動の広がりや深化が楽しみです。

「次代を担う元気な玉川っ子の育成」を目指す学校応援団

福島県玉川村	● 活動名	● 関係する学校名
	玉川村学校支援地域本部	玉川村立泉中学校、玉川村立須釜中学校、玉川村立玉川第一小学校、玉川村立須釜小学校、認定こども園クックの森

開始年度	平成 23 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	265 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 54 人	属性	地域住民等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 玉川村教育委員会学校教育課 ☎ 0247-57-4633

● 活動の概要・経緯

● 22年度に立ち上げた「園・小・中連携強化推進事業」の活動を受けて、次年度本組織を立ち上げ、東日本大震災からの避難者を含めて推進することとなった。

《平成 28 年度実績》 ○活動回数 173 回 ○活動人数 延べ 224 人

【中学校】・教科指導の補助（数学科、国語科、書写指導、家庭科、調理実習、音楽科、古典楽器の補助と指導）、部活動支援（卓球）

【小学校】・学校行事支援（PTA 総会・懇談会時の児童見守り、昔語り、腹話術、手品） ・環境整備（植栽剪定作業）

・教科指導の補助（校外学習の安全引率） ・国語科支援、（読み聞かせ、図書整理）

【認定こども園】・園行事支援（情操教育、夏の集い、読み聞かせ、無形文化財踊りの伝授、季節行事への協力）

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 中学校音楽科の「古典楽器に触れ合う」では、学校公開時の演目に取り上げた学校のために、箏と三味線のボランティアを活用し組織的にメンバー（ボランティア登録者以外の方々）も集い、長期展望に渡り練習時間を確保し、発表会まで開催することができた。
- 国語科においては、書道のボランティアを活用し熟練した技の伝授をしていただくことができた。
- 小学校においては、統合前に頻繁に行われていた朝の読み聞かせ活動を統合後も活発に展開することを引き継ぐことができた。また、通学バスの利用に当たっても、登下校の安全確保のために、前年度までの組織を生かし、乗降場所での見守り隊を継続している。
- 小学校低学年では、校外学習の引率・安全確保のために男女のボランティアが役割を分担しながら支援活動に当たっている。
- 認定こども園教育活動支援では、情操教育に関わる「野の花生け花」や「フラワーアレンジメント」の他「英語に親しもう」のゲームを実施した。更に、地域に伝わる「民族無形文化財の踊り」にも挑戦することができた。また、「夏の集い」や読み聞かせ活動、図書貸出補助は、定期的に行うことができた。

【実施にあたっての工夫】

- ◎コーディネーターの選任
 - ・この事業の核となるのは、コーディネーターの選任である。地域の実状を把握し、活動的で明るく、教育的活動に理解があり、自ら積極的に活動が展開でき、人脈にも精通している人材でなければならない。現在、本事業も7年目を迎え、活動も目的に即してスムーズな展開になってきている。現コーディネーターには統括的な役割を担ってもらい、次のコーディネーターを確保しなければと模索しているところである。

● 事業を実施しての効果・成果

- 「玉川大好き」「学校大好き」「友だち大好き」「自分大好き」いきいききらきら玉川っ子の育成を目指す学校応援団として、組織された本事業は、学校と地域との連携体制を構築し、地域住民による積極的な学校支援を促進することができた。（28年度アンケートの結果は、以下の通り）
 - ・未来を担う子供たちの健やかな成長のため、地域の自然環境や歴史資産等について、学びを深めることができた。（79%）
 - ・教師の多忙化を解消するために、地域住民の専門性を生かしながら、専門的知識や技能を発揮し補助することができた。また、次年度への要望も具体化した。（66%）
 - ・地域の方々に支えられているという実感を伴って、子供たちが地域の一員として郷土を大切にしたいという感情を育てることができた。（58%）
 - ・地域の方々との交流を通じて、思いやりの心や感謝の気持ちを育むことができた。（46%）

● その他

数学科を苦手とする保健室登校の生徒に対して、不定期ではあるが、個別指導の場を設けてきた。年間10時間程度だったが教室復帰ができた。



フラワーアレンジメント



箏の学習サポート

ポイント

地域の人々との関わりによって、子供たちが地域に見守られている安心感を得られ、健やかな育ちにつながっていることが良く分かります。

日本語指導の必要な帰国・外国人児童への日本語指導を行う活動

茨城県つくば市		● 活動名 風の会 (帰国・外国人児童への日本語指導ボランティア活動)		● 関係する学校名 つくば市立吾妻小学校	
開始年度	昭和 60 年度	学級数	22 学級	児童・生徒数	524 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	つくばインターナショナルグループ(T.I.G.) 学校部
ボランティアの数	登録人数 53 人	属性	地域住民、本校保護者及びOB		
参考 URL	http://www.ne.jp/asahi/kazenokai/tsukuba/				
● 連絡先	つくば市立吾妻小学校		☎ 029-851-7101		
● 活動の概要・経緯	<p>吾妻小学校区には、筑波大学の留学生寮や外国人教授・職員の宿舎があり、児童数 524 名中、帰国児童 18 名、外国人児童 50 名が在籍している (5/8 現在)。そのうち、日本語指導を要する児童は 41 名、日本国籍で両親のどちらかが外国人である児童で日本語指導の必要な児童は 4 名おり、合計 45 名の児童が日本語指導を必要としている。このようなことから、日本語指導の必要な児童とその家族の日本語学習を支援することを目的として、1985 年にボランティア団体「風の会」が設立された。現在 53 名の会員によって構成されており、学校と連携しながら、日本語指導の必要な児童や保護者への日本語指導をサポートしている。</p>				
	<p>体制図</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> ボランティア団体「風の会」 </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> 小学校 管理職(指導) ↓ 国際教育部 ↓ 日本語指導担当教諭 養護教諭 ↓ 学級担任・学年担任 </div> </div> <p style="text-align: center;">連絡・調整 (コーディネート役) 学校側: 日本語指導担当教諭 風の会側: 会代表</p>				

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 帰国・外国人児童への日本語指導のサポート
- 帰国・外国人児童の保護者に対する学習・生活面の支援
- 帰国・外国人児童及び保護者同士の交流活動の実施
- 帰国・外国人児童及び保護者向けのバザー「風の会りサイクルバザー」の実施
- 学校からのおたよりの翻訳や学校側と保護者間との通訳等コミュニケーションのサポート
- 風の会独自の日本語の学習教材作成

【実施にあたっての工夫】

- 日本語指導担当教師と教務主任が協議して時間割を作成し、「風の会」代表と協議して指導する時間を決定している。
- 児童の実態や必要時数により、効果的な人数、指導方法を協議し実施している。
- ボランティアによる 1 単位時間内の指導で、複数の児童の指導は依頼しないようにしている。
- 日本語指導担当教師と連携し、指導段階を下記の 3 段階に分け、児童が学校生活を円滑に送ることができるようにする。
 - ・初期支援段階
 - ・個別学習支援段階
 - ・支援付き自立学習段階
- 風の会が長年の経験から作成した日本語指導テキストを活用しながら日本語指導を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 児童一人ひとりに合わせた日本語指導ができることで、早く日本語を習得でき、交流学級での通常授業参加が可能となっている。
- 途中転入の多い地域であるため、個々の事情に合わせたきめ細かな指導が可能となっている。
- 日本語ができない保護者への通訳をお願いしており、学校と保護者との橋渡的存在となっている。
 - (一例) ・学校からの保護者向けおたよりの翻訳 (必要に応じ必要な言語に翻訳)
 - ・ラマダン期間の断食についての保護者連絡会での通訳
 - ・帰国・外国人児童保護者の悩み事相談等

● その他

つくば市内で同様の主旨で活動しているグループ同士で「つくばインターナショナルグループ(T.I.G.)」に参加し、他校の指導に関する情報交換を行い、更なる活動の充実を図っている。



風の会りサイクルバザーの様子



日本語教室交流会の様子

ポイント

地域と学校が抱える特色に焦点を当てて、サポートをしている点が最大の特徴です。学校だけでは解決できないテーマに地域の力が活かされているという点で参考になる事例だと思えます。

学校・家庭・地域が一体となってつくりあげる「今サンサンと輝く今三小」

栃木県日光市		● 活動名 今市第三小学校「学校支援地域協議会」		● 関係する学校名 日光市立今市第三小学校	
開始年度	平成 20 年度	学級数	20 学級	児童・生徒数	536 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 131 人	属性	保護者、地域住民、元教員		
参考 URL	http://www.nikko.ed.jp/imaichi3/				
● 連絡先	日光市教育委員会生涯学習課			☎ 0288-21-5182	

● 体制図

● 活動の概要・経緯

学校・家庭・地域が一体となり地域ぐるみで子供を育てる体制を整え、地域に根ざした信頼される学校づくりの推進を目的に「学校支援地域協議会」を平成 20 年に設立。地域住民等約 80 名で構成する協議会の実施及び学習活動、安全支援、環境美化の各部会による学校支援ボランティア活動等を通して、地域と学校が連携・協働する関係を構築。3 名の地域コーディネーターとの連携を通じ、学校支援ボランティアの昨年度の延べ人数は 1,000 人を超えており、子供たちの教育活動の充実とともに、地域の教育力の向上が図られた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 学校運営に関する地域や家庭による評価、意見や提案などを通じた学校と地域の連携・協働体制の確立。
- ・ 授業や行事等、また、学習環境の整備に関する支援・協力などを通じた学校教育活動の充実。
- ・ 学校と地域が連携した登下校の見守り活動などを通して、子供の安心、安全の確保。
- ・ 地域、家庭の教育力向上を目指した学校施設や機能の活用。

【実施にあたっての工夫】

学校と家庭と地域が一体となった子供の育成及び、学校と地域の連携・協働を組織的、継続的に行っていくために、3 名の地域コーディネーターを配置している。また、「学習活動支援」「安全支援」「環境美化」の 3 部会を設定し、学校支援ボランティアを組織し、地域コーディネーターを中心に地域資源を活用した多様な活動を展開している。

学校は地域連携教員を中心に、地域連携だよりの発行やホームページへの掲載、地域連携に関する校内掲示などを通して、学校と地域の協働について積極的に情報発信している。また、ボランティア活動室の設置やボランティアへの感謝の会の実施など、地域やボランティアの方々の学校への理解づくりに努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 子供たちの学びや体験活動が充実した。
- ・ 地域の様々な人々との交流を通して、コミュニケーション能力及び学習への興味、関心が向上した。
- ・ 教職員が子供と向き合う時間が増加し、きめ細やかな指導の充実につながった。
- ・ 地域ぐるみでの子供たちの安心、安全の確保につながった。
- ・ 地域の方々の学校への理解が深まり、地域に根ざした信頼される学校づくりに結実した。

● その他

教員 OB のボランティアが、子供たちの学力向上に向け、毎週決まった曜日に来校し、個別の学習支援や授業でのチームティーチングを実施。また、学習相談も行うなど、経験を生かした支援を行っている。



体力テスト補助ボランティア

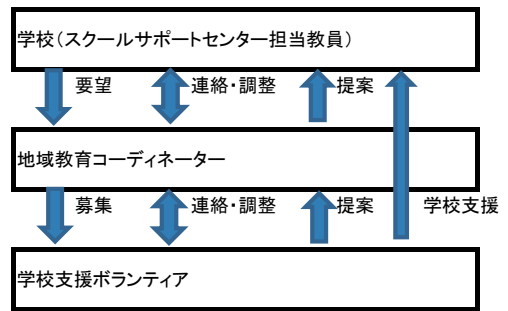


図書整備ボランティア

学校支援で地域づくり

栃木県佐野市		● 活動名 三義・唐沢スクールサポートセンター			● 関係する学校名 佐野市立北中学校、佐野市立犬伏小学校、佐野市立犬伏東小学校、佐野市立城北小学校		
		開始年度 平成 20 年度	学級数 21 学級	児童・生徒数 561 人			
活動内容 ■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()							
統括的な地域学校協働活動推進員の数		配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数 10 人	連携団体・企業等	市民活動センター 市立図書館 文化協会 茶華道協会 公民館 国際交流協会 等		
ボランティアの数		登録人数 465 人	属性 元PTA役員 地域住民 高校生 大学生 市立図書館職員等				
参考 URL		http://www.schoolnet-sano.ed.jp/kita-j/					
● 連絡先 佐野市立北中学校				☎ 0283-23-0961			
● 活動の概要・経緯 佐野市立北中学校区は、平成 20 年度から 3 年間、学校支援地域本部事業に取り組み、学校区内の小中学校と連携した地域の教育力や教育資源の活用に取り組んできました。委託事業終了後も、PTAの協力を得て、独自に地域教育コーディネーターを配置し、活動を継続している。 各学校の地域教育コーディネーターの持つ学校支援ボランティアの情報共有を図り、複数校にまたがる学校支援ボランティアの活動が見られる。							

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域教育コーディネーターが情報を共有することで、他校の取組や学校支援ボランティアの活動の様子を知ることができ、自校の取組に生かすことができる。
- ・学区内の小中学校が連携して取り組むことで、小学校から中学校に進んでも、同じ学校支援ボランティアから指導を受けることができ、子供たちの安心感が高まる。
- ・中学校の校庭で行うランニングクラブでは、小中学生と一緒に活動に取り組んでいる。また、地区外からの小学生の参加も有り、活動が他の地域へと広がりを見せている。
- ・ボランティアの支援を受けてきた子供たちが数年後、夏休みの学習支援に指導ボランティアとして参加することが年々増加している。中には将来、教育関係を志望している学生もあり、とても貴重な機会となっている。

【実施にあたっての工夫】

- ・学校支援ボランティアの募集は、チラシだけでなく、地域教育コーディネーターやすでに活動している学校支援ボランティアの人脉を活用し、学校現場にマッチした人材確保に努めている。
- ・ミシン指導や読み聞かせなど、学習支援に入る前に指導方法や技術についてボランティアが学ぶ機会を持っている。中・高校生の読み聞かせボランティアの指導には、市立図書館の司書や図書ボランティアの方が講師となり、本の選定や読み聞かせの指導を行っている。
- ・公民館に依頼をし、書道や絵画指導など、公民館サークルに協力を得ることで、地域の方が学んだ成果を生かす場となるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・学校支援ボランティアとして活動に参加する地域の大人に、子供と一緒に学ぶという姿勢が育まれている。
- ・地域の大人だけでなく、中学生や高校生、大学生も自分のできるボランティア活動に積極的に取り組んでいる。
- ・地域教育コーディネーターを核として、学校と地域の大人・公民館サークル等とのつながりができ、地域で子供を育てる、子供に関心を持つ地域づくりが進み始めている。

● その他

学習支援として、小学校国語科での読み聞かせを行っている。



ミシンの使い方を学ぶ



高校生による出身小学校での学習支援

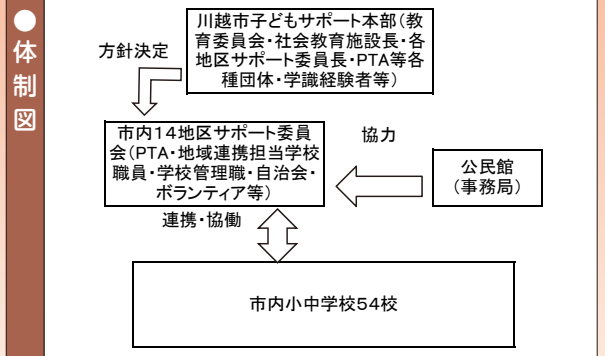
ポイント

中・高校生がボランティア活動に携わるなど、地域の中で循環が始まっていますね。地域の大人たちが子供たちに対して「教える」だけではなく「寄り添い・共に学ぶ」というまなざしがあるからこそではないでしょうか。

学校・家庭・地域及び社会教育施設が連携・協働し、生きる力を育む活動！

埼玉県川越市	● 活動名	● 関係する学校名
	川越子どもサポート事業	川越市内小中学校 54 校

開始年度	平成 16 年度	学級数	21 学級	児童・生徒数	658 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（伝統文化体験等）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 14 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 14 人	連携団体・企業等	東京国際大学等
ボランティアの数	登録人数 433 人	属性	学校関係者、PTA 役員、自治会、地域住民等		
参考 URL					



● 連絡先 川越市教育委員会地域教育支援課 ☎ 049-224-6086

● 活動の概要・経緯

川越市の子供たちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域及び社会教育施設が連携・協力し、人と人とのネットワークを構築しながら、地域ぐるみで子供たちを育てる体制を作ることとを目的とし、平成 18 年度より市内全域の小中学校及び公民館、社会教育施設を 14 地区に分け、事業がスタートした。活動内容は学校教育を支援することで子供たちを育てる学校応援団活動と、様々な体験活動を提供し、子供たちを育てる地域の特色を生かした事業の 2 つの柱を軸に各地区の特色に応じた事業が積極的に行われている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子どもサポート事業の 2 本柱の内、学校応援団活動の具体的な内容としては、児童生徒の登下校における安全安心の見守りから、学校ファーム等の環境整備、家庭科のミシン補助等の実技教科における授業支援、生活科における田植え体験や、地域に伝わるお囃子体験、縄ない、生け花、戦争講話などの伝統文化体験が年間を通して行われ、各校の現状に応じて多種多様な活動が頻繁に行われている。また、地域の特色を生かした事業では、子ども文化祭やほたる鑑賞、地域に伝わるかかし祭りなど、各地区の特色に応じた事業が積極的に行われている。

【実施にあたっての工夫】

学校と地域との連携協働に加え、各地区の事務局を公民館に置き、会場の提供などの協力も得て、事業が行われている。また、14 地区の中にはスタッフとして、地域住民ボランティア（以後サポート委員）だけでなく、地区内の学校に勤務する教員、市内で活動する大学生、市内の高校に通う高校生、地区内の中学生（小学生への支援）が学習支援のために参加している地区もあり、全員が連携協働し、子供たちの生きる力の育成に努めている。また、各地区サポート委員長、PTA 等の各種団体の長、大学有識者、社会教育施設長を委員とした年間 4 回の川越市子どもサポート本部会議を開き、子どもサポート事業の方針や取組の方向性などを協議、決定している。また、各地区の活動の質の向上を目指して各地区のサポート委員長が集まり、情報交換や意見交換などを行うサポート代表者会議を年間 2 回行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

地域の特色を生かした事業では、市内各地の事業に対し、年間延べ 2 万人を超える参加者となっている。事業開始から 10 年以上が経ち、各地区では事業が地域に根差しており、地域住民同士を繋ぐ貴重な機会となっている。また、近年注目されている防災教育にもいち早く取り組む地区もあり、毎年避難所体験を行う「防災キャンプ」が行われている。さらに、災害などの有事の際に地域の中学生が主力となり、地域を支えられるよう炊き出しの体験を行う地区もある。このように、地域の子供たちを地域で育てる活動が着実に定着し、地域の良さに気付き将来の地区を背負っていく志の高い児童生徒の育成がなされている。

● その他

サポート本部会議、サポート委員会の他にも、市の主催で、市内小中学校 54 校の地域連携担当教員と各地区で活動しているサポート委員が一堂に集まり、国の政策について学んだり、各地区の活動について情報交換を行う、「学校・家庭・地域の連携」に関わる研修会を年間 1 回開催している。



「夏休み寺子屋教室」



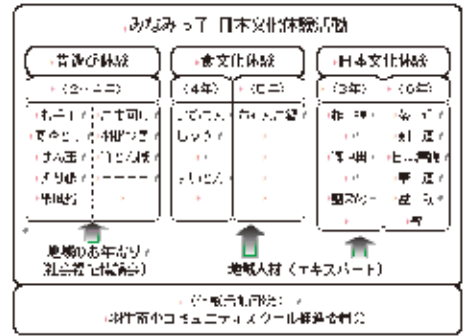
「伝統文化体験「お囃子教室」」

みなみっ子 日本文化体験活動

埼玉県羽生市	● 活動名	● 関係する学校名
	みなみっ子 日本文化体験活動	羽生市立羽生南小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	15 学級	児童・生徒数	350 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 7 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 50 人	属性	自治会長、民生委員、元教員、体験活動ボランティア、PTA 関係者など		
参考 URL	http://www.city.hanyu.lg.jp/school/hanyuminami/				

● 体制図



● 連絡先 羽生市立羽生南小学校 ☎ 048-562-1901

● 活動の概要・経緯
本活動は総合的な学習の時間の一環として、日本の子供たちとの交流を希望していた都内 BST (イギリス人学校) と、国際理解教育を推進する上で外国の子供たちとの交流を希望していた本校の考えが合致し、平成 23 年度からの交流学习から始まったものである。当時は 5・6 年生がイギリスの子供たちと日本の伝統文化を体験的に学ぶ学習を行っていた。現在は各学年で様々な伝統文化体験学習を展開している。指導者はその道に優れた地域の方々で、校区内自治会や市社会福祉協議会の支援・協力も受けている。これらの活動を通して、地域や日本の伝統文化の良さに気付き、大切にすることを育まれると考えている。本校の学校教育目標「地域とふれあい人につくす」に迫る特色ある活動である。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①「日本文化体験」 茶道・剣道・日本舞踊・華道・盆栽・箏をそれぞれの師範の指導（講話も含む）のもと、実際に演じる（体験することによって、日本の伝統文化の「技と心」に触れ、その良さを学ぶ活動〔6年〕。日本の伝統文化（相撲）、地域の伝統文化（御神輿）、地域の伝統工芸（藍染め）を大切に伝承してきた地域の方々を指導者に、体験を通してその思いや願い、生き方に触れ、そのよさを学び、大切にすることを育む活動〔3年〕。
- ②「昔遊び体験」 地域の高齢者の指導のもと、お手玉・あやとり・けん玉・折り紙・紙風船・こま回し・羽根つき・竹とんぼ・ヨーヨーなど、昔の遊びを体験し、その良さに気付き、昔の人々の知恵や工夫を考える活動〔2年から4年〕。
- ③「食文化体験」 日本の食文化を大切にしている地域の方々の指導のもと、いがまんじゅう（郷土料理）・すいとん、ちゃんこ鍋を作り、味わう体験を通して、その良さに気付くとともに、その知恵や工夫を考える活動〔4年・5年〕。

【実施にあたっての工夫】

- ①各活動ともその道のエキスパートを招聘し、礼儀や作法についても講話していただくとともに、その伝統文化に対する思いや願いも語ってもらっている。（地域のエキスパートの直接指導によって、より良さに気付き、深く考えることができる。）
- ②体験活動後には、活動の感想と指導者へのお礼の手紙を書くことによって、活動の振り返りを行うとともに、日本の伝統文化とそれに関わる地域の人々について、自分なりの考えをもたせている。
- ③校区内の各自治会や市社会福祉協議会（民生児童委員）等の支援、協力を受け、活動を展開している。
- ④多様な体験活動を児童の発達段階を踏まえた系統性に配慮するとともに、社会科や家庭科等、教科との関連も図りながら展開している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①児童一人ひとりが地域の人々と関わりながら活動することで、郷土に思いを馳せ、大切にすることを育む機会となっている。
- ②その道のエキスパートから、体験を通して思いや願いを学ぶことで、日本（郷土）の伝統文化の良さに気付き、大切にすることを育むことができる。
- ③活動後、感想と礼状を書くことで、理解をより確かなものとするとともに、思考力・表現力の向上にもつながっている。
- ④指導者も本校での活動を楽しんでおり、身に付けた技を披露、伝授し、思いや願いを語る絶好の機会としても良き生涯学習の場となっている。

● その他

本校は、平成 27 年度に全日本学校歯科保健文部科学大臣賞を受賞するなど歯科保健にも永年取り組んでいる。その推進に当たっても、地域住民を招き一緒に給食を食べ、歯みがきをするなど、地域とともに歯科保健に取り組んでいる。



（元力士と大相撲
「相撲体験3年」）



「そくらさくら」を踊る
（日本舞踊体験6年）

ポイント

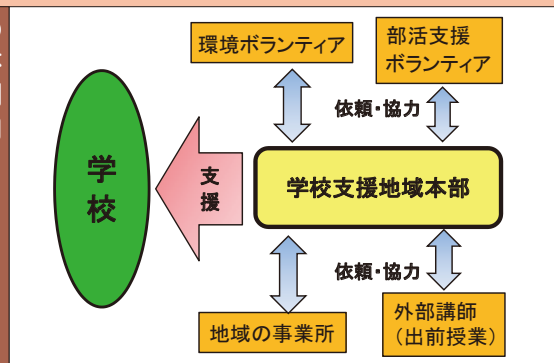
学区内の自治会をはじめ、社会福祉協議会との関係を構築している点に特徴があります。日本文化の体験が軸となっていますが、他のテーマや課題においても、この関係が活かされていくのではないのでしょうか。

幅広い教育活動の支援と、ボランティアの生きがいづくりを目指す。

千葉県野田市	● 活動名	● 関係する学校名
	川間中学校区学校支援地域本部	野田市立川間中学校、野田市立川間小学校、野田市立尾崎小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	287 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	川間公民館 社会福祉協議会川間支部
ボランティアの数	登録人数 24 人	属性	地域住民等、PTA役員		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 野田市教育委員会 学校教育部 指導課 ☎ 04-7123-1329

● 活動の概要・経緯
平成 20 年度、野田市全中学校区での学校支援地域本部の設置に伴い、川間中学校に本部を置き、尾崎小学校と川間小学校の 3 校で、地域の人材による学校支援活動の充実を図っている。そして設置当初より、地域人材の積極的活動による環境整備、出前理科授業、職場体験などのキャリア教育の支援をしている。部活動の指導者ボランティアの開拓も進めており、教員の負担軽減と、生徒の技能向上に貢献している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 郷土の伝統的芸能体験活動の推進。
学校と地域の人材が連携した体験活動の充実。
- 小中学校キャリア教育の推進。
学校と地域が連携した体験活動の充実。
- 図書室活動の推進
学校とボランティアが連携した活動の充実。

【実施にあたっての工夫】

- 地域ルームを設置して、いつでも担当者とコーディネーターが連絡調整できる支援体制を整備している。
 - 中学校の職場見学、職場体験、小学校の職場訪問では、コーディネーターが事業所の発掘、事前交渉、事前学習に関わり、きめ細かいキャリア教育の実施に向けた連携をしている。
 - 図書室の利用率向上のために、図書館ボランティアが図書室の整備、蔵書点検や貸し出しにおいて、生徒と直接関わる機会を増やしている。
- その他
・学校支援活動が、学校のためだけでなく、ボランティアの生きがい作りにもなるように配慮している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・多くの地域人材を導入することで、教職員の生涯学習や開かれた学校づくりに対する意識が高められた。
- ・学校支援地域本部の活動のおかげで、教職員の負担が軽減された。特にキャリア教育については、事業所の発掘や事前交渉などを地域教育コーディネーターが担うことで教職員の負担が大きく軽減された。



図書ボランティアの活動



伝統芸能体験活動

ポイント

教職員が地域や社会教育・生涯学習への意識啓発にも寄与しているところが特徴的です。とかく学校への支援が強調されがちですが、地域の側へのまなざし形成も重要な要素です。今後の活動の発展が楽しみです。

元気な学校と元気な地域をつなぐパイプ役 「やながわファミリー」

東京都江東区	● 活動名	● 関係する学校名
	やながわファミリー	江東区立八名川小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	351 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 34 人	属性	地域住民、元保護者、保護者、学校関係者		
参考 URL	http://yngw-family315.blogspot.jp/				

● 体制図



● 連絡先	江東区立八名川小学校	☎ 03-3631-2260
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

やながわファミリーは「元気な学校と元気な地域をつなぐパイプ役」として平成 19 年度に立ち上げられ、平成 21 年度には東京都の「学校支援地域本部事業」として認定された。主な構成員は、地域・元保護者・保護者・学校関係者等の約 500 名。年 1 回の総会、7 回の幹事会を中心に、学習支援事業としてゲストティーチャーとの連絡調整、保護者・地域による各種ボランティア活動の支援、新聞やカレンダーの発行、ブログの更新、様々な講座や学習会の開催、地域行事への協力等に取り組み、江東区の学校支援事業のモデルとして、行政への協力にも心がけている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「元気な学校は、元気な地域の支えによって創られる」という理念に基づき、花の会・墨絵講座・八名川の昔を語る会・八名川句会などを通じて地域の活性化（元気な地域づくり）を図っている。そして、そこで育った人材やつながりを学校教育やウィークエンドスクール、江東きつつクラブ（放課後支援事業）等の場で活かし「元気で知的な八名川小学校」づくりと、季節の花々に囲まれた潤いのある学習環境づくりに貢献している。ここから生まれた 6 年の総合的な学習「江戸・深川の歴史を学び、この町を語ろう」は深川江戸資料館での児童解説員活動に発展している。

【実施にあたっての工夫】

各町会長さんや歴代校長を相談役・顧問とし、学校を中心として、PTA やウィークエンドスクール・同窓会とも連携をとり、地域の商店等にも会員として加わってもらいながら、豊かで充実した教育ネットワークを作っている。卒業生やその保護者も取り込みながら、いつまでもやながわファミリーの一員として学校の児童の成長や安全を見守るとい、町づくりを進めている。また、地域との連携に偏りが出ないように、町会ごとに担当幹事を配置し、6 つの町会のバランスをとりながら活動が進むような工夫をしている。さらに、学校の年間行事や地域の行事が全て入っている「やながわファミリーカレンダー」や、「やながわ新聞」も作成・配布している。本会のブログ「やながわファミリー日記」は、学校行事やボランティア活動のお知らせ、地域のユニークな情報などをリアルタイムに届ける「町と学校の掲示板」になっている。

● 事業を実施しての効果・成果

八名川小学校の掲げる「地域に根ざした教育」「持続可能な社会づくりの担い手の育成」は、やながわファミリーの活動抜きには到底実現できなかったことと思われる。全ての児童が大人を心から信用し、成長への憧れを感じながら、自分たちの問題意識を大切に学習することができているのは、やながわファミリーを中心とした豊かで温かみのある地域教育ネットワークの成果である。学校教育の取組みとの相乗効果で、文部科学省の全国学力学習状況調査の結果も、平成 28 年度までの 7 年間に算数 B 問題で 18.22%、国語 B 問題で 15.17% 向上している。

● その他

はなまる教室（土曜・放課後学習教室）では、やながわファミリーの地域の人材 3 名が、4 年から 6 年までの学習に遅れのある児童の指導をしており、その際には、一人ひとりの性格や学習状況に応じた学習支援をしている。また、パソコン室でネットワーク上にある練習問題等を活用した指導にも工夫をしている。



神社の宮司さんが町の歴史を語る授業の様子



やながわファミリー・花の会が育てたアジサイの前で俳句づくり

ポイント

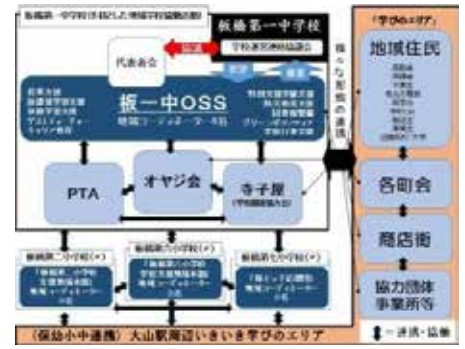
学校支援への参加だけでなく、土曜・放課後学習教室や地域学習での講師など、多彩な広がりが見られる実践です。組織体系もさまざまな層の参加がみられる点も示唆に富んでいます。

世界一の学校を目指して「出来ること」を「出来る範囲」で充実した活動に！

東京都板橋区	● 活動名	● 関係する学校名
	板一中 OSS (Organization of School Supporters in the community)	板橋区立板橋第一中学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	363 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 4 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 100 人	属性	地域住民、PTA役員、元PTA役員、大学生等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 板橋区教育委員会事務局地域教育力推進課 ☎ 03-3579-2619

● 活動の概要・経緯
 本活動は、板橋区立中学校初の学校支援地域本部として、平成 23 年度に活動を開始。もとより、本校は「PTA」「寺子屋事業」「オヤジ会」「学区の 13 の町会、2つの商店街」等、多くの地域の方々に支えられている。OSS はこういった地域の思いと学校の思いを連携し、協働できるような橋渡し役として活動している。【学習活動支援】【行事支援】【環境整備支援】などの活動のボランティア募集、企画立案補助、受け入れ場所との連携・調整を行っている。年度当初に年間計画を作成し、毎月 1 回、校長・副校長・学年主任・コーディネーターによる放課後ミーティングを開催し、計画の追加・変更や状況の確認を行っている。持続可能な支援活動の実現のため、「出来ること」を「出来る範囲」で充実した活動に！をモットーに活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①生徒の自立を促すキャリア教育
 生徒の職場体験希望アンケート結果を踏まえ、コーディネーターが毎年 70～80 か所の受け入れ先を開拓する。2～3 名の少人数での受け入れにより責任を実感できる体験活動となる。体験前には地元の経営者や卒業生の著名経営者の講演を実施している。
- ②地域の一員として災害時に主体的に活動できる人材を育成する防災教育
 町会、消防署、区役所、ボランティアセンター、オヤジ会と連携し、土曜授業で実施。防災意識、災害時対応等の講義と、実際に消火器・放水訓練、簡易コンロ・段ボールトイレ・ランタン作りや経口補水液の活用などを各ブースで体験。さらに寺子屋事業でもフォロ体験を実施（3 回）、一連の体験について夏祭り会場で生徒達が発表する。

【実施にあたっての工夫】

「教育を補助的に支え」「教育内容を深め」「教育内容の幅を広げる」ために連携・協働する「チーム」の窓口としてコーディネーターが活動している。学年主任を中心とした打合せにより学校側ニーズを理解し、チーフ役コーディネーターが多様な属性の他のコーディネーター・ボランティアとのマッチングを行う。各々が得意分野を生かしたチームプレイによりネットワークを拡大している。さらに「学びのエリア」内の小学校 3 校のコーディネーターとの打合せ・合同研修会を実施、各校ボランティアとの連携も深めている。これらにより形成される縦横無尽のネットワークがチームとして機能、多数の職場体験先の開拓やボランティア確保、そして各種活動の幅を広げることにつながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校からの協力依頼を「チーム」で協働することによって、生徒だけでなく支援する側も成長する。教員もさらに豊かな学びへのアプローチが可能となり、教員間の連携力も高めている。職場体験学習でお世話になった方々と地域防災訓練の場でも生徒が協働することにより、高齢化が進む地域で、子供たちの元気な力や柔軟な発想力が役立っている。この延長線として茶道部と地域の高齢者との茶話会交流も始まった。支援側の成長とネットワークの拡大は、課題解決のための地域ぐるみの取組を盛り立て、町中が活気にあふれ、笑顔の絶えない、明るく安全な町づくりにつながっている。あちらこちらで子供も大人も元気に挨拶を交わしている商店街がその象徴である。

● その他

【学習活動支援】

放課後学習を週 2 回実施、基礎・基本の定着が必要な生徒、外国から転入し日本語習得に時間を要する生徒を教員が選び、保護者の承諾と生徒本人の意思を確認したうえで参加させている。ほかに長期休業中の補習教室、特別支援学級の土曜授業支援など多彩な学習支援のプログラムを実施している。



職場体験の様子



防災授業（消火器訓練）



防災授業（ランタン作り）

ポイント

中学生の育ちに有機的に働きかける活動になっています。支援する側のそれぞれの団体がうまくチームを組んで連携できている事例ですね。

学校支援と地域貢献の両輪で推進する地域学校協働活動

東京都杉並区		● 活動名 富士見丘中学校支援本部「JOINT」		● 関係する学校名 杉並区立富士見丘中学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	246 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他（社会貢献活動）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 4 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 50 人	属性	地域住民、卒業生徒及び保護者など		
参考 URL					
● 連絡先	杉並区教育委員会学校支援課			☎ 03-5307-0756	

● 体制図

● 活動の概要・経緯

平成 28 年に富士見ヶ丘中学校は生徒の自己肯定感を高め、将来の担い手育成のため、地域貢献活動の定着を目標に掲げた。全校生徒の地域貢献活動について、学校運営協議会の委員による熟議により確定した学校支援骨子を校内で共有し、学校支援本部による様々な支援活動が行われるようになった。このことは、教員の負担を増やすことなく実践できていることが大きな特徴で、学校・地域コーディネーターを中心とした学校支援本部が、学校や地域のニーズを調整し、教員だけでは十分には行えない個に応じた学習支援となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

『学習支援』…「数学特別講座」は、学校支援本部委員（PTA 役員 OB）が、事前の診断テストを基に個別カルテ、個別学習ファイルを準備、生徒は個別のプリントを自学自習し、一人一人の進度に合わせて学習ボランティア（本校卒業の大学生、地域人材）が採点し、質問等に個別に対応している。こうしたボランティアを定期考査前勉強会や夏季パワーアップ教室へも派遣している。

『地域貢献』…学校支援本部がボランティア活動の受入窓口となり、毎月社会貢献活動の募集・説明・引率業務を担っている。学区内の神田川に架かる橋上のプランター管理を通年でを行い、花植え、水やり等に有志が毎日活動していることがその代表例である。その他、町会行事や保育園の夏祭りの手伝い、障がい者ダーツ大会のスタッフ、福祉施設の花壇作りなど全校生徒の約半数が何らかの地域貢献活動に参加している。

【実施にあたっての工夫】

忙しい中学生が参加しやすいように、学習支援は始業前の時間や部活のない水曜 6 時間目に設定、社会貢献活動は、曜日・時期を限定せず、数多くの活動内容を紹介し、門戸を広げる工夫を行っている。

学校運営協議会で活動方針を検討することで、学校の方針と保護者・地域のニーズを調整し、綿密に連携を図りながら各取組を推進している。また、活動の実施に際しては、引率や指導で教員の負担増にならないよう、各担当コーディネーターが主体となり運営している。「支援」と「貢献」のたゆまぬ循環がこの地域の教育活動の特色として確立され、校長や教員の人事異動にかかわらず継続できる体制づくりを目指している。

● 事業を実施しての効果・成果

平成 28 年度の実績ベースで、学習支援の数学特別講座にのべ 2300 人の生徒が出席し、全校の約 50%の生徒が地域貢献のボランティア活動に主体的に参加した。それぞれの活動を通して生徒の学習意欲は高まり、自己肯定感の向上に大きな成果をあげている。また、学校支援本部が、生徒募集、教材準備、ボランティアの確保、講座運営などのノウハウを蓄積したことで、授業以外の場面で地域の力による学び直しの機会を創設できたことは大きな成果である。また、地域貢献活動も、教員主体から学校支援本部主体に移行したことで地域の要望にも沿える活動機会が大幅に増えた。中学生による花壇作りなど活動の成果も目に見える形で増えたことで、町会や地域団体などから喜びの声が学校に届くようになった。



学校支援本部室で、数学特別講座の診断テストの採点をする学校支援本部委員（元 PTA 役員）。



神田川にかかる月見橋上のプランターに花植えをする HST（花育て隊メンバー）。

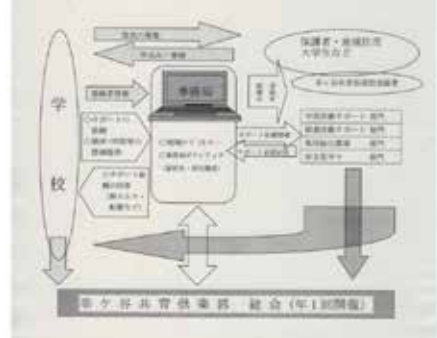
ポイント

教育課程内や、土曜日の学習支援、そして部活動支援にとどまらず、生徒の社会参加活動を支援しており、参加率の高さからも、充実したサポート体制が参考になります。

大人も子供も共に育とう「幸ヶ谷共育倶楽部」

神奈川県横浜市		● 活動名 「幸ヶ谷共育倶楽部」による地域学校協働活動		● 関係する学校名 横浜市立幸ヶ谷小学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	24 学級	児童・生徒数	725 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（読書活動サポート）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	NPO 法人教育支援協会 パソニックエコソリューションズ株式会社 C60 NPO 法人こどもりクラブ NPO 法人 CoC など
ボランティアの数	登録人数 250 人	属性	PTA、PTA OB、大学生、地域住民、卒業生		
参考 URL	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohgaya/				
● 連絡先	横浜市立幸ヶ谷小学校		☎ 045-441-3170		
● 活動の概要・経緯	・平成 21 年発足。保護者、地域住民、幸ヶ谷小OB・OGなど、学校とかわりのある方々の教育力を生かすことで子供たちの学習活動を豊かなものにするために結成された。着実に会員数が増加し、平成 28 年度には登録会員数 240 名、年間延べ活動人数は 1,900 名を超えている。「学習サポート部門」「安全見守り部門」「読書サポート部門」「栽培緑化環境部門」の常置活動に加え、土曜講座「ハッピーサタデー」（10月から1月）、キャリア教育体験プログラム「ハッピー&スマイル・デー」（2月）の企画運営も行っている。教職員も活動に参加し、ESD（持続可能な社会の担い手を育てる教育）の理念のもと学校と地域が協働した活動を展開している。				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

幸ヶ谷小学校は ESD を重点的に取り入れ、SDG s（国連持続可能な開発目標）を視点を総合的な学習に取り組んでいる。共育倶楽部の支援により、各クラスが積極的に地域との様々ななかかわりを持ち、多様で豊かな学びの実現につながっている。共育倶楽部による学習サポート活動は、延べ 637 回。

《地域による学校支援》～地域の協力を得た、まちとつながった学習～

- 学習活動（校外学習引率補助、授業サポート、YICA 指導補助、クラブ活動指導補助）
- 読書活動（読み聞かせ、図書の整理・修理、読書環境づくり、研修会の企画）
- 栽培緑化環境（屋上菜園の整備、芝生の管理、校内緑化活動）
- 安全見守り（通学路、学区内巡回、校内見守り）

《子供たちによる地域活動への参加》～共育倶楽部のサポートによる実現～

- 子供たちが自ら声をかけて依頼した地域の方の講師による、まちとつながった学習の充実
- 地域の祭りへの子供たちの積極的な参加（鼓笛隊による演奏披露等）による地域とのつながりの深まり

【実施にあたっての工夫】

- 毎年、学校と共催している「ハッピー&スマイル・デー」では、企業や NPO、大学、地域団体や個人等と連携し、20 以上の講座を共育倶楽部は企画運営しており、地域交流、キャリア教育の視点から子供たちにとって非常に貴重な体験プログラムとなっている。
- 共育倶楽部内のスムーズな情報発信として WEB を活用し、サポーターの募集、スケジュール、日程変更などのお知らせを行い、参加しやすいシステムを構築している。
- 学校だよりに共育倶楽部の情報発信コーナーをつくり、活動を広く周知している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の方々と一緒に学習したり、見守り等で一緒に活動したりする場面が多いことから、自然と交流が生まれ、地域の方と子供たちとのつながりが深まり、まちをあげて子供たちを育てようという姿も見られる。
- 共育倶楽部が企画する「ハッピー&スマイル・デー」や「ハッピーサタデー」では企業や NPO、大学などとのワークショップを通し、ESD やキャリア教育の推進することができている。
- 共育倶楽部による学習サポーターの援助が得られることから、ダイナミックな地域学習が展開でき、子供たちがまちの一員として貢献しようとする意欲が育っている。
- 共育倶楽部のさまざまな活動に興味をもった人たちが気軽に登録することができるため、支援の輪が広がっている。

● その他

学校と共育倶楽部が共催している「ハッピー&スマイル・デー」、共育倶楽部が主催している「ハッピーサタデー」ともにキャリア教育を意識した内容に深めようと、企業・NPO・大学など専門家を招き、発達段階に応じたワークショップを実施している。ワークショップでは技術者の方をお招きし、ロボットプログラミングやタブレット PC を使った未来の授業体験なども行われ、ICT を活用した学習も行われている。主に全校遠足や校外学習時に共育倶楽部の方により子供たちが安全に活動できるように見守りなどの学習支援を受け、地域の中で活発に学習を展開することができる。



夏のポット苗植え作業



全校遠足サポート

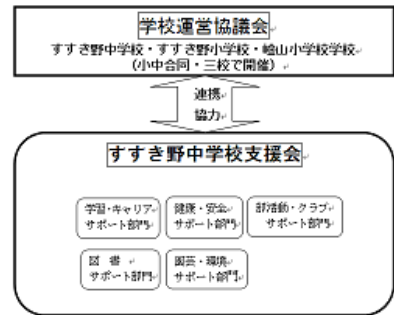
ポイント

地域と子供たちとの間で、様々な交流の機会が図られていることが特色です。また、大学生と連携した教育活動が行われている点も特筆できます。

神奈川県横浜市	● 活動名	● 関係する学校名
	すずき野中学校支援会による地域学校協働活動	横浜市立すずき野中学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	403 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（図書活動推進）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 5 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 116 人	属性	元 PTA 役員・地域住民・青少年指導員・スポーツ推進委員 民生委員・児童委員		
参考 URL	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/susukino/				

● 体制図



● 連絡先	横浜市立すずき野中学校	☎ 045-901-5896
-------	-------------	----------------

● 活動の概要・経緯

すずき野中学校は、創立 36 周年を迎え、温かい地域に支えられながら、生徒の健全育成に努めてきた。平成 23 年度には、これまで個々に行われてきたボランティアを一体化し、組織的に地域教育力を生かすべく『すずき野中学校支援会』を設立した。さらに学校・地域コーディネーターを中心に活動内容が整理され、予算等の一元管理も図られた。また、本校は隣接するすずき野小学校、嶮山小学校と共に、平成 24 年度より学校運営協議会を立ち上げ、小中連携、地域との関わりも一層深めている。学校運営協議会には、支援会に所属する学校・地域コーディネーターも委員として参加し、地域教育力を学校へ生かすべく取組を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○支援会は、会長及び 5 名の学校・地域コーディネーター、学校管理職、そして生徒指導専任教諭で構成され、月一回の定例会を行い、学校の要望に対する支援をお願いしている。支援会には 5 つのサポート部門があり、年間 2 回、各サポート部門の代表者会を開催している。各代表者との調整等は、コーディネーターが担当し、円滑に活動が継続している。

【活動の概要】

<図書サポート部門>

○図書活動支援…読み聞かせ（個別支援学級）・蔵書整理・図書室飾付

<学習・キャリアサポート部門>

○放課後学習支援…毎週水・金 17 時～19 時 隣接するコミュニティハウスにて実施。国語・数学・英語の三教科 ○進路模擬面接 …1 月に実施。地域の有識者の方々が面接官。

<健康・安全サポート部門>

○お弁当販売 …業者弁当の販売補助（発注・受渡し） ○巡回パトロール…放課後の校舎内の見回り ○警備支援…体育大会等、行事の際の警備・パトロール

<部活動・クラブサポート部門>

○部活動を支援する会 …部活動支援会費の管理・部活動顧問会との連携

<園芸・環境サポート部門>

○生け花…週一回、職員玄関の生け花を提供。 ○園芸 …花壇の整備・植栽・水やり・生徒会美化委員との連携

【生徒による地域活動への参加】

○ジュニアサポーター制度を立ち上げ、地域からの依頼に応える形でボランティア活動を行っている。

○地域夏祭り・近隣小学校運動会テント設営・ふれあいフェスティバル・地域防災訓練・地域行事における吹奏楽部演奏

【実施にあたっての工夫】

○地域とのつながり（すずき野中学校区）を意識するために、学校・地域コーディネーターが、1 中 4 小の行事予定を一つにまとめた『コミュニティカレンダー』を作成している。学校の様子を理解していただく一助となっている。

○支援会の活動を広く知っていただくために学校だよりやホームページで活動を積極的に紹介している。

● 事業を実施しての効果・成果

○放課後自習教室では、少人数指導の成果もあり、基礎学力の向上が図られている。

○ジュニアサポーターの地域貢献活動を通して、生徒の自己有用感に高まりがみられるようになった。

○各サポート部門の活動が定着し、安定した組織となっている。安心で安全な学校運営が行われ、教職員の負担軽減に繋がっている。

○学校・地域コーディネーターは、年齢層を意識しながらバランスのよい構成となっている。今後を見据えた指名、育成が行われている。

○体育大会では、地域のスポーツ推進委員や青少年指導員がパトロールに加わる等、安心した中で行事が運営されている。

● その他

放課後自習教室…平成 21 年度より、地域の方々に協力いただき、放課後自習教室として継続されている。講師は、シニア世代を中心に現在 12 名の協力を得ている。



放課後自習教室



夏祭りボランティア（ジュニアサポーター）

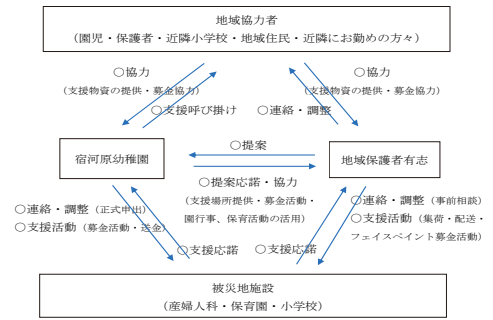
ポイント

生徒が「ジュニアサポーター」として地域社会への参加のしくみづくりをしているところに興味が沸きました。学校と地域の双方向性の関係づくりが築かれているところが素晴らしいですね。

地域と幼稚園が一体となり、大人も子供たちも被災地を応援！

神奈川県川崎市		● 活動名 宿幼くまもと応援地域本部		● 関係する学校名 宿河原幼稚園	
開始年度	平成 28 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	211 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 50 人	属性	幼稚園保護者有志、地域住民		
参考 URL	http://www.shukugawara-kg.com/ http://www.shukugawara-kg.com/kumamoto/				
● 連絡先	宿河原幼稚園		☎ 044-911-3199		

● 体制図



● 活動の概要・経緯

宿幼くまもと応援地域本部は、宿河原幼稚園が以前からチャリティイベント等で募金活動を行っていたが、熊本地震を機に地域の窓口となり、地域住民や地域小学校保護者と園、園保護者、園児が参画し、150人のサポーターと50人のボランティアと共に互いに協力しながらの積極的な協働活動が行われている。「現地には行けないが何か協力したい」という地域住民や、近隣小学校、近隣に勤める社会人らの思いの受け皿が本部となり、被災地に寄り添う一環となっている。幼稚園児も直接参加することで、大勢の大人の行動を目の当りにして、思いやりの気持ちを育み、更に安全教育にもつながっている。被災地との交流は今後も継続していきたい。

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】
- ・ 地域コーディネーターが幼稚園保護者や近隣小学校、地域住民、被災地施設との連絡、調整を担っている。
 - ・ 園内において「ひとりではないことを伝えたい」との思いから、園児たちが応援旗や応援メッセージカードの作成を通して、豊かな心の教育に効果が見られている。物資や募金支援活動のみでなく、保育の中に被災地の様子や活動内容を含めた防災・防犯教育を取り入れている。
 - ・ 園でのイベントのほか町会盆踊りや市の緑化センター等市内のチャリティイベント等に、園児や保護者はフェイスペイント募金活動など年10回前後参加しており、地域住民にその活動が広く認知され、趣旨に賛同する住民の輪が広がり円滑な運営に繋がっている。

【実施にあたっての工夫】

幼稚園が被災地支援の地域の活動発信拠点となるべく、園行事に合わせてフェイスペイントイベントなどの参加協力を呼び掛けたり、支援物資の保管場所を提供する一方、地域コーディネーターが園保護者や近隣小学校、地域住民、被災地施設との連絡、調整役を担い、地域幼稚園協働活動を円滑に推進している。送付先は、「大きな団体でなく、支援を真に必要としている方々に直接届けたい」「小さな命の誕生や成長に役立ちたい」という保護者等の思いに沿って、産婦人科、小学校、保育園等としている。地域住民にも協力の場を開放した為、趣旨に賛同する応援の輪が拡大した。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちがイベントに参加し、また協働活動に関わることで、地域への愛着を育て、被災地への応援から他者への思いやりを大きく、園の教育目標である「豊かな心をもった子」の育成に効果がでている。また、保育の中に被災地の様子や活動内容を含めた防災・防犯教育を入れており、教育目標の「安全力を身につけた子」の育成にもつながっている。様々な被災地支援の活動をとおり、子供たちと地域住民とのつながりが密になり、地域における子供たちが健やかに育まれる環境の充実につながっている。支援活動をパイプとし、園児、園保護者や地域住民と近隣小学校等の協力体制が円滑となり、地域の活性化にも寄与している。



フェイスペイント



応援旗作成

ポイント 地域の想いと保護者の想いとを見事にマッチングさせたチャリティ活動をおこなっているところが素晴らしいですね。

ふるさとへの愛着と誇りをもつ子供の育成

新潟県新潟市		● 活動名 新津第一小学校地域学校協働活動本部		● 関係する学校名 新潟市立新津第一小学校	
開始年度	平成 20 年度	学級数	19 学級	児童・生徒数	416 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	新津中央商店街
ボランティアの数	登録人数 187 人	属性	保護者、PTA 役員、地域住民、元教員、大学生		
参考 URL	http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp/				
● 連絡先	新潟市教育委員会 地域教育推進課		☎ 025-226-3277		
● 活動の概要・経緯	<p>「豊かにかかわり共に伸びる子」の教育目標の下、友達同士のかかわりを重視した教育活動を行い、小集団や全体での話し合いを通して、思考力の育成を目指してきた。さらに縦割り班活動や異年齢活動を通して、豊かな人間関係づくりにも取り組んでいる。また、従来から、保護者の教育活動における関心は高く、PTA・地域活動が活発であった。そこで、様々な教育活動を地域と学校が一体となって協働して実施していくことにより、ふるさとである新津の魅力に気づき、地元への愛着と誇りをもてる子供の育成を目指し、取組を継続・発展させてきている。</p>				



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ◆学校と地域を結ぶネットワーク作り
 - 新津0番線商店街ローカル有線放送局「来て基地」での「一小情報ボックス」（児童とアナウンサーのトークコーナー）を通じた学校情報の発信、地域活性化への支援
 - Akiha マウンテンレーパーク事業や「にいつハロウィン仮装まつり」ジュニアスタッフの取組など、地域に根ざした教育活動の充実
 - 「地域子供教室」の実施（文化、スポーツをボランティア指導者から週末に教わる）
 - 新潟薬科大学・新津地区公民館との連携による「子供創造塾」サイエンス教室などの実施

【実施にあたっての工夫】

- 学校と地域のニーズを地域コーディネーターが調整し、各関係団体と協働した教育活動が実施できるよう、尽力している。
- 子供たち自身がふるさとである新津の魅力に気づき、自分たちの力が地域の活性化につながっていることを実感できるようにしている。
- 教育活動サポーターやボランティアとの明確な意思疎通が図れるように、教員の希望を記入した「オーダーシート（依頼の詳細）」により適材適所の人材を確保し、互いに満足いく活動を目指している。「疲れたけどやってよかった。」を理想としている。
- 終了後はボランティアの声を聞き取り、次年度に生かすことでよりよい活動を目指している。
- 地域コーディネーターだより「やさしさに感謝」を毎月発行するとともに、地域にも回覧し、活動について広報している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ふるさと新津の魅力に気づき、ずっと新津に住んで、新津の活性化にもかかわっていききたいと思う子が出てきた。
- 登下校時や放課後、休日などに商店街を歩いていると、子供たちに挨拶をしてくださったり、声を掛けてくださったりする地域の方が増えた。『子供たちが町のために頑張ってくれていてうれしい。』という地域の方々の声がたくさん聞かれた。
- 地域コーディネーターの積極的、献身的な取組のおかげで、よいシステム、サイクルができています。
- 公民館との共催事業やコミ協の支援を受けた活動等、毎年新しい取組が実施されている。

● その他

秋葉区自治協議会 NPO 法人アキハロハスアクション 新津中央商店街 株式会社エフエム新津 フレンドシップフォース新潟



まちなか放送局での生放送



自分たちが提案したツリーハウスが実現！

ポイント

子供たちの声に応じて多様な活動を展開している点が素晴らしいです。自分たちで望んだ活動を行うことで子供たちの地域愛が育まれていることも素晴らしく、非常に模範になる取組です。

もっと笹口！ 大人と子供がつくるまち

新潟県新潟市	● 活動名	● 関係する学校名
	笹口小学校地域学校協働活動本部	新潟市立笹口小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	14 学級	児童・生徒数	286 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	笹口地区商店街 県内大学・専門学校等 公民館 南商工振興会
ボランティアの数	登録人数 108 人	属性	PTA役員 PTA会員 地域住民 大学生・専門学校生		
参考 URL	http://www.sasaguchi-e.city-niigata.ed.jp				

● 体制図



● 連絡先 新潟市教育委員会 地域教育推進課 ☎ 025-226-3277

● 活動の概要・経緯
 新潟駅至近に建つ学校であり、校区には企業、商店、専門学校などが立ち並び、地域の結びつきを大切にされた駅南開発事業が進められてきたことにより、けやき通りを中心とした事業所の学校に対する支援は大きい。社会・総合学習をはじめとして、日常的に地域と学校とが協働的にかかわる学習や活動を進めている。特に、12月初めの光のページェント点灯式には6年生が毎年参加し、光のページェント実行委員会と計画段階からかわることにより、地域の一員としての自覚と誇りが育まれ、発展性に富んだ活動となっている。また、敷地内に「ほっとハウス笹口」（地域委託型放課後子供教室）が設置され、地域のコミュニケーションの拠点、学びの拠点となっており、様々な分野での学習補助、子供たちの居場所の確保、安全面からも支援を受けている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①地域に学び、地域と共に楽しむ活動の推進
 - ・NIIGATA 光のページェント点灯式への参加に向けたイベント企画・準備、当日の運営（6年生：総合学習）
 - ・地域にいる専門家・名人を講師に招いて本格的な内容や技能に触れ、体験する「本物に学ぶクラブ活動」の実施（4・5・6年生）
- ②ほっとハウス笹口との連携協力による交流活動の充実
 - ・休み時間の子供たちの遊び場・居場所としての活用と他の利用者との交流の場の拡大
 - ・地元専門学校等との交流を図る協働的な活動の企画・運営、子供たちと自主サークル団体相互の交流拡大

【実施にあたっての工夫】

- ①地域コーディネーターと他団体、講師とのネットワークの充実と綿密な調整による活動の活性化
 - ・NIIGATA 光のページェント実行委員会を学校内で開催し、6年生児童全員参加のもとで運営会議や具体的な調整を行うことで、地域のイベントを盛り上げようとする当事者意識を高めた活動の充実
 - ・公民館事業とのタイアップ、地元企業や店舗等との日常的なかかわりを通じた人材発掘・活用の拡大
- ②学校や地域のニーズに応えるほっとハウス笹口の運営
 - ・ほっとハウス笹口への通路の開放による、休み時間内の子供の自由な利用促進
 - ・ほっとハウス笹口運営主任、PTA、学校、市担当者等による定期的な運営会議の実施

● 事業を実施しての効果・成果

- NIIGATA 光のページェントへの参加を通して、児童自らの思いを実現し、地域のイベントを盛り上げる活動の主体的な推進により、地域の一員としての自覚と地域を誇りに思い大切にしている。小学生の取組は周囲の期待も大きく、大人と子供と一緒に自分たちの住む「まち」を創り、未来を子供たちに託そうとする気運の高まりが見られる。
- ほっとハウス笹口は、地域住民の生涯学習の場として活用され、小学生から高齢者まで様々な世代の交流や交歓の場として機能していることが、地域に根差した学校教育の推進を側面から支えている。

● その他

- 企業等との連携：新潟市南商工振興会 けやき通り・笹口地域内商店街 飲食店 U・STYLE 山津水産 田中屋 にいまーる 等
- 学習支援活動：・新潟医療福祉カレッジがほっとハウス笹口で昼休みの子供とのふれあい活動を実施 ・シェフパティシエ専門学校が夏休み中の食育・料理教室を子供向けに開催 ・新潟高度情報専門学校がクラブ活動講師として支援
- ICTの活用：・NIIGATA 光のページェント実行委員会、子供の思いや企画をプレゼンで発表



NIIGATA 光のページェント
 翌日に結婚する二人に歌と
 メッセージボードをプレゼン
 ト



ほっとハウス笹口
 昼休みにほっとハウス笹口
 の一室で遊ぶ子供たち

ポイント

地域企業を巻き込み積極的に展開されていますね。企業だけでなく、商店街や専門学校も含めて、地域の全てが子供たちの学びの種になることを証明するような取組だと言えます。

いのちを大切にし、守る教育活動の在り方 －「二葉ネット」の活用－

新潟県新発田市		● 活動名 二葉小学校地域連携ネットワーク会議		● 関係する学校名 新発田市立二葉小学校	
開始年度	平成 26 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	270 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	NPO法人ふるさと未来創造堂
ボランティアの数	登録人数 103 人	属性	自治会長、民生児童委員、PTA役員、地域住民		
参考 URL	http://futaba.shibata.ed.jp				
● 連絡先	新発田市立二葉小学校			☎ 0254-22-2164	

● 体制図



● 活動の概要・経緯

二葉小学校区は、昭和 41 年、42 年と 2 年続けて水害による浸水を受けており、地域は避難や集団移転を経験している歴史がある。さらに新潟地震から 50 年、中越地震から 10 年という節目の平成 26 年度に完成した新校舎での避難の在り方を見直す必要が出てきた。そこで二葉小学校では、様々な教訓を風化させないよう、子供に「いのち」の大切さについて学習する機会を教育課程に位置付けた。このとき保護者や地域、関係機関と学校とが連携・協働し、各々の役割と責任を果たしながら、地域社会全体で子供の「いのち」を守る仕組みづくりを進めた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学区内町内会をはじめ、「おやじの会」「図書ボランティア」等、健やかな子供の育成のため、様々な団体が存在する。これら散在する主体をネットワーク化し、各々のもつ教育力を一層高めるため、「二葉小学校地域連携ネットワーク会議（二葉ネット）」を設立し、定期的に会合を行っている。
- 「『いのち』を大切にし、守る」教育活動の充実を学校経営の中心に据え、「食育」「道徳教育」「防災教育」「安全対策」の四つの柱から教育課程を編成している。また、これらの活動において、地域の人材や教材を積極的に活用するとともに、企画段階から「二葉ネット」が関わっている。（1泊2日の防災キャンプや学校・地域一斉避難訓練、炊き出し訓練、引渡訓練等）
- 「新潟県防災教育プログラム」の自校化を図り、参観日等に公開している。

【実施にあたっての工夫】

- 「いのち」の教育全体計画や年間指導計画を作成し、教育課程に位置付けて、子供や保護者、地域住民、職員などから適宜評価を受け、PDCAによる継続した活動を行っている。
- 「『いのち』を大切にし、守る」をテーマに、学校行事や児童会活動に取り組んでいる。子供が主体となる「いじめ見逃しゼロ集会」を開催したり、年間 20 回程度行う縦割り班活動「二葉タイム」を実施したりして、自分も相手も大切にすることを育もうとしている。
- 学校に「地域連携室」を設置し、地域の方々や関係団体等に、気軽に学校を利用してもらうようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 取組を通し、保護者や地域は、自発的に子供を守ろうとする意識が高まってきた。例えば暴風雪警報が出されたとき、「どこに立つのがよいのか」「誰に連絡すればよいのか」などを即座に話し合い、翌日の子供の登下校を見守った。
- 学校と地域の一斉避難訓練を進めるに当たり、地域の自主防災組織の組織率が、平成 27 年度初めの 33%から、平成 29 年度には 100%となった。学校の取組が、地域の変容にもつながった。
- 1泊2日の4年生防災キャンプには、平成 28 年度は児童 40 名に対し、大人 57 名が、平成 29 年度は児童 45 名に対し、大人 52 名が参加、支援した。

● その他

- NPO法人ふるさと未来創造堂や新発田市地域安全課、新発田市社会福祉協議会等からの専門的な指導・助言を受けながら、活動を推進している。



川に流される体験



地域・学校一斉避難訓練

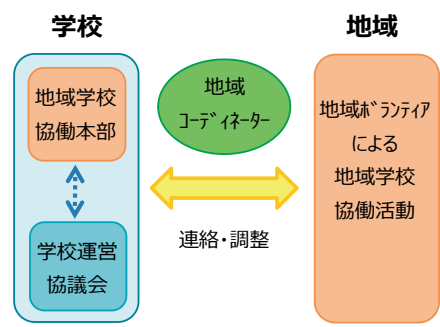
ポイント

かつての災害で得た教訓を活かし、地域一体となって推進する防災教育の活動が、地域の連帯と「子供を守る」という意識形成につながってきており、素晴らしいですね。

地域の風がいきかう学校 ～地域ぐるみで子どもを育てる活動～

石川県金沢市		● 活動名 金沢市立中村町小地域学校協働本部		● 関係する学校名 金沢市立中村町小学校	
開始年度	平成 26 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	290 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 101 人	属性	保護者、地域住民、元教員等		
参考 URL	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/nakamura-e/				
● 連絡先	金沢市教育委員会生涯学習課			☎ 076-220-2441	
● 活動の概要・経緯	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に中村町小学校支援地域本部を立ち上げ、2名の地域コーディネーターにより学校支援活動を実施。 実施 4 年目となる平成 29 年度より、金沢市立中村町小地域学校協働本部として新体制を整え、学校支援活動で培ったノウハウを活かしながら地域学校協働活動を展開。 また、本事業を土台とし、平成 28 年 8 月よりコミュニティ・スクールの運営を行っている。 				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①夏休みの学校図書館開放日にあわせて、地域の読み聞かせボランティアグループによる音楽劇の鑑賞会を実施。全校児童・保護者の希望者を対象とし、楽器演奏には吹奏楽クラブの協力も得た。
- ②花苗をプランターに植える作業を、5・6年生環境委員の児童と地域ボランティアで実施。
- ③地域ボランティアによるサマースクールを実施。「ジュニア金沢検定にチャレンジ」と題し、ボランティア支援のもと、検定日までに3回の勉強会を実施した。・その他、学習支援、環境整備、学校行事支援、安全指導等を行った。

【実施にあたっての工夫】

- ①親子で楽しい時間を過ごすとともに、夏休みに学校図書館へ足を運ぶことで、子供の読書意欲向上のきっかけづくりとした。
- ②地域ボランティアが植え方のコツをやさしく教えることで、和やかな雰囲気の中で作業を実施した。
- ③積極的な励ましの声かけを意識し、学ぶことの楽しさを伝えられるよう実施した。・その他、活動の実施状況の報告とボランティア募集の記事を掲載した広報誌を発行し、情報発信に努めた。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちは、普段関わる機会が少ない地域の方々とのふれあいを楽しみながら、学び、成長する機会を得ることができた。
- ・小学校が地域コミュニティの核となりつつあり、校区の一体感が増してきた。
- ・平成 26 年度から取組みを続け、ボランティア同士が交流やつながりを持つことで活動の輪が広がりを見せてきた。



音楽劇「ピーターと狼」



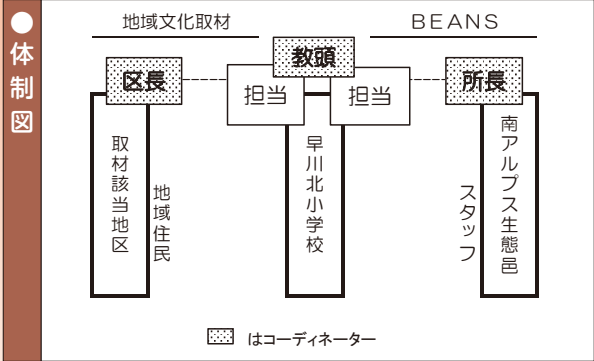
プランターの花苗植え

ポイント

ジュニア金沢検定など、地域主体のふるさと学習の創意工夫が素晴らしいです。地域に根ざしていた活動を着実に図っていきこうと工夫しており、これからの活動の広がりが楽しみです。

地域と学校が一体となった教育が行われています —地域文化と自然科学—

山梨県早川町		● 活動名 早川北小学校学校支援活動		● 関係する学校名 早川町立早川北小学校	
開始年度	昭和 52 年度	学級数	4 学級	児童・生徒数	14 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	老人クラブ 南アルプス邑野鳥公園
ボランティアの数	登録人数 26 人	属性	地域住民、PTA		
参考 URL	http://www.hayakawa-kitasho.ed.jp/				
● 連絡先	早川町教育委員会		☎ 0556-45-2547		



● 活動の概要・経緯

おもに総合的な学習の時間で、地域の方々との協働的な活動を行っている。内容は二つあり、一つは、地域の民話や文化の取材活動で、「わらべ」の時間としている。昭和 52 年度から続いており、取材地区の区長さんは、人集め・会場準備等、取材環境を整えてくれ、児童は取材を基に話し合いと練習を重ね、民話劇を作り上げる。演劇を上演する『わらべどんぐり祭り』には、町内の多数の方が来校する。もう一つの活動は、学校に隣接する野鳥公園のスタッフと地域の方々との協力で、課題解決型の自然科学教育活動を行っている（「BEANS の時間」）。児童は、個別のテーマを持ち、野外調査・研究を行う。研究発表会には保護者や地域の方々も来校する。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・「わらべ」で学校が大切にしているのは、取材や話し合いに時間をかけ、児童の手で台本を作る過程である。地域の方々は、民話に係わる昔の生活情報を惜しみなく児童に伝えてくれる。取材は、全校児童がテーマ別に縦割りグループに分かれて行っている。
- ・「BEANS」では児童一人 1 テーマで活動を進める。研究テーマは事前の合同観察や前年度の研究から児童自身が決めている。実際の自然の中で専門的なスタッフから支援を受け、地域住民とも関わりながら本格的に自然科学の方法を学べるのは強みである。全体の調整、スタッフの指導、学校職員研修には、野鳥公園所長があたっている。

【実施にあたっての工夫】

- ・「わらべ」の取材は年度ごとに地区を変えて行っている。取材地区の区長さんや老人クラブ会長さんと学校の担当者が事前に打ち合わせを行って取材の日を迎える。取材中、民話の場所を案内してもらうこともある。民話劇稽古では方言指導もしていただく。
- ・「BEANS」では、野鳥公園スタッフに、学校の教育課程について共通理解を持ってもらった上で専門知識を生かしてもらうために、学校職員と事前の話し合いを十分に行っている。活動地域周辺の住民にも BEANS の活動を知らせ、農作業や散歩の折に声かけをしてもらったり情報を教えてもらったりしている。
- ・町が進める山村留学制度と連携しながら進めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・児童の自然への興味関心が深くなり、課題解決能力、コミュニケーション能力が向上している。
- ・地域の方々も児童への心配りをしたり、学校教育に参加・協力しようという気持ちを強めている。
- ・調査を通じて児童と地域の方々の交流が深まり、地域文化伝承の一助になっている。

● その他

「BEANS」は、生態計画研究所が運営受託している『南アルプス生態邑』と連携している。南アルプス生態邑が運営しているのが「南アルプス邑野鳥公園」である。
ICT 活用は、BEANS の研究発表の際、児童が iPad を使っている。



地域取材
早川地区の取材の様子

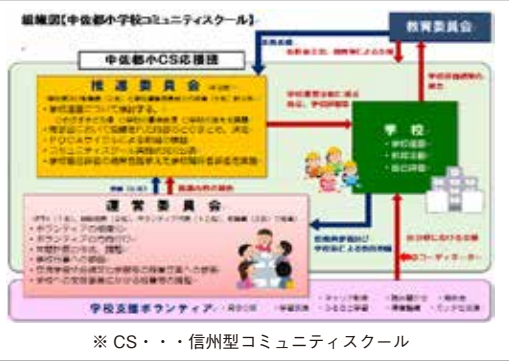


BEANS
野生動物のフンを洗う児童

学校と育成会が協働し、結び、育てる子供たちと地域

長野県佐久市		● 活動名 中佐都小CS（信州型コミュニティスクール）応援団		● 関係する学校名 佐久市中佐都小学校	
開始年度	平成 25 年度	学級数	14 学級	児童・生徒数	324 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他（児童の健全育成活動）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 19 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 6 人	連携団体・企業等	中佐都青少年健全育成会
ボランティアの数	登録人数 150 人	属性	地域住民		
参考 URL	http://nakasato.sakushi.ed.jp/				
● 連絡先	佐久市中佐都小学校			☎ 0267-67-3418	

● 体制図



● 活動の概要・経緯

中佐都小学校では育成会との結びつきを大切にした取組が展開されている。中佐都青少年健全育成会は、田園地帯の中佐都地区で都市化が進み始め、青少年非行数が2桁と危機感をつのらせる中、昭和56年に発足した。「子どもを守る安心の家」や「標語表彰」の取組、「球技大会」や「放水みこし、放水綱引き、魚のつかみ取り大会」、「お兄ちゃんお姉ちゃん交流」などの行事を行い、長年の活動が地域になくはならない行事として位置付けている。現在では学校と育成会がこれらの行事を協働して行っている。「子どもは地域の宝。地域ぐるみで子どもを育てよう」という中佐都の地域性が、学校に日常的に支援の手が入る基盤となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

中佐都小学校と育成会による活動は、年間を通して行われる。中でも夏に行われる「放水みこし、放水綱引き、魚のつかみ取り大会」と、冬に行われる「お兄ちゃんお姉ちゃん交流」の2つが特徴的である。かつては休耕田を利用して、おみこしと綱引きをどろんご祭と称して行っていたが、数年前から消防団の放水の中、みこしかつぎと綱引きが行われている。その後は、ニジマスのつかみ取りや塩焼きしたニジマスを食べるなど、楽しい夏のひとときを多くの参加者が共有した。また、校区内の寺院で1月に行われた「お兄ちゃんお姉ちゃん交流」は、5年生と来入児が2人1組となり、5年生は最高学年としての決意を、来入児は4月からの学校生活への期待を込めて、一緒に鐘をつく。その後は地域の大人たちが見守る中、縁起物の餅つきを力を合わせて行う。またこれらの活動には小中学生の保護者が行事担当として位置付けており、ボランティアとして活動を支えている。

【実施にあたっての工夫】

中佐都青少年健全育成会には「次代を担う青少年の健全育成に協力しよう」「子どもをめぐる環境の浄化に努力しよう」「地域社会の連帯で少年の非行を防止しよう」「親が模範となり自信を持って子どものしつけをしよう」との4つのスローガンがあり、これらのスローガンのもと、行事には学校職員も役員として計画段階から参画し、学校と育成会が協働して様々な活動を行っている。また、区長会やPTA、保育園、JA、防犯協会、消防団など、地域の様々な機関と連携していくことで活動がゆたかになり、未就学児から中学生までの地域のすべての子供の「たくましく生きていく力」「人を大切にする心」の育成を願い、地域ぐるみによる取組が展開されている。

● 事業を実施しての効果・成果

昭和56年から始まった育成会の取組は36年経った今でもつづけて行われている。このことにより、当時の子供が現在は保護者として活動を支え、我が子の成長を地域ぐるみで見守る中佐都の地域性に感謝の気持ちと喜びを感じている。また、中佐都は様々な行事があるので、外に出た人が「中佐都は子育てがしやすい」、と再び中佐都に戻ってくる家庭が多いという。行事をただこなすのではなく、活動の意味や目的を持って、よく考えられた活動が展開されている。

● その他

10名の学習支援ボランティアが日常的に教室に入って学習支援をしている。また、校外学習の引率や朝の時間の個別学習支援、宿題の丸付け支援等も進んで行っている。さらに、3団体31名が年間を通して読み聞かせを行っている。



中佐都消防団による放水



4月からお勉強、がんばります（お兄ちゃんお姉ちゃん交流）

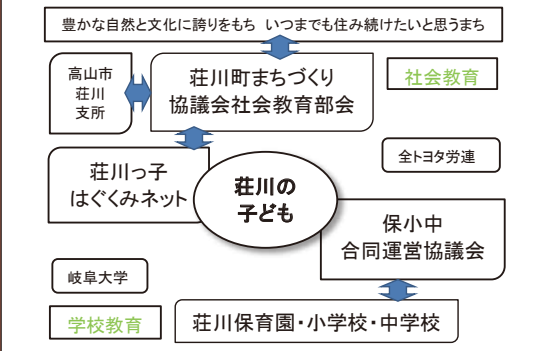
ポイント

体系的な組織と事業の実施体制が日常の活動を支えている様子が良く伝わってきます。

岐阜県高山市	● 活動名	● 関係する学校名
	地域に根ざした保小中一貫教育推進事業	高山市立荘川中学校、高山市立荘川小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	7 学級	児童・生徒数	55 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 13 人	連携団体・企業等	・荘川町まちづくり協議会 ・高山市荘川支所 ・岐阜大学
ボランティアの数	登録人数 10 人	属性	・地域住民		
参考 URL	http://www.shokawa.net/				

● 体制図



● 連絡先	荘川町まちづくり協議会事務局	☎ 05769-8-6005
-------	----------------	----------------

● 活動の概要・経緯

荘川町には、豊かな自然・伝承文化があり、温かな人々が暮らしている。この素晴らしい荘川のまちを守り支えているのは、地域の方々の結の心にある。その中で、豊かな地域の子育てコミュニティのもと、保育園・小学校・中学校の子育て・教育環境が営まれている。平成 25 年度には、「保護者・地域の方々が願いを共有し、12 年間をつなぎ、健やかに育む」ことを目的とし荘川っ子はぐくみネットが立ち上がった。また、今年度、保小中それぞれにあった組織を 1 つにまとめ、合同運営協議会として整備した。地域に存在する 1 園 1 小 1 中の保育・教育のつながりを大切にし、地域の皆さんで地域とともにある学園を創造し活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 荘川町まちづくり協議会の社会教育部会が中心となり荘川町の子ども会と連携し、保小中合同のキャンプを開催。子供たちは地域ボランティアの方々とふれあい、川遊び、鮎のとも釣り、カレー作り、キャンプファイヤーなどの体験活動を楽しんだ。
- ・ 荘川支所と岐阜大学が連携し、小中学校の郷土教育の一環としてユネスコエコパークについての学習やミズバショウ保全活動を位置付け推進している。ユネスコスクールへの登録も申請中であり、今後 ICT 機器を活用した学習も充実させたい。
- ・ 保小中の兼務職員を中心とし、保小中一貫教育の充実をめざし実践を重ねている。中一ギャップの解消はもちろんのこと、保小中合同の運営協議会を充実していくことで、地域とともにある学校づくりに力を注いでいる。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 校種間連携：保育園長と小中学校長が頻繁に行き来し、「子どもたちの 12 年間の成長」という視点から対話することを大切にしている。それぞれの立場で考えていることを大切につなぎ合わせ実践に移している。
- ・ 学社連携：学校とまちづくり協議会（社会教育部会）と荘川支所（行政）との連携を大切にしている。荘川の子供たちを育む上で、学校教育と社会教育の両面から役割分担をし連携する体制が協働活動を生み出すためには効果的である。
- ・ 郷土教育：高山市教育の方針である郷土教育を、学校と地域をつなぐ大切な窓口としている。郷土教育をツールとし、社会に開かれた教育課程の推進を積極的に行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 保小中一貫教育推進事業を継続してきたことで、12 年間をつなぐ子育て・教育の理解が深まり、保護者・地域の方々の関心が高まっている。
- ・ 学校、保護者、地域の方々、行政が協働し、「全員が子育てのスタッフである」という意識のもと、地域の特色を生かした子育て・教育環境が整いつつある。
- ・ 高山市教育の方針である郷土教育が潤滑油となり、地域と学校の協働活動が進められている。

● その他

総合的な学習の時間に地域の文化歴史、郷土芸能の講師として地域の方に来ていただいて学んでいる。地域芸能祭での発表や地域イベントでの笠踊りを披露している。



ミズバショウの保全活動



デイキャンプ・鮎の塩焼き

ポイント

まちづくり協議会の社会教育部が中心となって、多様な組織・機関をつなぎ、多彩な活動を展開していくことで、地域の意識形成を図っている点が参考になりますね。

ふるさとに夢と誇りをもち、ふるさとに貢献する子を育てる活動

岐阜県高山市	● 活動名	● 関係する学校名
	朝高子どもしとねる会	高山市立朝日小学校・朝日中学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	3 学級	児童・生徒数	40 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	連携団体・企業等	まちづくり協議会
ボランティアの数	登録人数 35 人	属性	地域住民・PTA役員等		
参考 URL	http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000020/1000114/1000781/1000791.html				

● 体制図



● 連絡先 高山市立朝日中学校 ☎ 0577-55-3006

● 活動の概要・経緯

地域の教育力を向上させるとは、地域住民が高い意識をもって子育てに関わることであり、地域で子供の姿について語り合う集まりがもたらされた。そこで語られたことを実際に具現するための組織が必要であることから、「朝高子どもしとねる会」が生まれた。

「朝高子どもしとねる会」は、学校の教育課程において必要な人材をコーディネートし、より豊かな学習になるよう支援している。農業体験、自然体験、福祉体験、史跡探訪、地域行事への参画、地域貢献等について、「朝高しとねる会」の会員とともに行動。会員は授業参観、行事への参加等を通して、学校評価を行う。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

安心安全な環境づくりと子育て支援の活動

- ・挨拶運動と言葉かけ活動 ・熊や蜂や不審者などから子供を守る安心安全な環境づくりの支援
- ・各種行事や保育参観・授業参観への積極的参加による保育・教育活動への提言（保育評価と学校評価）
- ・多くの世代の子育て経験の交流や、地域や大人の役割を学ぶ取り組み ・自分の命は自分で守る子供の育成
- ふるさとを学ぶ郷土学習支援と子供の輝きを伝える活動
- ・自然・文化・歴史等について、ふるさとのよさやふるさとに生きる人々の知恵を学ぶ郷土学習アドバイザーとして支援
- ・持続可能な開発のための教育（ESD）の視点に立ち、ふるさとの課題について自ら考え行動、貢献する子供の育成
- ・まちづくり協議会、地域住民との連携により、各種大会・コンクール等での成果を看板等で発信

【実施にあたっての工夫】

- ・会員のみでの活動にならないよう、保育園・小学校・中学校の合同 PTA と連携をとって活動する。
- ・熊や蜂などの対応について、地域からの情報を得るとともに、諸経費については、まちづくり協議会等の地域振興のための機関や、PTA の補助を受ける。
- ・多機関のリーダーが加わることにより、地域全体の動きが把握でき、学校への地域の願いや学校からの発信が広がりやすい。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供の安心安全のための対策や地域での挨拶の指導等、学校任せの意識から脱し、地域住民が積極的に子供にかかわり、声をかけることが多くなった。また、少子化が進む学校の将来について、意見を交流する場をもつことができ、地域住民全体の問題としてとらえようとする動きが見られるようになってきた。
- ・子供たちにおいては、ふるさと学習によって地域と接点が増えるとともに、系統的継続的な学習が成立することにより、地域への所属感が高まっている。



川遊び体験
「あじもはや」にこころ
説明の会



地域貢献
「オオハシ」草駆除
朝高しとねる会がこどもに作業

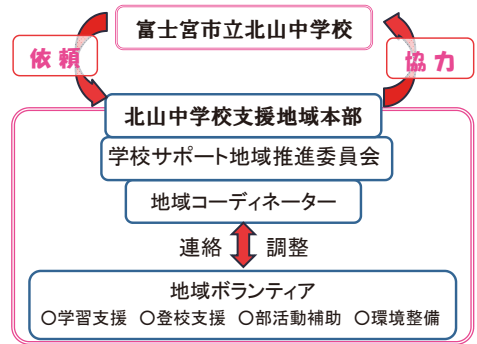
ポイント

積極的に子供と関わる機会を設けていくことで、地域の側の意識形成が図られていく様子が良く伝わる実践ですね。

地域と学校で子供たちを笑顔に！ ～学校サポート地域推進委員とともに～

静岡県富士宮市		● 活動名 富士宮市立北山中学校支援地域本部		● 関係する学校名 富士宮市立北山中学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	208 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 11 人	属性	学校評議員、自治会関係者、地域住民等		
参考 URL					
● 連絡先 富士宮市立北山中学校		☎ 0544-58-1026			
● 活動の概要・経緯	<p>平成 21 年より 2 年間、研究の指定を受け、PTCA の組織化の研究を進め実績を積んだ。その後、学校評議員、区長、同窓会、PTA 代表、コーディネーターで構成された「学校サポート地域推進委員会」が学校支援の中核となり、コーディネーターが地域と学校の調整を進めることで、支援活動を行ってきた。学習支援では、生徒はもとより、教員にとっても自分を磨く良い機会となっている。また、北山中学校支援地域本部は、学校の実情に合わせ、毎年支援内容、支援形態を検討し、柔軟に支援を行う体制が整っている本部である。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「登校支援」

・学校の課題であった不登校生徒への対応として、学校、家庭、地域が連携することで生徒を支えることができないか、と考え、昨年度より活動を開始した。PTCA 室で会話を中心としたコミュニケーションや、ゲーム形式の学習の支援を行い、生徒が安心して活動できる居場所にすることができた。

「学習支援」

・地域の木工や電気屋の方に協力を依頼し、木工や電気等の技術科の学習支援を行った。また、個別対応が有効な支援の手立てになる特別支援学級の授業補助も行っている。

「部活動補助」

・地域の柔道家の方に授業の補助を行ってもらっている。また、中体連の相撲の指導も地域経験者に指導をしてもらっている。

【実施にあたっての工夫】

学校サポート推進委員会（学校評議員、区長、同窓会、PTA 代表、山宮地区と北山地区のコーディネーター 2 名）を設置し、年度の初めには事業計画を検討する会議を行い、年度末には成果と課題をまとめる会議を実施する。コーディネーターと学校の打ち合わせは毎週月曜日に実施し、学校からは支援要請について、またコーディネーターからは地区行事参加など、地域からの要請の調整を行う。こうした取組みは、本地域本部の特徴である、学校の実情に合わせた柔軟な支援体制の確立につながっている。

さらに、定期的に発行される学校だよりでは、様々な支援の様子を掲載し、広く地域へ広報するとともに、新たなボランティアの参加を呼びかけている。

● 事業を実施しての効果・成果

平成 21 年度より事業を積み重ねてきたことで、地域で学校を支援する体制が確立されてきた。さらに生徒が地区行事へ参加する実績も増え、学校・地域の連携・協働による体制も整ってきている。またこうした事業から、地域住民が日常的に学校を訪問することで、多くの地域の方が学校に関心をもつとともに、学校・地域が一体となってより良い教育環境をつくり、地域に開かれた学校づくりにも効果が現れている。

本部を中心に、PDCA サイクルを意識して支援計画、成果・効果を検討するため、学校の課題に迅速に対応することができているのも大きな成果である。学校評価の「地域と協力して子供を育てることを意識した教育活動ができていると思う」では、94.2%の保護者が「そう思う」と答えている。



地域の木工さんに教わる



地域の柔道家による支援

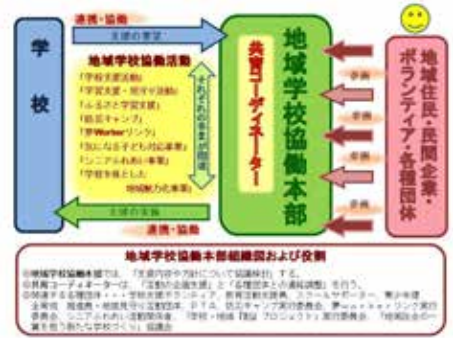
ポイント

地域の参画を強く意識していること、様々な生徒への寄り添いが行われている点が示唆に富みます。学習支援や部活支援だけではない地域人材の関わりという重要な視点を示しており、素晴らしいです。

地域の大人から学び、教えることで大人も学ぶ — 共育による地域活性化 —

愛知県田原市	● 活動名		● 関係する学校名		
	田原市地域学校協働本部		田原市内全小中学校		
開始年度	平成 27 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	337 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	市民活動団体(ハープの会、たらめ会、里山の会、山遊里)
ボランティアの数	登録人数	属性	地域住民		
参考 URL	田原市HP http://www.city.tahara.aichi.jp/kosodate/kyoikubunka/1002935/1004287/index.html 田原市立福江中学校インスタグラム アカウント名: fukue_chu				
● 連絡先	田原市教育委員会学校教育課		☎ 0531-23-3679		

● 体制図



● 活動の概要・経緯

田原市では「みんなが幸福を実現できるまち」をまちづくりの理念とし、その重点施策として「ふるさと人材育成プロジェクト」を掲げ、地域との連携による教育活動を推進している。

地域学校協働本部が主体となり、平成 25 年度から共育（ともいく）コーディネーターを配置し、地域全体で子育てを支援する取組を展開している。平成 26 年度からは地域の職業者が講師を担い、各学校で職業について講義を行う「夢 Worker リンク事業」を開始、平成 27 年度からは「学校を核とした地域魅力化事業（創プロジェクト）」を実施し、地域が抱える課題を子供たちと地域ぐるみで考え、解決していくことで、地域コミュニティ強化と人材育成を図っている。

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】**
- 「人材育成」、「地域活性化」、「共育事業実施体制の構築」を3つの柱とし、地域全体で子供を守り育てる意識の向上及び、子供の課題解決能力を高める環境整備を重点に活動内容を協議・検討している。
- ① 子供の学びの支援と大人の地域教育力の向上を図る取組み
「夢 Worker リンク」… 地元企業、地域の人材を講師として各学校に派遣し、職業観や人生観を学ぶキャリア教育として実施している。講師にとっても学びの機会となっている。(ふるさと教育×人材育成)
 - ② 共育コーディネーターを活用した学校支援の取組み
「防災キャンプ事業」… 自治会及びボランティア、企業、消防団など多様な人材が参画し、アイデアを出し合いながら、コーディネーターが意見を総括する。活動に参加することで協力者同士のつながりが生まれる。また、子供を通して学んだ内容を家庭に普及させる取組み内容となっている。(地域防災力強化×地域の人材発掘)
「シニアふれあい事業」… 地域のシニアの知識の継承と生きがいづくり及び子供たちとコミュニティとの絆づくりの一端を担う。コーディネーターが学校とシニア活動のアドバイザー役となっている。(豊かな人づくり×地域コミュニティ強化)
 - ③ 田原市の将来を担う子供を地域で守り育てる意識の向上、子供の学習環境を整える取組み
「地域未来塾」… 地域住民や教員 OB などの人材を活用し、学習支援の場を提供している。(基礎学力向上×地域の担い手育成)

【実施にあたっての工夫】

共育コーディネーターを活用して、学校・地域住民・ボランティア・企業をつなぐ事で、参加者それぞれが別の事業でも連携・協力しやすい体制を構築している。また、地域に埋もれている人材の掘り起こしを行い、地域全体のネットワークに加わってもらうことでさらに活動が広がるように情報発信を行っている。

子供と地域が一緒になって地域の課題について考え、解決策に向けて具体的に行動・実現できるように、学校や地域・企業と調整を行っている。参画者が問題解決能力や自己有用感を高めることができ、さらに一連の活動が地域活性化につながるように工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ ふるさと学習が地域の課題を子供たちが自ら考えるよい機会となり、子供たちの地域への愛着を高めることが可能となった。
- ・ 子供たちが自ら課題を持って、地域の大人と共に活動することで、自己有用感が高まり、意欲や想像力を伸ばすことが可能となった。
- ・ ふるさと学習で発見した地域の魅力を、子供たちが具体的な提案や活動へと高め、地域の大人と一緒に実現していくことで地域全体の活性化を図る効果が生まれた。
- ・ 地域の大人から学び、子供に教えることで大人も学ぶという共育（ともいく）による人材育成と地域活性化の実現が可能となった。

● その他

- ・ 学習支援については、「たはら地域未来塾」を平成 28 年度から実施している。現在、市内 3 中学校区で実施。(上記、活動の特徴・工夫に掲載)



「夢 Worker リンク」
講師派遣事業
(田原中部小学校)



「シニアふれあい事業」
子供たちと昔の遊びを体験
(衣笠小学校)

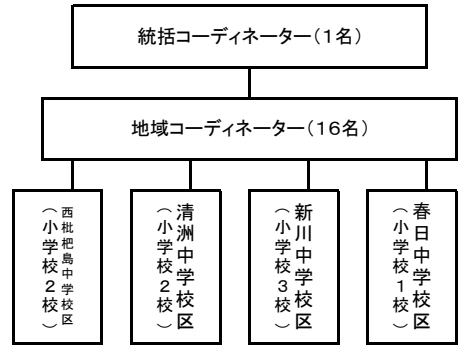
ポイント

コーディネーターが学校、地域、企業、団体等をつなぎ、大人も子供も学ぶ「共育」によって、地域が活性化される様子が分かりますね。

ひろげようボランティアの「わ」 ～ 子どもと地域をつなぐ絆をつくる学校支援地域本部 ～

愛知県清須市		● 活動名 清須市学校支援地域本部		● 関係する学校名 清須市立小・中学校	
開始年度	平成 20 年度	学級数	19 学級	児童・生徒数	500 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 16 人	連携団体・企業等	地区町内会・寿会・清須市立図書館・社会福祉協議会等
ボランティアの数	登録人数 35 人	属性	地域住民の中で、学校支援ボランティアとして、ボランティア保険加入者のみ（年に複数回活動している者）		
参考 URL					
● 連絡先	教育委員会教育部生涯学習課		☎ 052-400-2911		
● 活動の概要・経緯	<p>平成 20 年度に国の委託事業として西枇杷島地区 3 校で始まり、平成 27 年度には市内小・中学校 12 校すべてにおいて学校支援が展開できるようになった。環境整備支援、見守り支援、読書活動推進支援、保育実習や家庭科の実習支援など、地域・学校の特色や実情に合わせて活動をしている。現在、地域コーディネーター 17 名（統括コーディネーター 1 名）を配置することにより、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを大きな目的としている。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

清須市学校支援では、当初から読書活動推進を柱として活動を展開してきた。平成 24 年 7 月の市立図書館開館に伴い、市立図書館と協働で行われる「読書ボランティア養成講座」「図書修繕ボランティア養成講座」は、国や県からの視察を受けるなど、先進地事例として高い評価を受けている。継続的な養成講座の取り組みにより、基本的な知識・技術等を活かし、各学校で P T A やボランティアが定期的に図書室の本の修繕を行えるようになった。また、市立図書館の蔵書を事前学習の資料として有効に活用する等、生徒の学校行事に対する意欲向上や読書活動の推進が一層図られている。また、平成 27 年度シニア地域デビューモデル事業にて作成された大型紙芝居は、未曾有の被害をもたらした平成 12 年東海豪雨を後世に伝える為に、地域住民と児童・生徒が中心となり作成した。防災の意識も高まり、地域の防災力が上がっていくことも期待できる。

【実施にあたっての工夫】

学校行事の運営支援は、ある程度の専門性が必要なものから、特段の資格や経験等がなくてもできるものまで幅広い。ボランティア一人ひとりが学校の仕組みや教育方針等をよく理解した上で、自らできることをできるときにできる範囲で活動することが望まれる。特に学校図書室においては、本の補修や読み聞かせを継続的に行っていくために、たくさんのボランティアの活躍が必要である。地域コーディネーター及び学校支援ボランティアがスキルアップの為に、毎月養成講座を開催し、研修会などにも積極的に参加した。継続的な養成講座の取り組みにより、基本的な知識・技術等を活かし、各学校で P T A やボランティアが定期的に修繕を行えるようになった。また、大型紙芝居についても、フレーム等の整備が必要となる為、地域住民の技術や能力が必要になる。一過性では無く、継続的な事業やボランティア活動になるように工夫をした。

● 事業を実施しての効果・成果

地域コーディネーターが中心となり、図書ボランティアが整理・修繕をはじめ P O P を取り入れた本の紹介や、図書室を四季の変化を感じられる装飾に工夫するなど、各学校で図書室の環境整備をしている。この飾り付けを楽しみに図書室を訪れる子ども達がいる。環境を整備することで、本の落丁を見つけて報告してくる子供が出てくる等、読書の向上だけでなく、本を大切に扱う意識が芽生え、子供たちに大きな変化が出てきている。



学校支援ボランティアによる
学校図書室の環境整備



市立図書館と協働による
図書修繕養成講座

ポイント

地域コーディネーターがチームの一員となっていることを強みに、図書館と協働して展開してきた読書活動等、学校と地域の連携・協働による活動が広がっていますね。

京都府向日市	● 活動名	● 関係する学校名
	地域で支える学校教育推進事業 第3 向陽小学校実行委員会	向日市立第3 向陽小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	17 学級	児童・生徒数	407 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	
	0 人		3 人		
ボランティアの数	登録人数	属性	地域住民、保護者		
	50 人				
参考 URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/3kouyou-es/cms/				

● 体制図



● 連絡先	向日市教育委員会生涯学習課	☎ 075-931-1111
-------	---------------	----------------

- 活動の概要・経緯
- 平成 21 年度から「向日市学校支援地域本部事業」として活動を開始し、地域住民の特技や経験を生かした授業支援や環境整備などを行っている。
 - 平成 24 年度から「放課後サポート事業（放課後子供教室）」と連携し、放課後に 1、2 年生を対象とした遊びのコーナーを支援する活動に取り組んでいる。
 - コーディネーターを中心とした組織体制を整備し、運営をしている。
 - 学習活動や体験活動が多様で、児童の興味関心を高めるものとなっており、たくさんのボランティアが活動に関わっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 授業支援は各学年の学習内容や要望に合わせ、しめ縄づくりやミシンの学習など、地域の方の特技や趣味、経験を生かした体験活動・学習の支援を行っている。
- 1、2 年生を対象にした放課後の遊びのコーナーでは、PTA や老人会と連携し、昔遊びや季節の遊び、子供たちのリクエストに応じた遊びなど多様な内容で実施している。
- 広報紙を計画的に発行し、活動の趣旨や取組内容を掲載することにより、ボランティアとして参加する地域住民や PTA を増やしている。

【実施にあたっての工夫】

- 学期に 1 回程度実行委員会を開催し、事業計画や進捗状況の確認、事業の実施報告を行うほか、ボランティア等の地域協力者の人材確保に関する方策や事業運営、普及啓発活動に関する協議を行っている。
- PTA や地域の老人会などが継続的に参加し、活動に協力している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校の要望に応じた多様な学習活動、体験活動を地域住民と連携して展開することで、学習内容や放課後の遊びのコーナーの充実につながった。
- たくさんのボランティアが参加することで、地域住民の交流や地域の教育力向上の一助にもなっている。



3 SUN ががやき応援団おたより



田植え・しめ縄作りなど活動の様子

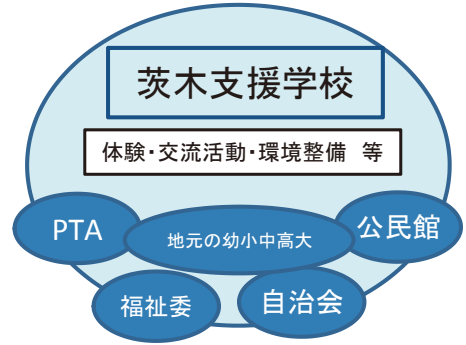
ポイント

学校支援地域本部のこれまでの歩みとともに、放課後子供教室との連携・協働等によりネットワークを広げることによって、地域学校協働活動へと進化している様子が良く分かります。

地域の中に生きる学校 ～ 30年以上の長きに渡る地域と学校の交流活動～

大阪府茨木市		● 活動名 茨木支援学校学校支援活動（地域交流）		● 関係する学校名 大阪府立茨木支援学校	
開始年度	昭和 60 年度	学級数	35 学級	児童・生徒数	233 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	茨木ロータリークラブ 福井連合自治会 追手門学院大学 茨木高機交通
ボランティアの数	登録人数 35 人	属性	茨木高機交通 福井地区自治会 茨木ロータリークラブ 地域高校生、大学生 ロータリーアクトクラブ		
参考 URL	https://www2.osaka-c.ed.jp/ibaraki-y/				
● 連絡先	大阪府立茨木支援学校		☎ 072-643-6951		
● 活動の概要・経緯	<p>府立茨木支援学校では、草創期より地域の福井地区の住民とともに学校づくりを進めてきている。例えば、芋ほりの活動では、校内の畑で活動するが、車いすの児童生徒が横になって苗植えができるようにブルーシートをしくなど準備をしている。また、校区周辺は農家も多く、イチゴ狩りも地域の農家が協力し実施している。</p> <p>毎年夏に行われるひまわりフェスタでは、地域住民だけでなく、地域の学校や保護者が模擬店を出店したり、運営したりしている。「子どもたちのために」を合言葉に地域と学校が協働して多様な取組を実施している。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 農作業体験
地域住民の協力により、いもの苗植え、いもほり体験、いちご狩りは毎年必ず実施している。肢体不自由の児童でも実際に体験ができるように、地域住民が工夫され、より豊かな体験にすることができている。そして、30年以上継続して取り組んできている。
- ・ ひまわりフェスタ
保護者、地域、学生ボランティアがともに協働して準備・運営している取組である。誰でもバリアフリーに楽しめるゲームの数々、バザーや手作りお菓子、グッズの販売等の模擬店、ダンスや軽音楽等。支援学校の児童生徒と同窓生や地域ボランティア、地域の小中学生と一緒に楽しむことができる行事である。
- ・ 環境整備
夏の草刈りや花壇の整備を地域住民が行っている。
- ・ 新春交流餅つき大会
1983年以来継続して実施しており、地元タクシー会社ももち米等の準備や、餅つきの采配など、中心になって活動し、地域の公民館や交流校も交えて盛大に行われている。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 学校創立時より農村だった地域との関わりが深く、つながりを今でも続けている。
- ・ 自治会に学校のことをよく知っている人がおり、様々な点で地域と協働した取り組みを行っている。
- ・ 学校行事を自治会の日程に入れ、また公民館の取組とタイアップすることで、より多くの地域住民が参加できるようにした。
- ・ 模擬店やフェスタの運営はコーディネーターをはじめとした地域住民や、PTA、学生ボランティアが担うことで、教員は児童・生徒の対応に専念している。

● 事業を実施しての効果・成果

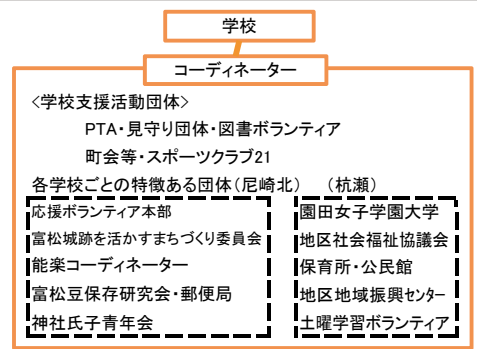
支援学校は広域から児童・生徒が通学することから地域との連携の取り方が難しい中、草創期より地域の方々とともに学校づくりができています。自治会や保護者、地元小中高等学校と多様な取組を行うことにより、支援学校への理解を深める機会となっているとともに、ひまわりフェスタのようなPTAや自治会がともに行事を運営することを通して、児童・生徒の障がいの理解につながっている。「誰もが参加できる行事にしたい」という地域の方々の思いから、毎年様々な工夫を凝らし、取組が充実していつている。これらの取組を通じて、子供たちは社会性を育む機会とともに、より豊かで多様な経験をする機会となっている。



ポイント

特別支援学校として草創期より30年、地域とともに歩み、学校への理解が深まっているとともに、児童生徒の社会性を育んでいることが伝わってきますね。

兵庫県尼崎市		● 活動名 学校支援活動コーディネーターモデル事業		● 関係する学校名 尼崎市立尼崎北小学校、尼崎市立杭瀬小学校	
開始年度	平成 28 年度	学級数	27 学級	児童・生徒数	733 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	まちづくり委員会等
ボランティアの数	登録人数 213 人	属性	PTA、地域住民、地元企業等		
参考 URL	http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/lifelong/1002016/104gakkoushi/en/1005550.html				
● 連絡先	尼崎市教育委員会社会教育課		☎ 06-4950-0405		
● 活動の概要・経緯	<p>地域の豊かな社会資源を活用し、子供たちが地域社会で体験的に学ぶ取組を行うとともに、学校のニーズと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援が行えるよう調整するコーディネーターをモデル校である2校に配置する。</p> <p>尼崎市では平成28年度からモデル的に地域学校協働本部の設置を進めており、学校を「地域の人が活躍する場」としても捉え、小学校から設置を進めている。</p>				



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 尼崎北小学校（学内での活動、地域資源を活用した活動）
 - ・月3回程度25分休憩に応援ボランティア本部を中心として「遊びのコーナー」が実施されている。7月はミニ・ミニ縁日として、わなげ・けん玉、さかなつりのお店を開店し、全部を回ると手作りのストラップなどの景品がもらえる。わなげやストラップ等は全てボランティアの手作りである。加えて校内の掲示板の装飾も季節に合わせた飾り付けをしている。また、活動日の内、学期に1回程度活動団体の交流会を開催している。
 - ・地域資源を活用して、親子を対象にバードウォッチングやセミの羽化の観察会など、富松城跡を活かすまちづくり委員会が中心となって地元の神社の周辺や富松城跡の森等をめぐる機会を設け、地域愛の醸成にも寄与している。
- 杭瀬小学校（既存の事業の連携による取組の充実）
 - ・スポーツクラブ21と地域の方を中心としたプール開放、PTAや大学生などのボランティアが土曜日（月2回）に実施している図書室開放、また、地区の社会福祉協議会が実施しているサマースクールボランティア（車いす体験事業）を夏休みに同時開催している。また、プールの定員が満員になり入れない子供たちの居場所として図書室を開放し、大学生が宿題をみたり、社会福祉協議会の事業を行ったりして過ごしている。それぞれの団体の取組がより効果的に実施されている。
 - ・登下校の見守りは地元企業の協力があり、図書室開放は子供たちとのコミュニケーションを図る場でもあり、地域の方の顔が見える活動となっている。

【実施にあたっての工夫】

地域学校協働活動において人と人がつながり・連携する仕組みが、持続可能な取組となるよう、小学校ごとにコーディネーターを配置し、また、その人材は学校・公民館・社会福祉協議会等と相談して地域の中から探し出し、学校長が推薦する形で委嘱している。各学校には以前から、様々な地域の団体やボランティアが活動しており、そこへ今までのつながりを活かした、「ゆるやかなネットワーク」をつくることで、既存の事業の充実や効率化につながり、持続可能な仕組みになるよう工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

いずれの学校も、もともと学校支援活動が積極的に行われていたが、各々のグループが担当教員や教頭とそれぞれにつながり活動を行っていた。コーディネーターを配置することで学校との窓口が集約されるとともに、また、関係者同士の横のつながりができ、各事業の実施日程の調整等が円滑になった。さらに、既存の関係団体のそれぞれの取組に関する課題や悩みも共有することで、より効果的に連携することができ、各事業の負担の軽減につながってきている。

● その他

尼崎市には史跡が多く残る住宅街や、活気のある商店街を有するなど、学校ごとに地域環境に特性があり、地域学校協働活動に関わる人材や、取組内容も学校ごとに特徴がみられ、多様な活動が展開されている。



尼崎北小学校（25分休憩の取組）
社会教育課ブログより抜粋



杭瀬小学校（プール開放等）
社会教育課ブログより抜粋

ポイント

学校側の担当者やコーディネーターとが情報や課題を共有し、地域の組織をゆるやかにネットワーク化していることが、活動の充実や効率化、持続性につながっています。

学校を拠点に地域のネットワークづくり ～知り合い・語り合い・学び合う～

兵庫県三田市		● 活動名 ゆりのき子どもネットワーク			● 関係する学校名 三田市立ゆりのき台小学校		
開始年度	平成 21 年度	学級数	27 学級	児童・生徒数	777 人		
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()						
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等			
ボランティアの数	登録人数 102 人	属性	PTA 役員、地域住民など				
参考 URL	ゆりのき台小学校ホームページに「ゆりっこ通信」が掲載されています。 http://www.city.sanda.lg.jp/kosodate/shougakkou/yurinokidai/kakusyuzyouhou.html						
● 連絡先	三田市民生活部市民協働室多世代活躍支援課			☎ 079-559-5046			

● 体制図



● 活動の概要・経緯

ゆりのき台小学校区では、平成 16 年に地域の力を借りたいと、学校が PTA や地縁団体に声をかけて組織されたビーミーキッズが始めた、地域住民がいろいろな講座を提供する「わくわくスクール」、ボランティアグループ（ぷちっとボラ）が子供の居場所づくり事業として実施した「ゆうゆうクラブ」などの子供向けの活動が行われていた。これらの活動を基礎に放課後子ども教室を協働で実施しようと、平成 20 年に活動していた複数のグループと民生児童委員がゆりのき子どもネットワークを立ち上げた。子どもネットワークは、放課後子ども教室「ゆりっこ広場」、学校支援地域本部事業、三田型コミュニティスクールの活動を通して、学校と地域、家庭の連携の推進役となっている。

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】**
- ・平日の定期活動「ゆりっこ広場」「ゆりっこスポーツ」「ゆりっこメロディ」を通じて、子供がやりたいことを自分で決めてやる場所を提供している。
 - ・学校休業日には、地域の人や NPO 法人等に依頼して開催する講座、ワークショップ、イベントなど単発企画型の体験活動を実施している。
 - ・継続的に異学年の同じメンバーで活動する「ゆうゆうクラブ」を行っている。
 - ・学習支援として「ゆりのき楽考」を実施している。
 - ・家庭科のミシンの授業をボランティアと一緒に作るといった、新しい学校支援の活動を提案するなど、コーディネーターの役割が広がっている。
 - ・地域活動協議会にコーディネーターも参加。学校内にとどまらず地域全体の活動を視野にコーディネートしている。
- 【実施にあたっての工夫】**
- ・情報を共有し一緒に考えることで、当事者である意識を持ってもらえるよう努める。毎月スタッフと PTA コーディネーターが参加する「スタッフミーティング」と 学校と地域の「コーディネーター打ち合わせ」を行う。
 - ・学校内に地域の部屋が配置されており、先生や保護者が日常的に地域の人の活動を目にし、コーディネーターとも雑談できる機会をつくりだしている。
 - ・毎月「ゆりっこ通信」を発行し児童に配布し、学校のHPにも掲載している。また、地域で全戸配布している地域活動協議会発行の通信にも情報を掲載している。
 - ・多様な地域の大人と子供たちのつながりができるよう、だれでも参加しやすいゆるやかな関わりを大事にしている。また、ボランティアの「できる」「やってみたい」を形にできるよう支援する。
 - ・ゆりっこメロディは、校区にある「デイサービスゆりのき」での訪問演奏や、地域のイベントで発表をしたり、5 年生の総合的学習では、自治会のお祭を体験の場とするなど、子供の活動を地域につなげている。

- 事業を実施しての効果・成果
- ・学校を核として子供を中心に地域の大人を巻き込み、主体的に参加する人を生み出し始め、地域に開かれた学校づくりに貢献できた。さらに、学校を核とすることで多世代の交流と各団体・個人のつながりづくりが進み、自然と語り合い学び合う機会が増えた。それは、子供たちを気にかけて関わってくれる大人が増えるということであり、中高生になっても挨拶したり地域の活動への参加を呼び掛けたりすることができるようになった。関わっている大人も地域に役割と仲間を得て、いきいきと活動している。
 - ・地域、学校のどちらにも欠かせないコーディネーターも、様々な取組の中で地域につながりを深め、共に学び合うことで成長できると実感している。
 - ・学校での様々な取組が、新たな人材の発掘や気づきの場所にもなっており、地域にとっては次の担い手が育つ貴重な活動となっている。

● その他

地域と学校が連携・協働した基盤的な活動における学習支援活動は、図工科でののこぎり使用の補助・家庭科でのミシン補助・総合学習でのボランティア体験機会の提供などの授業補助。放課後子ども教室における、企業・NPO との連携については岸和田自然資料館による講座「ちりめんモンスターを探せ」、SSCK (株)の社会貢献活動 CAMP による CAMP クリケットワークショップ、NPO 法人場とつながりの研究センターによるプログラミング講座の開催など。



ゆりっこメロディ
コーディネーターを楽しむ
ゆうゆうクラブでの
流しそうめん

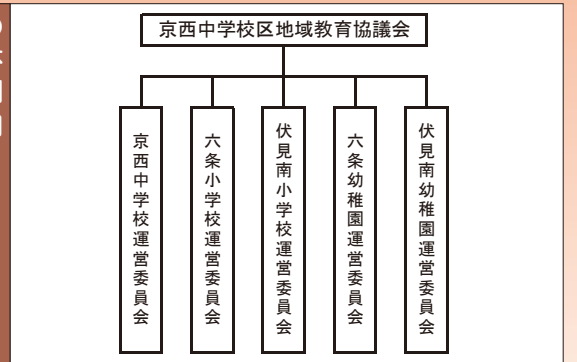
ポイント 統括的なコーディネーターの配置、次世代のコーディネーターの養成により、活動の継続性を高めています。日ごろから世代や立場を超えたつながりができており、学校を核としたネットワークが広がっていますね。

自らのまちに誇りをもち語れる子供をめざし地域・自然を愛する心豊かな子供の育成

奈良県奈良市	● 活動名	● 関係する学校名
	京西中学校区地域教育協議会	奈良市立京西中学校、奈良市立六条小学校、奈良市立伏見南小学校、奈良市立六条幼稚園、奈良市立伏見南幼稚園

開始年度	平成 20 年度	学級数	18 学級	児童・生徒数	539 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 11 人	連携団体・企業等	NPO 法人きららの木、唐招提寺、薬師寺、喜光寺、菅原天満宮
ボランティアの数	登録人数 80 人	属性	PTA 役員、教員、地域住民等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 奈良市教育委員会事務局 学校教育課 ☎ 0742-34-5366

● 活動の概要・経緯
 京西中学校区地域教育協議会は、平成 20 年に組織し、10 年目となる。奈良市の南西部に位置しており、古くからの伝統行事を継承している旧家と、ニュータウンが混在する地域である。平成 21 年度は、「京中オープンスクール」と題して、地域人材を活かしたキャリア教育を実施。平成 26 年度からは、校区内の世界遺産を含む史跡散策と清掃活動を通じて、地域・家庭・学校の連携を推進する体制づくりが行われてきた。また、活動を広く地域に認知してもらうための広報紙「京チュン通信」の発行を平成 27 年度より開始し、特筆すべきは校区内に全戸配布していることである。また、六条小学校の図書ボランティアチーム「としょぼん」の活動は、教職員、コーディネーター、司書、ボランティアが協力し合う点において、他校区から注目されている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

協議会の活動内容を地域住民に認知してもらうための広報紙「京チュン通信」を年 2～3 回発行し、自治会の協力を得て、校区内全戸（平成 28 年度：7,800 戸）に配布をしている。また、「史跡散策＆清掃作業」では、校区内の史跡を散策するだけでなく、清掃作業や、ご当地の方による講和を織り交ぜるなど、毎年趣向をこらしたプログラムで活動している。さらに、学校園支援活動として実施している「京中オープンスクール」は、地域人材の発掘をコーディネーターが精力的に担っている。六条小学校の図書ボランティアチーム「としょぼん」は、学校の休み時間等を利用して図書室を運営。子供たちが本と触れ合う機会を増やし、さらに地域のまつりにも参画して広報に努めている。

【実施にあたっての工夫】

協議会の活動を広く認知させるために、オリジナルマスコットキャラクター「京チュン（稲の妖精）」を平成 25 年度に作成し、活動の PR に活用。特に、キャラクターを前面に登場させた広報紙「京チュン通信」は、地域人材を上手く活用し、創意工夫されたオリジナルのデザインで、活動を楽しく PR している。史跡を掲載した校区マップをもとに実施する「史跡散策＆清掃作業」では、コーディネーターが積極的に働きかけ、その趣旨を理解のうえ協力を得ている。「京中オープンスクール」は、赤膚焼の窯元、唐招提寺、卒業生の美容師、地元の銀行の支店長、校区の高校の図書館司書、福祉施設の方、音楽家など多様な分野からゲストティーチャーを招聘するなど、キャリア教育の充実を目指している。

● 事業を実施しての効果・成果

広報紙の校区全戸配布により、協議会の活動に対する理解が深まってきた。昨年度は、協議会の活動が NHK 奈良放送局に取り上げられ、総合コーディネーターが出演した。さらに第 5 回「史跡散策＆清掃作業」では 165 名の参加者を得るなど、地域に根差した活動が広がりを見せている。その他、地域住民は活動に参加することにより、能力発揮の場となっている。また、図書ボランティアチームの精力的な活動により、子供たちの読書意欲が増しており、朝読においても、地域と子供たちの関わりが増え、相互に挨拶ができるようになった。

● その他

- NPO 法人きららの木（体験学習福祉施設）・唐招提寺、薬師寺、喜光寺、菅原天満宮（地域遺産学習）
- 図書の読み聞かせ・福祉体験学習



「広報紙京チュン通信」



「史跡散策＆清掃作業」

ポイント

総合コーディネーターと各校のコーディネーターが連携し、史跡散策と清掃活動等、地域の特色を活かした活動が展開されています。そこでの「京チュン通信」やマスコットキャラクターの広報力は欠かせませんね。

町のあちこちに大高生

奈良県大淀町	● 活動名	● 関係する学校名
	地域と共にある大淀高校	奈良県立大淀高等学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	411 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 ■学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	
	1 人	1 人			
ボランティアの数	登録人数	属性			
	0 人				
参考 URL	http://www.nps.ed.jp/oyodo-hs/				

● 体制図



● 連絡先 奈良県立大淀高等学校 ☎ 0747-52-4171

● 活動の概要・経緯
 学校は県南部の中山間地域に所在し、周囲の市町村は過疎化が進んでいる。就業や就学については地域外への希望が高く、今後も過疎化は進んでいくと考えられる。そのため、若者が地域の学校に就学し、地域で生活が出来るような取組が早急に求められている。本校は、地域の中学生の進学先として魅力あるものにするため地域との連携を深め、地域に愛される学校を作りたいと考えている。もともと、生徒会活動を中心に地域との関係が深く、周辺地域の清掃活動や地域の祭りに参加してきた。平成 23 年に発表された、「新南和公立病院体制基本構想」を受け、大淀高校に地域の医療を支える人材を育てるために「看護・医療コース」を設置することとなった。このことを踏まえ、これまでの地域との連携を更に発展させていくこととなった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①以前からの連携の強化・・・(あ) 生徒会を中心とした美化活動の充実、(い) 小学校のスポーツテストの支援、(う) 陸上競技部の小学生を対象としたスポーツ教室、(え) バレーボール部による小学生対象のカップ戦の運営、(お) 奈良 TIME (「総合的な学習の時間」を使った奈良の郷土学習) による地域の文化(能楽・歴史)等への理解、(か) 吹奏楽部による訪問演奏(美吉野園、延明保育園、大淀町役場ロビー)、(き) 大淀町食生活改善推進員協議会の協力による食育セミナー
- ②看護医療コースを中心とする取組・・・南奈良総合医療センターからの看護師出前授業、大淀町介護長寿課との協働事業(認知症サポーター養成講座、やすらぎカフェ)、南奈良看護専門学校に在籍している卒業生による1年生対象のセミナー
- ③キャリア教育の一環として実施している、職業体験については、地域の事業所を中心に協力を得ている。その結果、多くの生徒が地元事業所への就職を希望することになっている。

【実施にあたっての工夫】

- 取組が一部の職員の負担になることのないように、多くの職員が関われる通常の校務分掌を利用した体制で行っている。
- これまでの取組を見直し、より多くの生徒が関われるような工夫(訪問演奏において、吹奏楽部だけでなく写真部による撮影会や美術部によるチラシづくりなど)をする。
- 可能な限り生徒が前面に出るような工夫を行っている。(上記「やすらぎカフェ」実施に当たっての企画段階からの参画等)
- 今後、学校運営協議会において、連携・協働の取組について委員から意見を聴取し、今までの取組を検証しつつ、更なる推進を図っていく。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・高校生になり、中学時代に比べて、通常の学校生活の中では「地域」を感じることの少ない生徒たちが、自分たちが地域の人たちの支援を受けながら学習していて、地域からの期待も大きいということを直接地域の方々の声を耳にすることで感じている。
- ・美化活動など校外での活動においては、単に歩き回るだけでなく、地域の「地図」をイメージし人や物の流れを意識しながら活動できるようになった。
- ・生徒が大淀町役場の担当の方々と直接イベントについて話し合う場では、積極的に意見を出すことで、自分たちも行事に「参加」するだけでなく「企画・運営」しているという意識が高まった。



小学校陸上競技記録会の練習補助



食育セミナー

ポイント

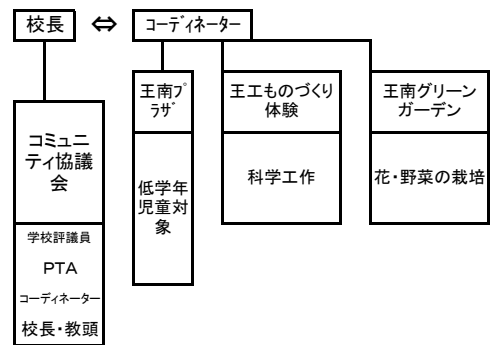
高校の課題、地域の課題を捉え、課題解決のために、生徒が主役となって地域貢献できている好事例ですね。教員の校務分掌なども工夫して、無理のない活動になっているところが素晴らしいです。

王寺南小学校が拠点 —地域の人材を生かした教育活動の創造—

奈良県王寺町	● 活動名	● 関係する学校名
	王寺南小学校コミュニティ	王寺町立王寺南小学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	18 学級	児童・生徒数	367 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 200 人	属性	保護者、地域住民、大学生等		
参考 URL	http://ounansho.sakura.ne.jp/				

● 体制図



● 連絡先 王寺町立王寺南小学校 ☎ 0745-32-8101

● 活動の概要・経緯

- 王南プラザ＜放課後子ども教室＞
下校後、友達集団で遊ぶことが少ないことから、低学年の児童を対象に、高学年が下校するまでの時間を活用し、地域の方や保護者・学生ボランティアの協力の下、鬼ごっこなどの自由遊びをしたり、放課後学習をしたりする機会を設けている。また町立図書館から定期的に小学生向けに選んでもらった本を教室に運んで来てもらい、読書に親しむ時間を作っている。
- 王南グリーンガーデン＜学校支援＞
運動場の一角にある学校農園が十分に活用されていなかったため、農園を地域住民に開放し、「花と緑のオアシス」として整備、学習用としても運用している。
- 王寺工業高校との交流
地域の王寺工業高校の高校生と交流することで、あいさつやものづくりへの興味・関心を高めようとしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○王南プラザ

①学習活動、②スポーツ、③文化・芸術、④体験活動、⑤その他、地域コーディネーターと教頭が学期ごとに計画を立て、保護者や地域からボランティアを募るなど多くの協力を得て活動を行っている。低学年児童はほぼ全員参加しており、さらに星を観る会、地元ママさんプラスによる吹奏楽コンサートの鑑賞会、陸上や水泳の指導など学校全体への活動にも多くの児童が参加している。さらに、地域の王寺工業高校の生徒との交流を通して、挨拶をはじめとする礼儀正しさを実感し、充実した設備の中での科学工作を体験することによりものづくりへの興味・関心を高めている。

○王南グリーンガーデン

地域住民に学校農園の運営をゆだねることにより、畑には年間を通じて様々な作物や花が作られるようになった。児童が畑で虫取りをしたり、野菜を収穫したりする場として活用し、教育環境の向上と、地域住民と児童の交流の場としている。

【実施にあたっての工夫】

王南プラザでは、毎回約 30 人のボランティアを確保して、児童相互間及びボランティア間の人間関係を深めることが出来ている。未就学の子供連れで参加する保護者もあり、小さい子も一緒に遊んだり、本を読んだりしている。

地域の高校生だけでなく、陸上経験者や中学校陸上部の生徒の指導による陸上教室や水泳教室など、幅広いボランティアが子供の学びを見守っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 王南グリーンガーデンでは、耕作に来る地域の方々と児童との交流が生まれ、作物栽培でアドバイスをしてもらいながら大根を育て、一人一本ずつ収穫できた。その他季節ごとにいろいろな野菜や花を、地域住民指導の下で作っている。
- 王南プラザの活動の一つ「絵本の広場」では、町の図書館から選ばれた多くの本を運んでもらい、学校で大人と一緒に読むことで読書に親しんでいる。また、星を観る会は、児童保護者併せて 300 名近い人数が学校に集まり、文字通りプラザ（広場）になった感がある。保護者間の交流を通じて、学校行事への理解にもつながっている。児童も、地域の方々や中学生・高校生との関係を深めながら沢山の経験を積むことが出来ている。



運動場で遊ぶ様子



王寺工業高校での科学工作

ポイント

小学生が世代を超えた人と出会い、体験的に様々な活動をしていますね。小中学校のつながりだけでなく、高校生と小学生の交流は先駆的です。

共育コミュニティの取組を市内全域に広げています

基盤的な活動

和歌山県橋本市		● 活動名 橋本市共育コミュニティ推進協議会		● 関係する学校名 橋本市立紀見幼稚園、橋本市立境原幼稚園、橋本市立清水幼稚園、橋本市立学文路幼稚園、すみたこども園、応其こども園、高野口こども園、認定こども園睡きの森学園、幼保連携型認定こども園あやの台幼稚園、橋本市立高野口小学校、橋本市立信太小学校、橋本市立応其小学校、橋本市立学文路小学校、橋本市立清水小学校、橋本市立紀見小学校、橋本市立境原小学校、橋本市立城山小学校、橋本市立岡田小学校、橋本市立あやの台小学校、橋本市立忍野小学校、橋本市立高野口中学校、橋本市立紀見東中学校、橋本市立岡田中学校、橋本市立橋本中央中学校	
開始年度	平成 20 年度	学級数	11 学級	児童・生徒数	254 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 7 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 325 人	属性	元教員、保護者、地域住民等		
参考 URL	http://www.city.hashimoto.lg.jp/				
● 連絡先	橋本市教育委員会社会教育課			☎ 0736-33-1111	
● 活動の概要・経緯	<p>和歌山県では平成 20 年から学校・家庭・地域の連携を実際に生きたものにし、それぞれが対等の立場で「共に育ち、育て合う関係」をつくる「きのくに共育コミュニティ」構想のもと、課題や願いを共有し、人々の出会いとつながりを大切にしながら学校の活力と地域の活力をともに高めていけるような実践的な学びの拠点を県全体に根付かせる取組を進めている。</p> <p>本市もこの施策のもと、地域の力を学校に、学校の学びを地域に広げる「共育コミュニティ」づくりを推進し、地域と学校の願いを調整する「共育コーディネーター」を配置し、学校と地域双方の活性化を図っている。</p>				
	<p>橋本市の共育コミュニティ</p> <p>各地域コミュニティ本部 高野口地域共育コミュニティ 学文路・清水地域共育コミュニティ 紀見東中学校区共育コミュニティ 岡田中学校区共育コミュニティ</p> <p>↑ 推進・支援</p> <p>橋本市共育コミュニティ推進協議会 PTA関係者、健全育成会関係者、各地域の共育コミュニティ本部長、統括コーディネーター、教職員関係者、教育委員会関係者</p>				

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

委員は、PTA 関係者、健全育成会関係者、各地域の共育コミュニティ本部長、統括コーディネーター、教職員、教育委員会関係者で構成されている。年 3 回の橋本市共育コミュニティ推進協議会会議では、方針や目標等について協議し、各地域の活動を共有するとともに地域の将来を担う人材を育成し、地域社会の基盤の構築を図っている。

「高野口地域共育コミュニティ」では学校図書館支援、「学文路・清水地域共育コミュニティ」では挨拶運動や地域と共同の防災訓練、「紀見東中学校区共育コミュニティ」では保護者と子供の交流会や地域清掃、「岡田中学校区共育コミュニティ」では保護者交流会や地域のボランティアの方に向けた集会等、各地域で様々な活動に取り組んでいる。

【実施にあたっての工夫】

統括コーディネーターを平成 29 年度から配置し、共育コーディネーターの意見の取りまとめや連絡調整など、共育コミュニティの円滑な運営と推進だけでなく、共育コミュニティ本部が未設置の地域へ働きかけを行っている。

人選の工夫として、教職員 OB、民生委員や PTA 関係の方に各地域の共育コーディネーターを委嘱している。

地域住民に活動の周知を図るため、各地域の活動を紹介する広報紙を作成している。

橋本市共育コミュニティ推進協議会会議だけでなく、各地域で、教職員や公民館職員、共育コーディネーターが情報共有や連携を図るため、月一回会議を開き、活動報告や意見交換を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

橋本市の共育コミュニティは、平成 20 年度設立の「高野口地域共育コミュニティ」での、高野口中学校の図書館支援からスタートしている。地域ボランティアが学校に入ること、図書館利用の子供が増え、学校も良い方向へ変化していった。こうした地域と学校の連携を図るため、平成 21 年度に「学文路・清水地域」、平成 26 年度に「紀見東中学校区」、平成 28 年度に「岡田中学校区」と本部の設置を進め、共育コミュニティの活動を市内に広げてきた。

各地域の様々な活動を通じ、子供たちが地域の方とつながるきっかけとなっている。また地域の方が活動に参画することで、自己実現やいきがいづくりにつながり、地域の活性化に貢献している。



地域一斉清掃の様子



地域ボランティア対象の講演の様子

ポイント

地域共育コミュニティの活動は、子供の学びの深まりとともに、地域住民のいきがいづくりや、まちづくりへとつながっています。多彩な人、組織をつなぐコーディネート機能が大きな役割を果たしていますね。

生徒による地域連携・地域貢献

鳥取県米子市	● 活動名	● 関係する学校名
	米子高等学校における地域のニーズに対応した地域貢献	鳥取県立米子高等学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	447 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 20 人	連携団体・企業等	NPO法人夢蔵プロジェクト、日本政策金融公庫、経済産業省地域分析システム
ボランティアの数	登録人数 70 人	属性	大学教授、地域住民、国家公務員等		
参考 URL	http://www.torikyo.ed.jp/yonago-h/				

● 体制図



● 連絡先	鳥取県立米子高等学校	☎ 0859-26-1311
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

教科で学んだことや部活動を通して、地域のニーズに対応した様々な地域貢献を行い地域の人々と関わることで、地域への愛着心を育み、自尊感情を高め、地域の人材育成につながっている。2年次の総合的な学習の時間における課題探究学習を経て、3年次の総合的な学習の時間においてグループ探究活動「米子高校生が考える米子市中心市街地活性化事業計画」(通称「米×米プロジェクト」)策定に取り組んでいる。NPO法人で「米子市の住みやすいまちづくり」を進めている方を講師に迎え、生徒自らが米子市の街の将来像を考え、フィールドワークやワークショップを実施し、「経済産業省地域経済分析システム」(RESAS: リーサス)を活用した課題探究を行い、活性化案を策定し、地域住民等に発表している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「米×米プロジェクト」では、米子市内の商店街を対象に、生徒独自の視点で地域が抱える課題解決のための仮説設定、検証を行い、地域活性化案を提案している。例えば、店の協力を得て、販路拡大のための商品を考案し地域から感謝される取組となった。また、草花植栽活動として授業で育てた花を米子市文化ホールの前に飾ったことをきっかけに、JR 米子駅、公民館、小中学生の通学路等への寄贈が広がった。その草花の世話は地域に受け継がれ、地域を彩る地域一体の活動の一つとなっている。さらに、小・中学校の授業では近隣の保育園児との交流、近隣公民館を利用している高齢者とコラボレーションし、「うどんづくり交流会」などを開催した。部活動では、美術部・漫画研究部が JR から要請された壁画アートを制作したり、UTA (歌) 同好会が老人保健施設訪問等をしてたりしている。

【実施にあたっての工夫】

「米×米プロジェクト」では、米子市街地活性化に取り組む NPO 法人の方を全活動の講師としている。地域活性化活動を学ぶことで、生徒は地域への愛着を深め、地域貢献への意欲を高めた。また、「米子市中心市街地活性化計画」の策定にあたっては全てのグループが「経済産業省地域経済分析システム」を有効に活用するため、RESAS 出前講座を開催し、生徒一人一人が実際に RESAS を操作できるように十分な学習時間を確保した。

● 事業を実施しての効果・成果

地域連携・貢献を通して、自身が関わっている地域の実情に触れることで、生徒の地域に対する愛着心の醸成につながっている。また、RESAS などの定量データを活用した事例研究の経験や実際に地域に出かけ様々な活動を通して地域の人々と触れ合う体験が自信となり、AO 入試、推薦入試、就職試験における面接試験などの場面で、自己アピール力向上につながっている。また、地域連携・貢献を果たす様子がマスコミに取り上げられることは、生徒の自信を育むだけでなく、学校情報の発信にもなり、地域との信頼構築にもつながっている。

● その他

- 連携企業等 : NPO法人夢蔵プロジェクト、西日本旅客鉄道株式会社、成実保育園、なんぶ幸苑、日本政策金融公庫、一般財団法人米子市文化財団
- 学習支援先 : 尚徳中学校、福米中学校、岸本中学校、法勝寺中学校、東山中学校、湊山中学校、福生中学校、箕蚊屋中学校、成実保育園
- ICT活用内容: 経済産業省地域経済分析システム (RESAS)



米子駅等へのプランター提供



地域の課題や魅力を探るフィールドワーク

ポイント

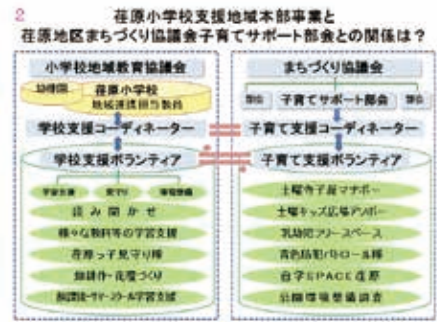
高校生が地域貢献！地域ニーズからスタートした活動で、商店街やNPO、中学校、保育園等とつながり、多くの対話や体験的な学びを重ねて、まちづくりへとつなげており、素晴らしいですね。

育てよう ふるさと愛する荏原っ子 地域ぐるみで学校支援

岡山県井原市	● 活動名	● 関係する学校名
	荏原小学校支援地域本部 (地域学校協働本部)	井原市立荏原小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	109 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 99 人	属性	PTA役員、元教員、地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 井原市立荏原小学校 ☎ 0866-63-0008

● 活動の概要・経緯
荏原地区は昭和 33 年から始められた各地区の子ども会活動が現在も継続して行われており、古くから地域を挙げて子育てを行うという土壌が醸成されている。平成 26 年度より学校支援地域本部が本格的に立ち上げられ、地域コーディネーターが学校と地域を結びつけ、学習支援・見守り・環境整備等の活動を行い、学校を支援している。また、学校支援地域本部はまちづくり協議会「子育てサポート部会」とも連携をとりながら、幼児から小中学生までの子育て事業を行い、子育てのしやすい地域づくりに取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学習支援では、読み聞かせや、2・3年生放課後算数教室、スキルアップタイム、サマースクール、土曜寺子屋マナポーを行い、学力向上の支援に当たっている。また、ふるさと学習（総合的な学習の時間・生活科）では、荏原地区の文化・歴史・産業・自然を素材に、1年生「昔遊び」2年生「野菜作り」3年生「早雲蜜芋」4年生「環境学習」「荏原のために尽くしている人々」5年生「高齢者とのふれあい」6年生「伝統を受け継ごう」の学習支援を行っている。全校の行事では「早雲蜜芋の栽培」「早雲踊り」等の学習を支援している。その他にも様々な教科等の学習支援を行っている。
- 環境整備では、畑耕作・花壇づくり等を行い、校内環境の整備の支援に当たっている。
- 見守り活動では、青色防犯パトロール隊と共に登下校の見守り・交通教室の支援・参観日の児童の託児サポート等を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- 年1～2回「荏原っ子きょう育ネットワーク懇談会」を行い、地区研修会を行っている。その会には、地域ボランティアを中心に、学校・園の教職員、PTA、放課後児童クラブ、子ども会役員、まちづくり協議会のメンバー等が集い、「地域で子供を育てる」という思いを共有しながら、荏原の子供たちのためにできることを出し合い、実践に結びつけている。また、この会を進めていく中で諸団体の横のつながりをさらに強め、荏原地区の活性化につなげたいと考えている。
- 年3回のボランティア便りを全戸配付し、活動内容を地域住民に周知するようにしている。
- 小学校にボランティアルームを整備し、地域コーディネーターや地域ボランティアの活動拠点としている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 読み聞かせ、スキルアップ等の国語・算数を中心にした学習の支援を行うことで、基礎学力が定着し、学習意欲や学力の向上につながっている。
- ふるさと学習に地域のボランティアが関わり学習を進めることで、ふるさと荏原を知り、地域を愛する心が育ってきている。
- 児童と地域ボランティアとの信頼と感謝の気持ちが深まり、挨拶や交流も親密さを増している。
- 地域の方の参加が多く、地域の子供を支える環境が醸成され、地域が学校の応援団になっている。
- ボランティア登録者数は現在 99 名にのぼり、その稼働率はほぼ 100%である。今後はボランティアの新たな分野の開拓や若手の発掘を進めたい。



第5学年 総合的な学習の時間
「環境学習（小田川）」



水曜日のスキルアップ

ポイント

地域と学校が熟議により「目指す子供像」を共有しています。子供や学校に関わることで、諸団体の横のつながりができており、学校応援団になっていますね。活動拠点のボランティアルームの役割も大きいですね。

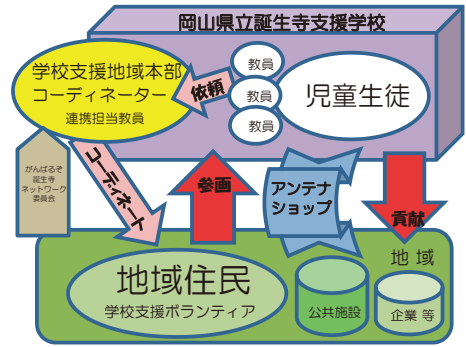
学びの場は地域と共に！

—アンテナショップは、地域と学校を繋ぐ架け橋—

岡山県久米南町	● 活動名	岡山県立誕生寺支援学校支援地域本部 (地域学校協働本部)
	● 関係する学校名	岡山県立誕生寺支援学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	49 学級	児童・生徒数	229 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 105 人	属性	地域住民等		
参考 URL	http://www.tanjoji.okayama-c.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	岡山県立誕生寺支援学校	☎ 086-728-2321
-------	-------------	----------------

● 活動の概要・経緯

誕生寺支援学校の連携・協働の歴史は古く、地域住民と活動する「地域との交流会」は平成 29 年度に 31 年目を迎えた。平成 24 年にはおかやま子ども応援事業による「がんばるぞ誕生寺ネットワーク委員会」を発足し、学校支援地域本部を活性化させた。翌年 11 月に、JR 弓削駅（学校より徒歩 15 分）に アンテナショップ「野の花ショップ～夢元（ゆげ）～」を開店し、地域の中に学びの場を広げている。また、同時期よりコミュニティワークと称して地域の企業等での実習も充実させてきた。平成 29 年 4 月には学校支援ボランティアの登録人数が 105 名となり、年間 70 件以上の活動件数となっている。さらに、生徒が役場等で移動販売や喫茶を行うなど、地域に児童生徒が貢献する活動も近年増えてきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

☆学校支援ボランティアが行う活動（参画）☆

- (1) 学習支援（○アンテナショップでの接客補助 ○楽器の演奏や人形劇、読み聞かせ ○実習田での協働作業 ○作業学習補助 ○餅つき補助 ○陶芸指導 ○川柳指導 ○長距離走見守り 等）
- (2) 環境整備（○校地の草刈りや花壇整備 ○プリンター整備 等）
- (3) 学校行事（○地域との交流会 ○運動会 ○久米南絆まつり 等）
- (4) 安全指導（○毎朝の登校見守り ○子ども110番の家）

☆児童生徒が地域に対して行う活動（貢献）☆

- アンテナショップでの製品販売・接遇（週 2 回）
- 役場での製品販売・接遇（年 2 回）
- 駅前ロータリーの清掃、花壇の整備管理
- 秋の交通安全週間における手作りお守りの提供
- 老人施設における手伝い
- 老人宅配弁当の包装紙作成 等

【実施にあたっての工夫】

コーディネーターが毎週水曜日に学校支援地域本部（校内）に出勤している。教員から出された依頼内容に基づいて、登録ボランティアに連絡を取りコーディネートしていく。本部のホワイトボードには、活動状況をまとめて表示し、誰もが分かり活用できる工夫をしている。また、活動記録を共有データに残し、次年度の学習内容の計画時に活用できるようにしている。アンテナショップへの来店がきっかけとなり学校支援ボランティア登録数が広がっている。役場や公共施設と連携を図りながら学校（児童生徒）が貢献できることについてアイデアを出し合っている。

● 事業を実施しての効果・成果

平成 28 年度のボランティアとして活動した延べ人数は 1,334 名である。活動件数は 76 回（登校見守り・アンテナショップ補助除く）であり、毎週 2 回程度のボランティアの活動が校内外で行われている。音楽演奏など毎年継続して行っている活動もあり、生徒が楽しみにしている。教員だけでは難しい専門的な知識を有する指導をボランティアが補助することで、より効果的に授業や活動等が展開できている。ボランティアにとっては、開校当初から共に歩んできた本校に対し、貢献したいという意識が高く、一人一人が活動をより充実させようと奔走している。また、アンテナショップは一日に 50 名程度が来店し、本校を知っていただくきっかけになっている。生徒のがんばる姿を実際に見ていただくことで、地域における理解が一層進んでいる。

● その他

特定非営利活動法人 ももっ子くめなん（卒業生等が栽培・収穫した野菜の納品）

救護施設 ニュー三楽園（織物の納品）



アンテナショップ
「野の花ショップ 夢元」
（接遇と駅の清掃）



「地域との交流会」百名を超すボランティアと共に閉会式（久米南中学校吹奏楽部演奏）

ポイント

アンテナショップがあることで、こんなに学びが深まり、人のつながりができるのです。地域と学校の連携・協働の長い歴史をつなぎ、多くのボランティアと学校をつなぐコーディネーターの活躍が見えるようです。

まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト

～ まちぐるみで子供の健やかな成長を図る！ ～

広島県広島市		● 活動名			● 関係する学校名		
		庚午中学校 学校協力者会議			広島市立庚午中学校		
開始年度	平成 27 年度	学級数	24 学級	児童・生徒数	748 人		
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()						
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等			
ボランティアの数	登録人数 100 人	属性	PTA役員、保護者、地域住民				
参考 URL	http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1044						
● 連絡先	広島市教育委員会学校教育部指導第二課			☎ 082-504-2487			

● 体制図



本事業は、学校評議員制度の類似制度として、本市が全市立学校に設置している学校協力者会議に委託して実施している。

● 活動の概要・経緯
本校は、学校・家庭・地域の連携をより一層充実させるため、平成27年度より、広島市が実施する「まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト事業」の指定を受け、「家庭・地域による教育支援活動」及び「学校による地域貢献活動」を実施し、家庭・地域と協力して生徒の健やかな育成を図る取組を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 家庭・地域による教育支援活動
地域の方々などを学習支援者として毎週1回の放課後学習、定期試験前の放課後学習会、夏季休業中の学習会を実施している。
- 2 学校による地域貢献活動
中学生が家庭・地域と協働して、花を育て、育てた花を地域の施設に配布する「花いっぱい運動」、地域行事でのボランティア活動等を実施している。

【実施にあたっての工夫】

- ・年間を通じて、計画的に活動を行うことによって、地域との信頼関係を築く活動となっている。
- ・学習会で活用する教材の作成を、教員と学習支援者が協力して準備したり、学習会の在り方を協議したりすることによって、効果的に学習支援を行えている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 1 家庭・地域による教育支援活動
学習会において、生徒同士が教えあう等の仲間とのかかわり合いを通じて、良好な人間関係を築くことができた。また、生徒は安心して学習支援者に学習内容の疑問点を聞くことができるため、分かる喜びや学習の楽しさを実感することができた。
- 2 学校による地域貢献活動
活動を通じて、地域の方々から感謝の言葉や手紙を多数いただき、生徒は地域の一員であるという自覚を持つとともに、地域に貢献しているという充実感を感じる事ができた。

● その他

<花いっぱい運動について>

中学生と保護者や地域の方々と協働して、育てた花を地域の保育園、幼稚園、小学校、公民館、児童館に配布している。「花いっぱい運動」には、延べ118名の生徒が参加しており、地域の緑化に貢献している。

<地域行事でのボランティア活動について>

公民館祭りや町内会の親睦餅つき大会等、18の地域行事に計387人の生徒が参加しており、地域の方々とともに活動を通じて、地域活性化を推進した。



地域の方等を学習支援者とした放課後学習会



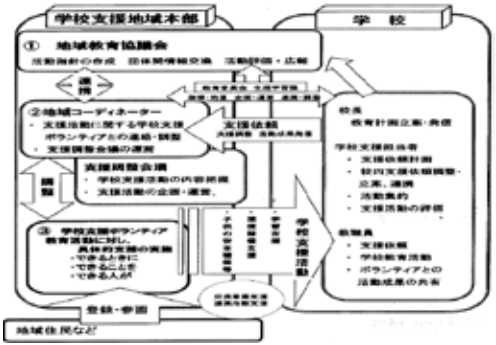
花いっぱい運動

地小っ子応援団のモットーは「できる人が、できるように、できる時に！」

広島県廿日市市	● 活動名	● 関係する学校名
	地御前小学校区学校支援地域本部	廿日市市立地御前小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	16 学級	児童・生徒数	402 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 49 人	属性	民生児童委員・地御前地区自治会・郷土文化関係者・長寿会・見守り隊等		
参考 URL	http://www.hatsukaichi-edu.jp/jigozen-e/				

● 体制図



● 連絡先	廿日市市立地御前小学校	☎ 0829-36-1021
-------	-------------	----------------

● 活動の概要・経緯

- 1 学習・体験支援 家庭科、総合、生活科、準備支援（ミシンの清掃活動、包丁の整備等）
- 2 生活・安全支援 新1年生の下校見守り、実技授業での危険防止支援、プールサイドでの安全支援
- 3 地域交流活動 通学合宿を自治会青年事業部と共催で、地御前市民センターを会場に実施

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 校内に本部の事務局として「ふれあいルーム」を常時設置。地域の支援者の活動拠点であることはもちろん、子供と地域の大人の交流の場ともなっている。
- 「学校支援ボランティアガイド」を作成しており、支援者の事前研修に活用している。
- ボランティア交流会や各種研修会等を開催し、継続した支援活動が出来るよう、人材育成に取り組んでいる。
- 月に1回、「支援者調整会議」を開催し、学校から要望のあった支援内容について、計画・調整をしている。
- 各年度の活動記録を整理し、事後の活動に役立てるための資料を作成している。
- 「学校だより」で地小っ子応援団の活動を広く情報発信し、情報の共有化と機運の醸成を図っている。

【実施にあたっての工夫】

- 校内に本部の事務局として「ふれあいルーム」を常時設置。地域の支援者の活動拠点であることはもちろん、子供と地域の大人の交流の場ともなっている。
- 「学校支援ボランティアガイド」を作成しており、支援者の事前研修に活用している。
- ボランティア交流会や各種研修会等を開催し、継続した支援活動が出来るよう、人材育成に取り組んでいる。
- 月に1回、「支援者調整会議」を開催し、学校から要望のあった支援内容について、計画・調整をしている。
- 各年度の活動記録を整理し、事後の活動に役立てるための資料を作成している。
- 「学校だより」で地小っ子応援団の活動を広く情報発信し、情報の共有化と機運の醸成を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 「支援調整会議」で、定例的に学校と地域の間で「育みたい子供の姿」を共有しながら、地域ぐるみの子供の育成に取り組めるようになった。
- 地御前地区は世界遺産である宮島の対岸に位置し、多くの伝統文化が受け継がれる地域である。支援活動を通して、日常的に地域の大人との温かなつながりの機会が増えた子供たちが、積極的に地域行事に参加するようになってきている。これにより、伝統文化の継承が進んでいる。
- 子供たちを支援する活動は、支援者自身のスキルアップの場、自己実現の場、生きがいにもなっている。学校支援の活動がきっかけで、他の地域活動でも活躍するようになった人もおり、地域の活性化につながっている。



地域の伝統文化を継承



通学合宿

ポイント

ふれあいルームに学校支援地域本部の事務局を置くことで、子供と大人の交流の場ともなっています。学校支援ボランティアガイドを使った事前研修を行うことで、学校の信頼も厚くなり、継続性が生まれていますね。

小・中学校と地域が一体となり「地域の架け橋 いわくにっ子」を育む取組

山口県岩国市	● 活動名	● 関係する学校名
	岩国きんたいきょうネット	岩国市立岩国中学校、岩国市立岩国小学校、岩国市立藤河小学校、岩国市立御庄小学校、岩国市立柱野小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	17 学級	児童・生徒数	502 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 4 人	連携団体・企業等	各小・中学校運営協議会 岩国中央公民館 他
ボランティアの数	登録人数 125 人	属性	地域住民		
参考 URL	http://www.iwj.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/				

● 体制図



● 連絡先 岩国市立岩国中学校 ☎ 0827-43-4400

● 活動の概要・経緯
 岩国中学校区地域協育ネット（岩国きんたいきょうネット）は、平成 25 年度の設立以来、小・中学校を中心に、自治会、社会福祉協議会、公民館や幼稚園などの関係者と学識経験者の方々と交えて、地域ぐるみの活動を展開している。そして「地域の架け橋 いわくにっ子」を育むことをスローガンに掲げ、岩国中学校区内の五つの小・中学校と地域が一体となって日々活動をしている。実際の活動は、「心と行動部会」、「学力向上部会」、「地域教育部会」の三つの部会が中心となって9年間を見通した取組を企画し、各学校・地域において実践・展開している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「心と行動部会」では、小・中学校が一体となり保護者や地域の方と交えて、母校清掃、地域一斉清掃などの環境美化と共に心を磨く活動をはじめ、メディアとの付き合い方を考えるノーメディア・デーの実施、「あいさつができる子」をめざした各学校でのあいさつ運動などの取組を重点的に実施している。「学力向上部会」では、五つの学校が同時に実施する家庭学習強化週間の取組や小・中学校の教職員が相互乗り入れをする学習会などの取組を行っている。「地域教育部会」では、地元の名勝「錦帯橋」を軸とした、ふるさとに誇りをもつとともに自らの生き方を考えるキャリア教育の視点を取り入れた「錦帯橋学」の取組を地域と共に進めている。

【実施にあたっての工夫】

毎月1回の管理職による実行委員会を開催するとともに、教職員の相互交流を図るため、小・中学校全ての教職員が参加する合同研修会を開催し、五つの学校が地域と一体となって、目標を共有した教育活動が展開できるよう努めている。

校区が広範な地域にわたるため、細かな運営方法については、地域や学校の実態に応じた形で実施しているが、平成 32 年に全面实施される岩国市小中一貫教育を見据え、目的や目標、主な活動内容は小・中学校で共通なものにして、地域に開かれた教育課程の実現に向けた工夫を重ねている。

● 事業を実施しての効果・成果

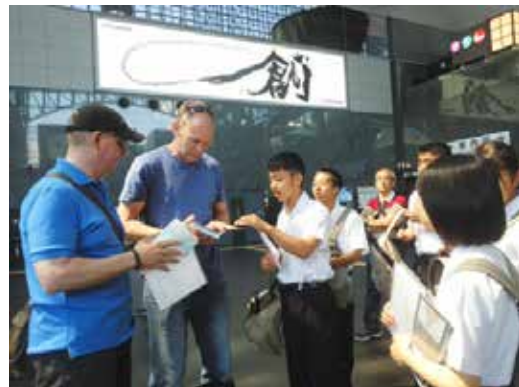
小・中学校と地域が一体となった三つの部会によって企画した取組をそれぞれの学校・地域の実情に応じた形で実施するとともに、複数の公民館や地区社会福祉協議会などの連携により、中学校区全体の地域行事一覧の作成等を行っている。その結果、地域と学校が一体となった取組を行っているという意識が地域住民に浸透しつつあり、学校と地域の関わりや結びつきが強くなってきていると感じられている。特に、「地域教育部会」による活動の成果として、子供たちの地域やふるさとに対する意識が高まり、地域行事へ参加する子供たちの数が増えてきたという感想が地域から寄せられている。

● その他

学習支援として、中学校では夏季休業中の学習会に小学校教員、秋の学習会には、地域住民、岩国中学校の卒業生等が指導にあたり、また、小学校においては公民館が中心となり、中学生、中学校教員、高校生、地域住民等が指導者となる学習会が行われている。



地域の方と中学生が指導者となった公民館主催の学習会



故郷の「錦帯橋」を修学旅行で外国人にPRする中学生

ポイント

地域協育ネットとコミュニティスクールの推進により、地域の宝を活かした「錦帯橋学」等、小中一貫教育を地域全体で支える体制になっています。「ノーメディア・デー」の実施は保護者、地域の理解があってこそですね。

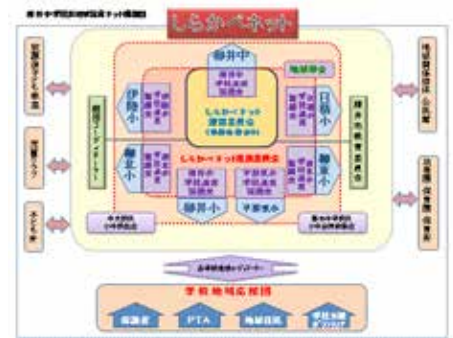
こんな活動です

子供たちの15年間の育ちや学びを地域ぐるみで見守る「しらかベネット」

基盤的な活動

山口県柳井市		● 活動名 しらかベネット		● 関係する学校名 柳井市立柳井中学校、柳井市立日積小学校、柳井市立柳井小学校、柳井市立柳東小学校、柳井市立柳北小学校、柳井市立伊陸小学校、柳井市立平都東小学校	
開始年度	平成 24 年度	学級数	21 学級	児童・生徒数	549 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 8 人	連携団体・企業等	しらかベネット学校地域応援団(学校支援ボランティア)
ボランティアの数	登録人数 271 人	属性	地域住民(元教員、企業経営者、民生児童委員等)		
参考 URL					
● 連絡先 柳井市スクール・コミュニティセンター		☎ 0820-22-0630			
● 活動の概要・経緯	<p>柳井中学校校区の7小・中学校の子供たちの15年間の育ちや学びを地域ぐるみで支援することを目的とし、平成24年度から取り組んでいる。地域住民とともに熟議を重ね、実践への意識の共有化を行い、各学校の学校運営協議会、市教委、コーディネーターが推進役となり、「地域とつながり、思いやりのある子ども」の具現化に向け、学校・地域・家庭が連携を図っている。そして、学校と地域のさらなるネットワークの拡大に取り組むことで、子供たちの一層の成長につなげている。中学校では、地元の地域行事に積極的に参加するよう呼びかけ、地域貢献活動を通して、地域と子供とのつながりを密にしている。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「クラス熟議(学級懇談会)」「学年懇談会」、校区内小学校運営協議会も交えた「しらかベネット地域部会」の各段階を通じた熟議を行いながら、「地域とつながり、思いやりのある子ども」という、共通のめざす子供像を設定した。また、学校支援ボランティアや地域住民からなる「学校応援団」によって各学校の支援体制を整えると共に、活動の充実を図りつつ、地域づくりにも役立っている。学習支援ボランティアと学校を、しらかベネット推進委員同士の連携によってつなげている。

各小学校6年生を対象に子ども塾として研修会を開催している。人間関係調整力を育むとともに、柳井中学校に進学する子供たち同士のつながりの場をつくっている。子ども塾の参加経験がある柳井中学校生徒が、「しらかベネットジュニア応援団」として関わることでリーダー養成の場にもなっている。

平成26年度から、柳井中学校区内にある小・中学校の全教職員による合同研修会を実施し、「授業改善」などの部会に分かれ、各校の現状や課題・解決策を共有している。平成27年度からは、学校運営協議会委員も参加して成果や課題を共有している。

毎年11月23日の柳井まつりでは、しらかベネット子ども広場を行い、校区内の全学校が参加している。地域住民や地元の商工会などの協力のもと特産品や農産物の販売、中学校吹奏楽部や美術部による発表など、学校の特色を生かした出し物で盛り上げている。

平成27年度から、柳井中学校で「柳中コミュット」として、地域生徒会を立ち上げ19地区で地域のお祭りへの準備や後片付けへの協力、老人ホームへの慰問などを行っている。また、地域貢献として地域清掃を行っている。この活動には地域住民や小学校児童も参加し、活動を通して地域を美しくするだけでなく、つながりをつくり、地区のよさを発見する場となっている。

【実施にあたっての工夫】

学校運営協議会を中心とした柳井中学校校区の7校の相互の連携を重視している。6小学校の学習や活動が中学校で生かされるよう、柳井中学校の学校運営協議会に各小学校の学校運営協議会からも委員が参加している。これにより中学校での協議の内容が、小学校の運営協議会でも生かされる仕組みを作っている。また、学校運営協議会メンバーや学校支援ボランティアメンバーがもっている情報を生かし、地域の自治会などに提供することでネットワークが一層広がっている。教育関係団体や地域の企業などとの連携を図るためにひと・こと・もののネットワークを生かして地域人材を発掘し、ネットワークの拡大を通じて地域の子供たちを育てている。

● 事業を実施しての効果・成果

しらかベネットのめざす子供像の設定、地域部会や小中合同研修会への学校運営協議会委員の参加、学校地域応援団の構築など、7校の学校運営協議会の連帯感が生まれ、それぞれの学校が特色を生かした教育活動を展開できている。また、中学校を中心として、小中連携の必要性を強く感じ、教職員には学校を越えた絆が広がってきているとともに、15年間を見据えた指導の継続化が一層図られている。さらに、柳中コミュットや柳井まつりへの参加を通して、様々な地域の人々との連携ができ、学校による地域貢献とともに地域の教育意識の向上及び地域の活性化にも役立っている。

● その他

柳井まつり「子ども広場」については、企業経営者などによる運営チームがボランティアで参加し、お店の経営の仕方などを教えている。また、民生児童委員、ボーイスカウトなども参加している。放課後子ども教室は、元教員を中心としたボランティアで運営され、放課後や夏休みに音読や計算などの学力向上、学習やおやつ作りなどの体験活動を主体とした教室を設け、子供の貧困問題解消や居場所づくりにも取り組んでいる。



柳井まつり子ども屋台



柳中コミュットによる地域清掃

ポイント

会議だけでなく、教職員研修や教育活動を共にすることで、連携・協働体制を築いています。地域と学校とが子供の15年間を見据えて、目指す子供像を設定し、学習や体験活動を進めており、素晴らしいですね。

「牟礼は一つ 地域まるごと学校」 ～牟礼ミラタクネット（牟礼地域協育ネット協議会）～

山口県防府市		● 活動名 「牟礼は一つ 地域まるごと学校」～牟礼ミラタクネット（牟礼地域協育ネット協議会）～		● 関係する学校名 防府市立牟礼中学校、防府市立牟礼小学校、防府市立牟礼南小学校	
開始年度	平成 27 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	241 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	
	1 人	1 人	1 人		
ボランティアの数	登録人数	属性	社会福祉協議会、民生委員・児童委員、青少年育成連絡協議会、子ども会育成連絡協議会、地域見守り隊、地域婦人連絡協議会等		
	468 人				
参考 URL					
● 連絡先 防府市教育委員会教育部生涯学習課		☎ 0835-23-3015			
● 活動の概要・経緯	<p>「やまぐち型地域連携教育」を展開する本県において、防府市は平成 27 年度に従来から推進している子供を育てる教育の在り方に、四つの視点（「学校運営への参画」「学校支援への参画」「小中連携への参画」「地域貢献への参画」）を加え、コミュニティ・スクールを基盤とした学校・家庭・地域が連携した「地域まるごと学校『防府モデル』」を構築した。同年に、牟礼地域（他 2 地区）をモデル中学校区に指定した。各小・中学校のコミュニティ・スクールが公民館（社会教育指導員）のコーディネートののもと、地域協育ネット内でつながっている。</p>				
	<p>● 体制図</p>				

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

牟礼ミラタクネットは、牟礼中学校、牟礼小学校、牟礼南小学校の学校運営協議会の委員や社会福祉協議会、民生委員・児童委員、青少年育成連絡協議会、子ども会育成連絡協議会、地域見守り隊、地域婦人連絡協議会などの団体長、総勢 54 人の委員で構成されている。公民館の社会教育指導員が学校と日程調整をし、全体会及び部会を年 2 回、推進委員会を年 1 回開催している。年度初めに開かれる牟礼ミラタクネットの全体会では、今年度の計画が協議される。共通行動目標を「あいさつと学びで笑顔あふれ、地域を愛する子どもづくり」とし、さらに「志・智・礼・謝・体・心・徳」の七つのキーワードを掲げ、めざす子供像の実現に向け取り組んでいる。さらに、共通行動目標を実現するために、54 人の委員を【あいさつ】・【学びの連携】・【地域貢献】の三つの部会に分け、それぞれにおいて今年度の計画を実施していく。

【実施にあたっての工夫】

3 部会における、今年度の取組

【あいさつ】～礼儀や心の育成支援～

・幼保、小中、家庭、地域ぐるみのあいさつ運動の展開、ミラタク幟旗の活用、「あいさつ月間」・「あいさつの日」の推進

【学びの連携】～学びの支援、学校との連携～

・ゲストティーチャー、学習補助、安心安全見守り隊、学校環境整備、ユニット研修、長期休業中の学習会開催

【地域貢献】～地域行事やボランティア活動への参加～

・子供の参加を増やす工夫、子供の役割づくり、図書館やコミュニティルームの開放など、子供が行きたくなる公民館づくり、教職員も参加できる企画

● 事業を実施しての効果・成果

学校と地域・家庭との連携・協働の取組が図られているなか、地域住民による登下校時の見守りやあいさつ運動等の活動を通して、子供たちの顔を覚え、表情から異変に気付くなど、「地域の子供は地域で育てる」という住民の意識が醸成されている。また、夏祭りや文化祭など、地域の大きな行事に子供たちを自主的に参加させたいという思いから、ヨーヨー釣りなどのコーナーを小・中学生に準備段階から運営を任せた。責任を与えることで、地域の一員としての自覚と、地域を愛する心が育ってきている。

● その他

長期休業中の学習会



牟礼地域探訪クリーン作戦
出発式のあいさつ運動



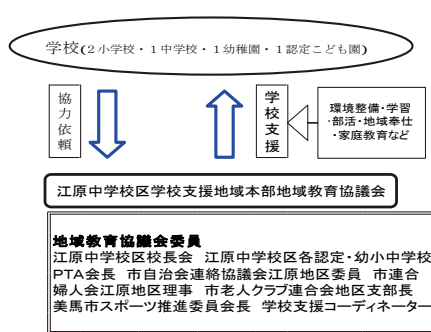
中学生が運営する、夏祭り
ヨーヨー釣りコーナー

学校・家庭・地域の連携を目指して、子供たちを地域ぐるみで育もう！

徳島県美馬市	● 活動名	● 関係する学校名
	江原中学校区学校支援地域本部	美馬市立江原中学校、美馬市立江原南小学校、美馬市立江原北小学校、江原認定こども園、美馬市立江原北幼稚園

開始年度	平成 23 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	184 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（大規模防災連携学習）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	日本赤十字社徳島県支部
ボランティアの数	登録人数 90 人	属性	PTA 役員、元教員、地域住民等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 徳島県美馬市教育委員会教育総務課 ☎ 0883-52-8010

● 活動の概要・経緯

地域の少子化にともない学校の統廃合が進むなど、子供を取り巻く環境が大きく変化する中で、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協働のもとで教育を進めていくことが必要不可欠となっている。そうした経緯から、平成23年度に江原中学校区学校支援地域本部地域教育協議会を立ち上げ、学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上を目的とし、学習支援（読み聞かせ、総合的な学習の時間などの体験活動）、環境整備、登下校安全指導、学校行事（運動会・文化祭への参加）とあらゆる分野でボランティアが学校を支援していく体制を構築してきた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 学校行事等支援・・・地域住民が卒業式等の式典や、様々な大会における環境美化（花壇整備・生け花）や卒業生用のコサージュ作成をしている。
- 学習支援活動・・・炭焼き体験学習と地元地産の美馬太キユーリの栽培を地元農家ボランティアが支援し、完成した炭や野菜を各種団体の協力の下で直売所での販売体験を行っている。
- 部活動支援・・・地域住民指導者のもとで伝統芸能獅子舞継承活動を行い、地域のお祭りや催し物に参加している。
- 安全活動・・・地域住民が子供の登下校時の定期的な立哨、見回り活動を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- 学校支援ボランティアを確保するために、市広報や地域新聞などを積極的に活用しボランティア募集の周知を行っている。また各学校のPTA・各地域団体にボランティア協力を依頼し、新入学児童・生徒の保護者に向けてPRをしている。
- 各学校の要望をヒアリングし、行事での駐車場整備、安全確認など必要に応じた支援を行う。
- 各種団体や地域住民と連携を図り、子供が体験できないような機会を学校・家庭・地域が協力し合って企画している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校側からは「それぞれの分野の専門家に指導してもらえるのでありがたい」「教育の広がりや地域と連携をしている実感、生徒が生き生きしている様子に目を見張った」とのお話をいただいている。
- ボランティアの方々からは、「学校外で児童と出会った際は、あいさつをしてもらうこともあり、嬉しく思うし、子供たちの役に立ててやがいをを感じる」「読み聞かせなど生徒たちと感想を言い合うなど読後の感動を共有できる」という感想をいただいている。

● その他

地域住民と日本赤十字社徳島県支部の協力により江原中学校で1年生60名が大規模防災連携学習を行った。中学生だけでなく、地域住民も被災者対応訓練や炊き出し等の体験を通じて、災害時指定避難所となる中学校で各々が災害への備えを深めることができた。



直売所販売体験



大規模防災連携学習

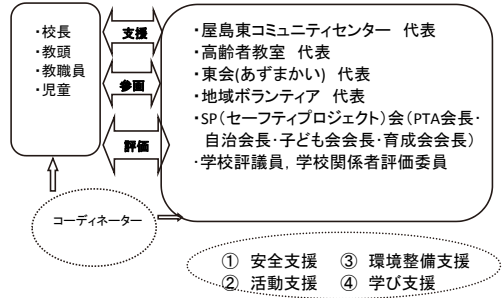
ポイント

地域の専門家から学んだり、地域とともに防災に関する活動をしたりすることは、中学生にとって、教科書を使った学びとは異なった学びとなっており、地域の担い手意識の醸成にもつながっていますね。

「楽しい学校 地域も学校」

香川県高松市		● 活動名 屋島東地域連携活動	● 関係する学校名 高松市立屋島東小学校		
開始年度	平成 9 年度	学級数	7 学級	児童・生徒数	137 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 41 人	属性	地域住民		
参考 URL	http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimahigasiHP/				
● 連絡先	高松市立屋島東小学校		☎ 087-843-8402		

● 体制図



● 活動の概要・経緯

生活科、だんのうら学習（総合的な学習）、クラブ活動や朝の読書タイムでの指導者、また紙芝居や本の読み聞かせボランティアとして、地域住民が小学校に来て、教職員と共に子供たちへの指導・支援にあっている。また、校庭の木々の剪定や芝生化した運動場の芝生の管理といった環境整備にも携わっている。高松市が推進している『子どもの成長を願う6つの活動』の中の、子供たちとともに掃除を行う「びかびかデー」、朝、当番学年の子供たちと共に、登校してくる子供たちに明るく、元気な朝のあいさつを行う「スマイルあいさつ運動」にも月1回、年間計画に従って取り組んでいる。さらに1、2年生だけでの下校となる日には、下校時に来校し、子供たちを見守りながら一緒に下校をしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

1年生には、生活科の学習の中で、昔遊びを一緒にしたり、教えたりしている。2年生には、夏野菜の植え方・育て方を教えたり、秋には近隣の渋柿を収穫し、皮をむき、風にさらすようにつり下げる干し柿作りを行ったりしている。冬野菜の代表であるダイコンを育て、収穫し、煮込みおでん等として調理して、食べている。3年生には、山から切り出してきた木に椎茸菌を植え付けるといった体験をしている。3、4年生で行う「3世代のつどい」では、竹箨作りやうどん作りを行い、昼食として一緒にうどんを食べている。さらに屋島について子供たちが知りたいことを教えたり、昔の道具の説明や藁で草履を作ったりする活動をしている。クラブ活動では、6クラブの内3クラブの指導者として活動している。竹を使って竹でっぽう、貯金箱、たこなどを作る「昔遊び」クラブ、茶道の作法を指導する「茶道」クラブ、はねつきゴルフボールをゴルフクラブでゴールに打ち込むゲームを楽しむ「ターゲットバードゴルフ」クラブである。環境整備では、5月～10月に生育著しい芝生の整備として、3班編成で10日おきに芝刈の活動を行っている。刈り取った芝生も地域の桃畑の肥料として活用していただいている。

【実施にあたっての工夫】

年度当初早々に学校の年間計画をもとに地域ボランティア年間計画を立て、4月中には、ボランティア打合会を開会している。その会で、年間計画の検討や連絡網の確認をしたり、よりよい活動の在り方などについて話し合ったりして、学校とボランティア間またボランティア間相互での共通理解を図っている。また、連絡網を活用し、日程調整は窓口の者同士で行うが、細かな内容については、担当者が中心となって深め合い連絡を密にしている。

● 事業を実施しての効果・成果

ボランティアといえども、専門家である。教えて頂くことは、教職員にとってもよい学びの機会になっていた。子供たちにとっては、教室では学べない刺激のある機会となっていた。1月に行われる生活科・総合的な学習の発表会「だんのうら学習発表会」では、お世話になった地域の方々を招待し、学んだことを発表しているが、同時に感謝の言葉を伝えるよい機会ともなっている。また、芝生や木々の剪定等、整えられた環境のもとで、子供たちは心身ともに、よりよく成長している。そのような子供たちを見つめながら、地域ボランティアの方は、「子供たちの喜ぶ顔を見るのが嬉しい。」とつぶやいておられた。



干し柿づくり・真剣に皮むき



みんなで楽しくうどんづくり

ポイント

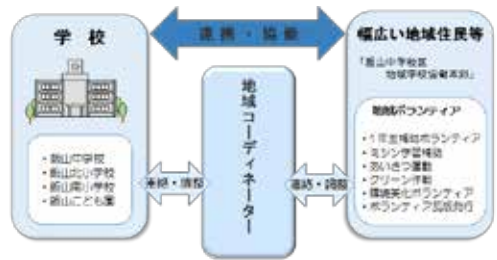
年度当初にボランティア計画を立てることで、活動がスムーズに展開できていますね。ボランティアに話していただくことは、教職員にとっても学びとなります。これも地域学校協働活動ならではのですね。

子供も大人も育ち合う町に！ —地域全てが学びの場—

香川県丸亀市	● 活動名	● 関係する学校名
	飯山中学校区地域学校協働本部	丸亀市立飯山中学校、丸亀市立飯山北小学校、丸亀市立飯山南小学校、丸亀市立飯山こども園

開始年度	平成 23 年度	学級数	14 学級	児童・生徒数	535 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 105 人	属性	PTA 役員、保護者、地域住民等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 丸亀市生活環境部市民活動推進課 ☎ 0877-23-2111

- 活動の概要・経緯
- 平成 17 年の市町合併により丸亀市となった。旧飯山町時代から行政による子育て人材の養成講座開催やボランティアへの支援などの人材育成を行い、教育支援に熱心な地域である。現在も各種団体やリタイア後の世代からの協力が得られやすいという地域の特性がある。
 - 既存のボランティア団体、各校園の PTA、学校、コミュニティの代表を軸に「学校支援地域本部」として組織化されたのは平成 23 年度。以来、地域の学校、園と連携しながら活動をしている。
 - 家庭・地域・学校が連携・協働し、子供の育ちや学びを地域ぐるみで支えている。コミュニティセンターのスタッフやコーディネーターが活動の中心となり、継続に大きく寄与している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 年生補助ボランティア
学校生活に不慣れな 1 年生の教室にボランティアが入っている。主に給食や登校後の支度、下校の準備などで力を発揮。学校からも感謝されている。
- あいさつ運動
各学校、園の通学路で実施。それぞれに活発であるが、中学校では生徒が 200 名参加している。
- 小学 5 年生ミシン学習補助ボランティア
小学校の保護者が行っている。5 年生の家庭科、ミシン学習の補助に入っている。30 名を超える学級が多いことから、少人数に対応できるスキルの高い支援者の存在は大きい。
- 用具等の製作
トンボやジャンピングボード、投てき板、ベンチ、撮影時踏み台、低学年用黒板前の踏み台等の製作をしたり、運動場のライン引きをしたりしている。保護者は道具持参で参加した。

【実施にあたっての工夫】

- コーディネーターが学校で「ニーズ」をくみとり実施するように心がけている。
- 実行委員会で顔を合わせることで「知り合い」になり、人間関係を築いている。
- 学校主体のクリーン作戦に参加し、月に一回定期的に顔を合わせる機会を設けている。(ボランティア同士の交流)
- 「コミもぐ」(コミュニティで、もぐもぐの略。一人一品持ち寄り、飲食をともにしながら地域のことについて語り歌ったりする。隔月開催、19 時～21 時までの間、出入り自由で開放される地元住民の交流会)の開催を通して、人材発掘や課題発見もできる。
- 『瓦版』を発行し、活動を広報、啓発している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校だけでは困難なことが、地域と協働することで可能になることにみんなが気付き、学校側もボランティアも子供たちも関わった「みんな」がプラスの効果を感じている。
- 保護者や地域の方々に「素敵な人」が多くいること、普段の学校生活では見せない子供の表情に感心した教職員が多い。
- PTA 総会、自治会長会、地域広報誌などでも人材募集を行っているが、コミュニティセンターに来る人に「ひと声かける」ことで新しい人材が見つかることが多い。日常の何気ない場面がきっかけとなり、活動の活性化につながり、継続化が図られる。
- 活動後も同じことを自主的に行う子供がいたり、高校生になって読み聞かせのボランティアを進んで行ったりするなど、事業を継続して行うことにより、子供たちが立派な担い手として成長しつつある。

● その他

学習支援活動内容の詳細
内容：放課後の補習学習 実施日：月 2 回水曜日
対象：飯山北小学校 6 年生



1 年生補助ボランティア



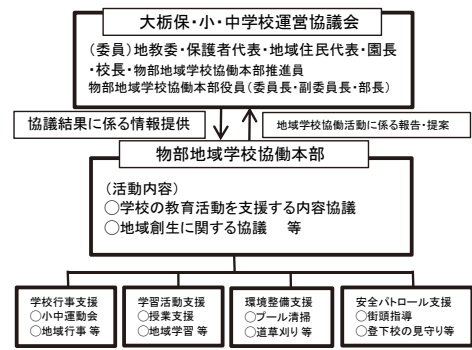
ミシン学習の補助

よってたかって育てる「物部の教育」 —保小中—貫教育と地域との協働—

高知県香美市	● 活動名	● 関係する学校名
	物部地域学校協働本部	香美市立大栃中学校、香美市立大栃小学校、香美市立大栃保育園

開始年度	平成 25 年度	学級数	3 学級	児童・生徒数	24 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 120 人	属性	PTA役員 地域住民等		
参考 URL	http://www.kochinet.ed.jp/odochi-j/				

● 体制図



● 連絡先 香美市立大栃中学校 ☎ 0887-58-2402

- 活動の概要・経緯
- 平成 25 年「より広く学校を支援する」ことを活動の柱に据えた「大栃小中学校支援地域本部」を 23 名の委員でスタート。
 - 平成 27 年、地域や保護者及び小中教職員で「中学校卒業までの 15 年間を見通した物部がめざす子どもの姿」を確立。
 - 平成 28 年、「物部がめざす子どもの姿」実現のために「保・小・中」と縦に学びをつなぎ、「地域との協働」において横に学びを広げる活動とするため、「大栃保小中学校支援地域本部」を 49 名の委員に拡大し、4 つの部会も設置した。
 - 平成 29 年「多様で継続的な活動」をめざし、学校の支援のみならず、地域創生を活動に加えた「物部地域学校協働本部」を設立。55 名の委員が活動を展開している。
- また、「大栃保・小・中学校運営協議会」を設置し、物部コミュニティ・スクールをスタート。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 物部がめざす子供の姿を、「郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上」と明確に位置づけ、その実現のために、「保小中—貫教育」及び「地域との協働」活動を展開している。
- 物部地域学校協働本部を 4 つの部会（学校行事支援・学習活動支援・環境整備支援・安全パトロール支援）に分けて、それぞれが「計画・実施・振り返り」を行い、多様で継続的な活動を展開している。
- 「大栃保・小・中学校運営協議会」と連携し、一体的な取組を行っている。「大栃保・小・中学校運営協議会」での承認内容が、「物部地域学校協働本部」の活動に反映され、学校支援のみならず「地域と活性化するための」ネットワーク活動が展開されている。

【実施にあたっての工夫】

- 各部会が計画的に会合を開き、計画→実施→振り返り→次計画につないでいる。PDCA サイクルが全体及び各部でも確立されることで「多様な活動」「継続的な活動」に繋がっている。
- 地域の行事である「湖水祭り」や「生きがい教室」における保小中の子供たちの参画が大きくなっている。また子供たちが地域を活性化させようと物部の魅力をまとめた「ガイドブック」の作成や発表会の開催、また商店街に元気を取り戻すための「物部っ子祭り」の実施など、子供たちも地域も元気になる取組につながっている。
- 「熟議」「地域との協働」を活動の中心に据えている。その結果、学校への支援から始まった活動が地域創生に繋がる活動に進化している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供の「自分の住んでいる地域が好きだ」と、「自分には良いところがある」といった「郷土愛」「自尊感情」に関する項目のポイントが大きく高まった。地域の方々に多く関わってもらうことで、安心した学びができ、子供たちは地域に誇りを感じ、自分に誇りを持ち自信を深めている。
- 学校だけで行っていた防災学習やプール清掃を、物部地域協働本部との協働で行うことで、環境整備がより整った。また教職員の業務改善にも繋がりがつある。

● その他

- 毎年、生徒が「物部の魅力」を伝える発表会を行っており、収集したデータや資料を整理するため ICT を活用した取組を推進している。
- 学習支援では、「個に応じた指導」を充実させ、その取組が家庭学習の質と量の向上に繋がっている。



「湖水祭り」パレード



「物部っ子祭り」

ポイント

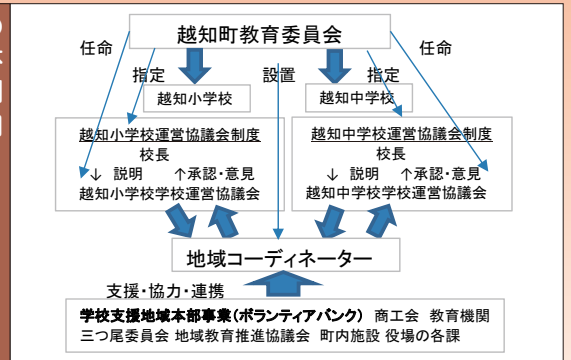
目指す子供像を明確にし、その実現のための取組を展開しています。活動を PDCA サイクルの視点でみることで、次につながる活動になっており、素晴らしいですね。

越知のよさにふれ、地域に支えられ、育て越知家の子供たち！

高知県越知町	● 活動名	● 関係する学校名
	越知小学校学校支援地域本部	越知町立越知小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	214 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	高知ファイティングドッグス 吉本興業
ボランティアの数	登録人数 29 人	属性	地域住民、保護者、元 PTA 役員、地域おこし協力隊、元教員他		
参考 URL	http://www.kochinet.ed.jp/ochi-e/				

● 体制図



● 連絡先 越知町立越知小学校 ☎ 0889-26-1101

● 活動の概要・経緯
 学校と地域が連携・協働して、越知の子供たちが「越知を愛し、心豊かでたくましく生きる力を育み社会の変化に対応できる資質を身につける」ことを目指し、平成 25 年度に学校運営協議会設置に向けて、推進委員会を立ち上げて準備を進め、平成 27 年度からコミュニティ・スクールとなった。学校の教育活動を地域が支え、地域の思いや願いが学校の教育活動に反映され、さらに、子供たちが地域へ参画する流れが加速し、学びの充実が図られてきている。29 年度は、ボランティアバンクの登録者数は 29 名であるが、三つ尾委員会等による支援活動や地域を知る活動が実現している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域・町の行事における連携…町保健福祉大会・「おなばれ」への参加、休校学区の地区運動会への参加、越知町文化祭などへの参加
- 環境保全活動の協働…梅の木川の清掃や地域の川の水質調査活動
- 学びの支援…放課後学習・サマースクールの学習支援、本の読み聞かせ、さつまいもや米収穫等の栽培支援、ミシンの学習サポート、水泳指導サポート、昔遊び大会の活動支援、商店街見学・横倉山登山付き添い、餅つき・こんにやくづくり体験支援 など

【実施にあたっての工夫】

- 地域コーディネーターを学校に配置し、地域の資源を活用した取組をスムーズに取り入れられるようにしている。また、学習支援ポーターを兼任しており、学力向上を底支えする役割を果たしている。
- コーディネーターは、アンケートや聞き取りにより、課題や改善すべき点を把握し、次の活動に活かすようにしている。
- 探究的な授業づくりのための教育課程研究の県の指定校となり、総合的な学習の時間の見直しを行った。地域の資源を活用し、学びの充実・地域参画も目指し、教育課程への位置づけ及び実践を行い、継続的に地域と連携・協働した実践を担保できるようにした。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校と地域の人的な交流が活発になることで、地域の声を学校の教育活動に反映させ、また、地域の協力により、体験活動等や学習活動がより充実したものになってきている。
- 地域のサポートを受けることで子供たちの生活に根ざした課題に取り組む学習活動は、追求意欲を高め、総合的な学習の時間の充実につながった。
- 地域コーディネーターの学校への設置により、地域と連携した取組が、確実かつスムーズに実施できており、変更等にもきめ細やかに対応が可能で、参加ボランティアにとっても安心して学校支援に参加することにつながっている。

● その他

高知ファイティングドッグスの選手による学習支援：体育、総合的な学習の時間、国際理解教育、運動会、クラブ活動
 越知町観光大使 吉本興業定家萬月氏による落語指導：総合的な学習の時間、クラブ活動



地域の支援による学びの充実



地域参画（町・地域行事の活性化、地域に笑いを届ける）

ポイント

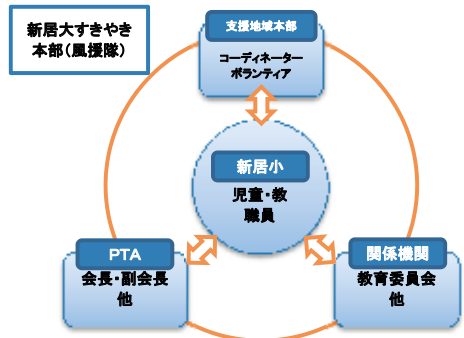
地域コーディネーターを学校内に配置することで、教員の異動等に左右されることなく、安定的かつ継続的な活動ができています。地域の資源を活用した活動を展開しており、素晴らしいですね。

「はばたけ 風の子！！」 新居大すきやき本部（風援隊）

高知県土佐市	● 活動名	● 関係する学校名
	新居小学校支援地域本部	土佐市立新居小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	5 学級	児童・生徒数	42 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 38 人	属性	地域住民等		
参考 URL	http://www.kochinet.ed.jp/nii-e/				

● 体制図



● 連絡先 土佐市立新居小学校 ☎ 088-856-0109

● 活動の概要・経緯
新居地区は、清流仁淀川河口西岸の田園地帯にあり、新居小学校は海岸線から約700m、海拔3.5mに立地し、南海地震・津波が起きれば甚大な被害を蒙る。地域の人口減少に伴い児童数も減少するなか、次代の地域創生を担う児童を地域全体で見守り、育む必要性が求められた。そこで平成20年度に「はばたけ 風の子！！」新居大すきやき本部（風援隊）のテーマのもと、学校・家庭・地域等の連携・協働活動の強化のため、風援隊を組織し、毎年、活動の重点化（プロジェクト）を図りながら、取組の充実を図ってきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域ぐるみ安全・防災学習支援・・・安全・防災キャンプ（子ども安全・防災会議、フィールドワーク、安全・防災マップづくり等）、地域ぐるみ地震・津波避難訓練等
 - 学校行事支援：大運動会・・・地域種目の協働実施等
 - 地域行事との連携・・・風の子収穫祭、独居高齢者訪問、三世交流もちつき大会、グラウンドゴルフ、新居地区ウォークラリー、避難道清掃活動等
 - 伝統文化支援・・・えじま踊り、昔遊び（凧作り、ちぎり絵、こままわし等遊び体験等）
- コーディネーターを中心に、年度毎に課題改善へ向けた取組の重点化を図るため、平成20年度「安全パトロール隊プロジェクト」・平成21年度「風の子農園プロジェクト」・平成22年度「学力・体力向上プロジェクト」・平成23年度「防災・減災学習プロジェクト」・平成24年度「健康づくりを通したふれあい活動プロジェクト」・平成25年度～平成28年度「防災・減災学習プロジェクト」・平成29年度「安全・防災学習プロジェクト」と銘打ち、焦点化した取組を推進してきた。特に近年は地域の喫緊の課題である防災・減災学習に焦点化し、学校・家庭・地域がそれぞれ何ができるのか考えると共に、子ども防災・減災キャンプや会議、フィールドワークや避難道点検等、児童主体の学習の中から出された活動を支え、支援してきた。

【実施にあたっての工夫】

- 平成20年度から充実した活動が活発に展開できているのは、核となるコーディネーターを中心とした地域住民のボランティア隊（風援隊）の尽力の賜物である。地域・学校・家庭の連携・協働を深め、新居地区の将来を担う人づくりのために、コーディネーターが地域の人材等のネットワークを広げ、活動の充実を図ると共に、定期的な通信を作成・発行し、新居地区全世帯に活動内容を広報している。
- 学校支援地域本部コーディネーター・事務局が地域教育協議会委員や学校評価委員を兼務し、定期的な学校訪問指導を行うなかで、学校教育目標の具現化に向けた参画や連携・協働を行い、学校の課題改善に向けた意見交換をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 児童にとっては、様々な学校行事を通して地域の方々と関わるなかで、地域の伝統・文化を学ぶよい機会となったり、社会性を育むと共に地域への愛着を抱き、落ち着いた学校生活に寄与したりしている。
- 学校にとっては、地域の方々の様々な支援により、教職員が授業や生徒指導等、主たる学校運営に傾注できる環境づくりに寄与している。
- 地域の方々にとっては、運動会で児童・保護者・地域が一緒になって踊る地域の伝統芸能「えじま踊り」等、地域の伝統・文化を再確認できる機会となり、地域の活性化にも寄与している。

● その他

その他、登下校等安全指導では風の子安全パトロール（防犯・交通）や安全指導、学習支援活動ではふるさと学習（メロン学習、米作り、歴史探訪、野菜の栽培・販売学習等）や持久走大会への安全確保、読書活動支援では読み語りや図書館整備支援、環境整備支援では愛校作業や風の子農園支援等、地域から学校へ多くの支援をいただいている。今後は、学校から地域への寄与を再考し、協働の質を高めていきたい。



安全マップづくり
(安全・防災キャンプ)



メロン栽培見学
(ふるさと学習)

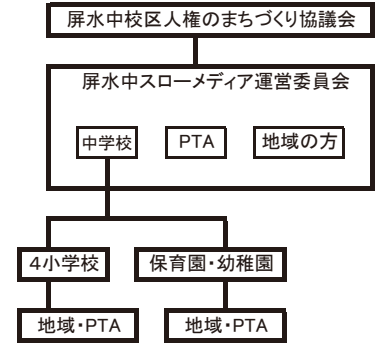
ポイント

地域の様々な支援により、教職員が授業や生徒指導等に注力できる環境づくりができています。熱心なコーディネーターが核になって、地域のボランティア隊「風援隊」が活躍しているのも素晴らしいです。

見つめようメディアとの付き合い方、育もう自己コントロール力!

福岡県久留米市		● 活動名 屏水中学校区スローメディア推進活動		● 関係する学校名 久留米市立屏水中学校、久留米市立山本小学校、久留米市立草野小学校、久留米市立善導寺小学校、久留米市立大橋小学校、久留米市内幼稚園保育園7園	
開始年度	平成 20 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	355 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他（基本的生活習慣支援）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	青少年健全育成協議会
ボランティアの数	登録人数 20 人	属性	PTA 役員、自治会、まちづくり振興会、地域住民		
参考 URL					
● 連絡先	久留米市教育委員会 学校教育課			☎ 0942-30-9217	

● 体制図



● 活動の概要・経緯
 スマホの急激な普及による小学生における所持率の増加や、メディアトラブルの低年齢化の実態のほか、夜更かしなどによる生活リズムの崩れや遊びの場の減少といった状況も全国的に見られている。これらのことを踏まえ、屏水中校区では、就学前の児童からの教育の積み上げを大切に考え、家族の意識を高め、環境整備を行うことを重要視し、平成 20 年からメディアとの付き合い方について、地域ぐるみで取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

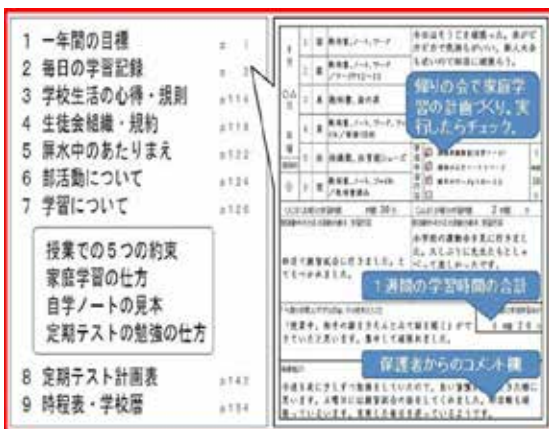
本取組の趣旨は、テレビ、パソコン、スマートフォンなどの映像メディアに接する時間を減らし、親子で会話する時間や本や新聞などの活字メディアに接する機会を増やして学習環境づくりを行うものである。そのために、中学校の定期考査前 1 週間という期間を合わせ、その中学校校区の園児から中学生までとその家庭全体が一緒になって、徹底して取り組んでいる。また、ルールや重点的に取り組む課題については、屏水中学校スローメディア運営委員会が核となって立案を行い、校区の 4 つの小学校や保育園・幼稚園の代表者とともにも熟議をして練り上げ、毎年の取組の方向性を定めている。

【実施にあたっての工夫】

「メディア視聴 2 時間以内」というルールのもと、時間の使い方を自分で考え、読書や勉強や団樂といったものに使っていくために、屏水中学校の生徒は、スローメディア期間中は、屏水ノートに自分のメディア視聴時間や家庭学習の予定を書き込み計画を立てる。それに対し、保護者は、家庭での学習状況を点検し、担任はノートにしっかり目を通したり、コメントで継続を励ましたり、助言したりするなど、屏水ノートで繋がっている。また、屏水中校区で協働して「スローメディア通信」を発行し、小学生や中学生の反応や、成果、保護者の声を掲載し、その効果を広く周知している工夫が見られる。さらには、11 月に行われる屏水フェスタにおいて、教職員・PTA・地域住民で結成されるスローメディア班が劇を披露する中で、子供たちにスローメディアの目的や願いを伝え、取組の啓発を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

家庭での会話時間の増加、読書時間の増加、学習習慣の定着といった結果がみられた。加えて、中学校 3 年生の全国学力・学習状況調査において、「1 日あたりのゲーム時間」では、2 時間以上ゲームをする屏水中の生徒の割合が全国よりも 8.6% も少なかったり、「1 日あたりの携帯・スマホでのメールや通話時間、インターネットの使用時間」では、5.6% も少なかったりとメディア等に触れる時間をコントロールできる自律力がついたことが何よりの成果であるといえる。



子供・家庭・学校がつながる屏水中ノート



スローメディア通信

ポイント

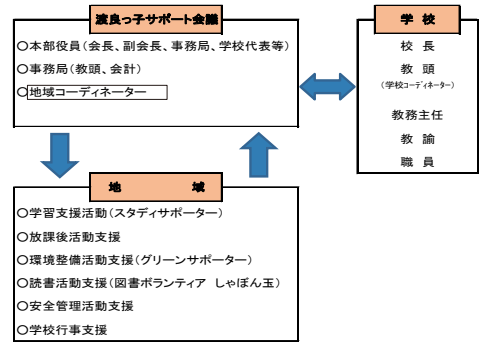
どこの地域でも課題となっている「メディアとの付き合い方」について、学校での指導だけでなく、地域もその課題解決のために取り組んでいる事例です。この中学校区の取組は参考になります。

渡良の子供を地域総がかりで育てる ～学校と地域がともに元気に～

長崎県杵岐市	● 活動名	● 関係する学校名
	渡良っ子サポート会議	杵岐市立渡良小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	79 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 31 人	属性	PTA 役員、元教員、地域住民等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 杵岐市立渡良小学校 ☎ 0920-47-0813

● 活動の概要・経緯

渡良の地で育つ子供たちを健やかに成長させるために、学校と家庭と地域が一体となった教育・子育てを展開することを『「提言」し、「支援」し、「行動」する』渡良地区の教育・子育て支援システムの実現をめざして、平成 25 年度から「渡良っ子サポート会議」を組織し、活動している。

- 3 機能
- ① 提言機能・・・共有目標を、渡良小学校教育目標「一心三気」とし、地域・学校で協働して達成するための提言を行っていくこと
- ② 支援機能・・・2つの支援の在り方・「学習支援・環境支援」
- ③ 行動機能・・・①②について具体的に行動化していくこと
- サポーター活動について
みんながサポーター（みんなサポ）スタイル

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 第 1 回会議で共有目標を確認し、地域諸団体による支援活動を検討し年間計画を作成する。
- ① 公民館⇒合同運動会協力、運動会に係る美化活動、海岸清掃
- ② 老人会⇒校門立哨指導（毎月 15 日）、ゲートボール・昔遊びの指導
- ③ 婦人会⇒花いっぱい運動、校門立哨指導（毎月 1 日）、奉仕活動への参加
- ④ ふるさと渡良会⇒海岸清掃
- ⑤ 健全育成会⇒夏休み子ども球技大会の企画運営、夏季除草活動、事故防止パレード
- ⑥ 交通安全協会⇒交通安全に係る設備充実（横断人形、横断旗）
- ⑦ 民生委員⇒不登校児童生徒の見守り、入学時の祝い準備
- ⑧ 駐在所⇒朝の街頭監視、交通安全教室、不審者対策訓練協力、児童虐待通報の窓口、いじめ 110 番対応、問題行動・非行への先制予防的活動、情報メディア教育の啓発

【実施にあたっての工夫】

- 行事のスクラップアンドビルド
学年ごとに行っていた地域連携行事の日程移動や部分廃止を行い、地域・学校協働の柱となる新規行事として「渡良っ子収穫祭」を開催する。全サポーター参加型とし、学校プラットフォーム化の気運づくりを目指している。
- 報連相の充実
会長、学校長、地域コーディネーター、学校コーディネーターとの連携を密にしておく。
- 情報発信
機関紙『渡良魂（わたらっこ）』で、学校地域協働の目的やサポーターの活動を随時紹介し、地域に発信している。また、同時に、有志サポーターを公募し、構成の拡充を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 2 学期当初に行った地区民合同運動会に係る除草作業に、200 名近くの参加があった。このことは、1 学期に行った目標共有と年間計画作成等が、会議から発信され、地区民に対してより浸透していることの結果だと感じる。定期的な打ち合わせの開催により、学校・家庭・地域で問題を共有でき連携が密となるため、継続的な情報発信の重要性を実感した。
- 児童の発言等からも、地域との心理的距離の近まりを感じる。学校に積極的に顔を出してくださる地区民も増えている。

● その他

田植え、芋植えや芋掘り、昔遊び



ツインズビーチ海岸清掃



渡良っ子収穫祭

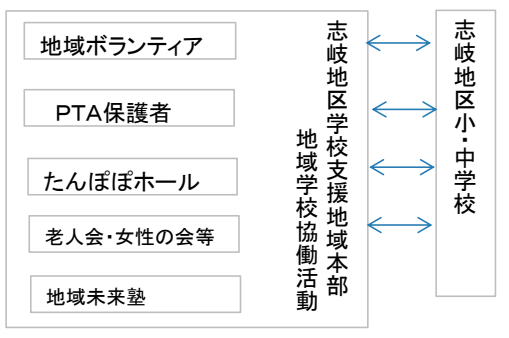
ポイント

学校の教育目標を共有し、関係団体がその目標の実現に向けた活動計画を立てるといふ、チームとしての機能が素晴らしい。また、活動を増やすだけでなく、効果的に集約しながら取り組んでいて、参考になります。

楽しく活気ある学校生活をめざした地域・保護者・学校の連携・協働活動

熊本県苓北町		● 活動名 志岐地区地域学校協働活動		● 関係する学校名 苓北町立苓北中学校、苓北町立志岐小学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	179 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 ■その他（未来塾・げんきやさい農園での栽培）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	苓北町読書活動推進ボランティア「たんぼぼホール」他
ボランティアの数	登録人数 52 人	属性	地域住民、たんぼぼホール、老人会、女性の会、公民館、高齢者大学、自治会、元教員、PTA、JA 他		
参考 URL	http://es.higo.ed.jp/shikies/				
● 連絡先 苓北町立志岐小学校		☎ 0969-35-0014			
● 活動の概要・経緯	平成 21 年度からスタートした「学校支援地域本部事業」も 8 年目を終えた。この間、たくさんのボランティアの方々へ支援を受け、子供たちを支えてもらった。子供たちも地域ボランティアの方々との交流や体験活動を通じて、学校で楽しく学習が来ている。活動を通して子供たちの豊かな感性を育んだり、将来の夢を大きく膨らませたりして、生きる力を培い、成長できている。地域ボランティアの方々も、子供の成長ぶりに接し、大きな喜びを感じている。地域未来塾は、平成 27 年度から中学生を対象に、「ちょっと勉強は苦手だ」、「中学生になって授業が難しく感じる」、「学びをさらに深めたい」という生徒の基礎・基本的学力の向上を目指して、実施している。				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・クラブ活動支援：地域の専門的な知識を持った方からの指導により、囲碁クラブ、絵手紙クラブ、お茶クラブ、自然探検クラブ（釣り）、伝承遊びクラブ、郷土料理クラブ、書道クラブといった多彩な活動を実施している。
- ・学習支援：読み聞かせや歴史講話、町探検・校外学習、元気やさい栽培の支援を受けている。
- ・環境支援：朝の挨拶、自転車点検、学級文庫整理等を行っている。
- ・ボランティアの方々の活動をお知らせする広報誌を月に一度作成している。
- ・地域未来塾：中学 1 年生から 3 年生まで募集をかけ授業形式と自習形式で実施している。

【実施にあたっての工夫】

- ・ボランティアの募集にあたっては、募集チラシを作成し協力してくれる方を探している。また、活動の広報誌を作成し、町内で回覧することで興味をも示される方を探している。
- ・読み聞かせについては、年間計画を立てて実施している。
- ・クラブ活動では、専門的な知識が必要な場合、公民館等に出向き人材を探している。
- ・地域未来塾：指導される先生と打ち合わせを行い、指導方法を工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地域の方が気軽に学校に来れる環境ができており、子供たちは様々な体験活動や学習支援等の中で、地域の方が持っている専門的な知識や技能を学ぶことができる。また、地域の方とのふれあいは、子供たちが親近感や安心感を持つことにつながるとともに、ペロン大会のように参画することの経験にもつながっている。
- ・地域の海岸清掃ボランティアに、中学生を中心に子供たちの参加がある。地域を大切にしている心が行動に表れてきている。
- ・色々な大人と関わることで子供たちのコミュニケーション能力も高まる。また、地域の方々は学校の様子も見られ、どんな環境で育てているのか分かるのでとても意義のある活動となっている。
- ・未来塾では基礎的な学習を繰り返し行い、間違いやすいところや基本的なことを分かりやすく丁寧に指導したので、感想では「とてもわかりやすかった」「勉強に意欲が出てきた」など、子供たちには大変好評であった。

● その他

地域未来塾（中学生対象）の取り組み



クラブ活動で大帯で書く体験



学年で伝承遊びを楽しむ体験
ボランティアの方の指導

ポイント

クラブ活動支援や学習支援、環境整備等の多岐にわたる地域学校協働活動を継続的に実施しています。さらに中学生対象の地域未来塾もスタート。「勉強に意欲が出てきた」という言葉が聞かれ、大好評ですね。

オール下ノ江で取り組む「協育活動」 ～すべての「人」「もの」「こと」を巻きこんで～

大分県臼杵市		● 活動名 下ノ江地区ふれあい協議会		● 関係する学校名 臼杵市立下ノ江小学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	56 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 4 人	属性	教職員経験者など		
参考 URL					
● 連絡先		臼杵市教育委員会社会教育課 (臼杵市中央公民館内)		☎ 0972-63-6444	
● 活動の概要・経緯	<p>下ノ江地区では青少年健全育成会の活動として、世代間交流事業など学校の取組と合わせて活動してきた。平成 21 年度に地域内の様々な団体を協力団体として「下ノ江地区ふれあい協議会」を立ち上げ、活動の柱として「地域で子どもを育てる」活動に取り組んでいる。活動の実施主体としては、協議会の中に委員会を設けそれぞれの担当者が企画・運営に携わっている。特に、協議会内の世代交流委員会やよろうちクラブ (総合型地域スポーツクラブ) が中心になって、子供の体験活動や学校と連携した協育活動に積極的に取り組んでいる。</p>				
	<p>● 体制図</p>				

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地域のコミュニティセンターである下ノ江ふれあいセンターを拠点として、地区のふれあい協議会の様々な活動が行われている。その中でも世代交流委員会が担当する「下ノ江ふれあい子ども広場」では、月 1 回水曜日の放課後、地域人材の協育活動サポーターを中心に、内容によってはゲストティーチャーなど季節に合わせて体験活動を実施している。活動例として、地域の文化財見学・ものづくり・科学教室・クリスマス会などを小学校 1～6 年生が取り組んでいる。

特徴的な活動として、下ノ江小学校を卒業した大学生や専門学校生が夏休みに勉強を教えたり、活動を一緒に取り組んだりする「朝風学級」がある。かつては地域の伝統的な取組だったが、しばらくの間実施が途絶えていたため、平成 15 年に PTA が主体となり復活させた。昼食づくりなどで PTA が協力しているため、学校・家庭・地域が協力した協育活動になっている。

【実施にあたっての工夫】

ふれあいセンターの職員がコーディネーター役となり、学校・家庭・地域をうまくつなげている。ふれあい子ども広場の活動では、市の協育コーディネーターと連携して、昨年度は県事業である子ども科学体験推進事業を活用し、本田技研工業 (株) の協力で HONDA の人型ロボット ASIMO (アシモ) をダンボールで製作した。地域のリーダーが中心となり、活用できる地域資源を有効かつ効果的に利用している。

● 事業を実施しての効果・成果

地域の方が主体となって子供対象の事業を実施することで、様々な活動例が地域の中で蓄積され、運動会など学校行事で取り組む活動にも広がりが出ている。臼杵市全体で取り組んでいる「うすき土曜ふれあい学校」(土曜授業)では、地域の方に指導を受ける田植え活動をはじめ、よろうちクラブとの共催での三世代交流軽スポーツ大会、クリーンアップ大作戦など、地域主体の取組に学校や PTA を巻きこむことで、学校教育に対する理解・協力も得られる機会となっている。子供たちにとっても、地域の方々が自分たちのことを見守ってくれていると感じる機会が増え、健全な成長につながっている。昨年度、土曜授業に参加した地域や PTA の方々は 360 人ほどだった。みんなの「思い」「願い」「心」が響きあう「協育」の好例となっている。

● その他

※生涯学習委員会が担当の高齢者教室「下ノ江ふれあい学園」の学級生がこの活動のあらゆる場面で活躍している。



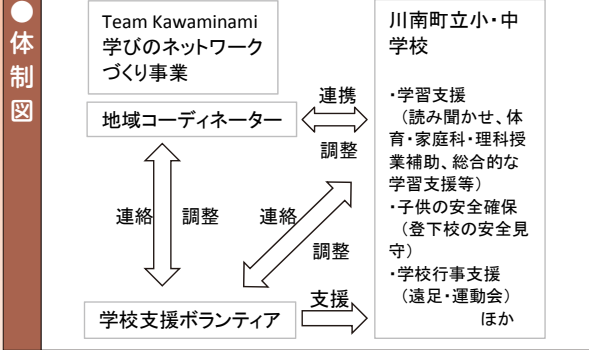
下ノ江ふれあい子ども広場
「ダンボールでアシモを作ろう」



よつこそ先輩「朝風学級」
下ノ江小を卒業した大学生が夏休みに
勉強を教えてくださいます。

学校、家庭、地域が一体となった町民総ぐるみによる教育の推進

宮崎県川南町		● 活動名		● 関係する学校名	
		Team Kawaminami 学びのネットワークづくり事業 (川南町学校支援地域本部事業)		川南町立唐瀬原中学校、川南町立川南小学校、川南町立通山小学校、川南町立東小学校、川南町立多賀小学校、川南町立山本小学校	
開始年度	平成 27 年度	学級数	15 学級	児童・生徒数	463 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	香川ランチグループ
ボランティアの数	登録人数 139 人	属性	PTA、地域住民		
参考 URL					
● 連絡先		川南町教育委員会教育課		☎ 0983-27-8019	
● 活動の概要・経緯	<p>Team Kawaminami 学びのネットワークづくり事業は、町民総ぐるみによる教育の推進を目標に、役場各課による教育資源活用プラン、人財（材）バンクの作成とその活用、各学校の教務主任（地域連携コーディネーター）との連携を3つの柱として、平成27年度から1つの小学校をモデル校として事業をスタートし、その取組を他の学校に紹介しながら、事業の拡大を図っている。</p>				
	<p>● 活動の特徴・工夫</p> <p>【特徴的な活動内容】 主に学習支援、キャリア教育、環境整備の3点で支援を行い、教育活動の充実を図っている。 〈学習支援〉 ・家庭科学習支援（裁縫）、戦争体験を語る学習会（小中学校）、社会科の授業等における昔の道具収集や使い方の説明（小学校中学年）、校外学習の引率などの学習アシスタント（小学校）、読み聞かせ（小中学校）、クラブ活動支援（小学校）を実施している。 〈キャリア教育〉 校区内外の様々な職種の方々を招き、講話等を行っている。仕事をする事の意義や誇り、また、地域の課題や課題解決に対する思いなどを語ってもらう場を設定している。 〈環境整備〉 ・樹木の剪定、校内環境整備、登下校の見守り活動を行っている。 【実施にあたっての工夫】 ・生きがいづくりを目的に学習している生涯学習講座受講生（川南町山茶花ふれあい学園生）に学習支援を依頼する。 ・各学校の教務主任（地域連携コーディネーター）との連携強化によりきめ細かな支援を行うようにしている。 ・学校に説明したり、一緒に計画を立てたりすることで、学校側の理解を広げるようにしている。 ・役場職員による出前授業を実施し、より専門的な角度で説明を受けられるようにしている。 ・最終打合せは、必ず学校と支援者で行っており、情報の共有化を図っている。</p>				
<p>● 事業を実施しての効果・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭、地域が一体となって教育に取り組むことにより、子供たちと地域住民との交流の機会が増えてきた。また、交流を通して、地域のよさを知るとともに、学ぶ意欲の向上にもつながっている。地域住民にとっても、学校を知るよい機会になっており、仲間との活動を通じた生きがいづくりになっている。 ・地域人材を活用した職業講話等では、身近な職業について理解を深めるとともに、子供たちが自分の生き方について考えるなど、職業観や社会観の育成につながっている。 					
<p>● その他</p> <p>香川ランチグループ、有限会社協同ファームによる工場「6次産業」や畜産業に関する講話</p>					



家庭科学習支援の様子（小学校）



キャリア教育の様子（中学校）

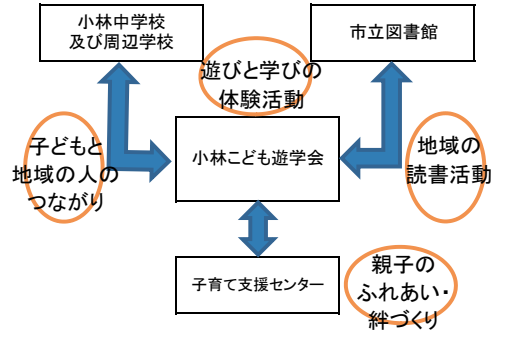
ポイント

町民総ぐるみによる教育をきっかけ、学習支援・キャリア教育・環境整備の活動を展開しています。生涯学習講座受講生による学習支援や役場職員による出前授業は、まさに町民総ぐるみによる教育になっていますね。

読書を通じて子供たちの豊かな心と地域・家族の絆を育みます。

宮崎県小林市		● 活動名 小林子ども遊学会による読書活動を通じた地域学校協働活動		● 関係する学校名 小林市立小林中学校、小林市立小林小学校、小林市立南小学校	
開始年度	平成 13 年度	学級数	13 学級	児童・生徒数	459 人
活動内容	<input type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 環境整備 <input type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> その他（読み聞かせ・読書活動推進）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	小林市立図書館
ボランティアの数	登録人数 22 人	属性	地域住民、保護者、図書館職員等		
参考 URL					
● 連絡先 宮崎県小林市教育委員会社会教育課		☎ 0984-22-7912			
● 活動の概要・経緯	<p>子ども読書及び絵本の「読み聞かせ」活動を小林中学校区の小中学校を対象に行っている。また、市立図書館や子育て支援センターとも連携し、地域の読書活動も実施している。小林市立図書館を拠点に読書活動に加え、科学体験活動等や活動者の読み聞かせボランティアの人材養成を含めた活動をしている。</p> <p>平成 15 年度、ゆめ基金の助成金のもと宮崎大学教育学部との連携で小林市内小学校児童と宮崎大学留学生との国際交流体験活動を小林小学校、西小林小学校で行ったことを皮切りに、遊びと学びの体験活動をモットーに子供たちと楽しんでいる。平成 18 年度からは小林市小・中学校「読み聞かせ」連絡協議会にも所属している。</p>				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学校に向いての定期的な読み聞かせ活動だけでなく、中学 3 年生を対象にした義務教育最後の読み聞かせ会「3 年生へ贈るおはなし会」を実施している。また、自主事業として交流会や体験活動を実施したり、市立図書館や子育て支援センターでのイベントや読書事業の支援（読書まつりやイベントのボランティア）をしたりしている。国際交流体験活動では、宮崎大学の教授をコーディネーターとして、宮崎大学の現役学生や留学生を招いて、小林市の子供と保護者、地域の方々との餅つき大会を行った。また、同じく宮崎大学の教授や学生、留学生と小林市の子供たちによる半年間にわたっての全 5 回の国際交流学級も開いている。その他、遊びと学びの体験活動として、近隣高等学校の科学教諭を講師に招き、葉から葉脈を取り出してオリジナルのしおりを作る体験や、液体窒素を使った科学体験などを実施している。

【実施にあたっての工夫】

読書や体験活動を通して、子供たちが家族や地域の人たちとふれあう機会の創出に努めている。中学校での「3 年生へ贈るおはなし会」では、小学 1 年生の頃から 9 年間にわたり読み聞かせに携わってきた地域の方々と共に読み聞かせ会を行っている。その他、図書館や子育て支援センターでの活動においても、地域の有識者、学校教諭、団体などと連携し、読書活動を基盤とした家族や地域とのふれあいの機会を創出している。

● 事業を実施しての効果・成果

前身である小林小学校の読み聞かせグループ「くすの木文庫」からの活動を含めると 16 年目を迎えたグループであり、長年にわたる読み聞かせや体験活動、その他団体や施設との連携により、子供たちの豊かな心や感性が育成され、聴く態度や姿勢づくりに大きくつながっている。また、本団体の活動は小林市内の小・中学校の読み聞かせグループやその他の地域のボランティアの方々や連携、協力しながら運営されている地域ぐるみの活動となっており、地域学校協働活動の推進にも寄与している。



小林中学校での定例読み聞かせ会



3 年生へ贈るおはなし会の様子。市内の演奏家にも協力をもらい実施した。

ポイント

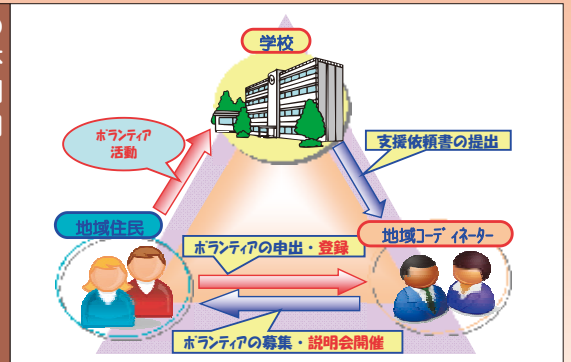
クラスでの読み聞かせ、図書館や子育て支援センターとの連携等、読書活動を多岐にわたり展開していますね。なかでも、「3 年生へ贈るおはなし会」はユニークな取組となっています。

地域全体で子供を育む学校支援活動

鹿児島県鹿児島市	● 活動名	● 関係する学校名
	学校支援ボランティア事業和田小学校	鹿児島市立和田小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	28 学級	児童・生徒数	775 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 212 人	属性	PTA、元教員、大学生、民生委員 読み聞かせグループ、女性団体、地域住民等		
参考 URL	http://www.keinet.com/wadas/				

● 体制図



● 連絡先	鹿児島県鹿児島市教育委員会生涯学習課	☎ 099-813-0851
-------	--------------------	----------------

- 活動の概要・経緯
- 鹿児島市では、地域住民に組織的・計画的に学校の教育活動を支援してもらうために、「学校支援ボランティア事業」を推進している。これは地域住民の知識・技能・経験や、子供たちの教育のために役立ちたいという熱い思いを生かした無償のボランティア活動である。
 - 本校においては、平成 20 年度から本事業に取り組み、地域住民だけでなく、保護者や大学生がボランティア登録したり、おごじよ隊や青色パトロール隊、民生委員などと連携協力したりするなど、地域の教育力の向上に大きな役割を果たしている。
 - 学校からの様々なニーズに対応できるボランティアの人材発掘や効果的な活用を推進することにより、地域住民の学校教育活動に対する関心が高まってきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- おごじよ隊や青色パトロール隊、民生委員などが、交通量の多い道路の登下校の見守り活動や交通安全教室への支援を行っており、学校と地域が一体となって子供たちの安全確保や不審者対策を行っている。
- 鹿児島国際大学生が、年間を通して国語、算数、体育（水泳）などの学習支援をしており（特別支援学級も含む）、中でも外国語活動（英語）については、教師や子供たちと一緒に歌やゲームを実施しており、充実した取組を行っている。
- 読み聞かせサークル「もみじ会」と「タンポポ会」が、朝の読書タイムにおいて、年間を通した読み聞かせ活動を行い、子供の読書活動を推進している。

【実施にあたっての工夫】

- 学校支援ボランティア担当（教務係）を校務分掌に位置付けるとともに、地域コーディネーターが年 3 回学期初めに学校職員へ、年 6 回地域コミュニティ協議会構成員へ本事業の趣旨や現状説明を行い、地域と学校との円滑な連携を図っている。
- 地域コーディネーターが鹿児島国際大学を直接訪問し、副学長や担当教授へ説明を行うことにより、大学との円滑な連携を図っている。
- 活動後の簡易な反省会でボランティア同士の情報交換を行ったり、学校の掲示版などに活動の様子を展示したりするなどし、学校と活動者の本事業に対する相互理解に努めている。
- 効果的に事業が展開できるように、4 月始め全校集会でボランティアの方々を紹介したり、1 年間の終わりに感謝状を贈呈し、交流給食会をしたりしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校・地域における本事業の趣旨や実施方法等への理解が図られ、子供たちの学習意欲の向上や学校と地域の連携・協働、地域の教育力の向上、地域の活性化につながってきている。
- コーディネーターと地域コミュニティ協議会役員で組織する地域教育協議会を地域コミュニティ協議会の組織の中に位置付けることにより、地域における本事業の推進への理解と啓発に効果を上げている。
- 昔の遊びなど高齢者の学校行事等への参加が増加してきている。また、子供の安心・安全につながる活動がボランティアの方々の活動意欲を高めている。
- 子供と年齢が近い大学生が支援に入ること、明るく楽しみながら学習に取り組めるようになり、授業の活性化が図られている。また、大学生も福祉系や心理学系などの専攻科目の貴重な経験になっているとともに、地域住民との触れ合いの場となっている。

● その他

学習支援・・・大学生による年間を通した 1・2 年生の国語科と算数科（理解が不十分な子への個別支援等）・理科（実験の支援）。地域住民による国語科（毛筆の個別支援）・社会科（歴史）。大学生・地域住民・保護者による 5・6 年生の外国語活動への支援。



大学生による算数科の学習支援の様子



民生委員・おごじよ隊による一年生の交通安全教室への支援

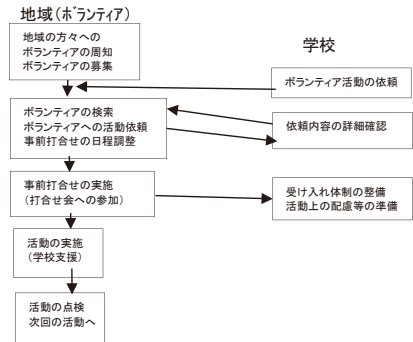
ポイント

大学との連携体制を活かし、大学生がボランティアとして国語や算数の学習支援をしたり、子供たちと一緒に外国語で歌やゲームをしています。学校という場が世代間交流の場になっていて素晴らしいですね。

学校のニーズに合わせ学習支援を行い、伝統文化の保存にも貢献しています！

鹿児島県指宿市		● 活動名 川尻小学校支援地域本部		● 関係する学校名 指宿市立川尻小学校	
開始年度	平成 20 年度	学級数	6 学級	児童・生徒数	52 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 28 人	属性	保護者、地域住民		
参考 URL	http://www.synapse.ne.jp/kawasirishou/				
● 連絡先	指宿市立川尻小学校			☎ 0993-32-2058	

● 体制図



● 活動の概要・経緯

川尻小学校区では、朝の挨拶運動を校区公民館の役員が行ったり、PTA 会員が学校施設の補修をしたりするなど長きにわたり、地域で学校を支える雰囲気が出ていた。地域と学校がより緊密な連携を図りながら、学校支援活動の拡充を目指し、平成 20 年度から文部科学省の学校支援地域本部事業を導入している。また平成 23 年度からは、文科省委託事業による取組の成果を継続するために「いぶすき学校応援団」としても、発展的に活動が実施されている。

現在、ボランティア登録人数は 28 人と多くはないが、事業を有効的に活用し、地域コーディネーター（地区公民館主事）を中心に地域事業本部・PTA・地域住民が連携した学校支援を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

学校支援事業本部では、地域ボランティアの方々を持っている専門的な知識や技能などを学校支援に生かし、田植えや芋栽培等の農業体験や、俳句や茶道教室等の学習支援活動を中心に行っている。また、学校経営基本構想に地域と連携した特色ある教育活動として「棒踊り・和太鼓の伝統芸能の継承」を位置付け、伝統芸能保存会と連携し、運動会や地域行事で披露するために保存会の方々から指導を受ける機会になり、伝統文化の継承に貢献している。これらの学校支援活動は、地域ボランティアの優れた技能や技術を教職員が直接学べる機会になっており、教職員の資質向上の一助となっている。また、地域ボランティア自身にとっても地域の子供たちに、自らの知恵や技能を教えることで、生涯学習の成果や生きがいの実感に繋がり、地域の教育力向上へと発展している。

【実施にあたっての工夫】

川尻小学校は地域全体の学校という認識から、地域本部事業・PTA・地区公民館の 3 つの団体のどれかに偏って学校支援を要請するのではなく、バランス良く地域と学校が関われるように活動が行われている。地域コーディネーターに川尻校区公民館主事を置くことで、学校や地域だけでなく、公民館長なども距離が近くなり、事業がスムーズに行われている。

● 事業を実施しての効果・成果

学校支援地域本部事業が開始され、ボランティアで学校を訪れた方を子供が覚え、学校外で会った時も「〇〇さん、こんにちは」などのような挨拶が交わされるようになった。そのことが、ボランティアの方にとっての生きがいに繋がっており、コーディネーターからのボランティア依頼を断る方はおらず、楽しんでボランティア活動に参加している。また、川尻小学校区は駐在所がなくなったことから防犯面で不安がある。そのため、学校支援地域本部事業を活用し、子供たちの学習支援だけを目的とするのではなく、地域の方に子供たちの顔を知ってもらうことによる防犯も期待できる。

● その他

川尻小学校で行われている学習支援は、主に田植え・芋植え・俳句・書写・茶道・水泳指導、また、棒踊り・和太鼓など伝統文化といった多岐にわたった支援が行われている。



俳句教室



棒踊り指導

ポイント

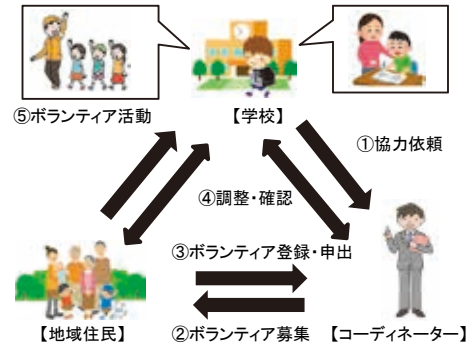
地域コーディネーターを中心にPTAや地域住民が連携しています。地域ボランティアから子供と教職員が学ぶだけでなく、ボランティア自身も生涯学習の成果を活かして活動することで、生きがいにつながっています。

学校・地域が連携した、郷土の特色を生かす命の教育活動

鹿児島県志布志市	● 活動名	● 関係する学校名
	通山小学校学校応援団	志布志市立通山小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	7 学級	児童・生徒数	164 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 32 人	属性	保護者、地域住民		
参考 URL	http://424.ciao.jp/tooriyama-els/				

● 体制図



● 連絡先 志布志市立通山小学校 ☎ 099-477-0555

● 活動の概要・経緯

○ 通山校区では、地域の方々が孵化させた子ガメを児童が放流する活動を数十年にわたって続けてきた。これを受けて、校区の教育資源をもっと有効に活用しようということで、平成 19 年に「亀の子クラブ」が発足し、校内にウミガメの孵化場を設置して卵を移し、観察や孵化後の放流などを行うようになった。また、平成 29 年度からは「総合的な学習の時間」に位置付け、全ての子どもたちがウミガメ保護活動を通じた学習ができるようにした。

○ 学校は低地にあり、幹線道路で交通量が多いため、高い安全意識をもつことが必要である。そこで、地域の方々や関係機関との連携のもと、定期的に津波避難訓練や交通安全指導を行ったり、日頃の安全管理を十分行ったりするようにした。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 1 「ウミガメの保護活動」については、ゲストティーチャーとして県自然保護推進員や地元のウミガメ保護監視員の方々を招き、専門的な内容の講話や体験活動を通して、ウミガメが上陸する郷土のよさや自然の素晴らしさに気付かせるようにしている。
- 2 ウミガメの産卵は深夜が多いため、採卵は地域の方々をお願いして学校の孵化場へ運んでいただいている。また、孵化後の放流については、メール配信システム「かめーる」を使って広く呼びかけ、学校近くの押切海岸で行っている。さらに、毎年地元のケーブルテレビや新聞等に活動の様子を広報してもらっている。
- 3 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、児童自ら危険を察知し、安全に行動する能力や態度を育てるために、4つの視点（①学校防災マニュアルの見直し・改善②実践的な避難訓練③防災学習④地域・関係機関との連携）に沿って実践的な防災教育を推進している。交通安全協会や青色パトロール隊の方々には、より実践的な津波避難訓練を行うために一緒に訓練に参加し、誘導や校外避難経路要所への立哨をお願いして、児童の安全確保に努めてもらっている。また、日常的にも毎朝の登校時に通学路で立哨指導しており、児童の安全確保を担っている。

【実施にあたっての工夫】

「命を大切に」「郷土を愛する」心を育てるために、学校支援活動をとおして地域の方々と直にふれあい、地域の課題を共有する機会をできるだけ多くもつよう工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 1 ふるさとの海に上陸するウミガメの保護活動を通して、命あるものを大切に心が育ってきている。また、教育課程に位置付けたことで、保護者や地域住民も巻き込んだ活動になりつつある。さらに、放流活動においては他校からの参加者も見受けられ、互いのコミュニケーション能力の向上にも寄与できている。
- 2 地域・関係機関の協力を得ながら取り組んできたことで、本校の実情を踏まえた防災マニュアルが作成できたとともに、児童がその場に応じた避難行動を取れるようになった。また、学校便りやPTA新聞でも取組を紹介し、保護者・地域の防災に対する意識が高まってきている。さらに、児童を安全に保護者に引き渡す手立てやルールが確立できた。

● その他

- 学校HPで、活動の様子を随時配信
- 平成 24 年、25 年度防災教育モデル実践校（県ホームページで取組を紹介）



太平洋に向かって放流



高台への一斉避難（中島坂）

ポイント

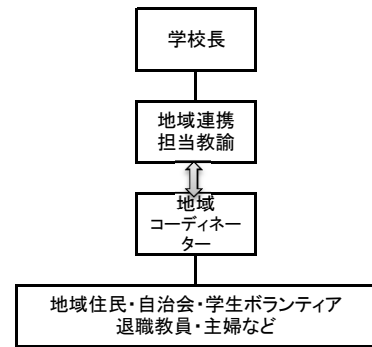
ふるさとの海に上陸するウミガメの保護活動を総合的な学習の時間に位置付けており、保護者や地域も巻き込んだ活動になっていますね。「自分の命は自分で守る」を合言葉とした津波避難訓練も素晴らしいです。

学校支援ボランティアを通して、地域とのコミュニケーションのきっかけづくり

沖縄県浦添市	● 活動名	● 関係する学校名
	浦西中学校区地域学校協働本部	浦添市立浦西中学校、浦添市立当山小学校

開始年度	平成 22 年度	学級数	39 学級	児童・生徒数	1091 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	仲本工業コープ
ボランティアの数	登録人数 178 人	属性	地域住民、自治会、大学生、元教員、PTA 会員等		
参考 URL	http://www.urasoe.ed.jp				

● 体制図



● 連絡先 浦添市教育委員会教育部生涯学習振興課 ☎ 098-876-1234 (内線 6064)

● 活動の概要・経緯
 平成 22 年から、浦西中・当山小の 2 校を対象に、浦西中学校区学校支援地域本部事業を開始し、地域連携担当職員と地域コーディネーターが中心となって、地域の住民と連携し、退職教員や主婦・会社員・大学生・企業などを活用しながら、様々な学校支援を継続的に実施している。具体的な例として、浦西中学校においては、朝の読み聞かせや部活動指導、当山小学校においては、登下校の見守りや読み聞かせ、環境整備などがあげられる。
 特に、当山小学校との連携活動においては、学校からの依頼のみならず、地域コーディネーターやボランティアの提案で、「ハッピーボランティア(環境整備)」、「ソワーズの会(読み聞かせ)」など活動内容別にボランティアチームを組織し、活動計画を立てて、自発的な活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・学習支援活動・・・小学 3 年の国語書写の時間に、地域の書道講師ボランティア 2 名が各クラスに入り、毛筆の指導補助を 5 年以上続けている。
- ・環境整備活動・・・平成 25 年よりハッピーボランティアの会を立ち上げ、毎月 1 回の定例活動と土日の花壇への水まきなどを行い「花いっぱい当山小」をめざして楽しく活動している。
- ・朝の読み聞かせ・・・毎週月曜に小学校全クラスにおいて読み聞かせ活動を行っている。現在、ソワーズの会は、登録人数も 61 名となっている。

【実施にあたっての工夫】

- ・毎月の地域連携だよりを活動写真入りで発行し、支援ボランティアの活動を紹介している。併せて随時ボランティア募集を呼び掛けている。(小・中学校)
- ・年度初めに、小学校各学年の教育計画を基にした当山地域人材活用計画書を作成し、支援ボランティアの活用計画の調整を行っている。
- ・学校支援ボランティアの名簿を随時更新し、整備に努めている。(小・中学校)
- ・ハッピーボランティアの会については、年度初めに会議を行い、年間活動計画の確認を実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ☆学校支援ボランティアの名簿を随時更新し、整備することで、円滑な支援活動ができた。
- ☆当山小地域人材活用計画書を作成し、各学年の要望に応じた支援ボランティアの配置計画を行うことができた。
- ☆平成 25 年にハッピーボランティアの会が発足し、毎月の美化・環境整備活動を定期的に行うことにより、校内美化が進んだ。

● その他

[協働活動における学習支援]・朝の読み聞かせ(小・中学校) ・放課後の大学生ボランティアを活用した学習支援(小学校)
 [放課後教室における学習支援]・週に 2 回、火曜日に国語教室、金曜日に算数教室を実施している。勉強につまづきがちな子供を対象としている。地域の方々が教育活動推進員・サポーターとして参加している。また、教員を目指す大学生もボランティアとして参加しており、子供たちの良き相談相手になっている。



校内美化活動



毛筆指導

ポイント

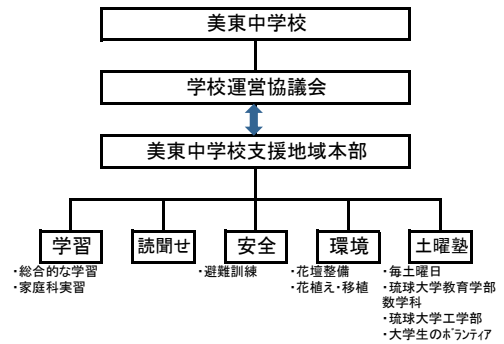
地域連携担当職員と地域コーディネーターが連携し、計画作りやボランティアの募集、名簿作成、広報等を行っています。活動の中からボランティアチームが生まれ、自発的な活動に発展していますね。

大学生ボランティアを活用し、数学の苦手な学生へ自信を持たせる取り組みです。

沖縄県沖縄市	● 活動名	● 関係する学校名
	美東中学校地域学校協働本部	沖縄市立美東中学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	25 学級	児童・生徒数	838 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学習支援活動 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 子供の安全確保 <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 116 人	属性	PTA、大学生、地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 沖縄市教育委員会生涯学習課 ☎ 098-929-4127

● 活動の概要・経緯
 ・平成 18 年度に地域住民の一人であった大学准教授が、子供の同級生の学習支援を行ったことがきっかけで、4～5名の補習指導が始まった。その後、平成 23 年度より、学校長の要望を受け、大学生のボランティアを活用するようになった。以後、成績の向上を目指し達成感や成就感を感じさせ、その気持ちを「自己実現」や「夢実現」に向けて、取り組ませるようにしている。ただ数学を教えるのではなく、生徒自らが問題に取り組み、考え、数学を克服していく事に重きをおいている。平成 25 年度より学校支援地域本部事業として地域コーディネーターが大学やボランティアとの連絡調整に関わるようになった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・琉球大学教育学部数学科の大学生による、数学に特化した学習をしている。
- ・数学が苦手な生徒に対して、学習に対する意欲や態度の向上に取り組んでいる。
- ・苦手な事やわからない事等に対して、「自ら考える」事に向かいあわせ、「定着」させる事に重きをおいており、「教える」事より、「自ら考えて、答えを引き出す」工夫を行っている。
- ・生徒の頭の中で考えている事を把握して、ボランティアがそれに柔軟に対応して引き出していく事に主眼をおいている。

【実施にあたっての工夫】

- ・保護者の土曜塾に対する理解を図るため、土曜塾の第 1 週目には、土曜塾へ参加する保護者も参加しての説明会を実施した。
- ・土曜塾に通う生徒には、基礎学力テストを実施（小学校卒業程度の算数の問題）することにより、各生徒の課題の明確化と伸びの確認している。
- ・平成 28 年度より、琉球大学工学部の研究室と連携した数学ソフトを活用（ICT）し、PC やタブレットを活用した学習も導入している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・数学への苦手意識の軽減。
- ・数学の成績の向上だけでなく、他の教科への波及効果（やれば出来る）が見られている。
- ・出来る・わかる等の自己肯定感や自己有用感が向上している。
- ・生徒各自の「夢や希望」等に繋がる選択肢が拡大した。
- ・大学生等が大学や教育実習では学べない、数学が苦手とわからない生徒への対応力等が向上した。
- ・教職を目指している学生の指導力や対応力等の向上。

● その他

(活動内容) ・読み聞かせ ・マナー講習会 ・面接指導 ・職業人講話 ・環境整備 ・避難訓練誘導員 ・学習支援「土曜塾」



読み聞かせ



土曜塾

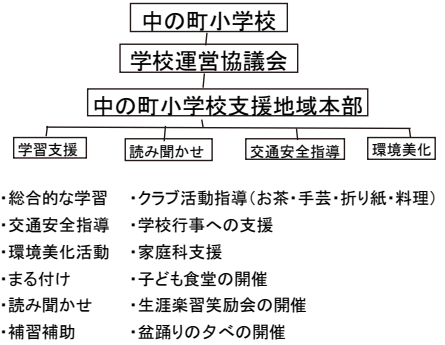
ポイント

10 年以上行われている大学生による数学の学習支援では、理解が進むとともに「やればできる！」という自己有用感にもつながっています。「自ら考えて、答えを引き出す」ための工夫が素晴らしいですね。

「誰でもが、できる時に、できる事を」中の町っ子応援団

沖縄県沖縄市		● 活動名 中の町小学校地域学校協働本部		● 関係する学校名 沖縄市立中の町小学校	
開始年度	平成 21 年度	学級数	20 学級	児童・生徒数	471 人
活動内容	■学習支援活動 ■部活動支援 ■環境整備 ■子供の安全確保 ■学校行事等の支援 □その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	
ボランティアの数	登録人数 1,210 人	属性	PTA、地域住民		
参考 URL					
● 連絡先	沖縄市教育委員会生涯学習課			☎ 098-929-4127	
● 活動の概要・経緯	平成 21 年度から学校支援地域本部事業がスタートし、地域コーディネーターが学校と地域の連携を図りながら活動を行っている。具体的な活動としては、毎日行われている地域のお年寄りによる朝の交通安全活動、毎週月曜日と金曜日の下校時パトロール、読み聞かせ、まる付け、年間を通しての環境美化活動がある。				

● 体制図



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域のお年寄りの組織「おはよう会」のメンバー 25 名が、毎朝校区の交差点に立ち交通安全指導を行っている。下校時は、老人会や地域のボランティアによる安全パトロールを行っている。
- ・環境美化では、年間を通じて地域の方が、庭木の手入れやプリンターの世話、草刈作業などを行い、夏休みの植物への灌水は保護者が協力して行っている。6年生のキャリア教育では、地域に住む様々な職業の方が体験型講話を実施している。
- ・平和学習では、地域の戦争体験者に当時のお話をしてもらっている。家庭科の授業では、ミシンのサポートや調理実習のお手伝いをしてもらっている。・保護者の協力により読み聞かせやまる付けを先生方の要望にあわせて行っている。
- ・毎週木曜日に学生ボランティアが、学習支援をしている。

【実施にあたっての工夫】

- ・毎月公民館で行われている老人会の定例会に地域コーディネーターが参加し、学校便りと地域本部便りを配布し情報交換を行っている。
- ・自治会の運営委員会に参加し、自治会との情報交換を行っている。毎月保護者向けに地域本部便りを発行し、随時ボランティアの募集や現在の情報などをお知らせしている。
- ・ボランティアに入る前には、名札を着用してもらっている。
- ・ボランティアの心得を確認し、児童の個人情報漏れなどのないよう注意している。
- ・11月に感謝集会を開催し、児童や職員へボランティア方の紹介やスライドによるボランティア活動の様子を紹介している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・登下校の安全が確保されたとともに、交通安全指導の方々と毎日顔を合わせることで、地域の方と児童との交流が持て、あいさつができるようになった。
- ・児童が、様々な大人と関わることで人間性を育むことにつながった。
- ・地域の方や保護者が気軽に学校に足を運ぶようになり、教職員と気軽に意見を交わすことができるようになった。

● その他

[学習支援] ・総合的な学習 ・まる付け ・読み聞かせ ・補習補助 ・家庭科支援

[その他の活動] ・交通安全指導 ・環境美化活動 ・クラブ活動指導 (お茶・手芸・折り紙・料理) ・学校行事への支援 ・子ども食堂の開催 ・生涯学習奨励会の開催 ・盆踊りの夕べの開催



中の町校区盆踊りの夕べ



クラブ指導

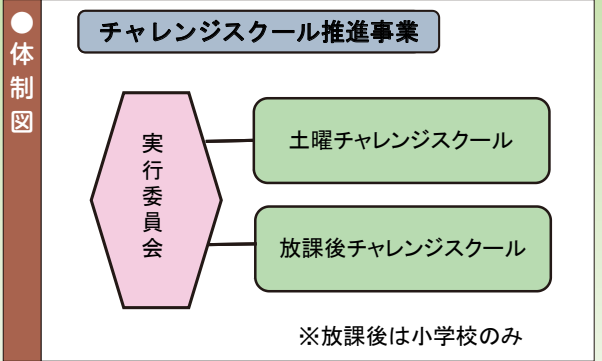
ポイント

交通安全指導、環境美化、平和学習等、多岐にわたるボランティア活動を推進するために、コーディネーターが老人会や自治会に出席し、ボランティアの心得等を説明しているのが良いですね。

地域で子供たちの学習をサポートしています

埼玉県さいたま市	● 活動名	● 関係する学校名
	上チャレ	さいたま市立上大久保中学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	15 学級	生徒数	550 人
主な実施形式	■個別指導	■授業形式	■自習	生徒の参加人数	平均人数
	■グループ学習	■その他（検定試験の実施）			
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	実施場所	施設名：中学校 実施場所：視聴覚室、図書室等
	0 人	1 人			
ボランティアの数	登録人数	属性	元 PTA 役員、PTA、元教員、シルバーバンク、大学生、卒業生、参加生徒保護者、地域住民等		
	60 人				
参考 URL					



● 連絡先 さいたま市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課 ☎ 048-829-1703

● 活動の概要・経緯

上大久保中学校の希望する生徒一人ひとりの基礎学力の向上や学習習慣の定着を図るため、平成 24 年度に地域諸団体の有志が集まり、実行委員会を立ち上げ活動がスタートした。隔週土曜日や部活動のない放課後に、地域の元教員、現役講師、教員志望の学生等が生徒の学習をサポートし、地域ボランティア、PTA を中心とした安全管理員が見守りなどの補助をしている。学力の向上のみならず、地域の大人との交流の中で幅広い知識や豊かな学びを得るきっかけにもなり、平成 29 年度で 6 年目を迎える現在、登録生徒は全校生徒の 20% を超えている。本取組は個々の生徒の目的に応じて参加できる学びの場として、上大久保中学校地域において、なくてはならない存在となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

①学習のサポート：教科ごとに分かれて生徒が学習を進め、学習アドバイザーが巡回しながら質問に応じている。また学習プリントを活用して、答え合わせ、解説を行い、生徒が間違えた部分、わからなかった部分を理解できるまで学習アドバイザーがサポートしている。②検定試験の実施：土曜又は平日の放課後、年間で漢字検定試験 3 回、数学検定試験 2 回を実施。試験対策として、過去問題の活用や、受検対象に模擬試験も実施している。③体験学習：毎年年度当初に消防署より講師を招き救命講習会を行っている。全スタッフと希望生徒が参加。

【実施にあたっての工夫】

①スタッフ同士の報告・連絡・相談を逐一行い、生徒一人ひとりに目が行き届くよう工夫している。質問することが苦手な生徒や集中力が続かない生徒に対しては、安全管理員が声掛けをしたり、学習アドバイザーに繋げたりすることで学習が円滑にでき、集中して学習に取り組める環境を整えている。最低でも生徒 4 名につき学習アドバイザーを 1 名付けるようボランティアを確保し、配置している。学習プリントの結果をスタッフ間で共有し、学習のつまづきを確実にフォローできるようにしている。②施錠開錠の確認、名札の着用、生徒の健康チェック等、安全対策を徹底している。③生徒の様子や校内の使用状況等について学校と連絡を取り、情報を共有し連携体制を構築している。

● 事業を実施しての効果・成果

①学習サポートや学習プリントの活用により、個々の学習状況やつまづきを発見でき、苦手分野を克服できたという生徒の声が多くある。学習を通じて、地域の大人と会話し交流することにより、社会性が生まれ、学びの視野も広がっている。また、塾に行っていない生徒やもっと学びを深めたい生徒の学びの拠り所ともなっている。②検定試験では、確実な目標設定ができ、校内で受検できる利便性もあり、受検生徒が年々増加している。回を重ねるごとに全体的な受検級のレベルが上がり、漢字検定試験 2 級、数学検定試験 2 級の合格者も出てきた。③体験学習の中でも特に毎年開催している救命講習会は、安全管理体制の確立や生徒自身の安全に対する意識の向上に効果をもたらしている。

● その他

- ・（公財）日本漢字能力検定協会、（公財）日本数学検定協会と連携し、学習教材の活用や、検定試験を行っている。
- ・市消防局と連携して毎年救命講習を実施し、安全管理体制の確立、参加者の安全意識の向上を図っている。



上チャレ 開講式の様子



学習中の様子と救命講習会



ポイント

生徒一人ひとりに目を配ってつまづきをフォローし、地域のスタッフ同士や学校との情報共有・相談を密に行っている点が素晴らしいですね。

タブレット端末を活用した放課後学習教室 ～学校・地域協働の学力向上推進～

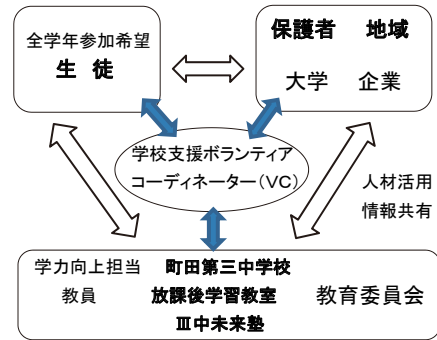
東京都町田市

● 活動名
町田第三中学校「Ⅲ中未来塾」

● 関係する学校名
町田市立町田第三中学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	12 学級	生徒数	414 人
主な実施形式	<input checked="" type="checkbox"/> 個別指導 <input type="checkbox"/> 授業形式 <input type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			生徒の参加人数	平均人数
					22 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	実施場所	施設名：中学校 実施場所：学習室
ボランティアの数	登録人数	属性	保護者、大学生、地域協力者、元教員		
	28 人				
参考 URL	http://www.machida-ky.ed.jp/j-machida3/				

● 体制図



● 連絡先 町田市立町田第三中学校 ☎ 042-722-6095

● 活動の概要・経緯
従来から、少人数の生徒を対象に不定期に実施されていた放課後学習教室は、平成 28 年度のタブレット端末導入を機に、全学年の希望生徒を対象に、平日の放課後毎日開催することとした。その結果、参加生徒が一日平均 22 名と大幅に増加したことに伴い、学習支援員及び生徒の出欠や機器貸し出しを行う学習ボランティアを、地域学校協働活動推進員（学校支援ボランティアコーディネーター [VC]）が多数募集し、配置した。文部科学省の地域未来塾として発足後、地域人材の発掘に VC が尽力し、現在安定した運営が行われている。特に定期考査前には、未来塾に登録していない生徒も、未来塾生とともに積極的に自習を行い、学力向上に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

放課後学習教室に、タブレット端末を使用していることで、生徒が積極的に応募しており、明るい雰囲気でも前向きに取り組んでいる。特に、タブレット端末には、ベネッセが開発した学習ソフトが入っており、そのソフトには、小学校の学習内容も含まれていることから、各生徒が、既習事項で分からなくなっているところまで立ち戻り、各自のペースで学習できることが最大の特徴である。生徒の出欠確認や機器の貸し出し等については、保護者や地域の方のボランティアで行っている。実際の学習指導は、地域の教育関係者（元教員や塾講師等）や大学生が行っている。VC は、近隣の大学に連絡したり、卒業生の保護者へ連絡したりするなど地域人材の確保に努めている。

【実施にあたっての工夫】

実施教科は、基本的には、国語・社会・数学・理科・英語で、タブレット端末の学習ソフトを活用している。しかし、タブレット端末は 20 台と限られているため、参加人数の多い曜日では、時間を分けて持参してきたワークや宿題を行うことも推奨している。実施は、月曜日から金曜日の放課後 75 分間としており、全学年の生徒から希望を募り、随時募集している。各曜日の参加人数にばらつきがあるため、VC には、参加人数の多い曜日への学習ボランティアを多く配置することを依頼しており、生徒の学習効果を高めるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

人材確保だけではなく、ボランティアの登録や登録後の事務手続き等、VC の継続的な関わりが、教職員の負担軽減につながっている。また、ボランティア活動の改善点や要望なども、VC が聞き取り、その内容を、教職員で共有することで、より良い学習環境を整えることができている。Ⅲ中未来塾に参加している生徒の声「タブレットを使った学習は分かりやすく、楽しく勉強ができる。書き直しが簡単で、紙のドリルより勉強しやすい。」「小学校の勉強も復習でき、苦手なところを克服できた。」保護者の声「タブレットを使用した学習に参加させたい。」ボランティアの声「真面目に学習しており、生徒の意欲が感じられる。」

● その他

企業との連携・・・株式会社ベネッセコーポレーション 学習ソフト「未来シード」をタブレット端末にインストールしており、ソフトの操作・活用方法を共有している。／ICT 活用・・・学習形態は、タブレット端末にインストールされている学習ソフトを活用し、各自の学習進度に応じて学習を進めている。また、各自の学習の記録が個別にサーバに保存されるため、1 人 1 人の学習状況を把握することが容易にできる。



タブレットでの解法を学習ボランティアが丁寧に補足説明。



小学生が未来塾体験。中学生ボランティアも大活躍。

ポイント

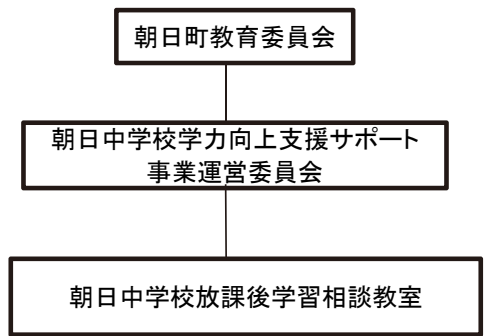
タブレット端末を使用して学校の授業とは違う学習方法で取り組んでいる好事例です。小学校の振り返りも含めた個別の進度に合わせた学習を展開したり、学習記録の保存や把握をしたりしている点が素晴らしいです。

生徒と学習支援員が互いに学び合う場

富山県朝日町	● 活動名	● 関係する学校名
	朝日中学校放課後学習相談教室	朝日町立朝日中学校

開始年度	平成 16 年度	学級数	10 学級	生徒数	264 人
主な実施形式	<input type="checkbox"/> 個別指導 <input type="checkbox"/> 授業形式 <input checked="" type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			生徒の参加人数	平均人数
					30 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：中学校 実施場所：3 学年教室
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性			
参考 URL	朝日中学校 HP http://www.asahi-j.tym.ed.jp/torikumi/gakuryokukoujousien/ 朝日町役場 HP http://www.town.asahi.toyama.jp/soshiki/kyoiku/1500516592923.html				

● 体制図



● 連絡先 富山県朝日町教育委員会 ☎ 0765-83-1100

● 活動の概要・経緯

平成 16 年度に文部科学省学力向上支援事業研究協力校として事業を開始し、平成 18 年度からは町指定事業として、平成 28 年度からは地域未来塾として今日まで継続している。

放課後に、学習相談をはじめとした生徒へのきめ細かな指導を一層充実させ、学習上のつますきの解消や学習意欲の向上を図っている。

希望する中学 3 年生を対象に放課後に自主学習形式の学習の場を設け、学習支援員として委嘱している教員志望の大学生が、理解できない課題について生徒に指導助言を行っている。平成 28 年度からは町内外の教員 OB も学習支援員として委嘱している。

地域未来塾

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

部活動を引退した 3 年生の希望者を対象として放課後に自主学習の場を設け、教員志望の大学生や教員 OB が学習支援員として、生徒からの質問に指導・助言を行っている。生徒は疑問を一つ一つ解消しながら自分の立てた計画に基づいて学習を進めることができるため、自分のペースで着実に学力を高めることができる。

事業開始当初から教員を志望する大学生が学習支援に当たっており、複数年に渡って学習支援に携わった学生も少なくない。また、新たに学習支援に加わる学生は、前任者から本事業の概要についてレクチャーを受けている場合が多い。このことは、学習支援にあたる学生たちが本校の生徒の実態を理解し、個に応じた、きめ細かな学習支援を行うことができる要因となっている。また、生徒たちにとっては年齢が近い「先生」であり、些細な躰きも気軽に質問することができることから、学習成果も上がっている。

【実施にあたっての工夫】

学習内容の理解度に個人差の大きい英語・数学の 2 教科を中心に支援している。教科を絞ることで、学生の教材研究に係る負担を軽減するとともに、生徒の様々な質問に対応するための準備時間を確保できるように配慮している。

朝日町は富山県の東端に位置しており、大学が多くある富山市からは電車や車で 1 時間程度かかるため、大学生学習支援員の確保が容易ではない。このことから、より多くの大学生学習支援員を確保するため交通費を支給している。

● 事業を実施しての効果・成果

生徒一人一人が集中して各自の課題に取り組む中で、疑問があれば適宜学習支援員の助言を受けることができるため、自分のペースで学習を進めることができ、着実な学力の向上につながっている。また、同級生と一緒に学習することで、互いに切磋琢磨し、共に受験に立ち向かう気運が醸成されている。

教員志望の大学生学習支援員にとっては、学習指導の経験を積むことができると共に、教員 OB の指導を間近で体感できるため、良い経験となっている。



大学生学習支援員による学習支援



教員 OB 学習支援員による学習支援

ポイント

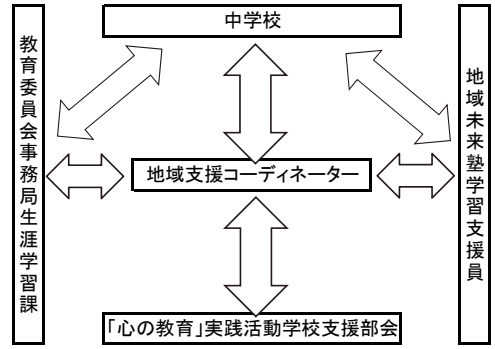
教員志望の学生と教員 OB とが関わることで、生徒にとっては身近なモデルに出会える場となり、学生にとっては教員の大先輩の指導を間近で体験できる場ともなっています。世代間の好循環につながっていますね。

地域の支えでつながる子供 ～桃映中学校地域未来塾～

京都府福知山市	● 活動名	● 関係する学校名
	桃映中学校地域未来塾	福知山市立桃映中学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	9 学級	生徒数	215 人
主な実施形式	<input checked="" type="checkbox"/> 個別指導 <input type="checkbox"/> 授業形式 <input type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			生徒の参加人数	平均人数
					16 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	実施場所	施設名：中学校 実施場所：図書室
	0 人		1 人		
ボランティアの数	登録人数	属性	地域住民等		
	12 人				
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先	福知山市教育委員会事務局生涯学習課	☎ 0773-22-9552
-------	-------------------	----------------

● 活動の概要・経緯
平成 27 年度から「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」を受けて、地域未来塾を開設。学習の遅れがちな生徒に対して、地域住民のボランティアによる学習支援を行う。
開設当初から、校内図書室を利用し、3年生のクラブ活動終了後の9月より、1週間に2回実施されている。29年度で3年目を迎える。生徒の出席率も高く、地域の方、生徒ともに意識が高い取組が維持されている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

桃映中学校3年生の希望者を対象とし、9月後半から2月にかけて、週2回、放課後1時間程度、桃映中学校の図書室で、数学と英語の問題集等を使った学習支援を実施。地域支援コーディネーターと学習支援員は、教員OBや民生委員など。

地域住民の学習支援員に向けた事前学習会を実施している。

学習時間中は、全員が同じ方向を向き学習することで、集中して学習ができる環境をつくっている。

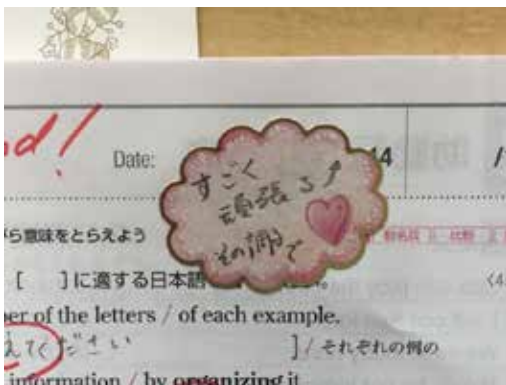
【実施にあたっての工夫】

地域の方が、学校と連携して、地域の子供の成長を支えることを目的としている。学習支援員は生徒の心に寄り添って、学習教科以外のことについての会話も大切にしており、問題集の採点の際に応援コメントをつけたり、校外で会った時に声をかけるなどの交流も図っている。

学校としても、生徒から学習支援員への言葉をつづった地域未来塾の日誌や学校行事への招待など、生徒と学習支援員との良好な関係づくりを重視して取り組んでいる。また、学習習慣が身につけていない生徒のうち、特に個別の支援が必要な生徒については教員が対応し、それ以外の生徒を地域住民が支援するなど、学校の指導と連携した形で実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の方の支援を受けることで、学校としても生徒へのきめ細やかな対応が可能となり、進路指導の充実につながった。
- 地域の大人が関わることで、教室とは別の安心して学習できる場を提供すると共に、自尊感情や思いやりの心を育み、地域とのつながりを持つ機会を提供することができた。生徒にとって、学習意欲の向上だけでなく、基本的な規範意識を身につけるための一助となった。
- 地域の大人が地域の子供を育む機会を提供することは、地域社会を活性化する上でも有益である。



採点一言応援コメント



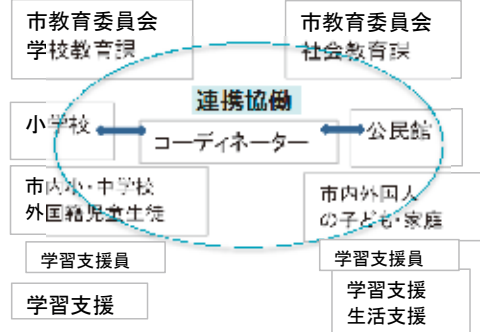
地域未来塾の様子

西条市に住む外国の子供たちの学びを支える「さくら塾」

愛媛県西条市	● 活動名	● 関係する学校名
	地域未来塾「さくら塾」	西条市立西条北中学校、西条市立東予東中学校、西条市立西条小学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	23 学級	生徒数	540 人
主な実施形式	<input checked="" type="checkbox"/> 個別指導 <input type="checkbox"/> 授業形式 <input type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()			生徒の参加人数	平均人数
					6 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	実施場所	施設名：西条公民館 実施場所：西条公民館
	3 人	1 人	1 人		
ボランティアの数	登録人数		属性	日本語サークル（海外体験者、教員 OB）	
	2 人				
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 西条市教育委員会社会教育課 ☎ 0897-56-5151

- 活動の概要・経緯
- 海外経験者が日本語指導法について勉強し、ボランティアで外国人子女の日本語や生活指導を行っていたところ、小学校から公民館に外国籍児童の支援についての相談があった。それを受けて、公民館でボランティアサークル「さくら日本語の会」として支援が始まったのが約 15 年前。並行して放課後子ども教室でも「国際交流いっしょにあそび」や「学習支援」の内容で活動していたが、平成 28 年度から学習支援を目的とした「地域未来塾さくら塾」として活動を開始した。
 - 小学校での授業支援に加え、毎週水曜日の放課後に、公民館でフィリピン等 5 か国、約 10 名の児童・生徒に日本語や宿題等の学習支援や学習相談を行っている。また、家庭に対しては生活全般の相談支援、地域交流を行っている。

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】
- 外国人児童・生徒の日本語支援：毎週水曜の放課後、公民館で日本語に不慣れな児童・生徒一人ひとりに学習支援員が対応する形で、宿題や予習復習の学習支援を行う。高校入試に向けた支援も特別に行い、実力がついた。
 - 基本習慣を身に付ける：挨拶、掃除などの基本的な生活習慣や躰が身に付くように、勉強の前後等で指導している。
 - 保護者への日本語支援や学校からの通信文の説明：制服や体操服の衣替えのことや、修学旅行、運動会、遠足、懇談会などの行事説明や対応の仕方、病院紹介、校納金の自動支払い等通帳作成や手続きの仕方等の支援も行っている。
- 【実施にあたっての工夫】
- 対面ではなく、児童・生徒一人ひとりの横に寄り添って座り、分からないところ、困っているところの指導をしている。
 - 言葉による意思疎通が全くできないレベルでは、絵カードによる挨拶から始めて信頼関係を築き、手作り教材で指導している。
 - 分からないところを「分かる日本語」で指導することを心がけており、九九、漢字、音読の習得、理解を助ける教員教材の開拓など様々な方法で指導し、14 年間の蓄積ができた。
 - 教室内だけでなく、館内清掃、家族参加のカレーパーティ、文化祭でのさくらカフェ出店など、地域との交流を図り、信頼関係や人間関係が構築できるような取組も行っている。
 - 学習指導要領に基づいた指導になるよう、学校と連携して指導に当たっている。
 - 日本語指導法の研修に努めたり、模擬授業で指導力の向上を図ったりしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 国際交流や公民館活動等への参加により、外国籍児童の活躍の場が広がり、自信をもって行動できるようになってきた。
- 日本語の理解が進むにつれ、学校が楽しくなってきたり、友達が増えたりして、大きな声や笑顔いっぱいの学校生活が送れるようになってきている。
- 地域との交流で、外国籍児童・生徒を温かく見守ろうとしている地域の方々が増えてきている。保護者も、「公民館」という施設で地域の人々が温かく接してくれることに感動している。
- 支援を受けた外国籍児童の保護者が、今度はスタッフとして活動を支援している。
- 言葉の理解、学力の定着、信頼関係の深まりなどから、学習意欲や表現力の向上が見られ、学校生活や社会生活に安定感が感じられる。

● その他

- で「さくら塾」の支援を知り、西条小学校を選んできた家族があった。
- 国籍の異なる外国籍児童が、週 1 回集まって勉強することを何よりも楽しみにしている。
- 「言葉にはできない外国籍児童の共通の思い」でつながっていると察することができる。
- 教育委員会から企業に日本語指導拠点校を案内し、学校、行政、企業、地域が一体となって教育支援をしている。



水曜日学校帰りの学習風景
集う楽しさ！わかる喜び！



西条校区文化祭「さくらカフェ」
「地域のみなさん、こんにちは」
は！声も弾み、地域と交流

ポイント

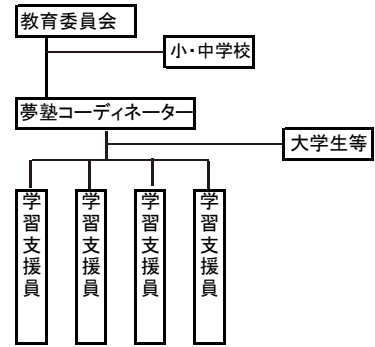
日本語に不慣れな外国人の子供たちに対して、学習と生活文化の両面から支援し、地域交流も積極的に行っている点が素晴らしいです。

夢の実現にむけて仲間と努力する「うぶやま夢塾」

熊本県産山村	● 活動名	● 関係する学校名
	うぶやま夢塾	産山村立産山中学校、産山村立産山小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	3 学級	生徒数	33 人
主な実施形式	<input checked="" type="checkbox"/> 個別指導 <input checked="" type="checkbox"/> 授業形式 <input checked="" type="checkbox"/> 自習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input type="checkbox"/> その他 ()	生徒の参加人数	平均人数	20 人	
	統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人 地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人 実施場所	施設名：中学校 実施場所：教室等	
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性			
参考 URL	http://www.ubuyama-v.jp/2017/12/22/				

● 体制図



● 連絡先 産山村教育委員会 ☎ 0967-25-2214

● 活動の概要・経緯
 「産山で教育を受けて良かったと実感できる教育の創造」をテーマに、将来、村の豊かな発展に寄与し、あるいは広く国際社会で活躍する有為な人材に育ってほしいという願いのもと、平成 19 年度から産山村教育改革を始めた。その中で、学力の定着がみられるものの、家庭での自力学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていなかったりする小中学生等へ学習機会を提供するため、平成 26 年度試行（村単独予算）、27 年度から「うぶやま夢塾」を設置し、小中学生等の学力及び地域の教育力の向上を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

土曜日の子供たちの体験活動「わいわいヒゴタイ土曜塾」において、平成 26 年度事業で大学生（尚綱大生、下関市立大生）を講師に学習塾を実施したのが「うぶやま夢塾」の前身であり、翌 27 年度から地域未来塾として本格的にスタートした。日常的には、教育委員会の指導主事が中心になって学習支援に当たっているが、夏休みから後期にかけて下関市立大学生による学習支援を受け入れ（村内の宿泊施設を利用し、3 週間程度滞在）、講師として指導してもらっている。個別学習が主で、基礎基本の定着を図るようにしている。その際、学校内の施設を使用することで、勤務中の教員が活動のサポートをしたり、教材内容について各学年に合ったものを相談したりして、より成果が上がるよう配慮している。また、中学生には、高校入試の模擬試験を受ける機会もつづけている。

【実施にあたっての工夫】

指導者確保の面では、なかなか指導できる方が村内で見つからず、大学生の学習支援実習期間を利用している。また、内容的な面として、村内には塾がないので、中学生を対象に実施する模擬試験は、自分の実力を試す場となり、将来の進路について考える機会とするようにしている。さらに、学習の解説などについては、大型の電子黒板等の ICT 機器を使って行うことで、より効果的に理解を深め受験に向けた学習にもつなげている。また 26 年度に発刊した「産山村 家庭学習の手引き」（村内全世帯）を活用して、家庭での自主学習に結びつくよう「0 歳からの育ちをつなぐ一貫教育」を目指している。

● 事業を実施しての効果・成果

長期休業中は、学校から出された学習課題をまずやり遂げることを目的に自主学習を中心に取り組んだ。そして、分からないことや質問があれば学習支援員や大学生がサポートを行うという体制で行った。家庭での自力学習が困難な児童生徒、学ぶ習慣が身に付いていない児童生徒にとっては特に効果的であった。長期休業期間に「うぶやま夢塾」で学習時間を確保し、メリハリを持って過ごしたことで、基本的な生活習慣を身につけさせることができ、長期休業明けの学校生活めもスムーズに移行することができた。また大学生が提案し、授業を行うなど継続して関係を築くことで、双方向の効果が生まれている。



夏休みの大学生による指導



電子黒板を使った解説

ポイント

村内の自然豊かな宿泊施設に、村外の大学生を招いて学習支援実習を行うなど、地域資源と外部資源を効果的に取り入れた実践です。

学校・家庭・地域の連携による子供が安心して過ごせる居場所づくり

宮城県仙台市	● 活動名	● 関係する学校名
	東四かにつこ放課後子ども教室	仙台市立東四郎丸小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	14 学級	生徒数	274 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 20 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	実施場所	施設名: 小学校 実施場所: 特別教室
ボランティアの数	登録人数 14 人	属性	大学生、NPO、地域住民等		学習活動の有無 有
参考 URL	http://www.sendai-c.ed.jp/~touyonn/				

● 体制図



● 連絡先 仙台市立東四郎丸小学校 ☎ 022-242-3155

● 活動の概要・経緯

平成 21 年度より仙台市放課後子ども教室事業として活動を始め、平成 29 年度で 9 年目を迎える。小学 2～5 年生を対象とし、月・水曜日の平日の活動が中心で、月 1 回土曜日に児童館と連携した活動を行っている。平成 28 年度は開設 87 日、延べ 1,708 人の児童が活動に参加し、延べ 302 人がコーディネーター・安全指導員として運営にあたった。活動内容は自由遊びと学習支援が中心であるが、地域ボランティアによる英語学習や読み聞かせ等も定期的に行っている。土曜日の活動では、登録児童以外も参加できる季節行事等を行っており、多くの保護者や地域住民がボランティアとして関わっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 地域の高齢者や大学生のボランティア参加による多世代間交流
- ・ 月 1 回土曜日の東四郎丸児童館とのコラボ活動
- ・ 防災マップ作り、防災読み聞かせ、東中田復興プロジェクトなど、防災意識を高める活動の推進

【実施にあたっての工夫】

- ・ 児童が意欲的に自主学習を進められるように、個に応じた声掛けを心がけている。
- ・ 様々な地域団体との連携に努め、多世代間や地域間交流を推進している。
- ・ 個別に配慮を要する児童に対して、スタッフ間で情報を共有しながら、丁寧に活動を支援している。
- ・ 月 1 回土曜日に東四郎丸児童館と連携し、様々な遊びと学びの場を提供している。
- ・ 海岸に近い校区であることから、日頃から防災教育を意識した声掛けや活動を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 様々な地域団体と連携しながら事業を実施することにより、安全で安心な「子どもの居場所」づくりを進めるとともに、参加する大人にとっても学びの場となっている。
- ・ 地域で子供を育てるネットワークづくりを意識した取組は、仙台市放課後子ども教室事業全体の発展に貢献している。
- ・ 地域に根ざした活動を継続発展させることで、地域の課題である地域で子供を育てる気運や防災意識を高めるきっかけ作りとなっている。



自主学習が終わってから
みんなで遊びます



児童館の友達と一緒に踊る
ダンスの練習をしています

ポイント

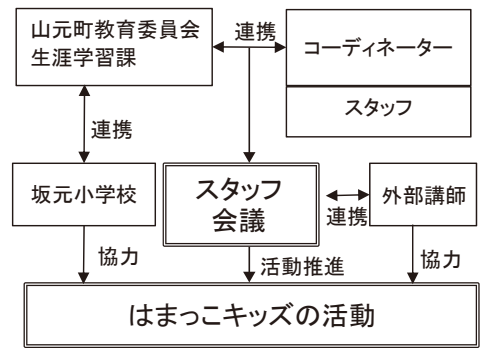
丁寧な学習支援と防災意識を高める取組を行っています。スタッフ同士やボランティア同士のコミュニケーションにより、子供たちに温かい場を作っていることが素晴らしいと感じました。

放課後の児童の活動支援と居場所づくりです。

宮城県山元町	● 活動名	● 関係する学校名
	放課後子ども教室「はまっこキッズ」	山元町立坂元小学校

開始年度	平成 17 年度	学級数	8 学級	生徒数	100 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input checked="" type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 18 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：視聴覚室・体育館 等
ボランティアの数	登録人数 13 人	属性	地域住民	学習活動の有無	有
参考 URL	http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/kosodate/2670.html				

● 体制図



● 連絡先 山元町教育委員会生涯学習課 ☎ 0223-37-5116

● 活動の概要・経緯
平成 17 年度、放課後児童クラブのなかった中浜小学校を活動場所として、生涯学習課が主導し、放課後子ども教室「はまっこキッズ」を開設した。地域のボランティアをスタッフとして、生涯学習課、学校と相談しながら計画を立て活動をしてきたが、平成 23 年 3 月の東日本大震災で中浜小学校は甚大な被害を受けたため、近隣の坂元小学校との併設状態となった。その後、平成 25 年 4 月には中浜小学校と坂元小学校が統合する。併設の期間、統合後も坂元小学校を活動場所として事業を継続実施し、今日に至っている。はまっこキッズで児童と関わることで、震災後の地域コミュニティ再編につながっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ① コーディネーターを中心としてスタッフの創意工夫を生かしながら企画と運営を進めている。
- ② スタッフや地域ボランティアの特技を生かしたり、スタッフが連携したりしながら活動を推進している。
- ③ 地域の産業、地域の伝統芸能、地域サークル活動などの地域素材に児童が触れ、体験できる活動を実施している。
- ④ 近隣小学校で実施している放課後子ども教室スタッフとの情報交換、合同での研修等、協力体制を築いている。
- ⑤ 長期休業中の特別開催として、近隣教室と合同で「夏休み親子クッキング教室」を開催している。
- ⑥ 坂元小学校各教室、近隣公会堂、外部協力者農園等、内容に合わせて活動場所を工夫している。

【実施にあたっての工夫】

- ① コーディネーターと生涯学習課の協議を基におおよその活動計画を立案し、スタッフ会議を開くようにしている。
- ② 地域素材を活用することで、児童が地域の良さに気付くことができるよう配慮している。
- ③ 2 か月単位の活動計画を立て予定表を配布することで、参加児童、スタッフ、学校に見通しをもってもらうようにしている。
- ④ 活動開始前にスタッフミーティングを行うことで、活動が円滑かつ安全に進めることができるように配慮している。
- ⑤ 活動開始時に放課後子ども教室の約束を確認することで、ルールを守り楽しく活動することの大切さを教えている。
- ⑥ 放課後児童クラブと連携することで、両方に登録している児童の放課後活動の様子を把握するようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ① 放課後子ども教室を休む児童が少ないことや「今日は何をするの?」と尋ねる姿から、児童が活動を心待ちにしていることがわかる。
- ② 児童がスタッフと進んで関わることで、地域の方々とコミュニケーションをとることが上手になった。
- ③ 児童の満足感がスタッフに伝わることで、スタッフのやりがいと次の活動への意欲の高まりへとつながった。
- ④ 震災直後は大きく深い悲しみの中で生活だったが、児童や地域の方々の明るさが生まれ、コミュニティの再編につながった。
- ⑤ 児童が地域素材や伝統芸能に触れる貴重な機会となっている。

● その後

学習支援の内容は、児童の自主学习、プリント学習等の取組内容確認、つますきへの対応が主な内容である。



日本の伝統楽器「大正琴」に挑戦



「夏休み親子クッキング教室」で楽しく料理

ポイント

放課後子供教室が震災後の地域のコミュニティ再編に結び付いたのは本当に素晴らしく、地域で子供を育てることが、地域を育てることにもなっていることを証明する好事例だと感じます。

武家屋敷を活用し地域全体で子供たちに「学び・体験・交流」の機会を提供

山形県上市市	● 活動名	● 関係する学校名
	かみのやま寺子屋	上市市立上山小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	16 学級	生徒数	393 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	<input checked="" type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 武家屋敷 (旧曾我部家)		連携なし	子供の参加人数
平均人数	20 人				
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 武家屋敷 (旧曾我部家)、小学校 実施場所: 武家屋敷 (旧曾我部家)、体育館
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 上市市教育委員会 生涯学習課 ☎ 023-672-1111

● 活動の概要・経緯
市の指定文化財である武家屋敷 (旧曾我部家) の活用と子供たちが放課後等に安心して過ごせる拠点づくりとして立ち上がった。体験交流、運動体験、学習支援の3つのプログラムからなり、市教育委員会の生涯学習課、スポーツ振興課、学校教育課の3課がそれぞれのプログラムの実施に携わっている。児童の参加は登録制で、学校がある平日の放課後は毎日開催し、日替わりのプログラムを行い、週末や長期休暇の際は「週末寺子屋」として、ザリガニ釣りや調理体験など、長時間に及ぶ特別プログラムを行っている。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

体験交流プログラムでは、地元地区会や武家屋敷を活用している文化活動団体等に講師を依頼し、昔遊びや上山藩鼓笛楽、琴や尺八などの伝統芸能、とんと昔話など多様な体験活動に取り組んでいる。また、地元高校と連携し、高校生と交流を図りながら農作物の収穫や収穫物を使った調理体験にも取り組んでいる。

運動体験プログラムは地域のNPO法人「かみのやまスポーツクラブ」に依頼し、ニュースポーツ等に取り組んでいる。

学習支援プログラムでは教員OBや教員を目指す大学生による自学自習のサポートを行っている。

【実施にあたっての工夫】

「地域の子供は地域で育てる」という当事者意識を醸成するため、基本的に地域で活動している方をプログラムの講師として迎えている。また、児童の安全面に配慮するとともに、なるべく多くの大人と交流する機会を創出するため、学区内の地域の方に子供たちの見守りをお願いしている。

円滑に運営するために、小学校長や児童クラブの関係者を運営委員に委嘱するとともに、必要に応じてコーディネーターが子供の様子について情報交換をするなど、学校、放課後児童クラブとの連携も図りながら進めている。

プログラムの充実と持続可能な運営を目的に、総合型地域スポーツクラブや高校とも連携し事業を実施している。活動内容については、それぞれの専門性を生かしながら、ねらいに即した活動を実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

地域の方が地域の子供たちの教育に関わる機会の創出になっている。また、日常的に挨拶を交わすようになるなど、住民の方と子供の顔の見える関係が築かれてきている。

武家屋敷を活用した様々な体験を通して、子供たちの興味・関心が広がっている。また、地域に根付く伝統文化に触れるきっかけにもなり、実際に団体に加入する子が見られるなど、文化の継承にも繋がっている。

時間の使い方にメリハリができたり、先を見て考える力が育ったりするなど、子供たちの普通の生活にも生きている。また、本事業を話題に会話が增えるなど、家族間の絆づくりにも繋がっている。



体験交流 (伝統文化体験・琴)



体験交流 (高校生との収穫体験)

ポイント

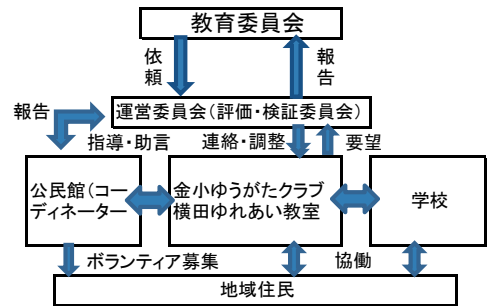
武家屋敷を活用した学習支援や様々なプログラムを行う姿はまさに「現代の寺子屋」。子供たちにとって、きっと心に残る風景になっていると思います。ずっと続いてほしい取組です。

地域を大切にする心を育てる楽しい居場所 —町の伝統芸能・文化を通して—

福島県金山町	● 活動名	● 関係する学校名
	金小ゆうがたクラブ	金山町立金山小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	3 学級	生徒数	24 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 町に児童クラブがなく、その役割もなっている。	連携なし	子供の参加人数	10 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 金山町開発センター 実施場所: ホール他
ボランティアの数	登録人数 4 人	属性	地域住民	学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 金山町教育委員会 ☎ 0241-54-5360

● 活動の概要・経緯
放課後子ども教室は、地域の大人との交流を通じて子供の成長と地域教育力を向上させることを目的としている。「金小ゆうがたクラブ」は、放課後の子供たちの安心・安全な居場所作りとして開催され10年目を迎えた。地域のニーズを受けて、登録した子供たちのための居場所として月～金まで毎日開催している。火・金曜日は子供たちの学習支援として、登録児童のみならず金山小の児童の全てを受け入れている。さらに、隔週で地域に伝わる季節の行事や伝統芸能、又は料理づくりなど様々な体験活動を通して、郷土愛、豊かなこころの育成を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「金小ゆうがたクラブ」では、できるだけ学校で体験することが出来ない活動を主に活動内容を決定している。例えば、地域のボランティアの方を講師に招いた伝統行事や伝統文化・芸能体験では、郷土理解はもちろん、異世代間交流を図ることで豊かなこころの育成を図っている。年に4～5回実施している料理体験では、伝統料理である「笹巻きづくり」や「草だんごづくり」、クリスマスには「手作り簡単ケーキ」など手軽に出来る料理に挑戦している。また、昨年度からは、地域の企業の方を講師に迎え、本棚づくりなどの木工体験活動や、野尻川漁業協同組合の方からアユの放流の話の聞いたり、川の生き物調べたりするなど、地域の教材、地域の人材を活用した活動を、子供たちと一緒に考えながら新たに取り入れている。

【実施にあたっての工夫】

放課後子ども教室では、宿題を終わらせてから自由遊びや様々な体験活動に取り組むという流れで運営している。この流れは、既に子供たちに浸透しており、低学年の子供の宿題を高学年の子供が教える姿も見られる。また、隔週で実施しているイベントは、異学年の子供たちが楽しい時間を過ごすことができ、イベントの内容がマンネリ化しないよう工夫している。その他、秋に開催される地区の文化祭では子ども教室の体験活動で制作した作品を展示し、学習の成果を地域住民に広く発表する場の確保に努めている。小規模学校でもあるため、低学年の子供たちの面倒を高学年の子供たちが見てくれるというとても良い流れが出来ている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 全体の児童数が減少する中で、参加者数、参加率を見るとほぼ横ばい状態が続いており、活動内容の工夫等により、放課後子ども教室が子供たちにとって安心・安全で楽しい場になっていると考えられる。
- ・ 数多くの地域住民に講師やボランティアとして参加してもらうことで、昔話、昔あそび、伝統行事等の体験活動を通して異世代間交流が盛んに行われ、子供たちの郷土愛、思いやりの心、規範意識等の育成に大きく寄与している。
- ・ 金小ゆうがたクラブの活動については、通信や町民だよりに掲載して広くPRしており、このことで地域の子供たちは、地域全体で育てていこうという意識が高まり、地域教育力の向上、地域の活性化につながっている。



「本棚作り」
企業の方を講師に招いて



「川の生き物の調べ」
専門家を講師に招いて

ポイント

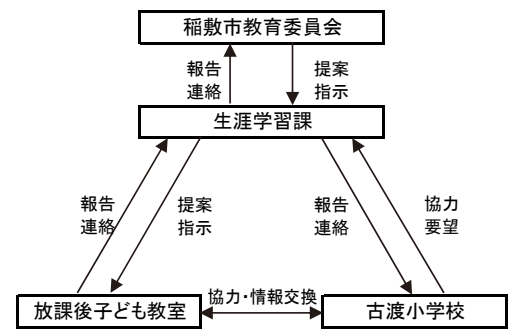
宿題→遊び・プログラムという流れが安定して行われていることが良いですね。低学年の子の宿題を高学年の子が見る姿も素敵だと思います。開催日数も多く、非常に頑張っているようですね。

安全な居場所＋安心できる下校手段 —親と子が笑顔になる放課後子ども教室—

茨城県稲敷市	● 活動名	● 関係する学校名
	古渡小学校放課後子ども教室	稲敷市立古渡小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	6 学級	生徒数	78 人
放課後児童クラブとの連携					
一 体 型	連 携 型	(連携状況) <input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 古渡小学校敷地内	連 携 な し	子 供 の 参 加 人 数	平均人数 35 人
統括的な地域 学校協働活動 推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協 働活動推進 員の数	配置人数 2 人	実施場所	施設名：古渡小学校 実施場所：校庭・体育館等
ボランティア の数	登録人数 6 人	属性	地元住民	学習活動の有無	無
参考 URL	http://www.city.inashiki.lg.jp/				

● 体制図



● 連絡先 稲敷市教育委員会 生涯学習課 ☎ 029-892-2000

● 活動の概要・経緯
「子供たちに安全で安心できる居場所を作る」を目的に、平成 19 年度にスタートした古渡小学校放課後子ども教室は、今年で 11 年目の活動を迎える。学校の協力を得て、校庭や体育館などを活動場所として、自由に過ごせる「安全な遊び場」を提供している。『子供たちの思い出に残る活動をしたい』とミニ運動会や調理教室など、様々な企画を提案してくれるスタッフは児童の保護者がほとんどである。また、下校ルートに人通りの少ない道も多いため、高学年の下校に合わせて活動を終了し、全学年で集団下校をしている。さらにスタッフも見守りに参加することで「安心できる下校手段」も同時に確保している。

放課後子ども教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・活動は月～金の週 5 回、対象は古渡小学校に在籍する全ての児童で、加入は希望制としている。
- ・晴れの日には校庭、雨の日には体育館を使用し、広い遊び場でのびのびと自由に遊ぶことが活動の主体である。
- ・月 1 回のペースで開催するイベントでは楽しく遊ぶことはもちろん、かき氷づくりやクリスマス会、凧揚げ大会等により季節感を養い、また、ボウリング大会やミニ運動会等のチーム対抗イベントでは友達と協力することの大切さを養えるように工夫をしている。
- ・下校時には、子ども教室のスタッフが見守りを実施し、安心できる下校環境を実現している。

【実施にあたっての工夫】

- ・各学期終了時期に「放課後だより」と題してお知らせを配布し、活動中の様子やイベントの内容を伝え、保護者の理解を促している。
- ・学期ごとの子ども教室活動最終日に合わせて、市内 6 校で実施している子ども教室の合同反省会を実施している。実施内容は、今学期の問題点と反省点の発表、次学期へ向けた課題と解決策の発表を実施し、議論を重ねて毎回改善点を挙げながら事業を進めている。
- ・年度当初には学校と調整し、担任の先生から児童の様子や留意すべきことを直接確認している。また、ケガや体調不良に関しては、養護教諭の先生に協力を依頼し、緊急時の連携体制の打合せを学校とスタッフを交えて実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・自由に過ごせる環境で伸び伸びと遊ぶことにより、学校生活の中でも生き生きと活動する姿がみられている。
 - ・放課後の活動であるため、家が近所の子供以外とも遊ぶことができ、広く交流を深めることができる。
 - ・異年齢の子供との交流の中で、遊びのルールを自ら考えることで創造力を養う等、多方面での学習につながっている。
 - ・高学年の児童と一緒に下校をすることで保護者の安心につながっている。
- 上記の効果に対する成果として、1～3年生までの加入率は 95.3%となっている。



鯉 Shikouvo



魚釣り大会

ポイント

活動から下校時の見守りまで丁寧に実践されていますね。安全確保の視点は保護者の目線では大変貴重なものになっていると感じます。季節のイベントや様々な活動を工夫しながら行っていることも良いですね。

豊かな体験や地域との関わりを通して、健やかな成長を地域で支援します。

群馬県みなかみ町	● 活動名	● 関係する学校名
	新治きっすくらぶ	みなかみ町立新治小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	9 学級	生徒数	196 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	●	連携状況	<input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 新治小学校(隣接)内	連携なし	子供の参加人数
統括的な地域学校協働活動推進員の数	0 人	地域学校協働活動推進員の数	3 人	実施場所	施設名: 小学校 実施場所: 食堂・校庭・体育館
ボランティアの数	登録人数 16 人	属性	地域住民、保護者	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 みなかみ町教育委員会事務局 生涯学習推進室 ☎ 0278-25-5025

- 平成 19 年に地域の各種機関・団体と幅広く連携し、支援ボランティアの協力を得て、新治子ども教室（平成 29 年度から新治きっすくらぶに名前を変更）の活動がスタートした。
- 毎週水曜日の放課後に、小学校の校舎、校庭、体育館を活動場所として、子供たちの安心・安全で楽しい居場所づくり、また地域の人々の学びを生かした豊かな体験活動の場を提供することを目的に、簡単な工作や季節の催し等のほか、そうめん流しなどのイベント的な企画を取り入れて活動を行っている。
- 新治学童クラブと連携し、一体型の活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ロケットやコマなど作って遊べる簡単な工作やボール投げ、ミニ運動会など体を使う遊びを中心に、七夕やクリスマス、ひなまつりなど季節の催し等も取り入れた多様な活動を行っている。また、そうめん流しやだんご作りなど、季節に応じたイベント的な行事も毎年実施している。
- 町の文化展や生涯学習フェスティバルに作品を出品したり、子供たちが作った七夕飾りを役場支所や交番、郵便局、商店等に展示するなど、地域全体と連携した活動を行っている。また、地域の環境保護団体や木工業者、PTA 等と連携しながら、町のユネスコエコパーク事業の一環である木育に関わる子育て支援イベント「木育キャラバン」等、子育て支援施策や交流事業に協力し、親子で楽しめる体験活動を支援し、家庭教育支援の一助となっている。
- 新治きっすくらぶの教育活動サポーターが新治小学校支援センターのコーディネーターも務め、総合的な学習や家庭科、書写の学習支援ボランティアのほか、運動会の全校踊りやスキー教室の講師などを地域の方々や保護者をお願いすることにより、充実した学校支援活動を展開している。

【実施にあたっての工夫】

- 活動後は毎回、振り返りの時間を設けて教育活動サポーターが情報交換を行っており、参加する子供に気になる言動などがあった場合には学校に伝えている。また、日常的に放課後児童クラブと情報交換を行い、子供の様子について共通理解を図っている。
- 学校、教育活動推進員、教育活動サポーター、放課後児童クラブ指導員、行政等、新治きっすくらぶの活動関係者が連携して情報交換を行い、子供たちの様子を伝えたり、学校からの要望などを聞いたりしながら、子供教室と放課後児童クラブ、学校が同一歩調で子供を育てる環境づくりに努めている。
- 新治きっすくらぶは 16 名の教育活動サポーターにより、学校や放課後児童クラブとの連絡調整、参加者募集のチラシやお便りの作成、会計事務、各種機関との連絡調整等、運営に関わる業務を分担して運営されている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校は地域の協力者や子供教室の関係者、放課後児童クラブの関係者、行政担当者との情報交換の機会を多く設けることで、よりよい信頼関係を築いている。それに伴い、学校の要望に応じて、子供たちのために協力しようという地域の方の意識が年々高まっている。
- 子供教室を通して、上の学年の子が下の学年の子の面倒を見て小さい子を優先する等、集団でのルールを守りながら活動することで、子供たちの規範意識が育ってきている。
- 地域の特性を活かした体験活動や地域の人とかかわる機会が増えたことによって、子供たちに郷土を大切にす気持ちが育ってきている。
- そうめん流し等のイベントの実施や木育キャラバンへの協力など、親子で楽しめる体験活動は家庭教育支援の一助となっている。

● その他

- みなかみユネスコエコパークに関わる町の事業の一環として、みなかみ町が、東京おもちゃ美術館（認定 NPO 法人芸術と遊び創造委員会）とウッドスタート宣言（木育推進活動宣言）を行い、子育て支援団体や木工業者などと協力しながら木育に関わる子育て支援施策や交流事業を行っている。
- 木育に関わる子育て支援イベント「木育キャラバン」では、新治きっすくらぶの教育活動サポーターが、地域の環境保護団体・赤谷プロジェクトや新治小 PTA と連携し、親子で木のおもちゃに親しむ体験活動の支援を行っている。
- 木育キャラバンへの協力に向けて、新治きっすくらぶの教育活動サポーターが、木を使ったおもちゃのインストラクター資格を取得するための講習会に参加している。



そうめん流し



生涯学習フェスティバル出品

ポイント

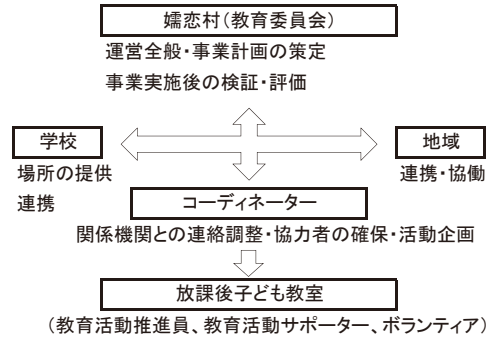
学校や学童クラブの方々や連携しながら放課後子供教室ならではの活動を実践しており、それぞれの役割が果たされていると感じました。特徴ある木育の取組も非常に秀逸であると感じます。

伝統的な文化、工作、手作りゲーム、スポーツを中心とした体験的な活動

群馬県嬭恋村	● 活動名	● 関係する学校名
	嬭恋村放課後子ども教室	嬭恋村立東部小学校、嬭恋村立西部小学校

開始年度	平成 16 年度	学級数	9 学級	生徒数	221 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input checked="" type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 43 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校、公民館 実施場所：空き教室等
ボランティアの数	登録人数 30 人	属性	元教員、地域住民等	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 嬭恋村教育委員会事務局社会教育係 ☎ 0279-80-2330

- 活動の概要・経緯
- ・嬭恋村では、平成 16 年度より「嬭恋村体験活動ボランティアセンター」を設置するとともに、「できる時に、できる人が、できることを無理なく行う」を活動方針とした子供の居場所「放課後子ども教室（ふれあい教室）」をスタートさせた。現在は村内の 2 校（東部小・西部小）で実施している。
 - ・コーディネーターを中心に行政、地域、学校が連携して様々な体験活動を子供に提供し、放課後における子供の活動の充実に努めるとともに、定期的に東部小・西部小両校の間で交流活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・地域かるたや踊り、和太鼓、生け花体験など地域の伝統や文化の継承を考えた活動を行うとともに、絵手紙や、クリスマスリースや正月飾りなどの季節に応じた物づくりを行っている。他にも、新聞紙・ビニール袋など身近なものを使った、作って遊べる・使える物作り体験など、多様な活動を展開している。
- ・地域の様々な方々に協力をお願いし、充実した体験活動を子供に提供している。
- ・体を使った遊びやスポーツ活動により、異学年交流を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・地域住民に活動ボランティアを依頼するとともに、広報活動を行っている。また、関係団体等（青少年育成推進員、婦人会、民生児童委員）と連携を図りながら、地域の特色を活かした活動を展開している。
- ・学校や放課後児童クラブと連携・調整を図りながら、活動の年間計画を作成している。
- ・定期的にコーディネーターとサポーターが会議を行い、改善点や新しいアイデアを出し合うなどにより、活動の充実を図っている。また、活動の前後にコーディネーターとサポーターが打ち合わせを行い、子供たちの様子や活動内容の反省点等の情報を共有し共通認識を持つようにしている。



和太鼓教室

● 事業を実施しての効果・成果

- ・校区内の地域や学年の枠を超えて、子供たちの幅広いつながりができている。また、異学年の子供たちや、サポーターの大人たちと関わることで、遊ぶことの楽しさや、互いに協力することの大切さなどに対する意識が高まっている。さらに、活動に参加しているサポーター自身も、子供から元気をもらっている。
- ・工作教室やお茶・お花教室、昔遊びなど、多様な体験活動を行うことで、子供たちの自主性や社会性、創造性を育てている。
- ・多くの地域住民が継続的に活動に参加し、地域との連携や理解（協力・支援）が深まっている。また、地域の特色を活かした活動を通じて、子供たちの郷土愛を育てている。



「和の心を知らう」「浴衣を着てお茶を戴く」

ポイント

村の資源である人や文化を十分に活かした取組だと思えます。異年齢での活動や東西両校の交流も行われ、放課後ならではの縦糸横糸が編み込まれていることで、温かく豊かな活動になっていると感じました。

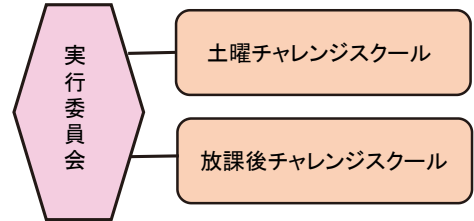
「小・中・高・地域が一体となった児童・生徒の育成」を生かしたチャレンジスクール

埼玉県さいたま市	● 活動名	● 関係する学校名
	辻小虹色チャレンジスクール	さいたま市立辻小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	19 学級	生徒数	526 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 研修室、運動場、体育館等	連携なし	子供の参加人数	平均人数 40 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：研修室、運動場、体育館等
ボランティアの数	登録人数 74 人	属性	PTA 役員、大学生、地域住民		学習活動の有無 有
参考 URL					

● 体制図

チャレンジスクール推進事業



※放課後は小学校のみ

● 連絡先 さいたま市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課 ☎ 048-829-1703

● 活動の概要・経緯
辻小学校の学区は、小学校・中学校・高等学校が隣接していることから、平成 18・19 年度「特色ある学校づくりの推進」の研究として、小・中・高の連携に取り組んでいた。それ以来 10 年以上が経過し、この間、夏休みに「おもしろサマースクール」と称して各学校の先生方や育成会そして地域・保護者の方々によって毎年 15 程度の講座を実施するようになった。このような下地があるなか、地域や保護者の方々による「辻小虹色チャレンジスクール実行委員会」が平成 23 年度に発足し、辻小虹色チャレンジスクールの実施運営を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・放課後チャレンジスクールは、毎週月曜日の放課後に実施している。1 週目は囲碁、2 週目は本の読み聞かせと工作、3 週目はスポーツ（卓球・バドミントン）、4 週目は学習を行っている。平成 28 年度は全部で 26 回実施し、40 名の子供たちが登録した。
- ・土曜チャレンジスクールは、月 2 回（第 2・第 4 土曜日）に実施している。学習サポートと、「ふれあいタイム」と称したスポーツ・集団レクレーション・その他イベント的な体験学習を行っている。平成 28 年度は全部で 12 回実施し、32 名の子供たちが登録した。

【実施にあたっての工夫】

- ・放課後チャレンジスクールの「学習の日」では、浦和南高校の高校生たちが学習アドバイザーとして勉強を教えている。さらに、浦和南高校に訪問し、生物部が飼育している小鳥・モルモット・ウサギなどの小動物と触れあう勉強をするようになり平成 29 年度で 5 年目を迎えるなど、ますます連携を深め、学習効果を高めている。
- ・土曜チャレンジスクールでは、自学自習の学習サポートや国語・算数のプリント学習や集団レク・かけっこ教室・ダンボールクラフト・人形劇・英会話・マジック教室・書道教室・パルシューレ（球を使った運動）・サイエンス教室・クリスマスカード作り・スコップ三味線・郷土カルタ大会などの多様な活動を行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・辻小学校では、育成会による「お正月遊び」「豆まき大会」「ふれあいコンサート」の開催、高校との連携では「星空観察」「サッカー教室」「卓球教室」「日本科学未来館見学」も毎年実施している。このような環境のもと、子供たちは小学校で学習する枠を越えて地域の体験活動に参加し、地域の方々からも学習することを体得している。
- ・学校と地域の連携の中で、育成会や地域の方々にはチャレンジスクールの体験活動支援を呼びかけており、育成会や地域の方々開設当初から御協力いただいている。スタッフは、子供たちが地域の方々による指導のもと、地域社会の中で心豊かで健やかに成長していく様子を見ることにとっても喜びを感じている。

● その他

ホンダ技研（株）による「ダンボールクラフト」、さいたま理科実験教室による「サイエンス教室」、さいたま市良い本を読む運動推進委員会による「本の読み聞かせ・工作」など企業や各種団体とも連携をとり、活動を充実させている。



囲碁教室の様子



人形劇の鑑賞

ポイント

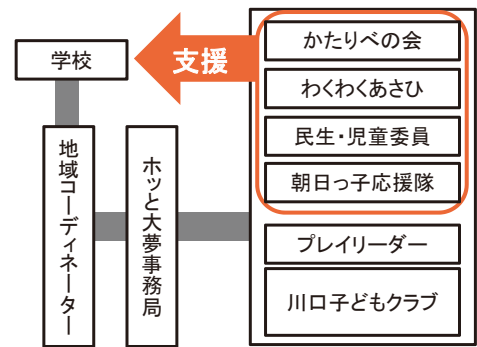
子供たちが活動を通して、少しずつ上達している姿が目に見えます。高校生による学習支援や企業を巻き込んだ展開など多様な巻き込みを実践されていることも光りますね。

地域と学校で創る子供の居場所 — 多彩な人材による多様な活動 —

埼玉県川口市	● 活動名	● 関係する学校名
	朝日東ホッと大夢	川口市立朝日東小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	14 学級	生徒数	322 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) ■ 毎回 □ 定期的に □ イベントがある時 □ 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 53 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：体育館、専用ルーム
ボランティアの数	登録人数 61 人	属性	主任児童委員、元教員、地域住民等	学習活動の有無	無
参考 URL	https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/04010/020/5/3860.html				

● 体制図



● 連絡先 川口市教育委員会生涯学習課 ☎ 048-259-7655

- 活動の概要・経緯
- ・本教室は、児童の健全育成と運動・文化の向上を目指し、地域で40年以上児童の運動や遊び等を支援している「川口子どもクラブ育成会」を中心に立ち上げられた歴史のある教室である。現在では、「川口子どもクラブ育成会」のほかに、地域人材で構成される「町会」「公民館サークル」「民生・児童委員」「学校応援団」等が運営している。
 - ・毎週月曜日に自由遊びや、ボール遊びや跳び箱、バドミントンなどの各種プログラム、月に1回のクラブ活動に加え、夏季休業日等には特別講師を招いた料理教室や公園でのザリガニ釣り、水遊び等の体験活動を実施している。教室で制作した作品は、地区公民館の文化祭や講師主催の作品展にて出品している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・毎週月曜日に「読み聞かせ」や「ペーパーアート」といった教室を開催しており、プログラム内容は週ごとに特性を生かした各担当チームが企画・運営している。
- ・月初めにはクラブ活動を行っている。児童は「ダンス」「バドミントン」「陶芸」の中から希望するクラブに所属し、年間を通じて活動している。加えて年に3回の「料理クラブ」を別途開催している。
- ・夏休みのプログラムとして、市内に工場のあるブルドックソース（株）の社員を講師とした料理教室や、公民館サークルである男の料理クラブ（男塾）を講師とした親子料理教室、市外にある舎人公園にてザリガニ釣りや水遊び等を実施している。

【実施にあたっての工夫】

- ・毎週教室を開催しているが、「川口子どもクラブ育成会」「朝日っ子応援隊」「わくわくあさひ」「プレイリーダー」「かたりべの会」「民生・児童委員」に加え、各町会、公民館サークル等で運営しており、ひとつの担当チームが主として参加するのは年間数回程度である。多様な地域人材が関わっているため、各スタッフの負担軽減にもつながり、楽しみながら運営している。
- ・クラブ活動の講師には、人材バンク登録講師や地域の公民館サークルの講師、学区の公園で活動しているプレイリーダーを招いている。
- ・ホッと大夢ルームには「ホッと大夢でのおやくそく」を掲示し、基本的な挨拶についてや活動時のルール等を視覚的に伝えている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・クラブ活動を実施することで、児童が複数箇所に分散するため、スタッフの負担も軽減し、よりきめ細やかな活動が可能となった。年間を通じて自ら選択した活動に参加することで、上達する面白さを知り、継続することの重要性を身体で学ぶことが出来た。
- ・地域人材が児童に関わることで、日常場面で顔を合わせた際に自然と挨拶や会話が生まれており、児童の主体性や自主性が醸成され、健全育成の面で高い効果を得られている。
- ・異なるチームのスタッフ同士も関わり合い、安全・安心な地域へと変わりつつあると同時に地域の活性化へとつながっている。



地域人材に見守られ
ホッと大夢ルームにて宿題



月初めに行うクラブ活動
(陶芸)

ポイント

クラブ活動を継続して行うことで子供たちが継続する楽しさや上達する喜びを感じていると思います。日頃の実践に加えて夏休みには、長期休みならではの外出等の活動も行われ、一層充実していると感じました。

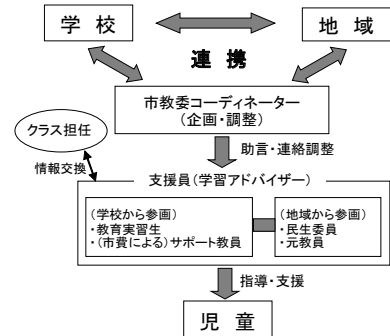
こんな活動です

家庭学習の習慣付けを目的とした放課後子供教室 「ステップアップ学習会」

千葉県柏市	● 活動名	● 関係する学校名
	高柳西小学校ステップアップ学習会	柏市立高柳西小学校

開始年度	平成 21 年度	学級数	12 学級	生徒数	387 人
放課後児童クラブとの連携					
一 体 型	連 携 型	(連携状況) <input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 余裕教室	連 携 な し	子 供 の 参 加 人 数	平均人数 25 人
統括的な地域 学校協働活動 推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協 働活動推進 員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：教室
ボランティア の数	登録人数 14 人	属性	市費教員、元教員、大学生、地域住民	学習活動の有無	有
参考 URL	http://www.takaw-e.kashiwa.ed.jp/?page_id=13				

● 体制図



● 連絡先 柏市教育委員会生涯学習部生涯学習課 ☎ 04-7191-7393

● 活動の概要・経緯
柏市教育委員会推進事業 放課後子供教室「ステップアップ学習会」の依頼を受け開催している。部活動に参加していない学校生活に慣れた2年生が対象で週一回、自主学習の支援を実施している。本年度からは保護者のニーズに応え、3年生も開催し、2学年4クラス形態で実施している。
目的は、学習意欲の向上と家庭学習習慣の定着であり、60分間集中して学習できる体制をここで学び、家庭に帰っても持続できるようにしていく。さらに自分がよく間違える箇所を理解し、繰り返し練習することで克服しようとする姿勢を養っていく。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 支援員は子供の様子をよく知っている前年度の教育実習生や、地域の子供の様子を理解している方として守秘義務のある民生委員にも依頼している。
- 始業前と後に支援員は引き継ぎノートを活用し、児童の様子や課題などを支援員全員で共通理解して実施している。
- 終了後は、児童の安全を考慮し保護者が実施場所まで迎えに来て、下校している。

【実施にあたっての工夫】

- 特別に支援が必要な児童に対しても、特性をよく理解している教育実習生や元教員の方に指導を受けることで集中して学習に取り組めるよう配慮している。
- クラス担任が課した宿題を支援員が確認し指導しているので、後日担任から支援員に理解状況などを聞くことができ、児童理解につながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 参加者からは「自分のペースで進めることができるので学習していて楽しい。」「問題を解き終わるとすぐに正答か誤答かがわかるのでうれしい。」との声が出ている。
- 放課後60分間落ち着いた雰囲気での学習を行うことで、ステップアップ学習会がない日の家庭学習の習慣付けとなっている。
- 民生委員として関わっている家庭の子の様子がわかり、家庭支援計画の手立ての参考になった。
- 地域の方が支援員として加わっていることで、学校理解につながっていると同時に、さらに他の活動でもボランティアとして参加していただき、学校の応援団の数の増加に役立っている。



児童は集中して各自のペースで学習を進めている



支援員が課題を終了した児童のチェックを行っている様子

ポイント

子供たちの特性に合わせて学習支援を行っていることが素晴らしいです。要支援の子供にもしっかりと向き合い、学習支援をする姿は模範になります。学校や地域と連携された丁寧な活動だと感じます。

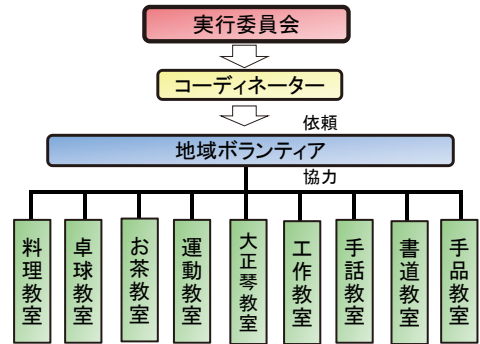
地域でふれあい、生きがいつくり 地域でやりがい、子育て支援

千葉県山武市	● 活動名	● 関係する学校名
	みどりみ子ども教室	山武市立緑海小学校

開始年度	平成 18 年度	学級数	6 学級	生徒数	152 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 70 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 小学校 実施場所: 小学校余裕教室
ボランティアの数	登録人数 29 人	属性	元教員、元 PTA、子ども教室 OB、地域住民等		学習活動の有無 無
参考 URL	shogaigakushu@city.sammu.lg.jp				

● 連絡先 千葉県山武市教育委員会教育部生涯学習課 ☎ 0475-80-1451

● 体制図



● 活動の概要・経緯
平成 18 年 10 月、緑海地区有志と学校、PTA が、休日多様な行き場が用意されていない緑海地区の子供たちにとって、安全・安心して過ごせる「居場所づくり」が「地域で子育て」に急務であると考え、設立。地域の大人にとっても、健康で豊かに過ごすための「場所と時間」が確保され、自分の特技や趣味を生かせる有意義な時間を共有でき、「地域子育て支援」にもつながっている。
この教室の開設に当たり、理解・賛同した当時の PTA 役員が中心となり、臨時に廃品回収を行い、教材・教具・備品を揃えた。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 特技や趣味を活かし、子供たちとふれあうことを楽しみに協力支援を惜しまない地域・保護者の方々、元教職員たちが登録講師となり多様な活動を展開、「無理なくムラなく」継続している。
- ・ 教育委員会の管理のもと土曜日の空き教室及び体育館を利用し、参加する 1 年生から 6 年生までが異学年交流し、教え合い認め合いながら縦割り活動を行い人間関係作りをしている。
- ・ 「学校・家庭・地域社会との交流を深め、開かれた学校づくりを推奨する」等を目的として緑海地区全体で開催する「みどりみふれあいまつり」に「みどりみ教室」として参加し、来場した小中学生及び一般の方々に「みどりみ教室」の各教室（お茶、手品、手話、大正琴等）を体験していただき楽しんでいただくとともに、「みどりみ教室」のスタッフとしての活動体験を実施し、スタッフ募集を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 参加する教室の申込みを前期・後期制にし、いろいろな教室を体験できるようにした。
- ・ 近年、少子化のため保護者も参加できるようにした。特に包丁を使用する料理教室、きりやのこぎりを使用する工作教室に参加する 1 年生の場合は、保護者の参加を条件に入れた。
- ・ 安全・安心への取り組みとして、休み時間を利用して避難訓練を行うほか、朝の登校時に講師全員によるあいさつ運動を行い、子供たちとのコミュニケーションをとっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 学校・家庭及び地域住民と連携・協働をとり地域住民が事業に参画することで、「地域の子どもは地域で育てる」ことが実践できている。地域のコミュニティの活性化も図られるとともに、地域の方の生きがいつくりにもなっており、地域の教育力も高められている。
- ・ 保護者の方々からは、「何事にも積極的になった」「弟妹の面倒を見るようになった」「教室で体験したことを家でやってくれる」等、家族内のコミュニケーションの向上にも役立っているとの声をいただいている。



工作教室



お茶教室

ポイント

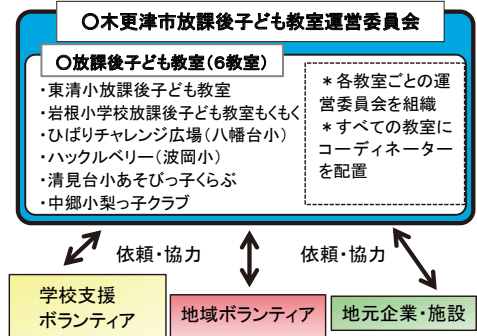
料理から手品まで幅の広い展開が魅力です。半年を一つの区切りとして展開していく形も参考になります。継続していくことを前提に無理のないペースで進行されていますね。ずっと続いてほしい実践だと感じます。

地域で子供を育み、地域の協力者のやりがいを作る充実した放課後活動

千葉県木更津市	● 活動名	● 関係する学校名
	木更津市放課後子ども教室	木更津市立東清小学校、木更津市立岩根小学校、木更津市立八幡台小学校、木更津市立波岡小学校、木更津市立清見台小学校、木更津市立中郷小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	12 学級	生徒数	339 人
放課後児童クラブとの連携					
一 体 型	連 携 型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input checked="" type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 小学校	連 携 な し	子 供 の 参 加 人 数	平均人数 90 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 6 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：余裕教室・運動場
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	無
参考 URL	http://172.16.16.31/cms/index.cfm/12,29546,25,166.html				

● 体制図



● 連絡先 木更津市教育委員会生涯学習課 ☎ 0438-23-5278

● 活動の概要・経緯

木更津市の放課後子供教室は心豊かでたくましい子供を社会全体で育てるため、放課後に小学校の余裕教室や校庭等を活用して、地域の大人を指導員として配置し、さまざまな体験活動や地域住民との交流活動を行っている。平成 19 年に木更津市放課後子ども教室運営委員会を設立し、木更津市が事業を委託し、小学校区を単位として構成される各地区組織（運営委員会）ごとに、地域の実情に合わせて活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の大人の見守りによる自由活動
「遊ぶ内容は自分たちで決める」をルールとして学年の壁を越えた交流を行っている。
・昔遊び（竹馬、独楽回し、けん玉、ゴム段）、将棋、オセロ、囲碁、大縄跳び
- 地域住民の指導による体験教室
地域住民の指導により、子供たちの体験活動の場となっている。
・工作（竹細工、竹遊具作り、絵手紙、自由木工作）
・火を使う体験（ベッコウ飴作り、キラビー）
・スポーツ活動（スラッグライン、グランドゴルフ、ドッジボール、バドミントン）
・地元養豚場による出前教室（食育教室）

【実施にあたっての工夫】

- 木更津市放課後子ども教室運営委員会は、放課後子供教室の事業計画の策定や運営方法等を検討し、事業を効果的に推進するための意見交換を行っている。
- 各教室のコーディネーターを中心に、地域の実情にあった体制で教室の運営をしている。教室ごとのルールを作り、集団遊びを中心とした活動の中で児童と地域住民との交流を図っている。
- 教頭とコーディネーターが打合せを行い、担任に活動日程や依頼事項の案内をして、学校と放課後子供教室の連携が行われている。保護者への活動内容や注意事項等の説明は、各教室の運営委員会による保護者説明会で募集要項を配布している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 活動を通して地域の大人と子供が知り合いになることで地域への愛着が強くなり、また、集団遊びに慣れていない子供にとっては遊びを通して成長につながった。子供たちの放課後の居場所作りの充実と共に、地域の教育力の向上の一因になっていると考えられる。
- 子供にとって家族、担任以外の大人から指導してもらえる場であり、地域の大人にとっては子供の成長を実感できる場であるというアンケート結果があった。
- 小規模特認校制度利用児の参加や来年度入学予定児の体験参加があり、小学校に馴染むためのきっかけづくりとしての効果もあり、現代の子供たちの放課後活動には欠かせない場である。



地域のおもちゃ屋さんによる
ジャグリング教室



地域の大人と真剣勝負

ポイント

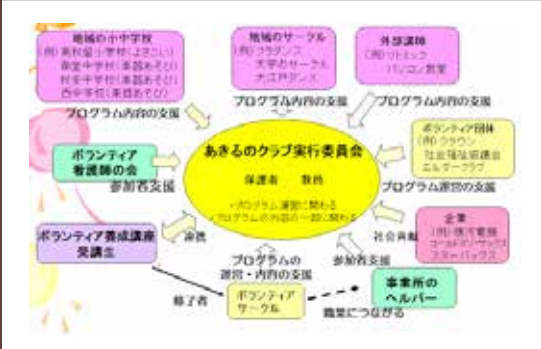
「子供たちの自由な遊びを地域の大人が見守る」という姿勢や、遊びを通じた子供・大人の関わり合いが素晴らしいです。子供を見守る大人の姿勢が学び合われている、社会教育の真髓が表れている事例ですね。

こんな活動です

地域や企業と共に障害のある子供たちの余暇活動を充実 ～複数のプログラムを選択～

東京都あきる野市		● 活動名 あきるのクラブ (東京都立あきる野学園)		● 関係する学校名 東京都立あきる野学園	
開始年度	平成 14 年度	学級数	64 学級	生徒数	298 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	80 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 17 人	実施場所	施設名: 都立あきる野学園 実施場所: 体育館、研修会議室、調理室、自立活動室、他
ボランティアの数	登録人数 100 人	属性	保護者、教員、地域住民、学生、企業	学習活動の有無	無
参考 URL					
● 連絡先	東京都立あきる野学園			☎ 042-558-0222	

● 体制図



● 活動の概要・経緯

- ・都立あきる野学園（特別支援学校）のPTA主催で始まった「あきるのクラブ」は、学校、地域、企業等と連携し、「チームあきる野」として放課後子供教室の委託を受けて、学校内を主な活動場所として年間11回の多様なプログラムを実施している。
- ・障害のある子供達の余暇活動を充実させると共に地域における障害者の生涯学習の場を提供している。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・数種類のプログラムの中から好きな内容を選ぶことができる。当日でも本人の気持ちによって柔軟にプログラムの変更ができる。映画鑑賞、カラオケ、ボウリング、バーベキュー等校外で行う活動も、子供たちが無理なく楽しめる内容を工夫している。例えば映画館を借り切ることで館内を少し明るくしたり音の大きさを加減したりして、落ち着いて映画鑑賞できるようにしている。
- ・障害の有無や種別や年齢を問わず、近隣の学校の児童生徒も受け入れたり、地域に対して積極的に開かれた活動をしている。
- ・社会福祉協議会、地域サークル、シルバー人材センター、地域のボランティアセンター等と連携して地域住民の参加を促進している。

【実施にあたっての工夫】

- ・各プログラムの希望を取り、事故やトラブルなく、スムーズに進行できるように年齢や人数などの面で事前に調整を行う。
- ・参加者には見通しがもちやすいように場所や持ち物、一緒に活動するメンバーなどを事前にお知らせしている。
- ・1つのプログラムに人数が集中した場合は、2グループに分けるなど混乱を避けるための配慮をしている。
- ・公共機関を利用する時は打ち合わせなども含めて、トイレ、バリアフリーなどの確認をして、安全で円滑な実施に努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちからはいろいろな体験ができて楽しいとか、いろいろな人に会えることがうれしいという声が聞かれる。あきるのクラブをきっかけにダンスのサークルに入ったというケースもある。
- ・教員や保護者にとっては、子供たちの新たな一面を見ることができ、保護者も支援者として成長することができるという声があがっている。
- ・地域や企業の方の協力を得ることが、障害のある子や特別支援学校への理解啓発につながっている。



高尾山登山（車いすで頂上へ）
(企業のラグビー部)



大鼓教室
(地域の太鼓サークル)

ポイント

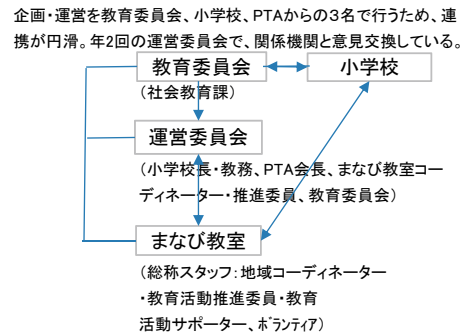
特別支援学校でのインクルーシブで多様な取組が素晴らしいです。この活動が楽しみな親子もきっと多いと思います。外出も積極的に行うなど、子供たちの視野を広げていくことが実践されており、感心しました。

半学半教・間違いは財産。小さな成長を認めて、自己肯定感でやる気をUP!

神奈川県湯河原町	● 活動名	● 関係する学校名
	湯河原小学校放課後まなび教室	湯河原町立湯河原小学校

開始年度	平成 24 年度	学級数	15 学級	生徒数	379 人
放課後児童クラブとの連携					
一休型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	23 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	実施場所	施設名：小学校
	0 人		1 人		
ボランティアの数	登録人数	属性	保護者、地域住民	学習活動の有無	有
	2 人				
参考 URL	まなび教室 http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/index.php?p=&d=announcing-to-public/diary&c=&type=article&art_id=2011 小学校 http://www4.airnet.ne.jp/yugawara/				
● 連絡先	湯河原町教育委員会社会教育課				☎ 0465-62-1125

● 体制図



● 活動の概要・経緯

小学校主体で放課後の子供の居場所、自主的に学ぶ場として平成24年度に開室。登録児童の内、1～3年生が火曜日、4～6年生が木曜日に学校施設を利用して活動している。毎回、様々な体験講座、まなびを軸にした内容を教職経験者や教員免許保持者、学校保護者で企画しており、スタッフは学校保護者や地域住民が研修を受け、温かく見守っている。企業と連携したコンピュータプログラミング学習や地域施設（美術館、図書館、パークゴルフ場、足湯）の利用、地域講師や慶應義塾大学との連携講座も設けている。体験を通し、得意を見つける事や小さな成長を褒められる事で、子供の自己肯定感が高まり、学習に積極的になる、問題行動が少なくなる、人間関係に積極的になる等の様子が見られた。子供自らの成長をアシストする活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

全体：地域講師や保護者の力を借りた多種多様な体験講座（PCプログラミング、英語、オリジナル実験や学習ゲーム、調理実習、運動教室、ダンス、フラワーアレンジ、工作、百人一首等）、また、ライフセーバーによるプール講習、高齢者によるパークゴルフ講習など、多世代の触れ合いや地域施設の活用もしている。特筆活動①中高学年が全ての企画・運営を担う文化祭形式のハロウィンでは、必要な物の調査や利用場所の交渉役も子供が担っている。段ボールなどを使い、お化け屋敷や射的、フェイスペイント、アトラクション等を準備し、当日は多くの来室者を楽しませている。②IT活用（PCプログラミング）：前年度の企業協力講座でプログラミングを受講した子供の「子供が先生になり、都会ではない湯河原からプログラミングを広めたい。」という意見を基に、全学年でプログラミングを定期学習している。日本ではまだ参加の少ない世界的プログラミングイベントの「Hour of code」にも参加した。

【実施にあたっての工夫】

キーワードは<自己肯定感><環境><スタッフ><自己肯定感>小さな成長を褒め、周囲や保護者にも伝えている。<環境>モットーで認識共有し、競争よりも個々が自己実現できる空間作りに努め、発表する機会も多く設けている。①「半学半教」大人も子供も平等。苗字ではなく下の名前に「さん」付けで呼び合う。子供も先生、大人も生徒になる空間。②「間違いは財産」間違いや恥も貴重、同じ間違いをしない為に気を考える。③「他人ではなく比べるのは過去は自分」<スタッフ>研修で、寄り添える良質な人材を育成し、心の居場所づくりを目指している。学校の教育課程では難しい「まなび体験」をオリジナル講座や教材の考案等、「楽しければ、自らまなぶ」を目標に工夫している。また、企画・運営者を教育委員会・学校スクールサポーター・PTAで構成し、事後ミーティングで日誌を記入し、気になった子供の言動は職員室と共有する等、学校施設の利点としても連携が円滑になるよう努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

①自己肯定感を高める事で、積極性など大きな変化が見られた。②間違える事は財産だと認識されている環境では、学習に自信のない子や大人しい子も、次第に臆せず意見を述べるようになっていく。③家庭での学習習慣や講座への感謝を保護者からされる。④悩み事の相談やおばあちゃん世代に甘えたり、校外での声がけや卒業後にサポート役として来室する等、新たな関係や地域サイクルも生まれている。⑤子供主催企画では、交渉力や責任感、発想力や思考力を鍛え、大きな成長が見られる。⑥丁寧な個別対応学習（学習遅延気味の子には実物利用での理解や学年下のドリル復習、自力で答えに辿り着いた後に大人に教える子供先生）で学習に自信や積極性が生まれている。

● その他

企業との連携：株式会社日本マイクロソフト（タブレット端末の無償貸与）、CA-Tech Kids（PCプログラミング講習・相談）。ICT活用：タブレット端末でプログラミングを定期学習。



「体験算数」（1～3年生）



「PCプログラミング」
Hour of Code

ポイント

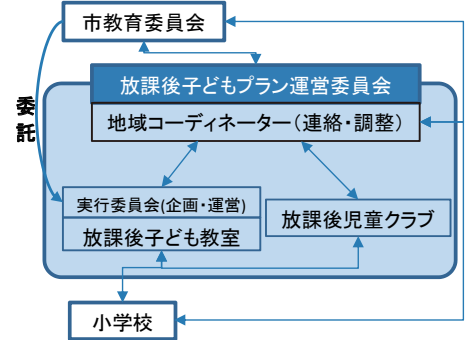
学習や運動、最先端のプログラミングと非常に幅が広く、中身の濃い内容だと思います。子供たち自身で企画するイベントがあることが、更にこの活動を素晴らしいものにしていきます。

体験活動を通して子供たちに安全・安心な居場所を

石川県野々市市	● 活動名	● 関係する学校名
	館野小学校放課後子ども教室	野々市市立館野小学校

開始年度	平成 17 年度	学級数	14 学級	生徒数	418 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 31 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 公民館 実施場所: 集会室、図書室ほか
ボランティアの数	登録人数 5 人	属性	地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 野々市市教育委員会生涯学習課 ☎ 076-227-6117

● 活動の概要・経緯
放課後の安全安心な居場所作りの一環として、平成 17 年に開設。市内 6 教室中の一つである。館野小学校に隣接する押野公民館を活用し、地域の方々の参画を得て、学校がある木曜日の放課後から 16 時ごろまで、ものづくりや運動などの様々な体験活動を行っている。対象は館野小学校の 1～2 年生で、年度当初に参加者を募り、一年間を通して共通のメンバーで活動。地域ぐるみで子供たちが放課後に安全で健やかに過ごせる居場所づくりの推進を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・市内大学の学生との交流事業を実施している。
- ・月見、豆まきなど、季節に応じた活動を地域のボランティアと共に体験する。
- ・校長先生と遊ぼうや和菓子作りなど、学校や企業と連携した体験活動を実施している。
- ・ふるさつを知るために野々市市のことを学ぶクイズの実施している。
- ・ネイチャーゲームなど、地域の大人との関わりや異学年との交流で、協調性や豊かな心を育てている。

【実施にあたっての工夫】

- ・子供たちを地域社会の中で健やかに育てるために、また、地域ボランティアの輪が広がるように、当該地域の方に教育活動サポーターとして活動いただいている。
- ・活動の内容については、年度の初めに地域コーディネーターと教育活動サポーターとで話しあい、子供たちが色々な事に興味を持ちたり新たなことに挑戦したりできる内容を目指している。
- ・コーディネーターやサポーターは随時、学校や放課後児童クラブと連絡を取りあって円滑な運営をこころがけている。
- ・市内 6 か所（館野小学校放課後子ども教室含む）で行う他の子ども教室とも情報交換を図り、内容の充実にも努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちに安全・安心な居場所を提供するとともに、家庭や学校ではなかなかできない様々な体験の場が提供できている。
- ・長年の活動で地域・学校に定着しており、毎年多くの参加者を受け入れている。
- ・地域の方を外部講師として招く教室も行い、固定されたメンバーだけではなく、様々な方との交流ができている。
- ・様々な活動を実施してきた結果、子供たちが多くのことに興味を持ち、楽しみながら参加している。



校長先生と遊ぼう



レクリエーション体操

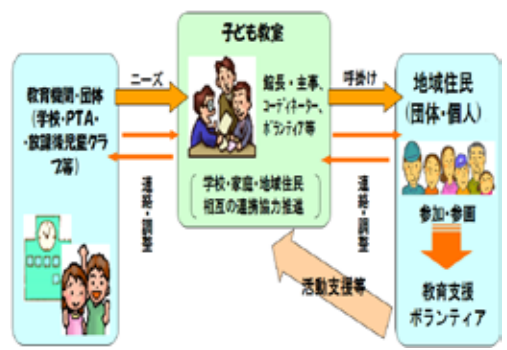
ポイント

公民館を活用し、地域を巻き込みながら子供たちを育む好事例です。学校・家庭ではなかなか出来ない体験が組み立てられており、非常に意義ある取組だと感じました。「校長先生と遊ぼう」も微笑ましいですね。

石川県輪島市	● 活動名	● 関係する学校名
	三井公民館子ども教室	輪島市立三井小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	4 学級	生徒数	22 人
放課後児童クラブとの連携					
一休型	連携型	(連携状況) <input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 12 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	実施場所	施設名：三井小学校 実施場所：体育館
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 輪島市教育委員会生涯学習課 ☎ 0768-23-1176

● 活動の概要・経緯
三井公民館子ども教室は、平成 20 年より、子供たちの学年や町を越えたつながりや安全な居場所づくりのため、輪島市公民館連合が運営委員会を立ち上げ、市内各公民館単位で開設した子供教室の一つである。三井地区の地域学校協働推進員や公民館長が中心となり、放課後児童クラブや小学校と連携、協働しながら運営している。三井小学校 4～6 年生を対象とし、地域在住の講師の特色を活かした教室や参加者のニーズにあわせた活動を実施している。また、三井地区の伝統文化を継承・保存する活動も開設当初から実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

公民館や体育館を中心に、対象学年の小学校 4～6 年生全員が参加して、地域在住の講師が教える伝統ある田切り歌や踊りの教室、俳句教室、地域学習教室のほか、子供たちのニーズに応える異学年宿泊体験を実施している。

また、昨今の地域コミュニティの希薄化や地域文化活動の衰退など課題の解決に向け、地域に根付く「三井権現太鼓」を三井小学校 4～6 年生を対象に教え、継承・保存するほか、地域の人たちとの交流や子供たちの達成感につながるような活動も提供している。日頃の活動では、太鼓に集中できるよう練習前にみんなで宿題をする場を設け、学習面でも子供たちを支援している。また、地域の方々や保護者の期待も高まることから、コミュニティ全体の楽しみにもつながっている。

【実施にあたっての工夫】

季節で活動内容が偏るため、子供たちが飽きないように太鼓に取り組む前後に、宿泊体験や俳句教室などを実施している。宿泊体験には地域のボランティアも参加することで、地域の大人との関係づくりにもつながっている。

太鼓の指導には熟練者の方々を迎えることで、子供たちは迫力ある音を体感し、太鼓への関心を高めるねらいがあり、指導はバチの持ち方や体の構えなどの基本から丁寧にしている。発表の場を、多くの観客が集まる 8 月の「あての森フェスティバル」と 12 月の「田の神様まつり」に設定することで、子供たちが自分たちの太鼓技能を高めようと熱心に練習に取り組むようにさせている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・卒業後も地域に根付く「三井権現太鼓」の継承に主体的に取り組む子供が増えた。
- ・活動を通じて、学年や町内を越えた子供たちのつながりや地域住民との関係づくりが醸成されている。
- ・活動発表が定着し、保護者や地域の高齢者等の楽しみの一つとなり、太鼓と子供たちを通じた地域のコミュニティ活動が活性化した。



早くも練習だ！



大勢の人の前、めっちゃ緊張！

ポイント

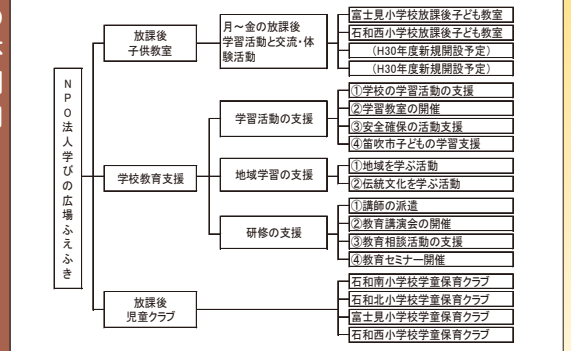
小学校高学年を対象とした貴重な活動だと思います。地域の文化に触れる機会を作ることによって、子供も大人も同時に活性化していると感じます。

放課後の子供たちの居場所づくりや学習支援を行っている活動です

山梨県笛吹市	● 活動名	● 関係する学校名
	学びの広場ふえふき	笛吹市内全 19 小中学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	15 学級	生徒数	325 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 教室、多目的ホール	連携なし	子供の参加人数	20 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：教室、多目的ホール
ボランティアの数	登録人数 48 人	属性	元教員、地域住民	学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 笛吹市教育委員会 生涯学習課 ☎ 055-261-3339

● 活動の概要・経緯
地域における児童の安全で安心な活動拠点の確保、児童生徒の学びの環境づくりの支援、地域・家庭教育に関する支援を行うことにより、笛吹市の児童生徒の健全な育成に寄与することを目的として、退職教員や地域の人々でつくる「NPO 法人学びの広場ふえふき」が設立された。この NPO 法人が中核となり、放課後子供教室と放課後児童クラブを一体的に運営し、放課後の多彩な活動を行っている。また、学校の授業・行事への協力、児童の下校の見守り、放課後や土曜日の学習支援など、学校を支援する活動も幅広く行っている。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

- 【特徴的な活動内容】**
- ・小学校の教室等を活用して、放課後子供教室と放課後児童クラブを一体的に運営している。
 - ・放課後子供教室では、体験的な活動、スポーツ、昔遊び、伝統文化の学習、学習支援など多彩な活動を盛り込んでいる。
 - ・小学校の要請に応じて、各学校に向いて学習支援活動を行っている。
 - ・学校の授業や行事への協力、児童の安全確保への協力、教員の研修への協力、地域や家庭向けの講演会の実施など幅広い活動を展開し、学校を中心とした市内の教育環境を総合的に向上させている。
- 【実施にあたっての工夫】**
- ・同じ NPO 法人が、放課後子供教室、放課後児童クラブ、学校支援活動を行っていることから、連携した活動を行いやすい体制が作られている。
 - ・退職教員が積極的に関わり、学校と地域の連携を密にしている。
 - ・指導者相互の情報交換会を開いている。
 - ・継続的な活動が可能となる会員の拡大と地域ボランティア（協力者）の確保に努めている。
 - ・帰宅の安全を期して、活動終了後は、教育活動サポーターが自宅付近まで送っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・放課後児童クラブと放課後子供教室の一体的な運営で、多くの児童が、多彩で充実した放課後の活動を楽しむことができる。
- ・放課後を有意義に過ごし、宿題が進んでいるので、家に帰ってから親子でふれあいの場が持てるようになったことや、家で学習をする習慣がついてきたなどの声が保護者からあがっている。
- ・学校に向いての学習支援活動により、児童生徒の学力向上に寄与している。
- ・会員やボランティアの協力を得るなかで、学校の要請に応じた支援を積極的に行うことができている。

● その他

上記の活動を推進するために組織されている「NPO 法人 学びの広場ふえふき」（平成 20 年設立）が中心となって活動している。学習支援は、補習的な内容と発展的な内容に分かれて実施している。ICT 活用としては、パソコンを使った年賀状作成などを行っている。



復習教室の様子



万華鏡作り（放課後子供教室）

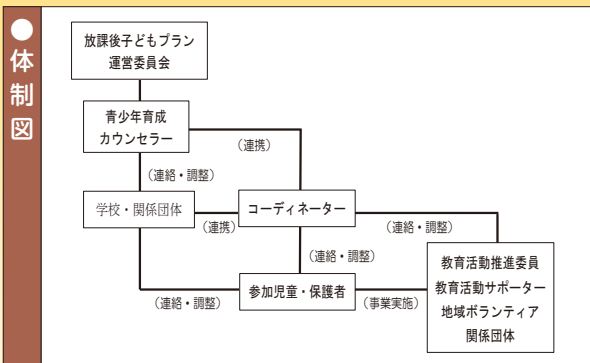
ポイント

子供教室、学童クラブ、学校支援の三位一体の好事例。学校との連携や協力体制も強く、学校や家庭にとつて欠かせない姿になっていますね。地域性もしっかり組み込んでいることが活動をより豊かにしています。

地域の方々との協働で放課後の子供たちの安心・安全な居場所作り

山梨県富士吉田市	● 活動名	● 関係する学校名
	わくわく子ども教室	富士吉田市立富士小学校、富士吉田市立下吉田第一小学校、富士吉田市立吉田西小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	16 学級	生徒数	316 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■ 毎回 □ 定期的に □ イベントがある時 □ 活動場所を共有 (共有の活動場所) 教室、校庭等	連携なし	子供の参加人数	平均人数 20 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：教室、校庭等
ボランティアの数	登録人数 3 人	属性	大学生、地域住民		学習活動の有無 有
参考 URL	http://web.fujinet.ed.jp/forms/info/info.aspx?info_id=326				



● 連絡先 富士吉田市教育委員会 生涯学習課 ☎ 0555-22-1111

● 活動の概要・経緯
子供たちの安心・安全な居場所作り、また、地域の方々の参画を得て子供たちと共に勉強やスポーツ・文化活動を実施するため、富士小学校において平成 20 年度よりわくわく子ども教室を開設した。その後、平成 24 年度から下吉田第一小学校、平成 28 年度から吉田西小学校において開設。教室の推進、また目的達成のため、学校、行政、社会教育、児童福祉、児童クラブ関係者から成る放課後子どもプラン運営委員会を設置している。
各学校の協力より、空き教室や校庭等の施設を利用し、地域の方々や大学生が教育活動サポーターとして参画を得て、各学校において週 2 日、下校後から 17 時まで活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

○ 普段の活動内容

空き教室において子供たちに宿題をやる時間を設け、教育活動サポーターによる学習支援を行っている。その後に遊びの時間を設け、子供のやりたいことを優先し、野球やサッカー、ドッチボール、長縄、一輪車等を行っている。また、教室に残り、工作やトランプ、卓球等を行うこともできる。

○ 特別教室

月に一度、土曜日に特別教室を開催し、普段の教室では行うことのできない親子参加型のイベントを企画している。希望する児童クラブの子供も一緒に参加可能としている。平成 28 年度は、流しそうめん、うどんづくり、すいか割り、山登り、昆虫採集、化石採集、市内の高校の茶道部による茶道教室、折り紙教室、焼き芋大会、理科工作などを行った。教室を開設している 3 校が一緒に行っているため、学校を超えた交流ができ、新しい交流関係を築くことができている。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 学校側との連携を重視し、毎回教室終了後に教室責任者と学校の先生で話し合いの時間を設け、子供の普段の行動の様子等の情報交換を行っている。また、保護者とも、子供を迎えにきたときを利用し、変わったことや保護者からの要望を聞くといった信頼関係の構築を図っている。
- ・ できるだけ多くの子供に参加してもらえるように、PTA 総会において保護者への説明会や、学校を通じて全校児童に対してチラシの配布を行っている。また、市の FB で定期的に活動内容を周知している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 平成 28 年度に実施したアンケートにおいて 80% 以上の子供が「また来たい」、「新しい友達ができた」などの意見を得た。そのため、子供や保護者同士の口コミにより参加人数は増加し、多くの子供たちの放課後の居場所確保ができている。
- ・ 保護者からも放課後に友達と遊ぶ機会や親子参加可の特別教室に参加し親子の思い出や他の小学校の保護者との交流ができたといった好評の声をいただいている。
- ・ 教育活動サポーターとして活動している中には、教員を目指している学生が大半を占め、子供たちとの交流の経験できる機会を作れている。



普段の教室の様子



特別教室
(流しそうめん)の様子

ポイント

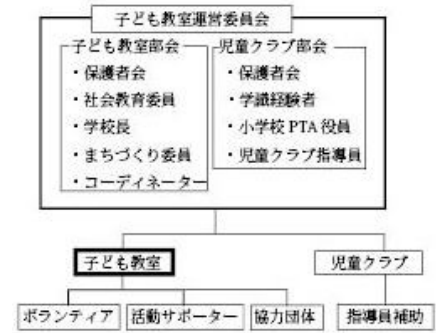
通常の放課後子供教室と土曜日の特別教室とがミックスされた展開が非常に素晴らしいです。特別教室で親子を巻き込み、また他校と合同で行うことで、縦横への広がりを持たせている点も感心しました。

「心豊かでたくましい小布施の未来を拓く子どもたち」を地域一丸で育てる！！

長野県小布施町	● 活動名	● 関係する学校名
	小布施町「子ども教室」	小布施町立栗ガ丘小学校

開始年度	平成 16 年度	学級数	21 学級	生徒数	618 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) □毎回 □定期的に ■イベントがある時 ■活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	78 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校、公民館、畑、田んぼ 実施場所：体育館、グラウンド、余裕教室、家庭科室、学習室
ボランティアの数	登録人数 32 人	属性	中高生、大学生、地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL	http://d.hatena.ne.jp/obusekodomokyoushitsu				

● 体制図



● 連絡先	小布施町教育委員会	☎ 026-214-9110
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

平成 16 年開設。子ども教室の活動は、「心豊かでたくましい子ども達」を育むため、仲間づくり・根っこづくり・地域づくりを柱として行っている。

- 仲間づくり…仲間と一緒に過ごすこと、他人と協力して目的を達成することが楽しいと思える経験を積み重ね、コミュニケーション能力、問題解決能力を養うことを目指す。また相手を認める、受け入れる心（豊かな心）を育む。
- 根っこづくり…小さな失敗を繰り返す、失敗を恐れない、大人になった時につまずいてもしっかりと立ち直れるたくましい心を持った子供たちの育成を目指す。
- 地域づくり…子ども教室の活動を通し、地域の大人と大人、子供と大人がしっかりと繋がることを目指す。一時的な繋がりではなく、継続的に繋がる関係を築いている。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

点ではなく、年間を通した、また 6 年間を通した線の活動となっているところが特徴的。稲作りから祭りの意義を学び、また伝統芸能を身に着けることといったように、一つ一つの活動も多方面に関連付けながらプログラムしている。地域の農業団体や文化団体、女性団体等と一時的ではなく継続的な繋がりを持ち活動をしているところも特徴的。田植え、稲刈り、脱穀や収穫祭、餅つき、郷土食の調理実習、通学合宿等地域の団体が子供たちの活動を支えている。また、卒業した OB・OG の中高生や大学生が小学生の活動をボランティアとして支える循環型の仕組みが確立している。夏のキャンプや稲作り、通学合宿、お泊り会など中高大学生が積極的に小学生をリードし、小学生の憧れとなっている。

【実施にあたっての工夫】

- ①多面的な繋がりを考えプログラムを練っている。
イベント的な活動ではなく、より生活的な活動となるよう仕組んでいる。
- ②準備から片付けまで子供たちがしっかりとできるような時間配分をし、良いとこどりの活動とならないよう配慮している。
- ③保護者も地域の大人の一人として子供たちの活動に関わり、地域のボランティアの方々や子供たちと一緒に楽しんで取組む仕組みづくりをしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・中高生や大学生が小学生の活動をボランティアとして支える仕組みの基盤が出来上がった。子ども教室を通して、町と中高生や大学生との接点を保っている。また、子ども教室の活動のみでなく、中高生が町の様々な活動に興味や関心を示し、積極的に参加する姿が見られている。
- ・活動に関わった地域の方々の多くが「子供たちと接することが私たちの生きがいだ」と話しており、子供たちとの活動を楽しんでいる。
- ・「生きる姿勢を地域の方々に見守られながら学んでいる」という保護者からの声や「子ども教室で大事なことを学んでいる」という参加した子供たちからの声があるように、生きる力を養う場として定着している。



田植えの様子
地域のおじいちゃん、おばあちゃん達に田植えを教わる



おふせ能の様子
稲作りから祭りの意義を学び、伝統芸能を身につけ発表

ポイント

子供の主体性や当事者性が発揮されるよう、子供間の話し合いや合意形成を図る場面を用意していることがとても素晴らしいです。卒業した中高生や大学生の参加により、循環が生まれていることも示唆に富みます。

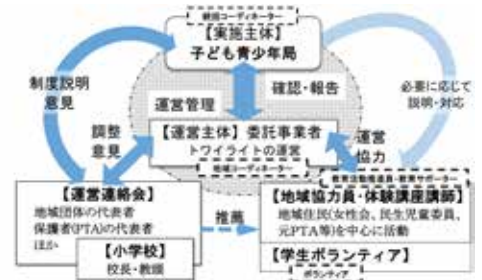
みんなで信頼を築き合い、子供の気持ちに寄り添った ワクワク放課後活動

愛知県名古屋市	● 活動名	● 関係する学校名
	川原小学校トワイライトスクール	名古屋市立川原小学校

開始年度	平成 18 年度	学級数	16 学級	生徒数	400 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 39.8 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 4 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：小学校施設内
ボランティアの数	登録人数 28 人	属性	大学生	学習活動の有無	有
参考 URL	http://kawaharatwilight.blogspot.jp				

● 連絡先 川原小学校トワイライトスクール ☎ 052-762-8348

● 体制図



● 活動の概要・経緯
名古屋市の実施する放課後子供教室として、平成 18 年度より、平日の放課後や土曜日・長期休業中の午前・午後に活動している。子供たちが学年の異なる友達と自由に遊んだり、さまざまな体験活動に参加したり、地域の人々と交流したりする活動を通して、自主性、社会性、創造性を育むことを目的にしている。コーディネーターとして、地域協力員や体験活動の講師、学生ボランティア等、地域の方々等と積極的につながり、そうした方々からの継続的な協力を受けながら、日々子供たちの豊かな活動を支援している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

子供たちから出されたトワイライトへの課題等の意見をもとに子ども会議で話し合い、行動する力を育むとともに、運営指導者が子供一人ひとりと話し合う時間を積極的に設けている。自然に親しむ「ネイチャーゲーム」、環境について学ぶ「動物写真家から学ぶアフリカと写真撮影」、区民祭りなどでステージ発表した「なるこ踊り」、子供たちの意見を取り入れた「子どものまち」、大学生ボランティアより学ぶ「マジック教室」や「スポーツゲーム」等、豊かな体験活動を提供している。

【実施にあたっての工夫】

地域団体や企業、大学生、地域ボランティアの人材を発掘し、幅広い世代と交流しながら地域のイベント等に積極的に参加し、子供たちの興味・関心を引き出すことができる体験活動を実施している。定期的に新しい講座を開始すること、子供たちの日常を知る運営指導者が企画段階から関わり実施すること、地域の方々をはじめ多くの人々と関わりつながり合うこと、子供たちの意見を取り入れることの4つを大切にしている。

● 事業を実施しての効果・成果

平成 28 年度に行った川原小学校トワイライトスクールアンケートの結果には、「茶道やリトミックなどの体験講座を、手軽・気軽に経験させてあげられるのがとてもよかった。」と、体験活動の充実に対する好意的な意見が多く寄せられた。1日の平均参加人数の推移としては平成 26 年度は 26.6 人、平成 27 年度は 37.5 人、平成 28 年度は 39.8 人と順調に増加している。講座での体験活動を目的にしてトワイライトスクールに参加する子供たちもおり、成果として表れている。

● その他

【企業、NPO との連携】名古屋防災ボランティアネットワーク昭和（防災ゲーム）、山崎川グリーンマップ（チリメンモンスター）、CRISOL グローバルスクール（ピニャータ・英語で科学）、チーム北誠の風・デイサービスぬくもりの家・余興班薔薇組（なるこ踊り、昭和区民祭りでの発表）、名古屋バウンドテニス協会（バウンドテニス）、758 出前ワークショップ（作って遊ぼう大きなドーム）、南山大学ボランティアサークル（そくせきキャンプ等）、名古屋大学奇術研究会（マジック教室）、昭和警察署（交通安全デー）、地球温暖化防止活動推進センター（生物多様性〇〇BOX）、昭和区歴史文化を守る会（昭和区むかしばなし）、中日新聞（新聞どうぶつえん作り）【学習支援等】モンスタークエスト、英語あそび、英語の読み聞かせ、英語で歌おう、CRISOL ピニャータ、CRISOL 英語で科学、かきかた教室、ピブリオバトル、読み聞かせ、漢字で遊ぼう、さんすう教室、理科実験教室



なるこ踊り発表



よりあい処向山とクリスマス会

ポイント

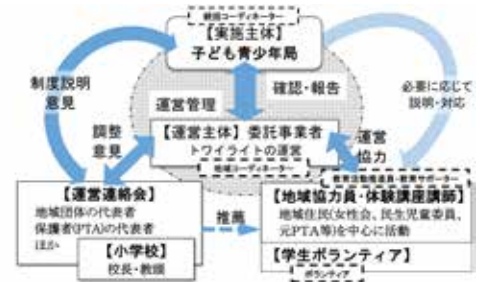
子供の意見を取り入れ、子供自身が話し合いながら活動を形作っていることが素晴らしいと感じます。これからも子供を起点にして、地域を巻き込んでいくことを継続して、参考になる取組を続けてほしいと思います。

地域の皆さんの手作り行事で、子供の笑顔満開

愛知県名古屋市	● 活動名	● 関係する学校名
	南陽小学校トワイラートルーム	名古屋市立南陽小学校

開始年度	平成 12 年度	学級数	16 学級	生徒数	405 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) <input checked="" type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 44.2 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 6 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：小学校施設内
ボランティアの数	登録人数 2 人	属性	大学生	学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 南陽小学校トワイラートルーム ☎ 052-302-6648

● 活動の概要・経緯

- ・名古屋市の施策として放課後子供教室と放課後児童クラブの一体型として、年間を通じて平日と土曜日に活動している。
- ・子供たちの居場所づくりとともに、自由遊び、学びの活動、体験活動を通じた異学年交流、世代間交流の場としている。
- ・地域ボランティアによる運営補助や体験活動実施により、子供たちにさまざまな体験と居場所を提供している。
- ・平成 12 年からトワイライトスクールを実施し、18 年度からの試行を経て、25 年度からトワイラートルームに移行した。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

活動は、地域の人々に支えられながら充実した多様な活動を継続している。例えば、普段、南陽交流プラザで講座を開いている地域の方々が講師を務める大正琴や子どもヨガ、マジック、囲碁将棋、他団体との連携事業で行うガラスアート、落語、地域協力員の指導による人形劇、フラダンスなどである。講座の種類は、文化的活動 18 講座、運動的活動 6 講座にのぼる。

また、中学校ブロックのトワイラートルームが集まって行う「ブロック交流会」では、ドッジボールを通して、他のトワイライトとの交流を図るとともに、競い合う楽しさも味わっている。「入学おめでとう会」、「ひな祭り」、「入学おめでとう会」、「ひな祭り」、「ハロウィン仮装遊び」「クリスマスお楽しみ会」「敬老会」など、例年、季節に合わせた行事を初年度から継続して行っている。

【実施にあたっての工夫】

教職経験豊かな教員OBがコーディネーターとなり、教育活動推進員（専門性の高い子ども指導員や地域ボランティア）と協働し運営している。また、コーディネーターが学校との施設・行事の調整や地域との連携を進めている。

行事は、計画的・継続的に行い、児童の主体的な活動を生み出すため、「ひな祭り」のおひな様や「敬老会」のプレゼントなどを子供たちが手作りし、創作活動を行うとともに参加意識を高める等、活動を工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

地域の方々が、様々な形で関わることで、子供たちの成長を見守る大人の連携が強固になってきた。また、子供たちは地域の方々顔見知りになるとともに地域の大人から大切に思われていることを実感し、希薄になりがちな地域の絆をしっかりと育てることもつながっている。「地域の子供たちは、地域で育てる」ことを継続的に実践し、子供を核に地域の大人の輪が広がり、地域の活性化の一助となっている。



マジックの講座



落語のお楽しみ会

ポイント

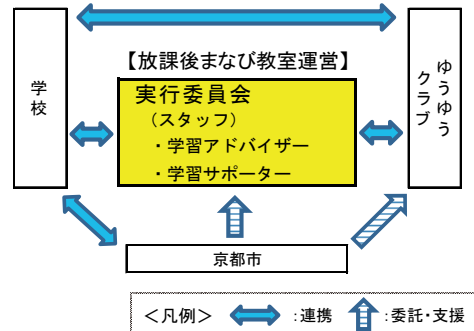
一体型としての実践を続け、モデル的な活動になっていると感じます。多様なプログラムの展開や他校とのブロック交流会などもあり、子供たちにとって大きな成長の場となっていることが素晴らしいですね。

地域の力で子供たちのまなびを支援－自学自習の習慣付けや学力の定着を図る

京都府京都市	● 活動名	● 関係する学校名
	九条弘道小学校放課後まなび教室	京都市立九条弘道小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	10 学級	生徒数	126 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 12 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：教室
ボランティアの数	登録人数 22 人	属性	PTA 役員、地域住民等		学習活動の有無 有
参考 URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=104807				

● 体制図



● 連絡先 京都市子ども若者はくくみ局育成推進課 ☎ 075-746-7610

- 活動の概要・経緯
- 放課後における児童の自学自習を中心とした学習習慣の定着と安心・安全な居場所の充実を図るため、平成 20 年度に開設した。
 - 平成 21 年度から、授業実施期間中は週 5 日（月曜日～金曜日）実施しており、平成 28 年度は 148 日実施した。
 - 次のことを活動目標としている。
 - ・学力向上の取組の一環として、児童の基礎的・基本的な学力の定着や、自主的に学習する習慣づくりを図る。
 - ・「地域の子は地域で育む」基本方針の下、地域や学生の参画を得て、放課後の子供たちの安心・安全な居場所づくりを進める。
 - 隣の教室において、ゆうゆうクラブ（放課後児童健全育成事業）が実施されており、本活動との連携・協働が進められている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- スタッフがそれぞれの特技、特性等を生かし、月曜日は英語、火曜日がそろばん、水曜日が手芸や折り紙、木曜日が書道、金曜日が読み聞かせや読書をしている。
- 教室に来た児童は、参加カードの提出後、通例、テーマ学習、プリント学習の順に取り組む。プリント学習は、スタッフが採点等を行っている。
- 学習スペースとプレイスペースが教室の中で区切られており、学習を終えた児童は、プレイスペースに移動する。
- 学校の宿題は、本活動では行わないことにしている。
- 隣の教室において、ゆうゆうクラブが実施されている。放課後まなび教室登録児童のうち 3 割を超える児童がゆうゆうクラブにも登録しており、放課後まなび教室での活動後、ゆうゆうクラブに通っている。

【実施にあたっての工夫】

- スタッフは、一人一人の児童に温かく接しながら、ルールを守らない場合には厳しく指導している。
- 実行委員会に学校長、教頭、教務主任が参加しており、連携・協働しやすい体制が整えられている。実行委員会及びスタッフは、児童の状況、取組内容、指導のポイント、教材・教具等について、学校と情報交換や話し合いを丁寧に行いながら、取組を進めている。
- 放課後まなび教室とゆうゆうクラブのスタッフが、お互いの教室に顔を出し、児童の参加状況、体調等の情報の共有をしっかりと行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 「地域の子は地域で育む」という基本方針の下、実行委員会及びスタッフが、関係者と連携・協働して努力を続けてきた結果、児童の放課後の「自主的な学びの場」、「安心・安全な居場所」として定着している。
- 児童は、スタッフの指示、指導等をしっかりと受け止め、自主的にテーマ学習及びプリント学習に取り組めるようになってきている。これにより、自主的に学習する習慣が培われ、児童の基礎的・基本的な学力の定着に良い影響が出ている。
- 児童は、曜日によって異なるテーマ学習の実施により、様々な学びを経験できている。児童によっては、自分にとって関心が高いテーマ学習に出会うことができ、大変意欲的に取り組んでいる。

● その他

学習支援の活動内容については、「活動の特徴・工夫」欄に記載。
 ICT の活用については、タブレット PC を用いて、児童が課題に応じて自習することや、興味関心に応じた動画を見て学習を深めること等を計画している。



テーマ学習 (書道)



プリント学習

ポイント

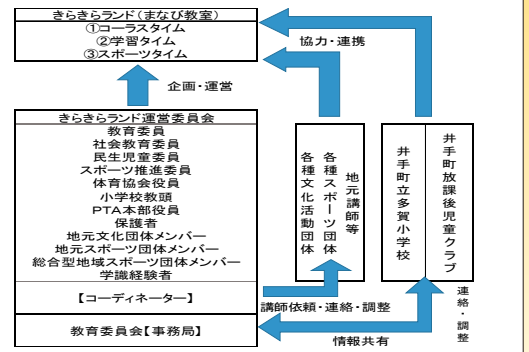
学童クラブと連携しながら活動を展開し、コミュニケーション良く運営されている姿が分かります。自主的に学習する習慣づけに力をいれていることも、子供たちの力を伸ばすことに大きく寄与していると思います。

『地域力を活かして子どもを健やかに育む井手町』 「きらきらランド」の体験活動

京都府井手町	● 活動名	● 関係する学校名
	井手町まなび教室「きらきらランド」	井手町立多賀小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	1 学級	生徒数	40 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input checked="" type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 運動場・体育館	連携なし	子供の参加人数	15 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 井手町立多賀小学校 実施場所: 音楽室・体育館・運動場
ボランティアの数	登録人数 10 人	属性	地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 井手町教育委員会社会教育課 ☎ 0774-82-5700

● 活動の概要・経緯
 子供を地域社会の中で心豊かで健やかに育てるため、多くの住民協力のもと、学校や公共施設等を利用して、子供の様々な体験活動や学習活動等の取組を行う教室として「きらきらランド」は平成20年度に発足した。教育委員、社会教育委員、民生児童委員、スポーツ推進委員、体育協会役員、小学校教頭、PTA本部役員、保護者、地元文化団体メンバー、地元スポーツ団体メンバー、総合型地域スポーツ団体メンバー、学識経験者で運営委員会を構成し、活動の企画、運営会議を行っている。活動の参加対象は井手町立多賀小学校の全児童。会員登録制(無料、別途保険料)としている。活動日は、毎週水曜日の放課後と、月に1~2回土曜日の午前中。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

活動内容を大きく3つの「タイム」として分類し、実施している。

- ①【コーラスタイム(水曜日放課後)】…合唱活動。地元コーラスサークルの方々に支援いただき実施。参加児童は『きらきらランド少年少女合唱団』として、井手町で開催される「山吹ふれあいコンサート」や「文化祭」、山城教育局主催「やましろのタカラフェスティバル」にも毎年出演。地元老人ホーム「井手の里」を訪問し、お年寄りの方々とお歌を通じて交流している。
- ②【学習タイム(水曜日放課後)】…文化的体験活動。地元の方を講師として招聘し実施。「紙芝居」「ネイチャーゲーム」「料理体験」「お菓子作り」「伝承遊び」「茶道体験」「陶芸体験」「ブックトーク」「英語体験」「ものづくり」「かまど炊飯体験」等を実施。
- ③【スポーツタイム(土曜日午前中)】…各種スポーツ体験活動。井手町の総合型地域スポーツクラブ「I D E ゆうゆうスポーツクラブ」との共催で実施。「スポーツ吹き矢」「ゲートボール」「ソフトバレーボール」「野球」「水泳」「ボッチャ」「グラウンドゴルフ」「ニュースポーツ」等を実施。

【実施にあたっての工夫】

- どの活動においても、大人と子供が、顔と顔を合わせ、ふれあいながら活動をすすめていくという点を重視している。
- 活動に使用する材料や教材は、家庭でも実施できるように極力身近なものを利用するようにしている。
- 子供が社会性や地域への愛情を感じられるよう、できるだけ地元の人材を活用した教室を実施するようにしている。
- 学校の先生には、年間を通じて、子供への文書の配布をはじめ、活動参加の声かけをしてもらったり、先生自身も一緒に参加してもらったりしている。
- 放課後児童クラブの指導員の方には、子供への活動参加の声かけや欠席連絡、活動場所の調整などを協力してもらっている。また、子供の様子の交流も適宜行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 「体験的な活動」が、子供の学びや生活への意欲を高め、生きる力の育成につながっている。また、放課後の安心・安全な居場所としての役割も果たしている。
- 高学年児童が低学年の面倒をみたり、お手本となるような行動ができており、リーダー性を高める機会となっている。
- 活動に関わるスタッフを始め、地域人材に講師や、サポーターとして多数協力してもらい、子供たちとの世代間交流を図りながら取組を進めることができています。
- 「きらきらランド」の取組が浸透し、地域の子供と大人が顔見知りになったことで、お互い声をかけやすい関係が築かれ、町で出会っても挨拶や会話をするといった連帯感が強まった。

● その他

活動の幅を広げようと京都府教育委員会「特別講師派遣事業」等を活用し、「親子料理教室(森永乳業)」・「親子発明教室(関西弁理士会)」・「造形活動(京都SKYセンター)」を実施。企業や大学教授を講師として専門的な活動を実施することができた。



①コーラスタイムで練習した成果をコンサートで発表。



上段②学習タイム(かまど炊飯・茶道) 下段③スポーツタイム(水泳・ボッチャ)

ポイント

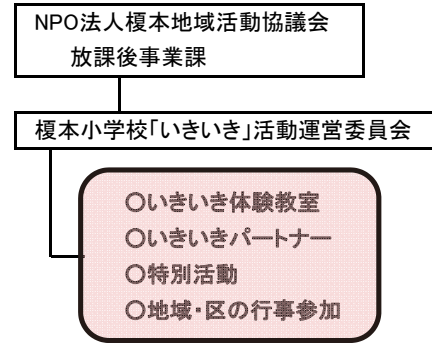
コーラス・文化・スポーツの3本の柱で積極的に活動を展開されています。コーラスの発表会を通して、子供の成長と地域の巻き込みを同時に成し遂げていることも注目すべき成果だと思えます。

みんなで「なかよく」「たのしく」「あんぜんに」を育む活動

大阪府大阪市	● 活動名	● 関係する学校名
	榎本小学校「いきいき」活動	大阪市立榎本小学校

開始年度	平成 6 年度	学級数	27 学級	生徒数	986 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 87 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：余裕教室・運動場等
ボランティアの数	登録人数 2 人	属性	地域住民	学習活動の有無	有
参考 URL	http://www.egao-ageruyo.com/				

● 体制図



● 連絡先 NPO法人 榎本地域活動協議会 ☎ 06-6965-2123

● 活動の概要・経緯

大阪市では、市立小学校において、放課後・土曜日・長期休業日などに児童の健全な育成を図るため、遊びやスポーツ、主体的な学習等を内容とする「児童いきいき放課後事業」（「いきいき」）を実施している。
榎本地域活動協議会としては、地域（連合振興町会）として、いきいき放課後事業が開始された時から、毎年書籍贈呈やクリスマス会の支援を行ってきた。平成 25 年より、「いきいき」が公募となり、地域も法人格を取得したため、自分達の地域の児童は自分達で見守るとの考えで「いきいき」を受託することとなった。受託してからは学校・地域・いきいきの連携が強化し活動の幅も広がっている。

● 活動の特徴・工夫

【日々の活動】

◎宿題、読書等の自主学習 ◎おもいきり体を動かす遊び ◎物を創る・作る遊び ◎劇を演じる・自然を研究する
◎ゲームに挑戦する ◎鑑賞する・生き物を育てる ◎昔からの遊び（屋内外）等

【特徴的な活動内容】

①「夏休み手作り教室」

・画用紙、はさみ、テープ、マジックを使用して、「お化けちょうちん」を作成。作業工程においては個人差が大きく、なかなか全員のペースが合わなかったが、指導員が各プロセスに分かれて指導や助言を行った結果、最終的に全員が作品を完成させ、家庭に持って帰ることができた。

②「お楽しみ会」

・読み聞かせ、ヨーヨー釣り、コイン落とし、スーパーボールすくい、スマートボール、ビンゴゲームを行った。
・児童を縦割りの班に分け、それぞれリーダーと副リーダーを決め、それぞれが責任を持って、各コーナーを回っていくようにした。
・留意した点は、班員がまとまって最後まで動くことであった。結果、一人の脱落者もなく、最後までゲームを楽しむことができた。

【実施にあたっての工夫】

1. リーダーや班員が、自己のすべき仕事を理解し、最後まで責任を果たすことを学ぶよう留意した。
2. 個が楽しむだけでなく、集団の高まりにつながるように留意した。
3. 指導員が共通の目標を持ち、協調してすすめた。

● 事業を実施しての効果・成果

○楽しむためには、何が必要かと言うことを学んだ。ルールを守ること、自分の役割を理解すること、精一杯することなどである。
○縦割り班ごとの活動であったので、リーダーが自覚をもって行動した。

● その他

- 地域合同お花見会
- クリスマス会
- カーリンコン
- お正月用ミニ生花



「夏休み手作り教室」のようす
お化けちょうちんを作った



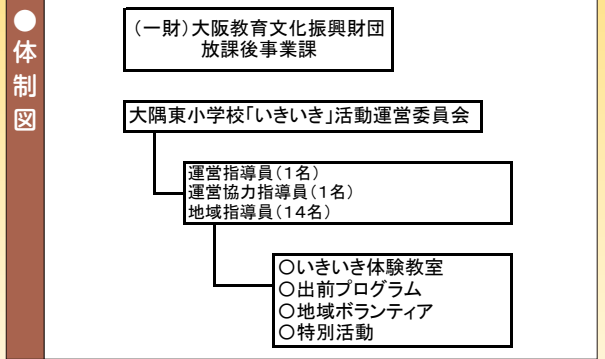
「夏休みお楽しみ会」のようす

ポイント

縦割活動を行うことで、子供たちの交流と成長が生まれる姿を感じます。大人数が毎日参加する中で安全管理等も大変と思いますが、しっかりと準備と振り返りで活動を継続されていることも素晴らしいですね。

大阪府大阪市	● 活動名	● 関係する学校名
	大隅東小学校「いきいき」活動	大阪市立大隅東小学校

開始年度	平成 4 年度	学級数	11 学級	生徒数	280 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 80 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名: 小学校 実施場所: 多目的室・運動場等
ボランティアの数	登録人数 3 人	属性	地域住民等	学習活動の有無	有
参考 URL	https://www.kyoiku-shinko.jp/				
● 連絡先	一般財団法人 大阪教育文化振興財団			☎ 06-6253-6211	



● 活動の概要・経緯

大阪市では、市立小学校において、放課後・土曜日・長期休業日などに児童の健全な育成を図るため、遊びやスポーツ、主体的な学習等を内容とする「児童いきいき放課後事業」(「いきいき」)を実施している。大阪教育文化振興財団は、大阪市より運営・管理委託を受け、各小学校に設置されている「いきいき」運営委員会と連携し、学校・地域の実態に合わせて運営している。平成 25 年度より実施の受託団体の公募制により、当財団は、現在全市 289 校の内 207 校を受託し運営管理に当たっている。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【日々の活動】

- ◎宿題、読書等の自主学習
- ◎おもいきり体を動かす遊び
- ◎物を創る・作る遊び
- ◎劇を演じる・自然を研究する
- ◎ゲームに挑戦する
- ◎鑑賞する・生き物を育てる
- ◎昔からの遊び(屋内外)等

【特徴的な活動内容】

- 夏休みに紙すきの体験を通し、子供の集中力を育てる。本来は冬の活動である。しかし、夏休み中は活動時間が長く、活動がマンネリ化することになり、子供に集中力を持たせる活動として「紙すき」に取り組んでいる。漉き舟が少ないことで紙すき人数を制限しており、その結果、子供一人一人に寄り添った指導ができています。また、子供にとってゆったりとした活動である。さらに、出来上がった手作りのはがきは子供の個性がよく表現されており、達成感があり自己肯定感が育つ。
- 特別プログラムとして「英語と遊ぼう」「手作りおもちゃと昔遊び」などを実施している。
- 土曜日に開催される「はぐくみネット主催行事」や「PTA行事」に参加し、地域の人と交流している。
- 月 2 回程度指導員による「読み聞かせ」を実施している。図書館とも連携し、特に防災関係図書の充実を図っている。

【実施にあたっての工夫】

- 牛乳パックをシュレッダーを使って細かくすると、ミキサーに絡まってしまうので、手でちぎった方がよい。
- 攪拌したものを網状のおたまですくうと便利である。
- めん棒で押さえる力が強すぎると紙がよれたり、薄くなったりするので注意が必要。
- 紙が乾ききらないと名前を書くことができないため、それまでは、名前を書いた紙をクリップでとめておく。

● 事業を実施しての効果・成果

- 紙すきの活動に取り組んで、毎年、子供が楽しみにしており昨年の経験を生かし、今年はこうしようと工夫をするだけでなく、指導員が子供のアイデアや粘り強さ、失敗しても挑戦しようとする姿に感動させられている。
- 活動が終わって、指導員同士が問題点や反省点を書き留めて、来年の活動に生かすようマニュアル作りをしている。
- 絵はがきを受け取った保護者の方から、喜びの声が寄せられている。

● その他

- 「出前プログラム」や「いきいき体験教室」など事業課が用意してくれる活動を取り入れている。また、はぐくみネットやPTA活動にも積極的に参加している。
- 指導員の特技を生かした干支飾りを作成する。今年は、酉年で、プラ板にカラフルな鳥を描き、スタンドグラスのように活動室の窓ガラスに吊り下げた。



① 紙すき
和紙作り



② 漉き舟で漉く。

ポイント

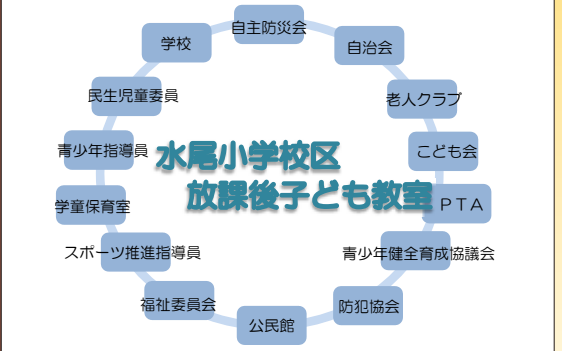
紙すきの活動に特徴があります。また大学生スタッフを中心にしながら活力ある現場になっていることも感じます。ベテランと若手の力が融合した良い取組だと思えます。

子供たちに豊かな体験活動を！

大阪府茨木市	● 活動名	● 関係する学校名
	水尾小学校区放課後子ども教室	茨木市立水尾小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	24 学級	生徒数	585 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	●	連携型	□	連携なし	連携なし
統括的な地域学校協働活動推進員の数	0 人	地域学校協働活動推進員の数	3 人	実施場所	施設名：水尾小学校 実施場所：プレイルーム、校庭、体育館、図書室等
ボランティアの数	213 人	属性	青少年健全育成協議会、自治会、公民館、青少年指導員、PTA、こども会、老人クラブ、民生児童委員、福祉委員会、スポーツ推進指導員、防犯協会、自主防災会、地域住民等	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 茨木市教育委員会教育総務部社会教育振興課 ☎ 072-622-5180

放課後子供教室

● 活動の概要・経緯
水尾小学校区放課後子ども教室は、平成 19 年度に始まり、放課後や週末に子供たちに学び・運動・遊び・もの作り等の教室を通して、『地域の大人とのふれあいの場』『お友だちや学年が異なる児童同士が共につながる場』を提供することを目的に放課後子供教室を実施している。運営するにあたり、①子供たちにいろいろなことを体験させる、②特定のおとなが関わるのではなく、多くの人に参加する、③学校支援も含め、学校と地域の連携を密にする、この3つを重点事項とし、実行委員長を中心に地域の各団体と協力して、和太鼓・バドミントン・ボールであそぼう・ソフトバレーボール・手話・大正琴・パソコン・英語など多数の講座を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・多数の講座の実施・・・「子供たちに様々な体験を通して、創造性や自主性・周りとの関わり方・協調性等を育ててほしい」という思いから、多数の講座を実施している。(平成 28 年度 29 講座実施) 講座開設にあたっては、新聞、公民館や他校区の放課後子供教室で実施されている講座、口コミ等に注目しており、多くの情報を得ようとして工夫している。その中で実施できそうな講座があれば、事務局会議で提案し、子供たちに楽しんでもらえるよう工夫して実施している。
- ・いきいきクラブの実施・・・従来のクラブ活動を引継ぎ、4 年生から 6 年生を対象に年 9 回、地域の方約 70 人にご協力いただき、いきいきクラブを実施している。(平成 28 年度 17 クラブ活動)
- ・幅広い地域住民の参加・・・ソフトバレーボール教室では、卒業生(中学生)も一緒に指導をしており、幅広い地域住民が参加しやすい環境である。

【実施にあたっての工夫】

- ・たくさんの方が参加できる体制づくり
月 1 回、右上体制図の代表者が参加する事務局会議を開き、翌月の教室の予定等について話し合っている。運営にあたっては、講座実施時の見守り等を担当する地域団体を決めて、一人でも多くの人に携わっていただけるような体制づくりをしている。
- また、事務局会議には校長先生や教頭先生、教務主任の先生が出席して下さっているため、学校にも現状等を理解してもらっており、運営に関することや今後のあり方等を話し合える関係性を構築できている。

● 事業を実施しての効果・成果

参加した子供からは「ちがう学年の友だちができてうれしい。」「バドミントンはこんなに楽しかったんだと思った。」という声、スタッフからは「子供とのふれあいの素晴らしい時間を提供していただき、うれしい。」「子供たちが時間いっぱい頑張るので感動した。」という声、学校からは「手づくり感溢れるいろいろな活動を通して、子供たちは地域のみなさんの温もりの中で確実に豊かに成長をしている。」との声が寄せられている。水尾小学校区放課後子ども教室は、地域の子供と大人の交流の場となり、子供たちの成長を支え・見守る一端を担っている。

● その他

パソコンに堪能な元教員の方に講師をお願いし、e ラーニング等を活用したパソコン教室を実施している。



広報紙



活動例 (まんだらめりえ)

ポイント

多様な団体を巻き込みながら、多彩な活動を展開されていることが本当に素晴らしいです。学校との協力体制も良いことがこのような多彩な活動に繋がっているのだと思います。

大人はもちろん中・高生も参加！地域総掛かりで子供の育ちを支える

島根県大田市	● 活動名	● 関係する学校名
	大田わんぱく遊び隊	大田市立大田小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	20 学級	生徒数	504 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 30 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：余裕教室、体育館、校庭等
ボランティアの数	登録人数 50 人	属性	地域住民（一般、高校生、中学生）等	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 連絡先 大田市立中央公民館 ☎ 0854-82-6630

● 体制図



- 活動の概要・経緯
 - 「大田わんぱく遊び隊」は、平成20年度より大田小学校併設の放課後児童クラブ「大田わんぱく児童クラブ」登録児童と登録していない1年生から6年生までの希望者を対象に活動している。
 - 毎月第2・第4月曜日の放課後には地域の大人がスタッフとして関わるだけでなく、中学生・高校生もボランティアとして参加し、子供たちの活動を支援している。
 - 放課後子ども総合プラン会議において、地域と学校が目指す子供像を共有し、活動に生かしている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「体を動かす遊び」「体験活動」を基本として活動を計画している。また、多くの大人と関わってほしいという思いから、地域講師を招いた活動に力を入れている。
 - ・総合型地域スポーツクラブの外部指導者を講師として・・・野球、サッカー、スポーツ鬼ごっこ
 - ・教育委員会が委嘱している社会教育指導員を講師として・・・外国文化の体験「カナダの遊び」
 - ・中学生・高校生ボランティアスタッフが企画した遊びとして・・・ドッジボール、軽スポーツ、絵本の読み聞かせ、コマ回し

【実施にあたっての工夫】

- 中学生・高校生のボランティア参加については学校の協力を得て募集を行い、地域と学校が連携した取組になっている。また、活動をサポートするだけでなく、活動内容をコーディネーターや一般ボランティアと相談して企画・実施するなど社会貢献活動の場となっている。
- 子供の様子について、気になることがあれば学校と情報を共有し、子供一人一人に応じた支援を行っている。
- 地域の活動拠点である公民館の館長・主事が統括コーディネーターを務めることで、公民館利用団体、関係機関との連携がはかられ、活発かつ継続的な活動につながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供たちが放課後、集団で遊ぶ体験は、遊ぶ楽しさを改めて実感させ、人と関わる能力の向上に役立っている。また、この体験により子供が遊びの面白さや人間関係の充実を実感している。
- 中学生・高校生にとっては、自身の対人関係能力の向上を実感し、子ども教室に限らず、地域のボランティア活動に参加するなど活動の場を広げている。
- 小学生と中学生・高校生がお互い充足感を持って活動しており、子ども教室以外の場所でも交流が生まれている。
- 地域住民や小中高年生といった様々な年代が一同に介し行われるこの活動は、人のつながり、地域コミュニティの再構築に寄与している。



屋外活動の様子。スポーツ指導者や中学生ボランティアとともにサッカーで汗を流す。



屋内活動「昔の遊び」。各グループの中学生ボランティアと一緒に会話しながら楽しむ。

ポイント

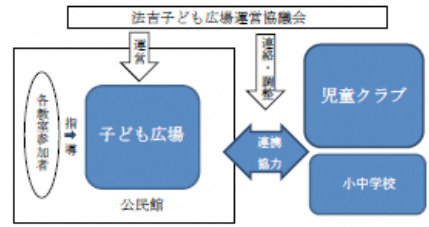
中高生が関わる姿が魅力的です。小学生にとって身近なお兄さん・お姉さんである中高生の存在は嬉しいでしょうし、中高生にとっても学びの場になっていると思います。この循環が続いていくことを願っています。

「地域で子育て」プロジェクト

島根県松江市	● 活動名	● 関係する学校名
	法吉子ども広場	松江市立法吉小学校・松江市立城北小学校

開始年度	平成 16 年度	学級数	21 学級	生徒数	518 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) ■ 毎回 □ 定期的に □ イベントがある時 □ 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	平均人数 42 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	実施場所	施設名：公民館 実施場所：研修室・和室
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	無
参考 URL	http://matsue-city-kouminkan.jp/hokki/				

● 体制図



● 連絡先 松江市法吉公民館 ☎ 0852-21-4966

- 活動の概要・経緯
- 国の委託事業「地域子ども教室推進事業」により子ども広場を開設（H 16）
 - 法吉子ども広場運営協議会（年 2 回）を設け、文化・芸術的活動等を主とした特色ある子ども広場の在り方について協議
 - 子ども広場の活動に公民館主催の各教室参加者である地域住民が安全管理員として参加
 - 児童クラブと連携しながら相互に参加できる体制を構築
 - 多くの地域住民の参画を得ながら、子ども広場・児童クラブの両児童が参加できる、特色ある活動の仕組みを確立（※子ども広場：松江市における放課後子供教室の名称）

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 文化・芸術的活動や創作活動を主に展開し、子供の体験活動の充実を通して個性の伸長が図られている。
 - ・既存の公民館活動を活かし、多様な活動が長年に渡り計画的に実施されているとともに、内容によっては、学年や発達段階に応じたきめ細やかな配慮がなされており、毎年多数の子供の申し込みがある。
- 各教室に参加する多数の地域住民が安全管理員として指導に関わることで、地域住民と子供との交流がなされている。
- 児童クラブに子ども広場の全日程を知らせ、相互に行き来できる仕組みを確立している。また、公民館区の 2 つの小中学校にも参加を呼びかけ交流も行われている。

【実施にあたっての工夫】

- 広場コーディネーター・安全管理員・児童クラブ指導者との情報交換会を定期的又は臨時的に開催することにより、課題や情報を共有している。
- 子ども広場・安全管理員・児童クラブ・学校・保護者との連絡調整や情報発信をコーディネーターがきめ細やかに行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供の変容
 - ・活動の満足度が高く、毎年多数の子供の参加がある。又、挨拶や礼儀作法等の基本的な生活習慣定着にも寄与しており、保護者からも好評である。
 - ・地域における人間関係の広がりが見られる。
- 地域住民の変容
 - ・安全管理員として子供と関わることで、子供から元気をもらい、生きがいが活動への意欲となり、参加者増加につながっている。
 - ・子供に指導することで、自分自身の学び直しの機会になっている。
- 地域の変容
 - ・多世代に渡って顔見知りの関係が定着したことで、挨拶の飛び交う安心・安全な地域づくりが展開している。



書道教室



もの作り（陶芸）

ポイント

公民館を舞台にした様々な活動は、子供たちの元気だけでなく、公民館という場に命を吹き込むように感じます。文化、芸術の活動を中心に据えて、大人と子供が繋がる活動は地域の宝になっていますね。

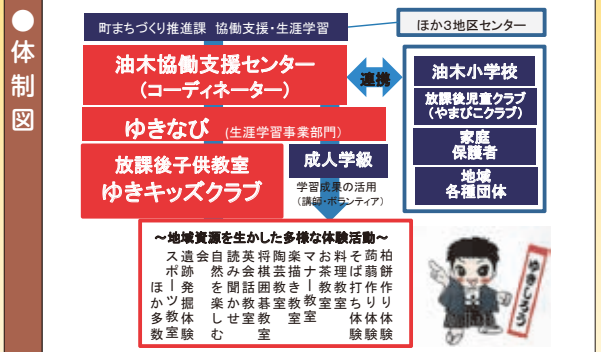
こんな活動です

「ゆきしろろ」と油木を知ろう！ 郷土料理や遺跡発掘の体験を通して

広島県神石高原町	● 活動名	● 関係する学校名
	ゆきキッズクラブ	神石高原町立油木小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	8 学級	生徒数	59 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input checked="" type="checkbox"/> イベントがある時 <input checked="" type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) コミュニティーセンター	連携なし	子供の参加人数	平均人数 24 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：コミュニティーセンター 実施場所：研修室、調理室、和室
ボランティアの数	登録人数 20 人	属性	地域住民、自治振興会役員・社会教育団体役員経験者	学習活動の有無	無
参考 URL	http://www.jinsekigun.jp/ja/				

● 連絡先 神石高原町まちづくり推進課 ☎ 0847-89-3332



● 活動の概要・経緯

ゆきキッズクラブは、子供の豊かな体験活動と居場所づくりを目的に、平成 19 年度にスタート。本年度で 11 年目を迎える。活動は、油木協働支援センター（前油木公民館）がコーディネートしており、学校・家庭・地域の連携のもとで、地域における人と人のつながりを深めながら、子供たちが地域に愛着を持ち、地域の良さに気付くような活動や体験の場を提供している。体験活動の内容は、神石高原町でしかできない活動を多く取り入れており、先人が築き上げてきた豊かな自然、歴史、文化、人情味溢れる地域の良さを、地域の未来を担う子供たちに受け継いでいる。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地元特産物について学ぶ「こんにやく作り」、郷土の食習慣を体験する「そば打ち」、地域資源を生かした体験活動の「帝釈峡遺跡群発掘」といった、神石高原町でしか出来ない体験活動のほか、お茶教室（マナー教室）、絵本の読み聞かせ、サッカー・野球教室など、多岐にわたる体験活動を提供している。

特に、地域の特産品を活用した食育には力を入れており、地元女性会や地域住民を講師に招いた郷土料理の教室は好評である。この料理教室では、地元で採れた旬の食材を使用し、伝統的な調理方法で料理、食事するプログラムを行うことにより、子供たちは地域の食文化を体験的に学んでいる。

【実施にあたっての工夫】

- 地域資源の活用
帝釈峡遺跡という地域の豊かな自然や、郷土料理などの地域文化を学習資源とすることを意識している。
- 地域協働支援センターとの連携
センターで活動している地域住民に講師をお願いすることで、センターでの学習成果を、子供たちへの体験活動の提供に生かしてもらっている。
- 広報・情報発信
毎月、「ゆきキッズクラブ」の行事予定や行事実施状況を協働支援センター便りや町のHP等で発信している。また、センターでオリジナルキャラクター「ゆきしろろ」（＝油木知ろう）君を新たに開発し、この「ゆきしろろ」を広報紙に登場させ、子供たちの活動の様子を生き生きと伝える工夫をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 油木協働支援センター（前油木公民館）がコーディネートしているという利点を生かし、センターで活動している地域住民に「ゆきキッズクラブ」の活動への協力をお願いすることで、子供たちに多様な体験活動を提供することができている。
- センターで学ぶ地域住民と、ゆきキッズクラブで学ぶ子供たちの交流は、地域コミュニティの形成や活性化に大きな役割を果たしている。
- この活動を町全体に情報発信することで、地域ぐるみで子供の育てる機運を醸成しており、活動への協力団体、ボランティア数、子供の参加人数、全てが増加傾向にある。
- 地域の豊かな自然、文化、人材等を最大限に活用した事業展開により、子供たちの地域への理解や愛着が醸成されている。



帝釈峡遺跡群発掘体験



こんにやく作りに挑戦 (地元特産物の体験学習)

ポイント

地域の特産品を活かした実践は全国の参考になる事例です。まさに「その地域ならではの」活動に取り組まれており、子供たちの地域愛を育むことに大きく貢献していると思います。

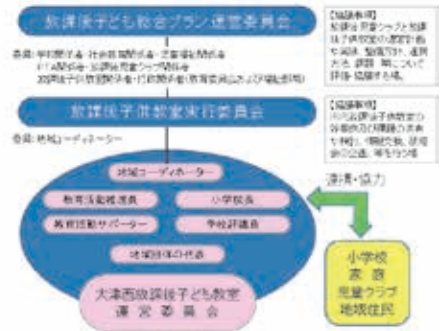
地域の魅力あふれる放課後子ども教室 —地域を愛する子供たちを育てる—

徳島県鳴門市	● 活動名	● 関係する学校名
	大津西放課後子ども教室	鳴門市大津西小学校

開始年度	平成 18 年度	学級数	9 学級	生徒数	137 人
放課後児童クラブとの連携					
一 体 型	● 連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 図書室・体育館	連携 なし	子供の 参加人数	20 人
統括的な地域 学校協働活動 推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協 働活動推進 員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校、公民館 実施場所：図書室・体育館
ボランティア の数	登録人数 80 人	属性	元教員、地域住民	学習活動の 有無	有
参考 URL					

● 連絡先 大津中央公民館 ☎ 088-686-5569

● 体制図



● 活動の概要・経緯
大津西小学校のPTA関係者の発起により、平成18年度から開設している。地元住民や退職教職員等が指導者となり、学びの場・将棋教室・マジック教室・折り紙教室・お菓子作り教室等を定期的に行うほか、地域との交流活動として地域の囲碁ボール大会への出場、地域学習活動として、地元の歴史文化遺産「大代古墳」に関する体験活動を行っている。教室の運営については、地域コーディネーターを中心として、教室の指導者や小学校長等からなる運営委員会を作り、適宜協議しながら進めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

国指定史跡「鳴門板野古墳群」の一つ「大代古墳」をテーマとした地域学習を毎年実施している。指導は主に地元の歴史的文化遺産保存会員が行っている。具体的な活動内容は、大代古墳からの出土品にちなんだ埴輪のレプリカ作り（造形・ペーパーキルンによる焼成）や勾玉作り、地元住民による遺跡の清掃・整備活動（草刈り等）への参加の他、児童が遺跡の一般公開時の案内役となり、見学者に対し出土品や石棺のレプリカについて解説を行っている。また、学校と協力して、解説の練習等を行っている。その他、学びの場として、退職教職員が教育活動推進員となり、宿題指導をはじめ、読書習慣の推進、音読指導、参加児童による紙芝居の実践指導等を行っている。

【実施にあたっての工夫】

地元の高齢者に教室の指導者として積極的に活動に携わってもらうことにより、児童と指導者間の異年齢交流を促進するとともに、指導者にとっても活動が生きがいとなるようにしている。また、新しい活動の担い手を確保するため、教室の卒業生（地元の大学生～中学生）に声をかけ、指導者の確保に努めている。

小学校の図書室を主な活動場所としており、同校内にある児童クラブの児童がすべての活動プログラムに参加できるようにしている。また、児童クラブの支援員とは、必要に応じて協議が行えるよう連絡体制を築いている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 活動をとおして、学年の異なる児童同士がともに遊び、学習したり地域の人たちや地域の文化に触れたりすることにより、他者への思いやりや地域愛を養うとともに、異学年間のネットワークづくりに貢献している。特に、高学年の児童については、活動の中で得た知識を下級生に伝えたり、自発的にサポートができるようになっていく。
- 指導者の多くが地元の高齢者であり、自分たちの知識や技術が活動の力になっていることを実感することで、自身の生きがいに繋がっている。
- 放課後子ども教室で学んだ児童が新たな指導者となり活動を支えるという好循環が生まれつつある。



埴輪づくり



大代古墳清掃

ポイント

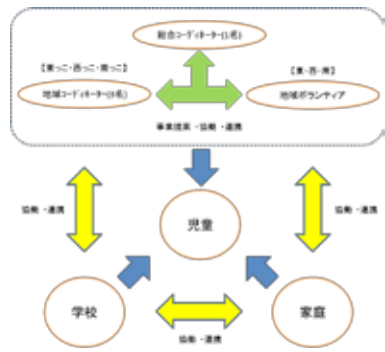
大代古墳という地域の宝を活かした素晴らしい取組ですね。子供が遺跡の一般公開時の案内役になる取組は全国的にも参考になる好事例だと感じます。

地域の人との交流・体験を通して、思いやり・協働し合う子供を育てよう

徳島県板野町	● 活動名	● 関係する学校名
	放課後子供教室 東っこ	板野町立板野東小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	12 学級	生徒数	327 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	20 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：図書室・家庭科室・体育館・講堂・町民センター・児童館・公会堂
ボランティアの数	登録人数 6 人	属性	地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 板野町教育委員会 ☎ 088-672-0136

● 活動の概要・経緯 「地域の子供たちは地域で育てる」という目的で、平成 19 年度に放課後子供教室を開設した。現在、町内には 3 つの教室があり、それぞれの学区の小学校の空き教室において活動している。東っこでは、毎週木曜日と毎月 1 回水・土・日曜日に活動を実施している。教室の運営方法については、毎月 1 回打合せをおこない、コーディネーターや推進員が相談し、各開催日のスケジュールを決め、募集チラシを作成し、多くの子供たちが参加できるよう各小学校に配布している。教育活動サポーター・各地域ボランティアとともに、放課後の有意義な時間を利用し、地域住民とのふれあいを重視した教室運営を行っている。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- スポーツ活動では、ドッジビー、ソフトバレーボール、長縄跳びなど、集団で取り組める活動を取り入れている。
- 英語やお話し会、工作・手芸、パステルアート、クッキング等の教室を実施し、子供たちのニーズに応えられるようにしている。
- 長期休業日中の体験教室では、地域の伝統産業の一つである「藍染め体験」を実施した。板野町内にある藍染工房の協力を得て、藍染めの歴史に添った古代の染物工法を子供と保護者がいっしょに学んだ。生葉を摘み取る行程、染料の抽出、抽出された色水から、各自持ち込んだ衣服を染めるといった藍染めの一連の工程を学ぶ貴重な体験となった。

【実施にあたっての工夫】

子供や保護者からの希望を聞き、活動が偏らないよう工夫している。また、話を聞くときの姿勢などがきちんとできるように指導を行っている。

徳島県の伝統工芸である藍染めの青い色は「JAPAN BLUE」と呼ばれ、世界に知られている日本を代表する色であることや藍についての考え方や歴史を学ぶことにより、地域の歴史にもふれることができるようにしている。

本物の藍の葉を観察し手に取り、五感で学ぶ藍染めを遊び感覚から始まり、製品の工程を学ぶことで、一つの製品が人の手によってできる大変さを自分の力でやり遂げることで、物を大切にすることの大事さを学び、人間形成を促すことに繋げている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 教室に通う子供たちが、多くの地域の人の参画を得て、地域の人と幅広く交流を行うことにより、人と接する際の人を敬うことの大切さを学ぶことができた。
- 地域の産業や文化を見直すことで、地産地消の大切さに触れることができ、地域の伝統産業や文化への興味・関心が高まった。
- 地域の人にとっては、放課後子供教室が自分たちにできることを子供たちに教えることのできる場となっており、そのことが地域の人々の生きがいになっている。それが、子供たちにとって安心で安全な居場所や健全育成につながっている。



藍染め体験教室



藍染め体験教室

ポイント

「JAPAN BLUE」である藍染めを遊びから始め、深いところまで学び続ける取組は非常に参考になりそうですね。放課後子供教室が、地域と子供たちがまさに繋がり合う場になっていると感じます。

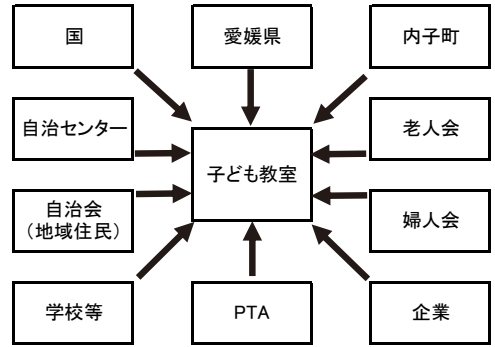
こんな活動です

年間を通して室外活動などを計画・実施。土曜日や長期休業日は1日教室を実施。

愛媛県内子町	● 活動名	● 関係する学校名
	小田小学校放課後子ども教室	内子町立小田小学校・内子町立小田幼稚園

開始年度	平成 27 年度	学級数	6 学級	生徒数	53 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 4.9 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	実施場所	施設名: 内子町文化交流センターサバル 実施場所: 元館長室
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 内子町教育委員会自治・学習課 ☎ 0893-44-2114

- 活動の概要・経緯
- 平成の大合併により、平成 17 年 1 月 1 日に旧内子町・旧五十崎町・旧小田町の三町が一つの町となり、新内子町が誕生。
 - 旧三町の中でも人口が一番少なかった旧小田町には、幼稚園はあるが、保育所がないため、子育て世代にとって共働きをするには子供が高学年になるか、代わりに子育てをしてくれる保護者がいないと難しい環境があった。
 - そこで地域で安心して子供たちを預けることができる場所がほしいと子育て世代からの声が高まり、地域の保育士 OB を中心に 15 人の教育活動推進員の協力のもと平成 27 年度 4 月より活動を開始するに至った。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 教室だけでなく室外授業を積極的に組み込み、地域の子供たちに学校や幼稚園ではあまり教わらないことを実体験させている。
- 昨年度は、当教室のある「文化交流センター」建物の避難訓練に参加したり、そうめん流し体験、茶道教室、うどん作り名人宅でのうどん作り体験、お団子作り体験、すいか割り体験などを実施している。
- 子供たちが楽しく通い、コミュニケーション能力を向上させ、元気に育って多岐にわたり学習できる環境にするため、地域の方の協力のもと、子供たちを地域全体で育てていけるような取組を計画し、実行に移している。
- 土曜日や長期休業日にも仕事がある保護者のため、1日（終日）教室を実施している。

【実施にあたっての工夫】

- 月に1度、教育活動推進員が集まり、子供たちの様子を話し合い、共通の認識のもと子供に接するようにしている。
- 地域の行事や催しなどの情報交換も行い、子供たちが参加できる内容について話し合っている。(お祭り、百円市、新築祝いの餅まきなど)
- お天気の良い日には、近くの公園に出かけることも多く「つくし採り」や「虫とり」など自然に触れる機会を積極的にもつようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 幼児・児童数が減少する中で、兄弟以外の子供たちと遊んだり、活動したり、異年齢（幼稚園～小学校高学年）の子供と一緒に活動したりすることで「やさしさ」・「思いやり」・「社会性」が育っている。
- 地域の行事等に参加し楽しんだり地域の人と触れ合ったりすることで「地域の良さ」が幼少期の記憶として残ることも多いと思われる。また、地域の人たちから子供たちが声を掛けてもらうことも多く、子供たちの元気な姿が地域の人たちの喜びにもなっている。

● その他

- 企業との連携については、四国電力株式会社による出前授業「よんでんエネルギー講座」を毎年実施している。実験をとおして発電の原理やエネルギーの仕組みを学んでいる。



うどん作り



花壇づくり

ポイント

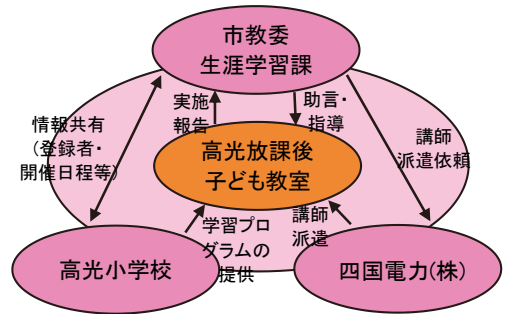
学校の外にたくさんの活動の場を求めていることが素晴らしいですね。住民の願いを実現して出来た活動はまさに地域の宝。企業も巻き込むなど、積極的な姿勢が実現の鍵であると思いました。

学校・地域と連携して子供たちの活動拠点を設け、諸活動を通して心豊かで健やかに育む

愛媛県宇和島市	● 活動名	● 関係する学校名
	高光放課後子ども教室	宇和島市立高光小学校

開始年度	平成 22 年度	学級数	6 学級	生徒数	60 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 13 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	実施場所	施設名：公民館 実施場所：和室
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性		学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 宇和島市教育委員会生涯学習課 ☎ 0895-24-1111 (内線 2753)

● 活動の概要・経緯
 高光小学校区において、子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子供たちとともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等に取り組むことにより、子供たちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的としている。
 平成 21 年度までは、市単独の子ども教室として毎週月・木曜日と、隔週の土曜日に実施していたが、地域住民、とりわけ子供を持つ保護者から「学校がある日は毎日実施してほしい」という要望を受けて、平成 22 年度より、放課後子ども教室として毎日開催（平日の月～金）で実施している。

放課後子ども教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

教室に来た子供たちはまず、宿題や自主学習に取り組む。これは、学習習慣を身に付けることを目的としており、それが終わった子供から自由遊びに移行し、日々賑やかに活動している。地域の教育活動サポーターに常時 2 名携わっていただいている。

また、例年、四国電力株式会社の協力で『よんでんエネルギー講座』を開催している。ビデオ教材や磁石・コイル等を使用して発電の原理を学んだり、実際に「コマ」や「ビーズアクセサリ」を作成することにより、エネルギーの仕組みについて理解を深めている。

【実施にあたっての工夫】

実施場所の高光公民館には、1 階に和室があり、2 階に大ホールがあることを生かして、主に和室では宿題や自主学習、また机上でできる遊び（ボードゲームやパズル等）やDVD鑑賞を取り入れたり、大ホールでは体を動かす遊び（ボール遊びや鬼ごっこ等）を行っている。教室には常時 2 名の教育活動サポーター（以下、サポーター）が従事することにより、児童の遊びに加わりながらも階を隔てた部屋の間で安全面への配慮が行き届くよう、入念な見守りを行っている。

また、諸活動がマンネリ化しないよう、市内 8 教室のサポーターが少なくとも年 1 回は一堂に会し、情報交換を行っている。その際、各教室で抱えている課題等を報告し、改善策を協議するとともに情報を共有している。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちの間では、些細なことで口論となることなどもありますが、サポーターはできる限り子供たち自身での「気づき」を尊重するよう心掛け、状況に応じて仲裁に入るか否かを判断している。その結果、現在では子供たちが学校外の活動を通して、上級生が下級生に宿題を教えたり、遊び方をレクチャーしたりする光景が多く見られるようになってきている。また、かつてこの教室に参加していた中高生が訪れることもあり、普段の学校生活では経験できないような、学年や世代を超えた交流も見られている。



「よんでんエネルギー講座」真剣に学習中



「クリスマス会」お菓子をもち寄ってパーティー

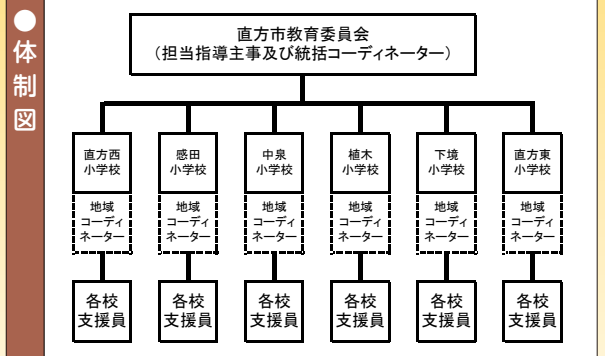
ポイント

公民館の特徴を活かした取組ですね。和室では落ち着いた静の活動を、大ホールでは運動などの動の活動を展開しています。開催日数も非常に多く、家庭にとって頼りとなる存在になっていることが伝わります。

児童生徒の家庭学習の習慣化を図ることを目的として行う学習支援活動

福岡県直方市	● 活動名	● 関係する学校名
	直方市放課後学習	直方市立直方西小学校、直方市立感田小学校、直方市立中泉小学校、直方市立植木小学校、直方市立下境小学校、直方市立直方東小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	23 学級	生徒数	603 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 図書室、パソコン室	連携なし	子供の参加人数	平均人数 45 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：直方市立感田小学校 実施場所：図書室及びパソコン室
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	PTA 役員、保護者、地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					



● 連絡先 直方市教育委員会学校教育課 ☎ 0949-25-2323

● 活動の概要・経緯
平成 26 年度の全国学力・学習状況調査では、平日に家庭学習を全くしない児童が 7.2% であり、帰宅後の家庭での学習習慣、学習時間が大きな課題となった。そこで、平成 27 年度より「決めた時間に、決めた場所で学習する家庭学習の習慣化を図る」ことを目的に直方市放課後学習に取り組み始めた。概要は次の通りである。市内 6 小学校に「地域コーディネーター」を置き、週に 2、3 回、年間約 75 日（1 日 2 時間程度）行う。また、直方市教育委員会に全体の企画立案、各調整等のために「統括コーディネーター」を設置する。実施校は中泉、感田、直方西、植木、下境、直方東小学校の 6 校で（市内の残り小学校 5 校、中学校 4 校は平成 29 年度以降計画に従って順次開設）、支援員は、大学生や教員 OB、地域住民・保護者などを活用する。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 教育委員会に市内の放課後学習の企画運営を行う「統括コーディネーター」を配置し、各校区にもその校区の支援員に関することや実際の放課後学習の運営を任せる「地域コーディネーター」を置くことで、事業自体の運営をスムーズにしている。
- 学習内容について、教育委員会及び学校で準備しているものをするのではなく、宿題を含めて自分の課題に応じて自分で学習するものを準備して自主的に進めている。

【実施にあたっての工夫】

- 基本的には、学校に負担をかけないように行っている。（学校にお願いしているのは、チラシ等の配布、自然災害等による開催中止の連絡のみ）
- 教育委員会主体で行う事業から各学校の PTA 主体の事業へと移行できるような仕組みづくり、組織づくりを同時に行いながら進めている。
- 教育委員会（担当指導主事、統括コーディネーター）→地域コーディネーター→学習支援員という連絡経路を確立している。
- 1 カ月間の学習支援員のシフト表を作成し（実施学校ごと）、前月に配布している。
- 市の学力向上推進計画とも関連させ、市独自に家庭学習調査を実施し、取り組みの有効性を検証するとともに、調査結果を次年度の取組に生かすようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

この事業による成果として、平成 28 年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙で平日に家庭学習を全くしない児童が 4.5%、平成 28 年 9 月に行った本市独自調査（1～6 年全児童対象）では、同様の質問項目で 1.4% となり、家庭での学習習慣、学習時間といった課題を解決する一助となっている。また、児童・保護者・学校等のアンケートからも次の 4 点が成果として挙げられる。
①児童の家庭学習時間の増加につながった。②児童の自発的な学習の促進につながった。③学ぶ楽しさを体感させることにつながった。④学力補充の一助となった。



友達との学び合いと見守る支援員



支援員による個別指導

ポイント

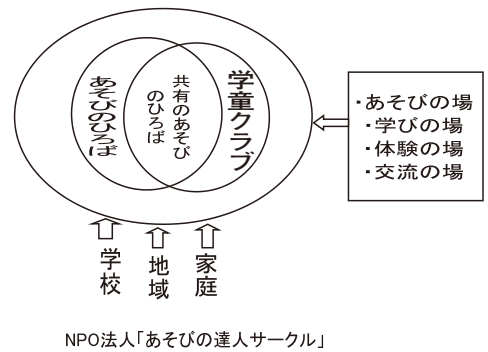
統括コーディネーターと地域コーディネーターがしっかりと機能を果たした好事例です。成果を数字で捉えている点も評価できます。今後も継続して取り組んでほしいと思います。

支援者や地域の見守りの中「あそびのひろば」で楽しく明るく元気に遊ぼう！

福岡県苅田町	● 活動名	● 関係する学校名
	馬場小学校区あそびの広場	苅田町立馬場小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	15 学級	生徒数	342 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	● 連携型	(連携状況) ■ 毎回 □ イベントがある時 (共有の活動場所) 体育館、グラウンド、会議室	□ 定期的に □ 活動場所を共有 (共有の活動場所) 体育館、グラウンド、会議室	連携なし	子供の参加人数
統一的な地域学校協働活動推進員の数	0 人	配置人数	1 人	実施場所	施設名：苅田町立馬場小学校 実施場所：体育館、グラウンド、会議室
ボランティアの数	12 人	属性	地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 苅田町役場子育て・健康課 ☎ 093-588-1036

- 活動の概要・経緯
 - ・学校行事で体育館を使用しない限り、平日の放課後(15時～17時)に「楽しく明るく元気に遊ぼう」を目標に「あそびのひろば」を開設。
 - ・学校及び学童クラブとの連携を図るため、月1回以上、スタッフ会議を開催。利用可能施設の確認のほか、運営方法やプログラム内容、課題の解決方法等の意見交換を実施。
 - ・月1回(土曜日)に「チャレンジタイム」として、ミニ運動会、バルンアート、卓球体験、芋づくりなどの農園体験を実施。
 - ・平日の「あそびのひろば」として、①体育館において室内球技道具などでの遊び、②グラウンドにおいてソフトボール・サッカー・砂遊び、③会議室において将棋・スゴロク・読書・宿題、などの活動を実施。
 - ・「あそびのひろば」では、学童クラブに通う児童と一緒に活動する時間があるため、子供たちの良い交流ができています。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・「チャレンジタイム」では、学童クラブに通う子供たちと一緒にできる活動を実施。
例：ミニコンサート(中学生の演奏)、農園体験(芋、とうもろこし)、クリスマス会、ミニ運動会など
- ・夏休み等の長期休暇や「チャレンジタイム」では、地域の方々の誘いを受け、生き物調査、川の清掃、公園の植樹の手伝い等、遊びとして体験活動を実施。
- ・「遊び」を通じて「学ぶ」ことによって、子供たちの育成に繋がるよう支援している。

【実施にあたっての工夫】

①スポーツで体力づくりをしよう、②あいさつをしましよ、③美しい字を書きましようの3つの目標を子供と大人が共有している。「あそびのひろば」は学童クラブとは子供たちの対応に関する考え方や活動内容が違うため、一体化する前は不安があった。しかし、「同じ学校の子供たち」というキーワードに支援者が同意。「あそびのひろば」と学童クラブで子供たちは別々に遊んでいたが、一体化を進めることによって子供たちのわだかまりが自然になくなり、仲良く遊ぶようになった。「一体化」1年目の平成27年度は、子供たちの様子の見守りに徹したことで、子供たちは同じクラスの友達を見つけて、一緒に遊ぶようになった。また、学童クラブを含め、異学年で遊ぶようになり、子供たちにとってお互いに良い交流の場となっている。スタッフ会議に学童クラブのスタッフを含む支援者が参加することによってそれぞれの分野の理解度が高まり、「チャレンジタイム」のイベントを手伝うことにも繋がっている。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちは「同じクラス」がキーワードとなり、共に遊ぶようになった。また、異年齢で遊ぶ「時間・空間・仲間」の3つの間ができた。円滑な一体化に向け、まずは「あそびのひろば」と学童クラブの支援者同士の理解を高めるため「あそびのひろばと学童クラブは同じ学校の児童！」をキーワードとして活動。「学年や学童クラブ等はピンスで色を分け、名札を付けているから、参加している子供たちを覚えることができた」と支援者の声があった。この取組は、スタッフ会議の提案により取り入れた。また、学童クラブを運営するNPO法人と学校が連携していたため、一体化することで「あそびのひろば」と学校との報・連・相の関係が進んだ。

● その他

NPO法人「あそびの達人サークル」が、学童クラブ及び放課後子供教室の運営に携わっている。



【農業体験】5月に芋のつるを植える様子。



【ミニコンサート】夏休みに中学生による演奏を聞き、実際に楽器を使って演奏する様子。

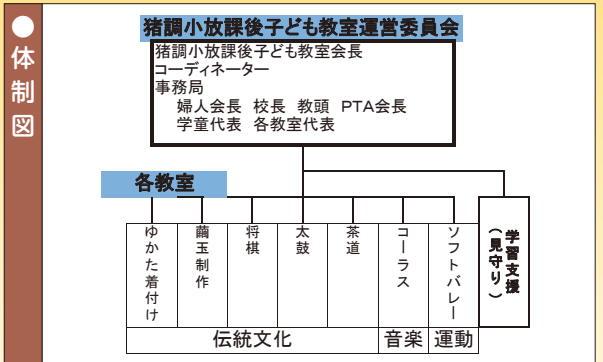
ポイント

学童クラブと放課後子供教室の連携や一体化を進めていく上で参考になる取組です。子供たちが多くの仲間と過ごせる環境を作っていく過程が素晴らしいです。今後も地域のモデルとして発展させてほしいと思います。

一つ一つの積み重ね、6年後の成長を目指して長〜い目で見守ろう！

長崎県佐世保市	● 活動名	● 関係する学校名
	猪調小放課後子ども教室	佐世保市立猪調小学校

開始年度	平成 22 年度	学級数	9 学級	生徒数	106 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所) 猪調小学校	連携なし	子供の参加人数	平均人数 9 人
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：音楽室、体育館等
ボランティアの数	登録人数 31 人	属性	PTA、婦人会、健全育成会、民生児童委員等		学習活動の有無 有
参考 URL	www.city.sasebo.ed.jp/es-inotsuki/asp/default.asp				



● 連絡先 佐世保市教育委員会社会教育課 ☎ 0956-24-1111

● 活動の概要・経緯

子供が安心・安全に過ごせる居場所づくりとして、毎週木曜日の放課後と毎週土曜日の午前中に実施している。内容としては、地元特有の繭玉制作、将棋、太鼓、ゆかた着付け、茶道の5つの伝統文化教室と、運動教室としてソフトバレーボール、音楽教室としてコーラス(英語学習含む)の合計7つの教室を開催。各教室の開催は年6〜7回であるが、入学してからの6年間を開催期間と考えているので、継続することで力をつけることができ、進級のたびに成長する姿が見られる。また、それぞれの教室が始まるまでのつなぎの時間を有効活用するため、宿題をする時間を設け学習支援にも力を入れている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

伝統文化に重きを置き、地域に根ざした教室を開催している。地元のシンボルとなっている繭玉の制作では完成した繭玉を地元の恒例行事である「江迎町繭玉祭り」で飾るとともに、卒業式や入学式の式場内の飾りとしても利用することで、子供たちの地域愛を育てることに寄与している。特に、本教室でゆかたの着付けを習得した児童が卒業した後、自分でゆかたを着て地元の祭りに参加している姿を見ると、6年間継続して身につけることでの習熟度の高さがうかがえる。

【実施にあたっての工夫】

教育活動推進員は、地域で実際に教えている方に依頼し、教育活動サポーターは、江迎町地域婦人会に依頼してシフトを組んでもらっており、地域での運営が確立されている。7つの教室はすべて参加自由としているため、興味ある活動のみでも参加できるように工夫している。また、教室開始や終了時の挨拶、人の話を聞く態度など、生活面での指導も行い、オン・オフのけじめをつけながら楽しく活動できるようにしている。さらに子供たちがやる気や達成感を得られるよう年度の最後に成果を発表する機会を設けている。コーラスや太鼓教室は、11月の猪調小学校ふるさと交流発表会に出演し、教室での成果を地域の方へ発表し、茶道やゆかた着付け教室は、合同教室を開催し、子供自身でゆかたを着てお茶を点て、保護者や教育活動サポーターの方々にお手前を披露している。

● 事業を実施しての効果・成果

開催から8年目。教室の内容はほとんど変わってはいないが、同じことを繰り返し長く続けることで、以前はできなかったことができるようになったり、できていたことがさらに上手にできるようになったりと、確実な成長が見られている。地域の方々との関わりも多くなり、放課後子供教室以外で会ったときも顔を覚えていて、子供たちの方から元気なあいさつができるようになり、地域の方々も、子供たちから声をかけてもらい嬉しいとの声があがっている。お互いに顔見知りになることで、地域の防犯にもつながっている。また地元の「繭玉祭り」に参加することで、故郷・江迎町の町おこしにも一役買っている。

● その他

コーラスを指導する先生が町で英語を教えている関係で、コーラス教室の中で英単語のカードを使用して発音等を含めて教えてくださっている。また、時には英語の歌に挑戦するなど意欲的に活動している。



手作りの障子を使ってお茶の練習



江迎町の繭玉祭りにむけ繭玉製作

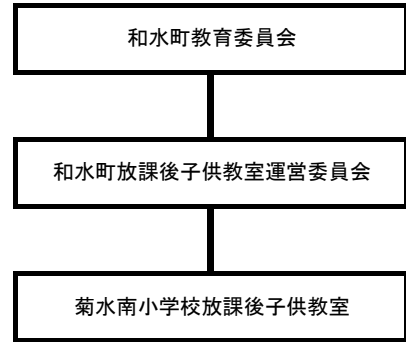
ポイント

伝統文化、運動、音楽の3本の柱で多彩な活動を展開しています。発表の場を設けていることも子供と地域にとって貴重な機会になっていると感じました。「継続は力なり」を証明する優れた取組ですね。

熊本県和水町	● 活動名	● 関係する学校名
	菊水南小学校放課後子供教室	和水町立菊水南小学校

開始年度	平成 19 年度	学級数	5 学級	生徒数	43 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	平均人数 29 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：小学校
ボランティアの数	登録人数 8 人	属性	元教員	学習活動の有無	有
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 和水町教育委員会社会教育課 ☎ 0968-86-2022

- 活動の概要・経緯
- ・今年 10 年目を迎える菊水南小学校放課後子供教室は、地域コーディネーターを中心とする活動スタッフのもと、月・水の週に 2 回活動している。8 名のスタッフの内 7 名のスタッフは教員 OB であることから、学校とのつながりが強く、児童との接し方も慣れているため、円滑な運営が可能である。活動は、伝承遊びや昔遊びなどの『体験活動』、七夕や正月などの季節に沿った活動のほか、『すくすく』という学習の時間を取り入れている。
 - ・菊水南小学校区に根付く旧村の名称「花簇（はなむれ）」（菊水南小学校区は、花簇村であった。）に残る様々な伝統を、地域・学校が一体となって子供たちに伝えることで、将来にわたって生まれ育った地元（花簇）に住みたいと思えるような活動を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 活動スタッフ（地域の先生）の指導のもと、七夕、凧上げ大会、節分の豆まき等の季節に関連するイベントの他、茶道、干し柿作り、松ぼっくり作り、水鉄砲作り、傘地蔵作り、陣取り等の伝承遊び（昔遊び）を作成から実施まで地域の方と児童とが一緒になって楽しんでいる。また、地元（花簇）のこをとり入れたカルタも子供たちと一緒に作成している。
- 平成 28 年度は熊本県伝統工芸館の御協力をいただき、『綿の種プロジェクト』を実施した。綿の苗植えから、綿花の収穫までを通して、綿が作られる工程はもちろん、洋服などの製品に使われていることを学ぶことのできる良い機会となった。

【実施にあたっての工夫】

- ・菊水南小学校放課後子供教室の地域コーディネーターが主体となり、スタッフ・学校の担当教諭と共に、上半期・下半期の 2 回に分けてプログラムの計画を行っている。
- ・参加児童が多く、また、異学年の交流となるため、縦割り班を編成することでスムーズにプログラムが進行するようにしている。高学年と低学年を同じ班にすることで、下級生を上級生が見守るといった自然な流れができ、上級生の成長につながるように工夫している。
- ・時間のかかる干し柿作りや絵手紙作り等は、工程ごとに 2 回に分けて実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・放課後子供教室だけでなく、日頃から地域の方と触れ合い、学校生活の中で接する方以外との交流が日々の生活の中で増えることで、学校外に出た時にも大きな挨拶を交わすようになった。また、地域の人たちにも学校のことはもちろんのこと、児童のことを知ってもらう良い機会となった。
- ・水鉄砲作りや凧上げなど、学校の授業では学ぶことのできない昔遊び・伝承遊びを体験することができた。また、地元まつわるカルタの作成をとおして、郷土に関心を持たせることができた。
- ・中学校でも様々な場面でリーダーとして活躍する子供たちが増えてきている。また、多くの子供たちが地域の神社や公園の清掃に参加しており、地域を愛する心が育ってきている。

● その他

- ・学習活動（すくすく）では、放課後子供教室の活動時間の一部を利用し、児童が解答した算数問題の丸付け・指導を行っている。



すくすくの様子（丸付け）



歌の活動

ポイント

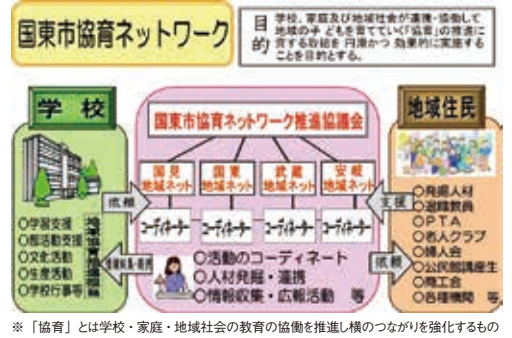
地域コーディネーターが学校と地域を上手に連携させています。教員 OB の方が多数参画することで、その連携を加速させています。地域と学校の協働の好事例だと感じます。

女性パワーが止まらない！協育を支える底力

大分県国東市	● 活動名	● 関係する学校名
	武蔵地域ネットワーク	国東市立武蔵中学校、国東市立武蔵西小学校、国東市立武蔵東小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	2 学級	生徒数	154 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	子供の参加人数	15 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：武蔵東小学校 実施場所：余裕教室
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	地域女性団体	学習活動の有無	有
参考 URL	http://www.city.kunisaki.oita.jp/				

● 体制図



● 連絡先 国東市教育委員会社会教育課 ☎ 0978-72-2121

● 活動の概要・経緯
 子供は家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨くという学校・家庭・地域の共通理解の下、平成 23 年度より国東市協育ネットワーク推進協議会を設置し、3 者が連携して協育する体制づくりを推進している。市内で 4 つのブロック（中学校区）に分け、地域の特色を生かした教育支援活動を展開している。今回紹介する「武蔵地域ネットワーク」（以下：武蔵地域ネット）では、地域女性グループの精力的な協力により、年間をとおして継続的な活動が実施できている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

武蔵地域ネットの特徴として、地域女性の積極的かつ精力的な活動が挙げられる。放課後子供教室（学習指導）における教育活動推進員に占める女性の割合は 8 割、体験学習の指導員については全て女性が担うなど、パワー全開の女性たちで構成されている。

【実施にあたっての工夫】

武蔵地域ネットでは、トータル的な学習コーディネートを図るため学校支援活動の他に、小学生を対象にした「放課後チャレンジ教室（学習支援、体験活動）」や中学生を対象にした「中学生学び応援教室（数学・英語）」さらに保護者、地域住民、学校関係者を対象にした「家庭教育講演会」も実施している。

特に「中学生学び応援教室」では、中学 3 年生を対象にすることで、受験対策の一つと位置付けグループ学習や個別指導などを行い、3 年生全員に参加するように促している。（登録率 96%）

● 事業を実施しての効果・成果

精力的な地域女性の協力により、親切、丁寧な指導を行っている。互いに学び合うことにより、学習に対する意欲の向上が見られる。また、異学年で学ぶ機会が多いため異年齢交流ができ、学校内でのいじめ問題等の未然防止にもつながっている。

平成 32 年度からは、現行の 2 小学校・1 中学校が小中一貫校として開校予定であり、今後交流の促進や継続的に学び合うことで、さらなる効果の向上をめざす。

学びの教室での指導・朝の読み聞かせ・学校図書館支援員等の様々な関わりをとおして、悩みや学習相談にも応じる程子供たちとの親密な信頼関係が築け、心のよりどころとしての役目も期待されている。



私たちが一緒に勉強しましょう
 学びの教室スタート



手先は器用よー！粘土工作任せなさい！

ポイント

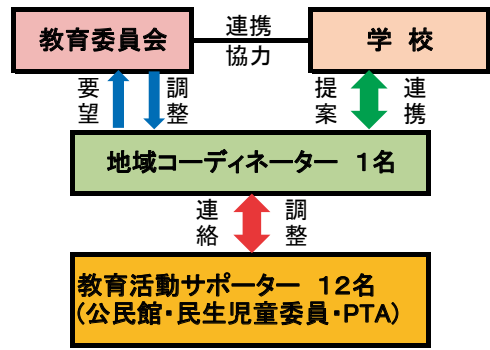
学習支援、キャリア教育、家庭支援など、意義ある活動がパワフルに実現されている姿が眩しいです。保護者や地域の女性の素晴らしい活躍がその土台にあります。ますますの発展が期待されますね。

地域の力で子供たちを心豊かで健やかに育む居場所づくりー名水っ子放課後子ども教室ー

宮崎県延岡市	● 活動名	● 関係する学校名
	名水っ子放課後子ども教室	延岡市立名水小学校

開始年度	平成 20 年度	学級数	3 学級	生徒数	15 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	連携型	(連携状況) <input type="checkbox"/> 毎回 <input type="checkbox"/> 定期的に <input type="checkbox"/> イベントがある時 <input type="checkbox"/> 活動場所を共有 (共有の活動場所)	連携なし	● 子供の参加人数	15 人
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	実施場所	施設名：小学校 実施場所：図書室、理科室、運動場、体育館
ボランティアの数	登録人数 12 人	属性	地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 延岡市教育委員会社会教育課 ☎ 0982-22-7032

● 活動の概要・経緯
平成 20 年度から名水小学校の余裕教室において、放課後の子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設けている。そして、地域住民の協力のもと、勉強やスポーツ・文化活動などの交流活動を通して、子供たちが地域社会のなかで、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。
教室では、地域コーディネーター 1 名、教育活動サポーター 12 名の地域住民が、長期休業や閉校日を除き、毎日の活動に参加している。

放課後子供教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 文化庁の「伝統文化伝承活動事業」を活用して、太鼓教室及びなぎなた教室を実施し、太鼓は地域の祭りで、なぎなたは運動会においてその成果を披露している。
- 当地域は海沿いに位置していることから、教室の延長として 10 月の土曜日に学校・地域・保護者を交えた「ハゼ釣り」を行い、釣った魚は調理して会食した。
- 学習については、あくまでも見守りという立場において自主学習を基本としており、教室の時間内での実施を強制することとしない。

【実施にあたっての工夫】

- 毎月 1 回開催する校区内会議では、コーディネーター及びサポーター・学校・行政を交えて、教室での子供たちの様子や、地域の危険箇所等を学校側へ伝えると同時に、学校での様子を聞いたり、行政からの研修案内など情報共有を図っている。
- コーディネーター及びサポーターが、行政や学校が実施する地震・津波を想定した避難訓練や救急法の講習などへ積極的に参加するなど、安全管理に努めている。
- 地域内でお互いに声をかけあって新たに確保するなど、コーディネーター及びサポーターの必要な人数を維持している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校や家庭では、なかなか体験できないような地域の伝承遊びや伝統文化を体験することができ次世代に継承されている。
- サポーターと子供たちを通して地域での顔見知りが増え、地域が子供の成長を見守ることで家庭との信頼や絆が深まり、地域活性化につながっている。
- 放課後もみんなと一緒にサッカーやバドミントンをして遊べるので楽しい。(児童より)
- 子供たちに教わることもあり、一緒に遊んでいると元気をもらえる。(サポーターより)
- 色々なイベントを考えてくださるので、毎回楽しく過ごさせてもらっている。(保護者より)

● その他

宮崎大学農学部延岡フィールドと連携したクサフグ産卵の事前学習会及び産卵状況の観察を実施した。



運動会にてなぎなた発表



保護者も一緒に「ハゼ釣り大会」

ポイント

なぎなたやハゼ釣りなどの特徴ある活動を、地域性を活かして展開していることが特筆に値します。保護者も巻き込みながら、とても楽しく活動されていることが伝わってきます。

土曜日もよく遊び よく学べ！ ～地域と学校みんなで子供たちを育てます～

北海道札幌市	● 活動名	● 関係する学校名
	伏古小サタデースクール	札幌市立伏古小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	15 学級	児童・生徒数	408 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（補修的学習、おやじの会と連携した子どもと大人の遊び場）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	専門学校北海道体育大学校
ボランティアの数	登録人数 25 人	属性	PTA役員、おやじの会、学生等		
参考 URL	http://www.fushiko-e.sapporo-c.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先 札幌市教育委員会生涯学習推進課 ☎ 011-211-3872

● 活動の概要・経緯
本活動は、平成 26 年度にサッポロサタデースクールモデル事業として始まり、今年で 4 年目を迎えることとなった。地域・家庭・学校が協働しながら、子供たちの学びの場として土曜日等に様々な教室を毎年 10 回程度開催してきた。具体的には、運動会練習として地域の体育専門学校から講師を招いた「走り方教室」、給食メニューを家庭でも作れるようにと企画した「親子料理教室」などである。その他、夏休みなど長期休業開始直後に子供の自主学習を支援する「サマースクール/ウインタースクール」は年々参加人数が増えている。平成 28 年度からは保護者も運営に参画し、大人と子供と一緒に遊べる場として「フェスティバル」を夏と冬に開催した。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

〈子供たちの興味関心に基づいた活動〉料理が好きな子供たちのため、親子でふれあいながら料理を学べる「親子料理教室」を開催している。また、遊びが大好きな子供たちのため、夏と冬に「フェスティバル」を開催した。特に「ウインターフェスティバル」は、札幌市が重点テーマとしている「雪」を楽しむ企画として「雪中リレー」や「雪合戦」、「雪積み競争」などを行った。

〈地域人材の積極的な活用〉「命の大切さ」がテーマのときには地域の産婦人科助産師を講師に招き、出産の大変さや親の愛情の深さを子供たちに伝えた。また、「親子料理教室」では、地域保育園で勤務していた栄養士を招き、調理体験を通して「食」への関心を高め、食事の大切さを子供たちに伝えた。

【実施にあたっての工夫】

○コーディネーターとの協働…地域連携事業協議会での方針・意見を受け、コーディネーターと学校が協力しながら企画の立案・運営を行っている。コーディネーターと地域の結びつきが広がりつつある。

○PTA・おやじの会・家庭教育学級との協働…夏と冬のフェスティバルはおやじの会が中心となって計画・実施し、「子どもたちとのふれあい」をテーマに様々な遊びを行った。さらに、PTA 役員や家庭教育学級の協力で、夏は焼きそばやかき氷、冬は暖かい豚汁を子供たちに提供することができた。

○学校評議員との連携…学校関係者評価委員会にて、地域住民である学校評議員からの意見も運営に反映している。

● 事業を実施しての効果・成果

参加した子供や保護者から「お母さんが大変な思いをして自分を産んでくれたことが分かった（命の大切さ）」、「来年も、また参加したいです（親子料理教室）」、「子供と全力で遊べる機会を作ってください、ありがとうございました（ウインターフェスティバル）」などの声が寄せられている。また、学校評価保護者アンケートでも、「サタデースクールがあるところが、伏古小の良いところだ」との声をたくさんいただいている。親子交流の場にもなり、充実した活動が実施できていると実感している。

保護者も運営に携わるようになり、「あの日に聞いてみるよ」「〇〇さんをお願いしてみようか」など、保護者から地域への働きかけがでてきた。地域・家庭・学校の関係が強化されつつある。

● その他

・夏休み・冬休み開始の2日間は、保護者・教師が中心となって子供たちの学習を支援する「サマースクール/ウインタースクール」が開催される。ほとんどの子供たちが長期休みの宿題に取り組んでいる。保護者からの開催要望が多く、毎年続けられている活動である。

・専門家を講師に招き、「PC モラル教室」を開催した。「インターネットを使うのは楽しいけど、怖いことも起きるんだなと思った」など、子供たちは情報機器を活用する際の注意点を学ぶことができた。



ウインターフェスティバルの雪積み競争「外で遊んだのが、久しぶりで楽しかった」（アンケートより）



学習を支援するサマースクール「先生やお母さんたちが、分かりやすく教えてくれました」（アンケートより）

ポイント

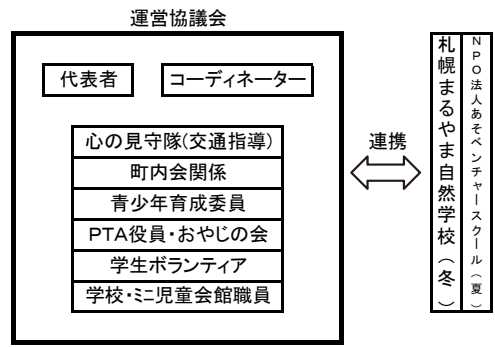
保護者の運営への参画や地域の専門家を招いた体験型学習の実施など、土曜日や長期休暇ならではの取組が素晴らしいですね。

長期休業中や土日に、地域の教育力を活用し、子供に学習や体験の場を提供

北海道札幌市	● 活動名	● 関係する学校名
	サタデースクール「時習館」	札幌市立手稲東小学校

開始年度	平成 25 年度	学級数	22 学級	児童・生徒数	612 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（補修的学習）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人	連携団体・企業等	NPO法人あそベンチャー・スクール
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	PTA役員、地域住民、大学生、元教員、卒業生等		
参考 URL	http://www.teinehigashi-e.sapporo-c.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先 札幌市教育委員会生涯学習推進課 ☎ 011-211-3872

● 活動の概要・経緯
本校では、明治5年の創立時の学校名から取った「時習館」という名称で、4年前から夏・冬休み期間中や、土日に、地域の方の協力を得るなどして、学習や様々な体験活動の場を提供してきた。また地域の青少年育成委員会や子ども会が学校との連携の中で「スポーツ大会」を行ってきた。2年前からは、それらの活動を札幌市の「サタデースクール事業」として整理し、実施している。長期休業中の学びの場、体力作りの場を提供するとともに、地域の自然を体験したり、伝統文化に触れる機会を提供することを目的に計画を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

夏休みと冬休みに各3日ずつ、交通指導で日常的に子供たちに関わってくれている地域の方や、学生ボランティアを「先生」に「学びの時習館」を行っている。

夏には校区の琴似発寒川で自然体験する「川遊び時習館」、冬には雪に覆われる札幌の冬を楽しく過ごす「冬遊び時習館」を、それぞれ専門の方を講師に実施している。

秋には体を動かす活動として「時習館ミニバレーボール大会」と日本の伝統文化を体験する「茶道教室、囲碁将棋教室」を行っている。

【実施にあたっての工夫】

開校145年目を迎える本校には、父母や祖父母も卒業生である児童が多い。地域の方も自分たちの学校として愛着が強い。多くの方が児童の健全な成長に積極的に関わろうとしてくださっている。

また、この地域は冬は何か月も雪に覆われたり、校区にたくさんの生き物が生息している琴似発寒川が流れていたり、豊かな自然環境に恵まれている。

このような学校を取り巻く環境を「地域の教育力」として活用するとともに、児童が自分の生まれ育ったこの地域への愛着を育てる機会にしたいと考えている。

○学校評議員との連携…学校関係者評価委員会にて、地域住民である学校評議員からの意見も運営に反映している。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちに、サタデースクール事業「時習館」の活動を通して、学ぶこと、体を動かすこと、自然（川や雪）に親しむこと、伝統文化にふれることの楽しさを体験的に理解させることができた。

子供たちの健全な成長を願う地域（地域住民、保護者、学生ボランティア等）の教育力を活かすことができた。また、子供たちが様々な活動の中でいろいろな人とふれ合い、地域に愛着をもつ機会にもなっている。

● その他

企業・NPO等との連携した活動：NPO法人あそベンチャー・スクール（近隣の川で生き物に触れる自然体験）、NPO法人札幌まるやま自然学校（雪を使った遊び・体験活動）



地域の方を「先生」として学習に取り組む「学びの時習館」



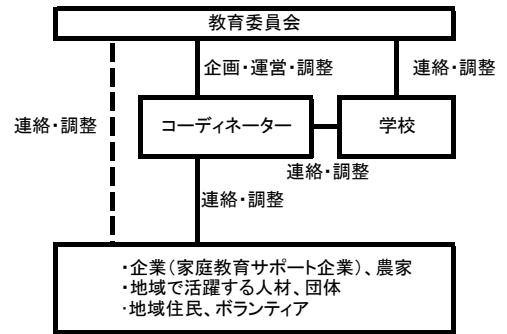
専門家を「先生」に、地域の自然を体験する「川遊び時習館」

地域の人・こと・ものにふれ、郷土愛を育む土曜学習 ～子どもチャレンジ教室～

北海道遠別町	● 活動名	● 関係する学校名
	子どもチャレンジ教室	遠別町立遠別小学校

開始年度	平成 9 年度	学級数	9 学級	児童・生徒数	108 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（生活体験、自然体験）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	連携団体・企業等	NPO法人えんべつ地域おこし協力隊
ボランティアの数	登録人数 4 人	属性	地域住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 遠別町教育委員会 社会教育係 ☎ 01632-7-2353

● 活動の概要・経緯
 遠別町では、「人を育てる、えんべつの学び」を基本理念に、学校・家庭・地域が一体となって子供を育む取組を進め、住民一人ひとりが、ふるさとを愛し生涯にわたり学び続けることのできるまちを目指している。
 また、様々な調査結果から、子供の頃の体験が豊かな人ほど、大人になってからの社会性やモラルなどの資質・能力が高いことが明らかになっていることを踏まえ、「子どもチャレンジ教室」を毎年継続して開催し、子供たちに社会で生きる力や郷土愛を育むとともに、地域で活躍する方々の参画により、地域が一体となって子供たちの成長を応援している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・小学校や各種スポーツ少年団と調整を図るため年間計画を作成し、昨年度は8事業を企画している。
- ・活動としては、郷土学習ハイキング・サイクリング、野菜収穫や調理体験を実施するキャンプ、クラフト体験、スポーツ体験などを実施し、体験活動の中に、郷土学習の機会を取り入れ、自分たちの住む地域のよさに気付くことができるプログラム作りを行っている。郷土学習ハイキング・サイクリングでは、「水稻発祥の碑」、「ルベシの大山松」など、町内の名所を巡り、学習を行っている。
- ・継続的に多彩な体験活動を提供できるように年度毎に事業内容を変更しながら実施している。

【実施にあたっての工夫】

- ・子供たちに望ましい生活習慣づくりを意識付けするため、午前中の実施を基本として実施している。
- ・平成28年度は、夜間プログラムとなる「蛍の観察会」を行い、保護者の参加を可能とし、親子で楽しむことができる内容とした。
- ・地域で活躍する人材を講師として、地域の方と子供たちの異世代の交流を図るとともに、参加者と講師の双方がスキルアップや意識の向上につながるよう計画している。
- ・毎年事業内容を変更し、マンネリ化を防ぐとともに、様々な講師の参画を促し、地域の方が積極的に本事業に関わりをもてるよう工夫している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地域の様々な分野で活躍している人材を講師とすることで、講師の活躍の場を提供する機会となるとともに、参加者が地域を知り、町内の生涯学習振興の機会となっている。
- ・地域で活躍する人材や団体との連携により、地域全体で子供たちを育てる意識を醸成する機会になっている。
- ・プログラムに郷土学習を提供することで、参加者が地域を知る機会となり、郷土愛を育むことにつながっている。
- ・体験活動プログラムとして実施することで、楽しく学びを深めるとともに、社会で生きる力の育成につながっている。
- ・過去に事業に参加した方が成人し、講師として活躍していることから、人材養成の機会になっている。

● その他

(平成28年度実績) : NPO 法人えんべつ地域おこし協力隊、遠別町そば打ちを楽しむ会、留萌森林室天塩事務所



平成28年度「キャンプ」



平成28年度「そば打ち体験」

ポイント

郷土学習と、身体を動かす多彩な体験活動を組み合わせたプログラムが素晴らしいです。

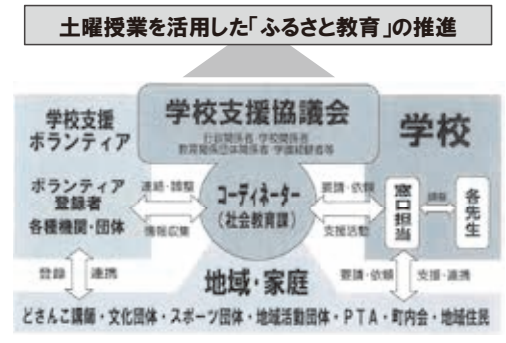
土曜授業を活用した「ふるさと教育」の推進

北海道白糠町	● 活動名	● 関係する学校名
	白糠町土曜授業	白糠町立白糠小学校、白糠町立庶路小学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	176 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 11 人	連携団体・企業等	白糠アイヌ文化保存会
ボランティアの数	登録人数 17 人	属性	地域住民 等		
参考 URL					

● 連絡先 白糠町教育委員会社会教育課 ☎ 01547-2-2287

● 体制図



● 活動の概要・経緯
白糠町内の小中学校では、平成 28 年度より年 5 回の土曜授業を実施している。地域資源を有効的に活用しながら地域の文化団体や町内会、企業などと連携・協力し、白糠町が教育の基軸としている「ふるさと教育」をより充実させるとともに、子供たちの学びをより豊かにし、地域全体で育てる体制づくりを進めている。「ふるさとのよさをみつめ、ふるさとを愛する子供」「豊かな心をもち、生き抜き子供」「ふるさとを創る子供」の育成を目指し、地域全体で「ふるさと教育」を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 白糠小学校では、白糠アイヌ文化保存会による出前授業を全学年で実施している。①カルタによるアイヌ語学習、②伝統楽器である「ムックリ」の演奏体験、③古式舞踊和踊りの体験、④アイヌ民族料理の調理体験、と学年に応じた内容を取り上げ、地域のアイヌ文化を学ぶ取組が行われている。子供たちが郷土の歴史や文化について理解する上でアイヌ文化は大変重要なものであり、系統的・段階的な学習を行うことで子供たちは地域に関する知識や理解を深めている。
- 庶路小学校では、地域の町内会や企業と合同で津波避難訓練を実施し、地域の課題を共に考える機会としている。訓練当日は、地域の人々が避難経路に立ち、子供たちを見守りながら避難し、安全を確保した。地域は海岸に位置していることから大津波に対する防災教育が重要である。地域の人々とともに課題を見つめ、行動につなげる力を培っている。

【実施にあたっての工夫】

- 土曜授業等を活用して、地域とつながりの深いアイヌ文化や伝統について学ぶことで、ふるさとの理解を深める機会を充実させている。全学年を対象に発達段階に応じた活動を展開し、子供たちが親しみやすい内容で構成している。
- 安心・安全な地域環境を整備し、子供と地域が安心して生活できるよう、地域と連携した防災教育を実施している。
- 教育委員会社会教育課が学校支援協議会のコーディネーターとなり、地域と学校とが連携することで、土曜授業の更なる充実を図るとともに「ふるさと教育」の推進に努めている。
- アイヌ文化を学ぶ体験的な活動は、土曜授業を中心に実施しているが、調査・探究などの学習は平日の学習で行っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 地域の文化に触れ、地域住民と関わる機会を充実させることで、子供たちの学習がより一層深まり、地域の良さや課題を共に見つめるきっかけとなった。また、アイヌ民族についての理解を深め、ふるさと白糠の歴史や文化について学ぶことができた。
- 地域と連携することで、白糠町「ふるさと教育」の推進に向けた取組を一層深めることができ、平成 30 年度より庶路地区で開始するコミュニティ・スクール制度導入へ向けた土台づくりにつながった。

● その他

白糠小学校アイヌ文化出前授業（白糠アイヌ文化保存会）、庶路小学校合同避難訓練（東和食品、下庶路町内会）



白糠小学校のアイヌ文化出前授業



庶路小学校の地域合同避難訓練

ポイント

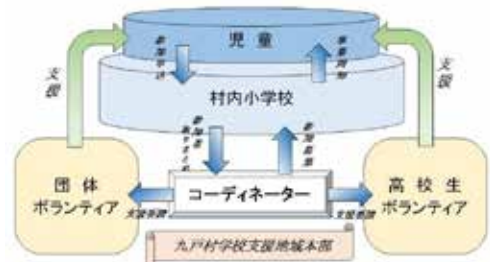
学校の授業とリンクさせたふるさと学習の事例です。調査・探求は授業（学校教育）、体験は土曜日（社会教育）といったように役割分担して、相互補完しながらより深い学びを实践できており素晴らしいですね。

たくましい『九戸っ子』を育てるために ～休日を利用した体験活動の充実～

岩手県九戸村	● 活動名	● 関係する学校名
	九戸村学校支援地域本部事業（九曜塾）	岩手県立伊保内高等学校、九戸村立伊保内小学校、九戸村立長興寺小学校、九戸村立戸田小学校、九戸村立山根小学校、九戸村立江刺家小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	111 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（補修的学習）				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	九戸村山友会
ボランティアの数	登録人数 27 人	属性	地域住民 高校生		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 九戸村教育委員会 生涯学習班 ☎ 0195-42-2111

● 活動の概要・経緯
九戸村の豊かな自然や風土にふれながら、子供たちの感性を刺激する体験活動を通して、「知・徳・体」のバランスの取れた子供を育成することを目的として本事業がスタートした。
平成 26 年度に試行的に実施したところ、周知・募集期間が短く参加者が少なかったものの好評であったことから、平成 27 年度より学校支援地域本部事業のひとつとして位置付け、5 月から 2 月までの月 1 回、定期開催することとして計画した。
また、土曜日開催の他に、夏季及び冬季休業中に「寺子屋九曜塾」を実施し、意欲的に学習に取り組もうとする子供に学びの場を提供している。高校生及び一般のボランティアから個別に学習支援を受けることにより、村内の子供たちの学力向上を目指している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

本村特有の環境にふれる体験学習を、村内及びゆかりのある周辺地域において実施している。
活動方針として、

- ①村にある自然・文化にふれ、地域の理解につながるもの。
- ②村の歴史や文化に関連するも学びを通して、地域を見つめる機会となるもの。
- ③年代の異なる人、あるいは地域の方々とのふれ合いの機会となるもの。

の 3 点を掲げ、村内の自然環境や施設の利活用を視点として学習プログラムを組み立てている。
平成 28 年度の実施状況は、5 月：森林学習、6 月：塩の道学習、7 月：ナイトウォーク（ヒメポタル観賞会）、8 月：九戸政実公学習、9 月：世代間交流、10 月：九戸村遺跡探検、11 月：民芸品創作、12 月：郷土料理づくり、1 月：スキー交流会、2 月：かんじき体験となっている。

【実施にあたっての工夫】

- ・事業実施に当たっては、地域コーディネーターが中心となり事業内容の企画立案をし、各小学校を通じて事業周知と参加者の取りまとめを依頼している。また、高校生やボランティア団体の支援も募り、講座を運営している。
- ・各学校を通じて事業周知を行うことにより経費の節減を図るとともに、本事業が子供の話題となり、誘い合って参加するなどの効果が見られる。
- ・地域コーディネーターを中心に講師や活発なボランティアや団体の情報を集め、活動内容に適した支援を依頼することにより、より質の高い事業となるようにしている。活動内容の充実、また、参加した子供の安全確保に至るまで村民を中心とした全面的なバックアップを得て活動を進めることができている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・地元の魅力の再発見につながる事が多く、参加した子供は生き生きと楽しく活動している。
- ・村の自然や文化、歴史、人とふれ合う体験活動を通じ、郷土への誇りや愛着が深まっている。
- ・高学年が低学年の世話をする場面も多くみられ、仲間づくりや子供同士の交流も活発に行われている。
- ・事業に参加することで、子供たちの休日の見守りにもつながり、保護者からも好評である。
- ・事業の認知度が高まり、プログラムによっては親子で参加するケースも見られ、参加者が増加してきている。

<参加人数>

- ・九曜塾 平成 27 年度 151 人 ⇒ 平成 28 年度 197 人
- ・寺子屋九曜塾 平成 27 年度 25 人 ⇒ 平成 28 年度 131 人

● その他

- ・森林学習・塩の道トレッキング・ヒメポタル観察（折爪岳山頂付近）・九戸政実を学ぶ・国体おもてなし活動・紅葉狩り&九戸村遺跡探検
- ・創作活動・郷土料理・戸の町スキー交流会 等



森林学習
（五感を駆使して自然を感じよう）



かんじき体験
（冬山路破に挑戦！）

ポイント

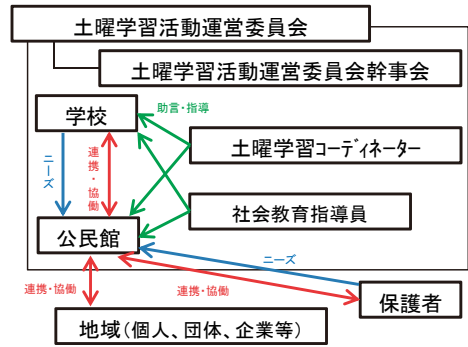
地域の自然文化を活かした体験型学習と、高校生ボランティアも参画する寺子屋の実施により、子供たちの郷土への愛着と異年齢交流が図られている点が素晴らしいです。

地域の人材・企業等と学校・家庭・公民館が連携！ 土曜ならではの学び

福島県いわき市	● 活動名	● 関係する学校名
	みまや土曜たいけん隊	いわき市立御厩小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	14 学級	児童・生徒数	297 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 5 人	連携団体・企業等	常磐開発㈱ 外 15 団体・企業等
ボランティアの数	登録人数 11.7 人	属性	PTA ※登録制ではないため、H28 平均から 1 回あたり人数を記載		
参考 URL	http://www.iwaki.gr.fks.ed.jp/?page_id=113 ※御厩小学校のブログの中で紹介記事を掲載				

● 体制図



● 連絡先 いわき市教育委員会事務局生涯学習課 ☎ 0246-22-7556

● 活動の概要・経緯
地域の教育力を高めながら、子供たちの成長を支えるより豊かな教育環境を提供するため、地域の人材・企業等の協力の下、学校・家庭・地域と公民館が連携し、子供たちに土曜日ならではの多様な学びの機会を設けることで、学び意欲や実社会・実生活で役立つ力を培う取組となっている。
現在、市内 18 小学校の児童を対象に「土曜学習」を実施しているが、このうち、御厩小学校は、平成 27 年度に「土曜学習」をモデル実施化した当時から実施校として「土曜学習」に取り組んでおり、その活動には、毎回、多くの地元企業等や学校・保護者が関わっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「土曜学習」では、一部に企業の CSR 活動をプログラムとして活用している（平成 28 年度実績：110 講座中 30 講座）が、特に、御厩小学校の「土曜学習」では、年 10 回のプログラムのうち 3 回が地元企業の協力により実施され、それぞれ川の環境改善と水生生物のかかわり、実演を通じた科学体験、地層や液状化のしくみなど、体験的かつ教科に即した発展的な内容となった。

また、御厩小学校出身者がプログラム講師を務めるなど、地域の大人から子供へ郷土に対する愛着心を伝えるきっかけにもなっている。

【実施にあたっての工夫】

毎回 100 人前後の参加児童がある中、プログラムを円滑かつ効果的に実施するには、大人の声かけや見守りが有効であることから、「土曜学習」の年間参加者の募集に合わせて保護者ボランティアを募り、毎回 10 人程度の協力を得ている。また学校からも教員の協力を得ることで、非常にスムーズな運営が可能となっている。

このほか、「土曜学習」の様子を御厩小学校のブログに掲載するなど、学校からも保護者・地域に対して「土曜学習」の意義や効果を発信することができている。

● 事業を実施しての効果・成果

年間 10 回の多様なプログラムを通じて、子供たちの新たな興味・関心を引き出すとともに、学習意欲の向上や社会的課題への意識を高め、あるいは郷土に対する愛着心を醸成することができた。また、地元の個人、団体、企業が各回魅力的なプログラムとなるよう工夫を凝らしており、さらに次年度は発展的な内容や視点を変えたプログラムとするなど、地域としての教育力の向上と「地域ぐるみで子供を育てる」という意識の醸成にもつながっている。さらに、毎回、多くの保護者ボランティアや教員が当日のプログラム運営に協力し、学校・家庭・地域と公民館の連携・協働による子供の豊かな教育環境が形成されている。

● その他

- 第 2 回：常磐開発㈱「川と私たちの生活」
- 第 4 回：ミサワホーム㈱「南極について学ぼう」
- 第 4 回(1～3 年生)：㈱プランニング開「クラウンパフォーマンス」
- 第 5 回：常磐共同ガス㈱「サイエンスショー」
- 第 8 回：地質基礎工業㈱「大地の作り」



手作りする過装置実験で水がきれいになるしくみを実感



いわきゆかりのブログが歌やピアノ、ヴァイオリンで音楽の魅力を伝授

ポイント

地元企業の CSR 活動を活用し、体験的で発展的な学習を取り入れているところが素晴らしいですね。

学びとふれあいの場が広がる —ちいきの先生による学習支援—

埼玉県深谷市		● 活動名 がんばル〜ム			● 関係する学校名 深谷市内 19 小学校		
		開始年度	平成 14 年度	学級数	3 学級	児童・生徒数	50 人
活動内容		<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（補修的学習）					
統一的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数	地域学校協働活動推進員の数	配置人数	連携団体・企業等	体制図 		
	0 人	38 人					
ボランティアの数	登録人数	属性					
	144 人						
参考 URL							
● 連絡先		深谷市 教育委員会 生涯学習スポーツ振興課			☎ 048-572-9581		
● 活動の概要・経緯	<p>がんばル〜ムは、深谷市内の全 19 小学校において、土曜日の午前中に、各小学校の図書室や余裕教室を利用して実施している活動である。平成 14 年からの完全学校週 5 日制に伴い、地域の子供たちが充実した休日を過ごすため有意義な活動機会を提供することを目的として始まり、個別学習の指導や相談を行う小学生学習支援事業「がんばル〜ム」として開設された。「がんばル〜ム」における学習支援者は、一般公募による「ちいきの先生」となっており、子供たちにとって個々の学力アップのみではなく、地域の様々な方々と交流することを通じて、自主性、社会性、創造性を育てることを目的としている。</p>						

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・平成 14 年度より、土曜の午前中に小学校の図書室等を利用して、実施している。
- ・教科書に準拠した国語と算数の学年ごとの統一した問題集を使用しているため、予習・復習に最適である。
- ・平成 28 年度の参加児童の延べ人数は、16,000 人である。
- ・各小学校概ね年間 30 回程度実施
- ・学習時間の途中にハーフタイムを設け、体を動かしたり、「ちいきの先生」、年齢の違う子供たちとのふれあいも大切にしている。
- ・勉強だけでなく運動も取り入れる目的で、市スポーツ推進委員による「軽スポーツ教室」を実施。

【実施にあたっての工夫】

- ・各学校に「ちいきの先生」をまとめ役として、また、教育委員会と学校との調整役として、マネージャー・サブマネージャーを配置し、事業のスムーズな運営を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

完全学校週 5 日制が定着し、子供たちの休日の過ごし方は多様となり、より充実したものとなっている。本事業は、子供たちが有意義な土曜日を過ごすための一つの選択肢として、大変重要である。勉強以外にも楽しめるプログラムを取り入れながら、学校・家庭と一層連携し、充実した「がんばル〜ム」へとつなげたい。

● その他

教科書に準拠した国語と算数の学年ごとの統一した問題集に沿ってすすめているため、学校の予習復習に最適である。学習時間の合間のハーフタイムには、外遊び等で異学年の交流を図るとともに、スポーツ推進員を派遣して、体を動かす軽スポーツ教室を実施している。



学習風景



軽スポーツ教室

ポイント

学習時間の合間の「ハーフタイム」に、軽スポーツを取り入れ、異年齢の子供たち同士の交流も大切にしているところが素晴らしいです。

子供も大人もみんなが笑顔になれる寺子屋活動

● 活動名		● 関係する学校名	
神奈川県川崎市 東小倉小「地域の寺子屋事業」		川崎市立東小倉小学校	
開始年度	平成 27 年度	学級数	20 学級
		児童・生徒数	481 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他（補習的学習）		
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 2 人
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性	連携団体・企業等
参考 URL	http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-14-0-0-0-0-0-0-0-0.html		
● 連絡先	川崎市教育委員会事務局生涯学習推進課		☎ 044-200-3309

● 体制図



● 活動の概要・経緯

○東小倉小学校は、再開発により1,700戸からの大規模マンション建設に併せてマンションの敷地内に作られた小学校。平成27年に当該校の校長より校区の自治会・町内会に、本市における土曜日の教育活動として展開している「地域の寺子屋事業」を東小倉小学校でも実施していきたいとの働きかけがあり、その思いにこたえる形で町内会・自治会が中心となって「東小倉小寺子屋事業実行委員会」を立ち上げた。

○市内で先行して平成26年度より実施されていた寺子屋の見学や、教育委員会が開催する学習会への出席、地域への協力者募集の呼びかけ、保護者へのアンケート調査、協力者への研修などを経て、平成28年1月より当該事業をスタートした。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 小学校の施設を活用しながら、放課後の学習・あそび支援と、土曜日に行う体験活動をセットで実施している。
- 放課後の学習では、地域に住む退職教員や企業OB、主婦など地域内の様々な人材が「寺子屋先生」となって、家庭学習の支援と学習習慣の定着を目指して宿題やプリント学習のサポートを行う。後半は、寺子屋先生達の特技を活かしたコマやマジック、お手玉、囲碁、けん玉など12のプログラムから毎回、3つ程度のプログラムを実施している。
- 土曜日の体験活動も「地域人材を活かす」ことを方針として、その道のエキスパートに寺子屋先生として登場してもらい、「流しソーメン」や「絵画」「ゴム動力飛行機」「陶芸」など様々なプログラムを実施している。土曜日の体験活動には保護者も参加して、地域住民と保護者、子供たちとの世代間交流の場となっている。

【実施にあたっての工夫】

- イメージキャラクター「寺ッコ」を、プリントや名札・参加カードなどに多用し、子供たちが楽しく、親しみをもって寺子屋に参加できるようにしている。
- 今日は何の勉強をするのか、どのプログラムに参加するのか、子供が自分で決めるなど、子供たちの自主性を育む工夫をしている。
- 「寺子屋先生」として事業に協力してくれる地域の方には、実行委員会の委員長と学校長の連名で委嘱状を交付し、自覚と責任を持って活動に参加してもらうようにしている。
- 「子供たちが笑顔で帰ること」「寺子屋先生も笑顔で帰ること」「毎回の活動の後にはアセスメントすること（アンケート調査、振り返りの会）」「準備にたっぷり時間をかけること」「寺子屋先生は地域から選出すること」を大事に、活動に取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

- 寺子屋先生として関わる大人と子供たちが顔見知りになったことで、学校外で会った時も挨拶しあえるような関係ができ、地域と子供たちの距離がとても縮まった。子供たちが安心して安全に過ごせる地域づくりにもつながっていると感じている。
- 「隣の町内会の方と知り合いになれた」など、寺子屋に関わる大人同士の関係づくりにもなり、退職後のシニア世代の地域でのつながりや、地域の絆づくりにつながっている。
- 子供や保護者からは「楽しかった」「今日教えてもらったのをうちでもやりたい」「家ではできない体験ができる寺子屋は、子供にとってとても良い影響を与えてくれると思います」「核家族なのでご年配の方との交流はととてもありがたいです。予想以上に子供は楽しみにしています」などの声があげられている。



放課後の学習教室
地域の方が寺子屋先生



体験活動 流しソーメン
材料作りから全てやります

ポイント

イメージキャラクターなど子供たちが親しみの持てる工夫をしている様子が良く伝わってきます。子供たちの主体性を育むことができるような事業プログラムが練られているところが参考になります。

シニアのパワーで地域を元気に

神奈川県川崎市	● 活動名	● 関係する学校名
	遊びと学びの寺子屋	川崎市立中野島小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	32 学級	児童・生徒数	887 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input checked="" type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input checked="" type="checkbox"/> その他(補習的学習)				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 3 人	連携団体・企業等	日本女子大学
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性			
参考 URL	http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-14-0-0-0-0-0-0-0.html				

● 体制図

中野島小学校「遊びと学びの寺子屋」

- ★学習支援教室
 - 寺子屋先生による指導
 - 独自の教材開発
 - 定時放課後に実施
 - 低学年、高学年クラス
- ★体験学習・世代間交流
 - シニア世代、企業、大学などの社会資源活用
 - 社会を知る体験と多世代交流の機会を演出
- ★寺子屋事業コーディネーター、スタッフ
 - 中野島小学校保護者への事業案内、参加者募集
 - 実施日受付、保護者との連絡、わくわくと連携
 - 振り返り
 - 実施記録

協働・協力関係

- 中野島小学校
- 中野島町会(4800世帯)体験学習チラシ配布等
- 多摩区役所(学校支援センター)、多摩市民館
- 多摩区まちづくり協議会、区内の市民活動団体

● 連絡先 川崎市教育委員会事務局生涯学習推進課 ☎ 044-200-3309

● 活動の概要・経緯

○事業の運営を担う「NPO法人かわさき創造プロジェクト」は、本市が2005年に開催した「シニア地域活動モデル創造ワークショップ」の受講者が立ち上げた団体であり、シニア世代に地域参加の機会と場を提供し、豊かなシニアライフの構築と市民生活向上に寄与することを目的に活動している団体である。

○市内学校のPC授業のサポートや、地域のシニア世代を対象にした事業、当該校での特別活動室の開放管理や特別活動室を活用した生涯学習事業の実施など、中野島地域を中心に市内で幅広い活動の実績があり、平成26年度に本市が土曜日の教育活動の枠により「地域の寺子屋事業」を立ち上げるにあたり、立ち上げ初年度のモデル事業として、当該事業に取り組むこととなった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 小学校の施設を活用しながら、放課後の学習支援と、土曜日に行う体験活動をセットで実施している。
- 放課後の学習では、退職教員や地域の方が「寺子屋先生」となり、導入時は個別課題として宿題やプリント学習のサポートを行う。学習では、寺子屋先生の特技を活かし、子供の知的好奇心を引き出す数理的なマジック等で楽しく、面白い時間を演出。複数の学年で一緒に考えるパズル、課題、興味ある問題を行うなど、子供たちの興味と関心を引き出し、学びへの意欲と態度を養う活動を展開している。
- 土曜日の体験活動では、「多世代の交流と学び合いの場をつくる」ことを方針として、地域にも広く参加を呼びかけ、地域のシニア世代や大学などの社会資源を活用しながら、昔遊び、絵画、切り絵、スノードームづくり、料理、落語など様々なプログラムを実施している。

【実施にあたっての工夫】

- 放課後の学習教室では「学校の7時間目でも塾でもない場」を合言葉に、学校の授業ではなかなか取り組めない、クイズやパズル的な問題を楽しく体験させることを大切にしている。子供たちの数学的な思考を養い、漢字の始まりを子供と一緒に学ぶことを通じて興味や関心を培っている。感動や達成感を通して、子供たちの自主性、自発性を育て、また学習が習慣化するためのきっかけとなる場を目指して、活動している。
- 地域と学校が連携・協働した基盤的な活動として本市が実施している「学校支援センター」と連携し、退職教員が地域の方たちに子供への接し方や学習への関わり方のコツを伝授しながら、事業実施後の振り返りを丁寧に行い、より充実した活動となるように工夫している。
- 体験活動では、モノづくりなどの体験を通して、地域の方たちとの関わりに関心をもってもらい、保護者も含めた多世代で交流し、学び合える場となることを目指している。

● 事業を実施しての効果・成果

- 参加した子供からは「親や先生以外の大人と話げできた」「勉強が好きになった」「学校や家では勉強できないこと教えてもらった」「勇気を出して手を上げられるようになった」「今までにしたことがない事をしたのですごく面白かった」という声が出ている。
- 寺子屋先生と地域の大人も毎回振り返りの時間をもち、よりよい活動の場となるように工夫を重ね、学びの場ともなっている。
- 保護者からは「地域の方と交流できた」「親子で楽しめた」「子供のいつもと違う笑顔が見られた」「学習の習慣が身についた」「寺子屋や学校のことを自分から話すようになった」「自分で考えるようになった」「以前より人の話を聞くようになった」という声があげられている。

● その他

地元の団体以外にも、NPO法人や株式会社、地元キャンパスを構える日本女子大学などの協力も得て、多彩なプログラムを実施しています。



学習支援教室。最初の学習日。一人一人が自己紹介をする。



体験学習・世代間交流。牛乳パックを使う竹とんぼ作り。

ポイント

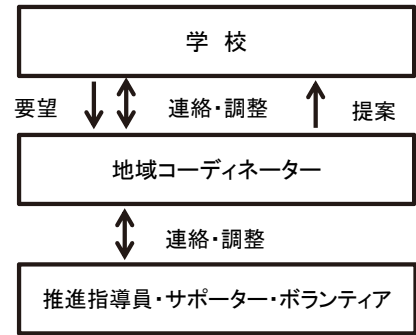
「学校の7時間目でも塾でもない」この事業の肝の部分が全体に共有されているところが素晴らしいです。多彩な方々との関係づくりがなされているところも示唆に富みます。

じょうぶな頭とかしい体 ～古府っ子教室～

富山県高岡市	● 活動名	● 関係する学校名
	土曜古府っ子教室	高岡市立古府小学校

開始年度	平成 26 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	222 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 6 人	連携団体・企業等	高岡市立古府公民館
ボランティアの数	登録人数 38 人	属性	地域住民、PTA役員等		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 高岡市教育委員会生涯学習・文化財課 ☎ 0766-20-1454

● 活動の概要・経緯
 平成26年度より、高岡市の学習モデル事業として活動を開始。「じょうぶな頭とかしい体」をキーワードに地域の大学生と協力した学習支援等を行う「古府っ子教室」や「地域の歴史を学ぶ」、「タグラグビー」、「年をとってどんなこと?」、「座禅体験」、「伝承料理をつくらう」、「元気なところと体のお話を聞こう」、「朗読体験」、「絵手紙をかいてみよう」等の多様なプログラムに取り組んでいる。地域コーディネーターが中心となり、学校や公民館、校区内にある万葉歴史館、地域の諸団体、地域の方々等の幅広い協力を得て、活動を実施している。基本的に公民館を活動場所としている。
 主な活動内容（一部は、親子参加型）
 ・古府っ子教室（学習支援）・地域の歴史を学ぶ・タグラグビー教室・川柳教室・絵手紙教室・ダンス教室

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「地域の歴史を学ぼう」は、地域の名所・伝統文化・歴史等を学ぶ内容となっており、地域の特色を活かした活動となっている。「万葉歴史館」を見学した際は、地域との関係が深い「万葉集」「大伴家持」について学び、地域の歴史を身近に感じる活動となった。また、校区内の伏木気象資料館や北前船資料館を見学した際は、資料や紙芝居の見学を通じて、地域への関心を高める機会となった。「古府っ子教室」では、参加者が宿題等の教材を持ち寄り、分からないところを聞く自習学習方式で行い、地元の大学生が指導員として、学習支援に携わっている。学習後は、子供が自ら活動内容を決め、工作や運動に取り組むマイプログラムを実施することで、子供の自主性や個性の成長を促している。

【実施にあたっての工夫】

活動の日程・内容は、地域コーディネーターが中心となり、学校・PTA・地域コーディネーター・地域の方と相談して決めている。そして、活動内容が充実したものとなるように、PTA や学校と協力し、幅広く活動に取り組んでいる。さらに、一部の活動では、児童だけでなく、保護者や地域の方にも参加を募って、親子参加型で活動しており、地域の方々と交流することができる場となっている。また、アンケート結果や感想の聞き取りをフィードバックし、より充実した内容になるように工夫している。基本的に、1回あたり、9時30分～11時30分までの2時間の活動として、短時間でメリハリのある活動になるように取り組んでいる。

● 事業を実施しての効果・成果

参加人数は、プログラムによってかなり幅があるが、充実した活動が行われている。また、様々な学年の児童が参加していることから、児童が学年の枠を超えて交流している様子がうかがえる。普段、学校では体験できないプログラムが多く、子供たちが地域の文化を愛し、見識を深めるきっかけになっている。保護者の参加・協力もあり、親子で古府校区の良さを再発見する機会になっている。また、地域の方にとっては、子供たちのことを知ってもらう場になっている。土曜日に一人で過ごしている子供の受け皿としても有効に機能しており、土曜日における教育環境が豊かになったと考えている。



絵手紙教室



地域の歴史を学ぼう

ポイント

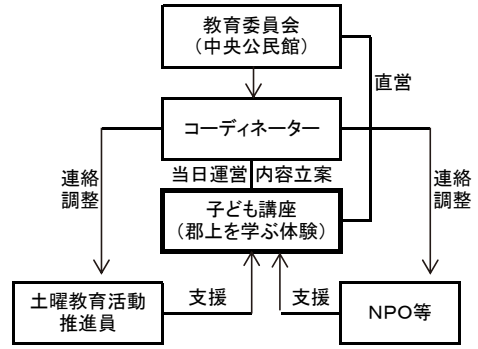
親子参加型の土曜ならではの取組や、「じょうぶな頭とかしい体」というキーワードがとても良いですね。

子供たちへ…体験通じ深めてほしい 郡上の学び ふるさと愛

岐阜県郡上市	● 活動名	● 関係する学校名
	「ふるさと」たんけん！郡上を体験！ 郡上こども講座	郡上市内全 22 小学校

開始年度	平成 23 年度	学級数	11 学級	児童・生徒数	253 人
活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input checked="" type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	公民館
ボランティアの数	登録人数 0 人	属性			
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 郡上市教育委員会 社会教育課 ☎ 0575-67-1128

● 活動の概要・経緯
郡上市では、平成22年度より、ふるさと郡上の文化や歴史、自然、産業等を学ぶことで、ふるさに誇りと愛着を持ち、郡上の「これまで」と「いま」を学び、郡上のこれからを考え行動することを目的とした「郡上学」を推進している。郡上子ども講座は、合併前に旧7町村それぞれで行っていた子供対象の講座を平成23年度から一本化してスタートした。体験と「郡上学」とをつなぎ、郡上市の自然や歴史、文化、観光、産業等をテーマにした体験型の内容を中心に実施している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

対象は市内小学校（特別支援学校小学部含む）に通う子供としており、活動内容は、おもに平成 23 年度に作成した「郡上かるた」の読み札から選定している。例えば「石徹白大杉一八〇〇年」の読み札から樹木医を講師に石徹白の杉を見学し、白山中居神社の禰宜さんの指導で正式参拝を体験する等の講座を行った。また、平成28年度は長良川が世界農業遺産に決定したことから、長良川の鮎をテーマにした体験活動、平成 29 年度は、白山開山 1300 年にあたることから白山文化をテーマにした活動を計画するなど、その都度タイムリーな内容を盛り込み計画している。講師は、地域の方や市内で活動している NPO 団体の他、市外で活躍している郡上出身の方など郡上に縁のある方々を中心にお願いしている。

【実施にあたっての工夫】

- ・年度ごとに 11 ～ 12 講座の年間計画を策定し、開催地域が市内 7 地域のうち 1 地域に偏ることのないよう考慮している。
- ・対象学年は各回の講座内容により設定しており、講座開催の約 1 か月前に「子ども通信」を市内小学校等を通じて子供たちに配布し、参加者の募集を行っている。
- ・各回とも校区に関係なく子供たちを 10 名前後の班に分け、上級生がリーダーとなって、班の下級生の面倒を見ながら講座に参加するようにしている。
- ・子供たちが慣れ親しんでいる「郡上かるた」の読み札をテーマとした講座を開催している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・子供たちが、ふるさと郡上のことを学ぶ機会を提供している。また、自分たちが暮らす地域以外にも赴き、体験活動や地域の方々とのふれあいの中から、郡上全体をふるさととして認識し、ふるさとのよさを学ぶ機会になっている。
- ・地域の方々にとって、自ら身に付けた知識や技術を子供たちへ還元する機会となっている。
- ・さまざまな地域の子供たちが集まることにより、新たな仲間づくりの機会になっている。各回とも班別行動とすることで、地域の垣根を超えた仲間との協力や助け合いの大切さを学ぶ機会となっている。

● その他

講師としてお世話になった企業・団体等：(有) EAT&LIVE、NPO 法人メタセコイヤの森の仲間たち、郡上漁業協同組合
 施設借用等でお世話になった企業・団体等：郡上八幡自然園、苅安観光ヤナ ※平成 28 年度実績



「川遊びを楽しもう」のまち（八幡町）



九頭の宮祭見学の曳山体験の様子（和良町）

ポイント

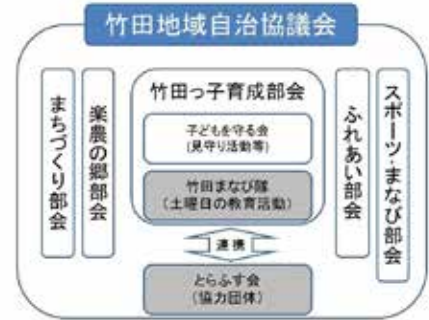
体験を通じた「郡上学」の学びが、7 町村の合併を乗り越え、「ふるさと郡上」全体への理解や愛着につながるように工夫しているところが素晴らしいです。

オール竹田で子供たちのシビックプライドを育む活動です!!

兵庫県朝来市	● 活動名	● 関係する学校名
	竹田まなび隊 (竹田地域自治協議会)	朝来市立竹田小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	158 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	竹田とらふす会
ボランティアの数	登録人数 20 人	属性	地元住民		
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先 竹田地域自治協議会 ☎ 079-674-2128

● 活動の概要・経緯
竹田まなび隊の活動は、平成 14 年度に学校完全週 5 日制が実施されたことを機会に公民館事業 (旧和田山町) として各小学校区でスタートしたものの一つで、平成 21 年度から竹田地域自治協議会が中心となり実施している。平成 27 年度からは土曜日の教育活動として実施するようになった。

土曜日の午前中を基本に、年間 12 回活動している。対象は竹田小学校の 1 年生から 6 年生で、約 20 名の子供が毎年参加している。活動の基本は、地域の人材や地域の宝である観光資源を最大限に活用した現地体験学習を通したふるさと教育を推進することで、ふるさとに愛着と誇りを持つ意識を育むとともに、地域の人々との世代間交流を目的としている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

天空の城 竹田城跡や城跡の麓の城下町、古くから残る寺町や神社など、地域の歴史文化遺産を地域の方々に案内してもらおうまち歩きや、七夕・節分などの伝統行事、さらに地域の方々の協力のもとに地域の畑で農作物の収穫・調理体験などを行っている。また、地域のご年配の方々から地域に伝わる伝承や歴史等について学んでいる。

もう一つの特徴は、20～40 代の若者世代を中心に結成した地域活性化団体「竹田とらふす会」との連携である。若者世代が中心となって地域をまとめ、ふるさとを盛り上げようとする姿勢は、地域の未来を担う子供たちに、ふるさとを愛し活力あるまちづくりを支援したいと思うきっかけづくりになっている。このように、自分たちが住んでいる「まち」や「ひと」と幅広く関わりを持ちながら活動することで、シビックプライド (まちへの愛着や誇り) を育む活動内容となっている。

【実施にあたっての工夫】

活動が学校行事と重ならないよう学校と連携を図っている。運営に当たっては、竹田地域自治協議会の竹田っ子育て部会員だけでなく「竹田とらふす会」と連携して実施することで、子供たちが様々な年代・職種・立場の大人と関わりながら活動でき、多様性を育む機会にもなっている。

また、活動に当たっては、自分たちのことはできるだけ自分たちで考え行動するよう、子供の自主性を大切にし、自分の人生を自分で切り開いていける社会で生きていくために必要な力の醸成に努めている。

● 事業を実施しての効果・成果

子供たちが「竹田まなび隊」の活動を楽しんでいることを実感している。子供たちは地域の人々と触れあい、体験活動を通して知恵や技、礼儀やマナーを身に付け自主的に行動できるようになっている。子供たちが活動を通じて、自分たちが住んでいる「まち」と関わることによって、「まち」のことを知って誇りを持ち、自分も「まち」を構成する一員であるとの認識が生まれている。

また、20～70 代の様々な年代・職種・立場の「ひと」と交流することにより、家庭と学校だけでは経験できない多様な交流ができ、子供たちの多様性を育む機会となっている。



まちなか散策で地域の方から地域の歴史文化について学ぶ



七夕行事で子供たちが切り出した竹に願い事を書いた短冊を飾る

ポイント

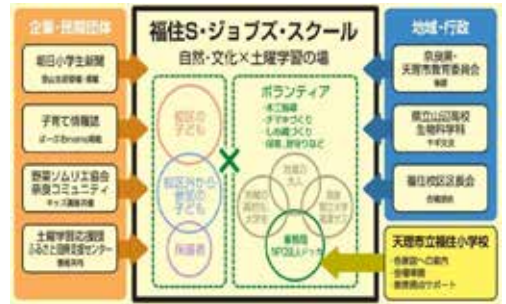
20～40 代の若者世代の地域団体が中心となって、様々な年代・職種・立場の交流を生み、「シビックプライド」を育てているところが素晴らしいです。

子供の感性を育む体験型の土曜スクール

奈良県天理市	● 活動名	● 関係する学校名
	福住S・ジョブズ・スクール	天理市立福住小学校

開始年度	平成 28 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	43 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 5 人	連携団体・企業等	朝日学生新聞社
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	大学生、元教員		
参考 URL	http://yama-too.blogspot.jp				

● 体制図



● 連絡先 天理市立福住小学校 ☎ 0743-69-2104

● 活動の概要・経緯
 地域の過疎化が進んだことに危機感が増す中、旧福住幼稚園舎を利用し、平成 26 年から子育て支援活動が始まった。ボランティアが、4年生の総合学習「森たんけん」に協力するようになり、地域コーディネーターが立ち上げた NPO 法人「日本無形文化継承機構」と学校が小学校土曜スクールへの移行を計画、里山の自然・文化を楽しみながら学習する当活動を開講するに至った。社会的な態度や能力を養う地域学習・福住に通いたくなる教育環境づくり・学校という場を核にした地域創生をねらいとし、事務局は NPO 法人に置き、参加者募集や教育的サポートを小学校教職員が協力している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

里山環境を生かし、子供たちをホタル観察会、森のリースづくり、神社の献氷祭、寺の花まつりなど地域行事へ参加させた。また、民間の伝承行事「おつきようか」の復活（お月八日…ツツジ類の花を竹竿につけて月に供することで豊作を祈ったりする、山間地域に伝わるまじない）、干し柿づくりなど豊かな歳事を、子供たちや若い保護者と高齢者との交流を通じて行い伝承することで、地域への愛着を育もうと取り組んでいる。地域の高齢者が集う協働サロンを中学校の空き教室に作り、中学生とのふれあいも図りながら、世代を超えて多くの人々が地域の学校へ出向くための工夫をしている。また、自然と文化に恵まれた学習環境を広く紹介するために、学校だけでなく、雑誌、フリーペーパー等に積極的な情報発信を行っている。

【実施にあたっての工夫】

平成 29 年度より天理市の小規模特認校（区域外の児童就学認可）として、天理市内の子供たちの参加も広く受け入れている。また、天理市と包括的連携協定を締結している奈良県立大学、天理大学の学生のフィールドワーク単位活動として地域に学生を受け入れ、共に活動している。

毎回の活動の終わりに、子供は絵日記、大学生はレポートを作成し、それを様々な形態の情報発信に役立てている。また、NPO 代表者は朝日小学生新聞の里山支局の委嘱を受けており、地域の子供のみならず、全国に向けて情報発信をしている。

● 事業を実施しての効果・成果

「行きたいから参加申込みして」と、子供から親に頼むほど、楽しみな活動になっている。保護者からも、「子どもが帰宅してから、今日の楽しかったことを話してくれた」など、高い評価を得ている。この活動の成果を受け、福住小学校は、平成 29 年に小規模特認校に移行し、天理市内の他小学校区から新たに 9 名の転入学児童を受け入れ、複式学級を解消できた。また、普段高齢者とふれあう機会などあまりない大学生たちが、この活動で多くの話を聞き取ることで、昔から伝わる農業中心の文化的催事に関心をもち、継承に役立つのではないかと期待されている。

● その他

朝日新聞（朝日小学生新聞）の里山支局委嘱・記事掲載
 野菜ソムリエ協会奈良コミュニティ（キッズ講座共催）

子育て情報誌（パープル）に記事掲載
 土曜学習応援団ふるさと回帰支援センター（情報共有）



旧暦4月8日おつきようか
 ツツジの枝と籠を竹竿に付け
 天道花を掲げます



伝統野菜「大和三尺きゅうり」を栽培
 し奈良漬づくり

ポイント

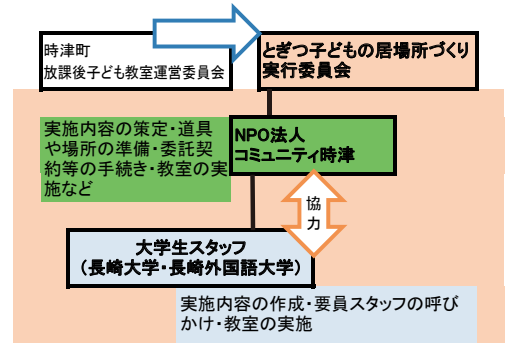
「小規模特認校」の特性を生かし、「福住に通いたくなる教育環境づくり」として、地域の魅力と市内全体の資源を活用している点が素晴らしいですね。

英語を学びながら、住んでいる時津町を知っていきこう！

長崎県時津町	● 活動名	とぎつサタデールーム
	● 関係する学校名	時津町立時津小学校、時津町立時津北小学校、時津町立時津東小学校、時津町立鳴鼓小学校

開始年度	平成 17 年度	学級数	25 学級	児童・生徒数	687 人
活動内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動 <input type="checkbox"/> 芸術活動 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習・伝統文化 <input type="checkbox"/> その他 ()				
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	NPO 法人コミュニティ時津
ボランティアの数	登録人数 13 人	属性	地域住民、大学生		
参考 URL	http://www.togitu.org/				

● 体制図



● 連絡先 時津町教育委員会社会教育課 ☎ 095-882-2211

● 活動の概要・経緯
平成17年より開始した時津放課後子ども教室「いただきますクッキング」に引き続き、平成27年度から開始した事業である。核家族化する社会の中、未来を担う子供たちに多世代・地域住民との交流をさせることが活動の始まった経緯である。
NPO 法人コミュニティ時津の会員を中心に、大学生スタッフと連携して年間行事を作成し、毎月第二土曜日、9時から13時まで実施している。時津町内の歴史や施設を活かして自分の住む町を知る活動を主とし、大学生が英語の歌やクイズなどを交えて外国語交流も行っている。また町内の指導者を呼ぶことで町民とのふれあひも図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

大学生との交流に特徴がある。長崎大学の学生は教育学部のメンバーが多く、子供たちの指導において学校での指導と区別し、のびのびした雰囲気作りを心掛けている。また、長崎外国語大学のメンバーには留学生も含まれ、ネイティブの英語を聞く機会にもなっている。

また、活動自体が多様多様であることも特徴である。住む町を知ることが主ではあるが、料理や図工、史跡巡りなど様々な活動を実体験して学んでいる。中でも料理活動は人気で、「郷土料理クッキング」の大村すしは調理後、食事時間が設けられ子供たちもとても楽しい様子である。

作成活動も人気の活動の一つ。「印かんとボールペン習字」は発砲スチロールで印を作り、日頃の感謝を込め家族に向けた手紙を作成する。手紙の内容は心温まるものもあり、家族交流のきっかけになっているようである。

6月は環境月間ということもあり、大村湾の清掃活動を通じて自分たちの住む町をきれいにする意識づくりを行う。

【実施にあたっての工夫】

教室実施後の NPO 法人コミュニティ時津と大学生スタッフのミーティングにより充実した活動になっている。実際に大学生スタッフ10名に一人ひとりに感想や反省点を述べてもらい、来年の実施内容の参考にしている。また、次回の活動内容の打合せを行う事でよりスムーズな準備ができています。

参加者は受付後、他校の子供でも互いの名前を覚えられるように名札を付けている。

● 事業を実施しての効果・成果

異世代交流において、子供たちは大学生との交流で他人の大人に対しても心を開き明るく振る舞っている様子が見られる。また、地域の大人たちとの交流が増え、子供の社会性の育成につながっている。他にも他校の子供たちとのふれあいで住んでいる地域を越えた繋がりを育んでいる。

また、作成した作品（12月のリース作り）を褒められたことで、子供たちは喜び、自信をもつことにも繋がっている。その作品を次回に展示することで、多くの人に見て貰おうとスタッフたちの意欲も高まっているようである。

活動時は実際に時津の住人が指導をし、名所や歴史を学ぶことで郷土愛も養っている。

● その他

○連携している NPO 法人：「コミュニティ時津」 サタデールームの他に地域住民に向けたパソコン教室、芸術やスポーツを通して文化的な生活の増進に寄与している。また、大村湾の環境保全（子供たちのクルージング体験含む）や東南アジアの子供の教育環境の充実（文房具や衣服の支給含む）を図る活動も行う。

○学習支援：英語活動 大学生スタッフにより1回の活動につきコマ英語活動をいれている。言葉の他にも留学生の話やジェスチャーを学ぶことで文化交流を図る。



時津の昔の生活を知ろう・史跡巡り（26聖人の記念碑にて）



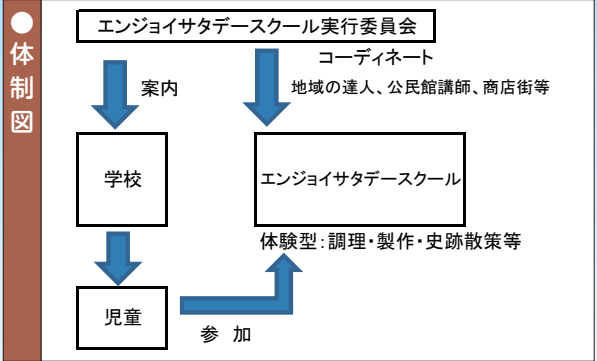
外国の文化を学ぶ（フランス編）

ポイント

大学生が運営に関わる好事例。どのような学生を、どのような方法で集め、どのような形で運営に関わってもらえるのかなど、大学生と関わりを持ちたいと思っている地域にとって、非常に参考になりますね。

何でも体験！子供も大人もチャレンジ！気軽にどうぞ！

長崎県五島市		● 活動名 エンジョイ サタデースクール			● 関係する学校名 五島市立福江小学校		
開始年度	平成 16 年度	学級数	15 学級	児童・生徒数	432 人		
活動内容	■スポーツ活動 ■芸術活動 ■キャリア教育 ■郷土学習・伝統文化 ■その他（料理作り）						
統括的な地域学校協働活動推進員の数	配置人数 0 人	地域学校協働活動推進員の数	配置人数 1 人	連携団体・企業等	ごとう出前講座（市）・九州電力等		
ボランティアの数	登録人数 14 人	属性	公民館長・公民館運営審議会委員				
参考 URL							
● 連絡先	五島市教育委員会生涯学習課				☎ 0959-72-7800		



● 活動の概要・経緯

地域子ども教室推進事業により、子供の居場所づくりとして公民館のメンバーを中心とした実行委員会が結成され、「エンジョイサタデースクール」が立ち上げられた。様々な職種、知識、技能をもつメンバーが、さまざまな計画を立て、「子供たちにいろいろな経験を！」という想いで、当初から気軽に親子で参加できる教室として10年以上続き、今に至っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

四季に合わせ、七夕かざりつけや流しそうめん、秋の地元散策、クリスマス飾りづくり、しめ縄づくり、旬の野菜を使った調理実習など、子供たちが季節を感じ、また子供のみならず親子で参加しても楽しめるようなものを実施している。その他に、企業の社会貢献活動を利用した教室を実施し、アニメクリエイターを講師としたアニメ教室や、運送会社の安全教室、食品会社のマヨネーズ教室など離島の子供たちに様々な経験や夢・憧れを持ってもらうような内容も取り入れている。

【実施にあたっての工夫】

地域の方の協力をはじめ、商店街から道具を協力してもらったり、場所を提供してもらうなど、人・もの・場所とあらゆることに地域を巻き込み、協力して開催している。

子供だけの参加だけでなく、兄弟や保護者なども参加しやすい雰囲気をつくり、たくさんの方と一緒に学習・体験できるようにしている。保護者が一緒に行くことで、自然と自分の子供だけでなく、他の子供たちのお世話してもらい、教室を円滑に実施することができた。

● 事業を実施しての効果・成果

登録した子供だけでなく、兄弟や祖父母、保護者が毎回参加していることで、だれもが参加しやすい場所となり、教室自体が温かい雰囲気となっている。異学年の交流が図られ、学校外でのさまざまな体験をする場所として多くの方に参加してもらっている。また、教室自体で講師・スタッフなどのお礼、あいさつを心がけているので、子供たちは感謝の心を忘れず、礼儀正しさが身に付いてきている。

● その他

九州電力・ながさき土曜学習応援団や五島出前講座の活用、時には商店街からの協力を得ながら大人も集う活動を行っている。



韓国文化を知ろう
国際交流員との交流



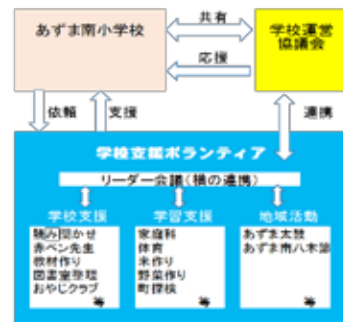
しめ縄作り

チーム・みなみ ー学校の応援団としてー

群馬県伊勢崎市	● 活動名	● 関係する学校名
	あずま南小学校学校運営協議会	伊勢崎市立あずま南小学校

設置年度	平成 25 年度	学級数	23 学級	児童・生徒数	615 人
学校運営協議会の委員数	12 人	学校運営協議員の属性	PTA 会長・保護者・区長代表・区長 市教育委員・大学教授・会社経営者 公民館長・放課後児童クラブ経営者 主任児童委員・農業従事者・校長		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.isesaki-school.ed.jp/azumaminamisyo/				

● 体制図



● 連絡先	伊勢崎市立あずま南小学校	☎ 0270-62-0132
-------	--------------	----------------

- 活動の概要・経緯
- ・学校支援ボランティアが学校の様々な場面で活躍している。活動は、読み聞かせ、赤ペン先生、おやじクラブ、教材作り、安全パトロール等、12種類に150名（平成29年度）が登録している。また、各学年、学級ごとに習字、図工、家庭科、体育等、授業で必要な時に随時募集もしている。平成28年度には、延べ10,195人のボランティアが活動した。
 - ・平成25年度にコミュニティ・スクールの指定を受けて、学校運営協議会を設置した。学校運営協議会を中核に、目標を共有して運営を行い、子供たちのよりよい成長を願い、家庭や地域社会、関係機関との連携を密にして、協働体制で教育の充実に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・読み聞かせ、赤ペン先生、教材づくり、安全パトロール等、学校支援ボランティアの支援により、教育活動の充実が図られている。特に、教材づくりボランティアの支援により、教職員の教材づくりの負担が軽減され、子供と関わる時間の確保につながっている
- ・地域から出ていた「あずま南小区に共通した踊りを作成してほしい」との要望の実現に向けて、あずま南八木節を制作し、地域住民の指導の下、運動会のプログラムとして全校で踊ることができるようになった。このように、地域と連携した体験活動の推進が図られている。
- ・米づくり、野菜づくり、餅つき、感謝の集い、スポーツ教室など地域の教育力を活用した体験学習を通し、ふるさとを愛する心を育てている。
- ・学校運営協議会では、区長、民生児童委員、交通指導員、青少推委員が出席する地区懇談会で話題になった内容も取り上げている。例えば、「月曜日をすっきり迎えられるように」や「親子の会話」について学校運営協議会の立場から保護者や地域に発信したり、通学路の安全確保として冠水対策を市に陳情したりした。

【実施にあたっての工夫】

- ・夏季休業日に行う学校運営協議会には教職員も参加している。教職員の生の気持ちをくみ取り、要望の実現に向けた協議をしたり、保護者への要望を学校運営協議会の立場から発信したりしている。
- ・各ボランティアリーダーによるリーダー会議を年2回行い、それぞれのボランティア活動の報告や課題等を話し合っている。
- ・学校運営協議会委員と学校支援ボランティアを兼ねている委員があり、学校支援活動での課題等も学校運営協議会で協議し、ボランティアの活用等の提案をしている。
- ・12月の「学校公開日」に読み聞かせや赤ペン先生などのボランティア活動を公開し、地域や保護者から、理解と協力を得られるようにしている。
- ・地域人材を活用した夏休み勉強塾の実施や地域と連携した伝統文化の体験、伝承活動を創設することで、児童に地域行事への積極的な参加を促し地域の子育て基盤づくりに努めている。
- ・本年度から校務支援員が地域連携担当として、教頭、教務の指示のもと、地域との窓口となっている。学校支援ボランティアの取組を撮影しタイムリーに廊下に掲示して、来校者が活動の内容を見て分かるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・2月に行う感謝の会に学校支援ボランティアを招待し、全校児童で感謝の気持ちを表している。子供たちの「ありがとう」という言葉が嬉しくて活動の継続を希望するボランティアもたくさんいる。子供が卒業しても活動を継続しているボランティアも多く、継続的な学校支援体制の充実につながっている。
- ・長年継続している中で、学校がすべての準備をして行う活動ではなくて、ボランティアの自主的な活動も目立っている。また、あずま南八木節や和太鼓教室なども、地域の要望に応え、行うことができるようになった。
- ・地域と学校のつながりが確実に深まっている。地域が学校運営協議会を中心として「学校の応援団」という姿勢を持って活動しているため、授業の質が向上し、体験活動が充実したものになっている。

● その他

- ・教材づくりスマイルサポーターは、授業で活用する教材の作成やプリントの印刷を行っている。
- ・赤ペン先生は、昼休み後の補習時間（パワーアップタイム）における丸付け指導を行っている。



教材づくりスマイルサポーター



学校職員と学校運営協議会委員との情報交換

ポイント

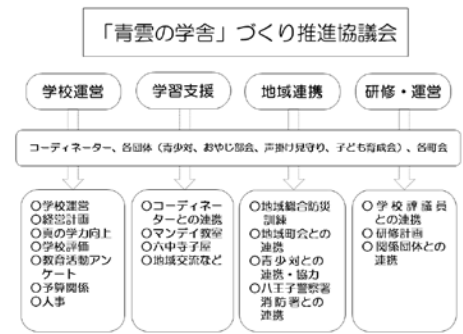
地域の伝統や地域で特性を持った方々からの指導を教育課程に位置付けていることがポイントです。学校の先生方との交流をもつための工夫もされていて、学校との連携に努力されているのが素晴らしいですね。

学校・家庭・地域の信頼関係に基づき生徒の誇りを育む「青雲の学舎」づくり

東京都八王子市	● 活動名	● 関係する学校名
	八王子市立第六中学校学校運営協議会	八王子市立第六中学校

設置年度	平成 19 年度	学級数	11 学級	児童・生徒数	363 人
学校運営協議会の委員数	10 人	学校運営協議会の属性	町内会長、民生児童委員、大学講師、子ども育成会会長 PTA会長、小学校校長等		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://hachioji-school.ed.jp/dai6j/				

● 体制図



● 連絡先	八王子市立第六中学校	☎ 042-622-9131
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

八王子市における地域運営学校（コミュニティ・スクール）のモデル校として、平成 19 年度から学校運営協議会を設置し、学校・保護者・地域が連携した「地域とともにある学校づくり」を目標に、学校と地域が連携した活動を実施している。学校運営協議会を「学校運営」、「学習支援」、「地域連携」、「研修・運営」の4部会構成とし、それぞれの分野に特化した活動を企画、実施することで、効率的な活動を展開している。また、これらの活動に保護者や地域が参画するためのボランティア事務局として、教育サポートセンターを設置し、様々な活動の充実を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①小中一貫教育の推進・・・学校運営協議会委員が中心となり、学校とともに小中一貫教育の充実に向けた協議・支援を行う。
- ②放課後及び長期休業中等の学習支援活動（マンデイクラス、六中寺子屋）・・・地域支援スタッフによる学習支援活動や課外講座を行う。
- ③地域と生徒の交流活動・・・学校運営協議会委員や地域支援スタッフ等による生徒との意見交換会・地域交流会の開催や地域団体と生徒会が連携した地域活動を行う。
- ④地域防災・・・災害発生時、避難所になることを想定し、地域と学校による協働事業として地域総合防災訓練を行う。

【実施にあたっての工夫】

- ①学校運営協議会委員と教員の連携・・・教員が学校運営協議会に参加し、学校運営協議会委員との良好な関係を保ち、学校課題の解決に向けた意見交換を行っている。
- ②地域支援スタッフと教員の連携・・・地域支援スタッフと教員が連携し、小・中学校 9 年間を通じた継続的な学習支援活動体制を確立している。
- ③学校関係者と生徒の連携・・・地域の方をはじめとした学校関係者と生徒との昼食会の開催や学校運営協議会委員の生徒会への参加等を通じて、地域と生徒がつながる場を設けている。
- ④地域団体等と学校の連携・・・地域防災体制の確立にあたり、地域団体（地区青少年や親父の会等）及び公的機関（消防署や警察署、市役所）と連携し、地域総合防災訓練を実施している。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①小中一貫教育の推進により、小・中学校の教員の連携が図られ、生徒の学力向上や教員の資質向上につながっている。
- ②地域支援スタッフと教員の連携による継続した学習支援活動が、生徒の学力向上に寄与している。また、個に応じた指導の継続・発展が図られている。各種検定においては、実施回数を重ねるごとに受験者数が増加しており、学習意欲の向上が見られる。
- ③学校運営協議会委員をはじめとした学校関係者が生徒との意見交換会を通じて、生徒の意見を学校運営等に反映していくとともに、地域交流会を通じて、生徒の地域活動への参画を促し、地域と生徒の密な関係性を築き上げている。
- ④生徒と教職員、地域の町会、市役所等が連携した地域総合防災訓練の実施は、学校を中心とした地域との協働体制の確立・意識の向上につながっている。



意見交換会
(生徒会・学連協)



地域総合防災訓練

地域は学校の応援団！学校は地域の活力源！ —笑顔いっぱい『TAI』—

新潟県見附市	● 活動名	● 関係する学校名
	見附市立田井小学校学校運営協議会	見附市立田井小学校

設置年度	平成 25 年度	学級数	4 学級	児童・生徒数	31 人
学校運営協議会の委員数	13 人	学校運営協議員の属性	運営協議会会長、副会長、地域代表（各町内会長）、学区有識者、地域支援本部委員、PTA 代表、学校職員		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~tai/				

● 体制図



● 連絡先	見附市立田井小学校	☎ 0258-62-0479
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

地域の宝である子供たちを、地域の財産である「学校」を核として、地域総ぐるみで子供を育み、地域と連携した教育活動を展開している。校長の学校経営（ランドデザイン）を基に、学校・家庭・地域の三者による「チーム田井」で「熱議」と「協働」の視点からの教育活動を行っている。組織の中核となる学校運営協議会は地域（保護者）の様々な立場の方と学校職員で組織し、学校を応援する活動について熱議を展開している。熱議された教育活動については、学校支援地域本部や北谷南部みつばコミュニティ、PTA等が核となり、協働での実働組織として活動している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

地域の「敬老会」と学校の「学習発表会」を『みつばふれあいまつり』と命名し、協働での開催とした。地域の方からは「いきいきと発表する子供の姿に感動し、元気をもらった」「健康に気をつけ、これからもがんばっていこうと思った」といった声が多くでた。子供たちは地域の方々の前で発表することができた満足感を味わい、拍手と賞賛で自信となったようである。このふれあいまつりでは、保育園や長岡造形大学和太鼓集団と学校のみつば太鼓との共演、学区の中学校の演奏など、地域の施設等とのコラボにより、地域が一体となった。また、運動会は地域と協働で開催した。地域種目では様々な種目が行われ、地域住民と子供たちが一緒になって競技を行った。

【実施にあたっての工夫】

地域コミュニティの部会（ふれ合い交流部会：地域・保護者・学校の代表）と連携し、地域と学校の協働活動に向けた検討を行う。また、コミュニティ・スクールの中核である「学校運営協議会『TAI』」が中心となり、協働で行った活動をカリキュラムマネジメントの視点から PDCA サイクルで評価し、より充実した活動となるよう検討を重ねている。

● 事業を実施しての効果・成果

地域も学校も元気になる活動を「熱議と協働」によりさらに発展させていきたい。地域住民が学校に足を運び、子供の様子を見る回数が増え、地域も学校も「笑顔」いっぱいになっている。学校と地域が近い関係になってきている。学校・家庭・地域の「チーム田井」が連携して子供を育む一歩が踏み出した。地域の財産である学校に住民が集い、子供たちと一緒に笑い、汗をかき、一つになるなど、活力ある地域と学校を目指して、三者で協働して取り組んでいる。

● その他

- 企業との連携では、わくわく体験塾で地域の業者が材料を提供している。
- 学習支援では、「虹のかけはし隊」が読み聞かせ等の支援をしている。



地域と協働開催「学習発表会」



地域と協働開催「大運動会」

ポイント

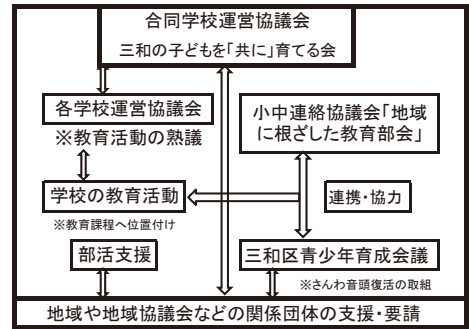
小規模校だからこそその温かなふれあいを通じて、子供たち自身も地域の中で大切に育てられているのを感じることができると思います。

「ふるさと三和を愛する心を育む」ことが共通テーマの地域を元気にする活動

新潟県上越市	● 活動名	● 関係する学校名
	三和の子どもを『共に』育てる会	上越市立三和中学校、上越市立里公小学校、上越市立上杉小学校、上越市立美守小学校

設置年度	平成 24 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	150 人
学校運営協議会の委員数	13 人	学校運営協議員の属性	町内会長、PTA会長、PTA役員、青少年育成会議コーディネーター、地域住民、校長		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.sanwa-j.jorne.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	上越市立三和中学校	☎ 025-532-2024
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

「三和の子どもを『共に』育てる会」（三和区の3小・1中学校による合同学校運営協議会）を組織し「ふるさとを愛する心を育む」ことをテーマとした協議を行い、現状や課題について明らかにした。地域全体で課題を共有し、子供も大人も学び育つための場を設定することや、三和区青少年育成会議と連携した子供の活動を支援することが必要であることを確認した。また、事業として、コミュニケーションの大切な、いじめや差別の無い社会を実現するための講演会を開催している。

三和区青少年育成会議と三和の子どもを『共に』育てる会が連携し、「さんわ音頭」復活に向けた中学生の取組などに対し支援を行い、地域の活性化に寄与している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・三和の子どもを『共に』育てる会で「子どもたちの教育を考える」グループワークを実施する
「三和の未来を担う人づくりのために、私たちは何をすべきか？」を考え、現状や課題を共有し地域に発信する。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会としての事業を提案し開催する
差別を許さない心を育む講演、コミュニケーションの大切さを学ぶ講演会など子供と地域住民が学ぶ機会を設定。
- ・中学生が取り組む、お年寄りを元気づけるための活動である「さんわ音頭」復活に向けた活動を支援する
地域コーディネーターが中心となり、中学生の活動を三和区振興会や越後さんわ音頭継承普及会等の地域の多様な団体と繋ぎ合わせ、活動が地域全体に広がるよう後押し。小学校の運動会での普及PR活動・さんわ音頭プリントのオリジナル手ぬぐい販売などの支援、踊りや歌などを指導支援、会場のやぐらの設置、法被の購入などに際して側面からの支援等を実施。

【実施にあたっての工夫】

- ・三和の子どもを『共に』育てる会の代表である各学校の学校運営協議会長との事前の協議・連携。
- ・小中連絡協議会の「地域に根ざした教育部会」を中心に統一性を持たせた指導やカリキュラムづくり。
- ・青少年育成会議コーディネーターと各学校の地域連携推進委員との連携の場の設定。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会の事業について地域へのPRや報告。
- ・三和の子どもを『共に』育てる会委員による地域への働き掛けと事業への協力・支援。

● 事業を実施しての効果・成果

- 子供たちとともに学び活動する場や子供たちへの指導を通して、高齢者をはじめ地域を元気づける活動となった。
- ・中学生が核となり小学校の運動会に向き、地域の高齢者とともに活動の場が創出された。
 - ・さんわ音頭を指導する、越後さんわ音頭継承普及会に新たな活躍の場が生じ、活動が活発になった。(DVD作成)
 - ・さんわ祭りでの出店を通して、地場産野菜作り「愛菜」のみなさんの活動紹介の場ができた。
 - ・地域と子供たちが共に学ぶ場を設定することができた。(講演会の開催)
 - ・部活動支援により、地域の指導者の育成やスポーツクラブの活性化に寄与することができた。

● その他

少子化に伴う部活動の存続や指導する教師がいないという危機感から、部活動の支援を地域やスポーツクラブに要請した。学校運営協議会の構成するメンバーやPTA役員等の絶大な支援と理解があり、NPO法人「さんわスポーツクラブ」との連携を図り「部活動を地域で支える」という体制を作ることができた。



三和の子どもを『共に』育てる会での「子どもたちの教育を考える」ワークショップ



さんわ祭りで小学生や地域住民と踊る「さんわ音頭」

ポイント

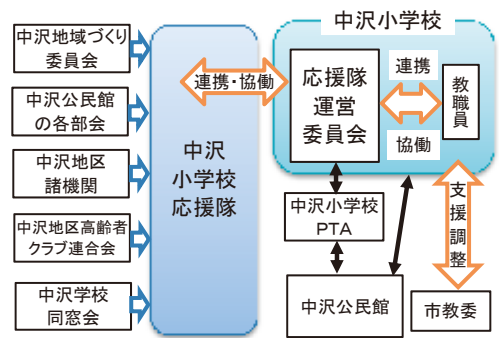
少子化を地域課題として捉え、「さんわ音頭の復活」を解決のキーワードとして、地域の多様な団体が連携し、子供たちと共に活動したことは、ふるさとの良さや伝統文化を学びの軸にしようとする取組の好事例ですね。

地域コミュニティの中核をめざすコミュニティ・スクール

長野県駒ヶ根市	● 活動名	● 関係する学校名
	中沢小学校応援隊	駒ヶ根市立中沢小学校

設置年度	平成 25 年度	学級数	8 学級	児童・生徒数	105 人
学校運営協議会の委員数	20 人	学校運営協議員の属性	中沢学校同窓会長、歴代同窓会長代表、中沢公民館長、中沢公民館の各分会代表、中沢地域づくり委員、中沢区長、区長経験者代表、民生児童委員会、主任児童委員、保護司、中沢地区育成会長、中沢地区高齢者クラブ連合会長、中沢社会福祉協議会長、正副PTA会長、前PTA会長、中沢保育園保護者会長、校長、教頭、教務主任、地域連携担当職員		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.nakapo.jp				

● 体制図



● 連絡先	駒ヶ根市立中沢小学校	☎ 0265-83-3707
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯
 地域にある諸機関・諸団体が学校の教育活動や環境整備等をサポートする相互支援体制を確立、地域ボランティア「応援隊」と保護者の短時間ボランティア「チョコッと部隊」の支援活動を通じて異年齢交流が進み、学校が地域の世代交流の拠点となりつつある。

平成24年度応援隊運営準備委員会が設置され、平成25・26年度の2か年をかけ文部科学省の補助を受けたコミュニティ・スクール推進研究指定校として活動基盤を作った。平成27年度以降は駒ヶ根市指定のコミュニティ・スクールとして活動の継承を模索し、誰でも・気軽に・何時でも参加できる「中沢スタイル」を合言葉に応援隊員の増員と世代交代を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域の熟年シニア世代の方が交代で講師を務める、地域の特色ある産業や食文化などの体験的学習。(炭焼き窯による炭焼き、ふなつかみ、ザザムシ獲り、松茸採り、こんにゃく栽培など)
- 応援隊が企画・運営する駄菓子屋の売買や露店コーナーに地域の方・保護者が協力してくれ、さらに保育園児も保護者同伴で立ち寄ること小学生だけでなく世代を超えた交流の場となっている「駄菓子屋」。
- 月一回実施し、誰でも・気軽に参加できる機会としている他、樹木の枝打ち・剪定、草刈りなど気づいた時にやってくれる方も多い応援隊エイジレス部隊による環境整備活動。
- 中核コーディネーターが交代で保護者に代わって家庭学習の面倒をみてくれている寺子屋（放課後学習）。

【実施にあたっての工夫】

- 中核コーディネーター5人が曜日当番制で毎日学校に来て、朝、職員と打合せ等を行い支援活動の円滑化に尽力。学習支援、環境整備、必要な物品の調達、人手集め等の中心的役割を担い、定期的にコーディネーター会で情報交換。
- 応援隊の趣旨、年間の環境整備活動実施日を記した全戸配布文書（年間保存版）や応援隊メール配信を通じて広報。
- 事業に際して発想～企画～実行までのスピード感を大切に、役割分担を固定化せず参集した人の協議で柔軟に対応。
- 同窓会より応援隊活動資金やボランティア保険の掛け金を提供してもらう。旧用務員室を改修した同窓会室を応援隊本部として活用する。

● 事業を実施しての効果・成果

- 体調を崩したコーディネーターさんのお宅にお見舞いに立ち寄った児童がいたり、「この間はプール清掃ありがとうございました」とお礼の言葉をかけた児童がいたりするなど、温かいコミュニケーションがとれているという声が多い。
- シニア世代にとって生きがいの場となり、元気を取り戻した方や生き生きと関わる方の姿が見られる。また、学校に対して何らかの形で貢献したいという気持ちが膨らみ環境整備作業への参加者数が増えてきている。
- 10年程前には複数名いた長期欠席児童が4年前からいなくなったり、問題行動等でも重大な事案が無い状態が続いたり、児童の落ち着いた態勢が継続するようになっている。

● その他

- 応援隊員の高齢化に伴う世代交代が課題として浮上ってきている。人同士の絆を頼りに新たな応援隊員を獲得したい。



保育園児から小学生・保護者・シニア世代まで、世代を超えた交流の場「駄菓子屋」



茶菓をいただきながら環境整備作業の分担・手順の打ち合わせをする「応援隊エイジレス部隊」

ポイント

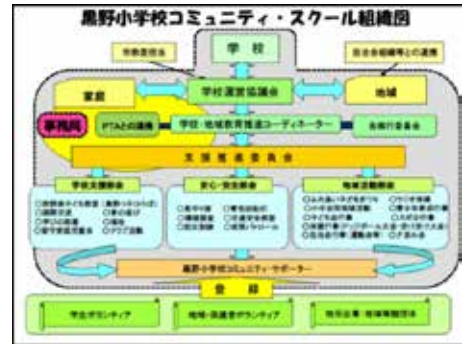
「チョコッと部隊」を作り、たくさんの方が少しずつ関われる仕組みは参考になります。中核コーディネーターさんの熱意と努力が、このコミュニティ・スクールを支えています。

ふるさと黒野を大切にした活動 —地域の子供たちは地域で育てる—

岐阜県岐阜市	● 活動名	● 関係する学校名
	黒野小学校学校運営協議会	岐阜市立黒野小学校

設置年度	平成 22 年度	学級数	22 学級	児童・生徒数	521 人
学校運営協議会の委員数	18 人	学校運営協議員の属性	自治会連合会長、青少年育成市民会議会長、PTA会長 民生委員、交通安全協会、体育振興会会長 公民館主事、児童館主事、白寿会会長		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	黒野まちづくり http://www.kuronomachizukuri.jp/				

● 体制図



● 連絡先	岐阜市立黒野小学校	☎ 058-239-0030
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

支援推進委員会の3つの部会（学校支援部会・安心安全部会・地域活動部会）を中心にして、学力向上に向けての取組や交通安全や不審者対策の見守り活動、地域の方々と子供たちが触れ合える機会を増やす取組を積極的に行っている。また、各行事には、自治会や黒野まちづくり協議会・黒野城址研究会などの各種団体も、子供たちの成長を願って幅広く参加している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・学習支援ボランティアによる読み聞かせ活動、算数授業の支援、家庭科実習（調理、ミシン）の支援や、漢字検定、算数検定に向けて、土曜授業で学力補充の支援を行っている。
- ・黒野城址研究会による「黒野ふるさと検定」を年間6回行い、成績優秀者を表彰している。研究会の方々の協力で、毎年6年生が黒野城址フィールドワークに出かけ、黒野城址にまつわる歴史学習に取り組んでいる。
- ・夏祭りの「夕涼み会」では、地域活動部会と黒野まちづくり協議会が中心となり、自治会連合会、公民館、体育振興会、水防団、消防団、交通安全協会、スポーツ少年団、民生委員、PTAなどが協力して企画運営に当たっている。当日は、80人近い中学生ボランティアも協力して実施している。
- ・交通安全協会や白寿会の「見守り隊」の方と連携し、登下校を見守るとともに、PTAも協力して、春に交通安全教室を行っている。子ども110番の家や危険個所を明記した地域安全マップを作成し、春の「黒野ニコニコウォーク」では、地域の方々や保護者が子供と登校し、危険個所の確認と安全指導を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・「黒野ふるさと検定」は、地域の地理や環境などの身近な問題も増え、子供たちが地域への愛着を深められるよう、常に内容が改善されている。
- ・「夕涼み会」では、高校生や大学生のお手伝いも増やすことで、将来、自分たちが活動する側に立ち、地域に貢献していこうとする心を育てたいと願っている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・活動での交流や年度末に行う「感謝の会」等を通して、地域の方々による支えを実感することで、感謝の気持ちや地域の一員であるという自覚が生まれ、ふるさととなる地域に愛着をもつ児童が増えている。
- ・自治会連合会やまちづくり協議会、各種団体との連携が深まることで、夏祭りの「夕涼み会」や「1000人のラジオ体操会」が地域の恒例行事となり、学校を核とした地域づくりにつながっている。
- ・スタッフジャンパーやベスト、見守り活動のシートを自家用車に装着した地域の方の積極的な見守り活動により、交通事故だけでなく、不審者の発生も確実に減っている。



年度末に、見守り隊の方への感謝の会を行います。



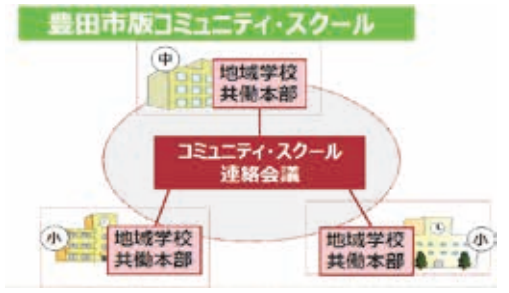
地域の方々や中学生ボランティアの協力を得て、夏祭り「夕涼み会」を行っています。

ポイント

様々な地域団体が関わり、まさしく「地域の子供は地域で育てる」という環境が整っていると感じます。「黒野ふるさと検定」など工夫された取組は参考になります。

中学校区単位で目指す子供像を共有し、9年間を見通した学校間・地域連携を実践しています

愛知県豊田市		● 活動名			● 関係する学校名			
		浄水中学校区コミュニティ・スクール			豊田市立浄水中学校、豊田市立浄水小学校、豊田市立浄水北小学校			
設置年度	平成 28 年度	学級数	20 学級	児童・生徒数	515 人		● 体制図	
学校運営協議会の委員数	19 人	学校運営協議員の属性	PTCA会長、PTA会長、区長代表、民生委員代表、保護司代表、高齢者クラブ代表、スポーツ推進委員、交流館長、各学校校長、各学校教頭他					
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有							
参考 URL	http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_josui http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_josukita&frame=PTA http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=c_josui							
● 連絡先		豊田市立浄水中学校		☎ 0565-42-8400				
<p>● 活動の概要・経緯</p> <p>浄水中学校は平成28年、浄水北小学校は平成26年、新設校として開校すると同時に、浄水小学校は平成27年に、学校支援地域本部（現:地域学校共働本部）を設置し、保護者や地域のボランティアによる学校支援活動や、地域との共働による教育活動を行っている。校内に、地域学校共働本部を設置し、地域コーディネーターを配置し、学校と保護者・地域のつながりを行っている。保護者と地域の人々が、学校に気軽にかかわりをもつことができるように、「できることを・できるときに」の精神でのボランティア活動を主体としている。平成28年4月から、豊田市版コミュニティ・スクールの指定を受け、学校間連携や地域連携の様々な活動に取り組み、地域ぐるみの教育を実践している。</p>								



● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①豊かな土曜日のための活動：土曜学習（体力づくり教室・「寺子屋」学習支援・各種講座・遊び場・自主学習の支援）
- ②放課後の子供の居場所づくり：平日の授業後等、学校内で学習、読書、運動や遊び
- ③学校支援活動：ボランティアによる環境整備や学習、学校行事、交通安全等への支援（読み聞かせ、クラブ講師、校外学習引率、ミニシンボランティア、除草・植木の剪定・花壇整備、図書館整備、書初め手書き、学芸会大道具作り、登下校の見守りなど）
- ④学校林整備と活用：里山遊び（筍ほり、流しそうめん）
- ⑤イベント開催：マレットゴルフ大会、天体観測会、防災講座等
- ⑥交流館との連携：交流館と学校による共催行事の開催（まごころフェスタ、なりきり部活フェス等）
- ⑦学校間連携（小小連携・小中連携）活動：全学年での小小交流活動、「とよた大好きっ子カリキュラム」を生かした学習連携、吹奏楽・合唱交流、3校の特別支援学級交流、中学校模擬授業

【実施にあたっての工夫】

- ①学校支援活動を、「できることを・できるときに」行う、ボランティア活動とした。
- ②学校施設を有効活用し、通常の教育活動以外に、放課後や土曜日・長期休業中に子供のための活動を取り入れた。
- ③中学校と交流館の合築を生かし、日常的な交流の機会を多く設けた。
- ④3つの学校の地域学校共働本部間での情報共有を図るとともに、合同での活動を多くした。

● 事業を実施しての効果・成果

【アンケートの声】

- ①小学生「地域の方たちに『ありがとう』と言われうれしかった。中学校に入るのが楽しみになった」
- ②中学生「地域の役に立ててよかった。地域の発展に貢献したい。地域に愛されていることに誇りを感じた」
- ③保護者「地域学校共働本部ができてから、より子供と地域、学校と地域、親と地域のつながりが深まった」
- ④教師「他校の子や中学生と交流することで、人間関係や生活経験が広がり、中1ギャップがなくなった。教員同士も勉強になった」
- ⑤地域の方「中学生の活躍を見て、地域を今後も支えてくれる子たちが育っていると感じた」

● その他

- ①企業・NPO との連携（一般社団法人豊田青年会議所、ボランティア団体 MAMA' S SMIL）
- ②学習支援（地域住民・高校生・大学生による学習支援）
- ③ICT 活用（電子黒板、タブレットの活用）



小学生・中学生・地域の方々がともに走る「浄水マラソン」



中学校文化祭と交流館祭の共催「まごころフェスタ」

小中の連携を柱に、地域・家庭と協力して、丹陽の子の健やかな成長をめざす

愛知県一宮市	● 活動名	● 関係する学校名
	丹陽中学校区学校運営協議会	一宮市立丹陽中学校、一宮市立丹陽小学校、一宮市立丹陽西小学校、一宮市立丹陽南小学校

設置年度	平成 20 年度	学級数	26 学級	児童・生徒数	876 人
学校運営協議会の委員数	26 人	学校運営協議員の属性	連区長、公民館長、民生児童委員協議会長、中学校同窓会長、児童育成協議会長、老人クラブ連合会長などの地域の団体の長やPTA会長、副会長、母親代表などのPTA役員、校長・教頭などの学校代表		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~tanyo-j/				

● 体制図



● 連絡先	一宮市立丹陽中学校	☎ 0586-28-8756
-------	-----------	----------------

活動の概要・経緯

丹陽中学校区では、家庭・地域・学校が連携し、また、小・中学校が連携して子供たちの確かな学びと育ちの実現をめざし、「地域に開かれ、家庭・地域に支えられる学校づくり」を目的として、平成18年度より文部科学省からの委嘱を受け、学校運営協議会設置に向けて調査研究を行った。平成20年度に丹陽中学校区学校運営協議会が設置され、小中合同の協議会と小中別の協議会や4つの領域部会、役員会が開催され、小中連携等が図られるようになった。その後、この動きは一宮市内の小中学校に広がり、平成25年度からは市内61校のすべての小中学校で学校運営協議会が設置されることになった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

小中連携を柱に、義務教育9年間で子供たちの健やかな成長を図ろうと考えた。そのため、各学校の学校運営協議会が連携できるように、学校教育部会、家庭教育部会、地域・連携部会、調査広報部会の4つの領域部会を設け、各校12名（地域代表4名・保護者代表4名・教員代表4名）の委員が4部会のいずれかに所属し、活動を進めている。学校教育部会は、学習マナーの統一や漢字検定など学力向上を目指した取組を行い、家庭教育部会は、あいさつや家族のふれあいを促す取組、地域・連携部会は、小中学生の地域行事への参加や学校生活の向上に向けた小中学生による話し合いなどの取組、調査広報部会は、学校運営協議会だよりを作成・配布（地域約11,000戸）し、学校や子供たちの様子を紹介する取組を行っている。

【実施にあたっての工夫】

各学校ごとの学校運営協議会では、各校の教育活動を支援する取組や課題解決に向けた取組が話し合われるが、各領域部会での取組の状況も報告され、それぞれの学校で協力できることが話し合われ、実践につなげている。また、学校は地域の宝であるとの考えから、地域の各団体の長14名（連区長・公民館長・民生児童委員協議会長・中学校同窓会長・児童育成協議会長・老人クラブ連合会長など）、各領域部会長4名と小中学校の校長・教頭8名による役員会を各学期に1回開催し、地域の子供たちの健やかな成長を図るための話し合いや協力体制の構築を図っている。

● 事業を実施しての効果・成果

地域住民や保護者が学校運営に参画することで学校が抱える諸問題など、学校への理解が進むとともに、それぞれの当事者意識が高まり、地域全体で子供たちを育てようとする機運が高まってきた。また、小中連携を進めることで、子供たちに関わる諸問題を小中学校の教職員が共有でき、解決に向けた取組や義務教育9年間を見通した指導の在り方についての共通理解を深めることができた。一方、地域への情報発信や地域行事への関わりを増やすことで、小中学校への関心が高まり、見守り隊やゲストティーチャー等に参加する地域の方が増え、地域全体で子供たちを育てようという機運が高まってきた。



丹陽4校児童会・生徒会役員による小中合同会議



丹陽中学校区学校運営協議会役員会

ポイント

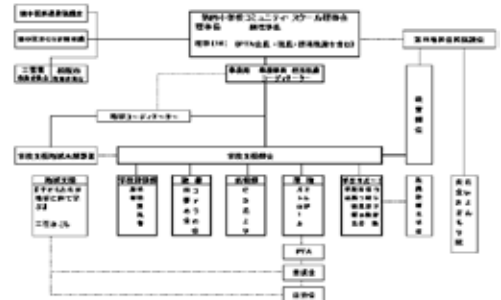
学校運営協議会が、4つの領域部会に分かれ、それぞれ「ねらい」をもって活動計画をたてているところが大変参考になります

保護者・地域・教職員が一体となって取り組む子供たちのかがやく未来づくり

三重県松阪市	● 活動名	● 関係する学校名
	第四小学校学校運営協議会	松阪市立第四小学校

設置年度	平成 25 年度	学級数	21 学級	児童・生徒数	549 人
学校運営協議会の委員数	12 人	学校運営協議員の属性	住民協議会代表、連合自治会代表、PTA会長、PTA副会長、学校支援ボランティア代表、民生委員、会社経営者、社会福祉協議会職員、学校職員等		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.kamada-matsusaka.com/daiyon				

● 体制図



● 連絡先	松阪市教育委員会事務局学校支援課	☎ 0598-53-4398
-------	------------------	----------------

● 活動の概要・経緯
 平成 25 年度より、鎌田中学校区 3 校の1つとして、小中連携型のコミュニティ・スクールを導入している。「保護者・地域・教職員の教育力の向上」を実現するために、地域住民等の学校運営への積極的な参画と、学校支援ボランティアの連携・協働を図り、地域とともにある学校づくりを進めている。ボランティアによる学習支援では、きめ細やかな支援により子供たちの学習意欲が向上している。また、登下校の安全支援等では、地域の方からの声かけにより、子供の安心・安全につながり、さらには豊かな心の醸成につながっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 地域住民の学校参画
 - ・保護者、地域、教職員による「子どもたちの学びと育ちを支える地域とともにある学校づくり」をテーマとした年 1 回の熟議の実施
- 地域力を生かした学校支援
 - ・ボランティアの支援による「のびっこタイム」「サマースクール」の実施
 - ・図書ボランティア「コアラの会」による朝の読み聞かせ活動、「四夢の会」による図書室整備や図書整理等の読書環境の充実
 - ・第四地区住民協議会の「だいよん安全みまもり隊」、PTA 等「おさんぽパトロール」による登下校の見守り活動
 - ・学習支援ボランティア「四つ葉の会」による算数、音楽、家庭、図工等の学習支援
 - ・地域住民による農業体験活動
- 放課後補充学習
 - ・住民協議会教育部会との学習支援活動
- 地域支援「子どもたちが地域に出て学ぶ」取組
 - ・地域の祭りへの参加を通じた地域の人と人とのつながりの構築

【実施にあたっての工夫】

- 学校運営協議会が主体となり、地域と学校が連携・協働しながら活動している。
- 生活科、総合的な学習の時間等の学習計画と連動した地域連携を進めている。
- 保護者主体のボランティア活動をさらに広げるため広報活動をしている。
- 学校運営協議会や熟議等の中で、子供の課題を討議し、その課題解決に向けた取組を進めている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学習支援、読書支援、安全支援の定着により、保護者によるボランティア活動が広がっている。
- ボランティアの支援による「のびっこタイム」は、子供たちの基礎・基本の学力の定着に貢献している。
- 図書ボランティアによる活動が定着し、子供たちの読書に対する関心が高くなってきている。
- 子供たちが地域行事（小若みこし）等に進んで参加する姿が見られるようになってきた。

● その他

中学校区（2小学校1中学校）において、小中が連携した中学校区連携協議会をつくり、研修会、熟議、合同学校運営協議会を開催している。中学校区のコミュニティ・スクールのめざす子供像を「様々な立場の人々とのかかわりを通して、広い視野を持てる子ども」「地元を愛する子ども、地元から愛される子ども」として、中学校区全体で地域の子供たちを育てる取組を進めている。



放課後補充学習



地域支援「子どもたちが地域に出て学ぶ」

ポイント

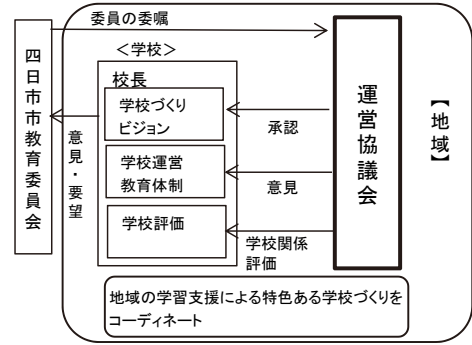
熟議をとおして、保護者、地域、教職員が相互理解を図り、子供の課題を討議し、課題解決に向けた取組を進めているところがポイントです。「地域の子供は地域で育てる」機運をますます高めてください。

チームCHUBU コミュニティスクールの力で育つ「開かれた」学校

三重県四日市市	● 活動名	● 関係する学校名
	四日市市立中部中学校運営協議会	四日市市立中部中学校

設置年度	平成 18 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	322 人
学校運営協議会の委員数	9 人	学校運営協議員の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成推進委員会会長 ・自治会長 ・婦人会会長 ・元市P連本部役員 ・元PTA会長 ・元PTA副会長 ・PTA会長 		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.yokkaichi.ed.jp/~chubu/cms2/htdocs/				

● 体制図



● 連絡先	四日市市立中部中学校	☎ 059-359-0114
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

四日市市では、四日市版コミュニティスクール調査研究事業をすすめるため、平成18年度からモデル校を3校指定した。その中で唯一の中学校モデル校として本校に運営協議会が設置され、「地域とともにある学校づくり」を推進するため、学校・家庭・地域が一体となった不断の取組を継続している。

10年後の平成28年度には、地域未来塾の取組「放課後子ども教室」も始まり、週2回放課後に図書室で外国人生徒を中心として補充学習を行っている。また、四日市版コミュニティスクールの運営委員が地区市民センターで週1回夕方から夜にかけ、学習環境が整わない子供たちに学習支援を行う「スマイル」を開設した。「放課後子ども教室」とも連携し、地域との協働が進んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ・ 職場体験においては、校区内の70以上の企業、事業所で実施している。
- ・ 地域スペシャリスト授業では、地域の伝統工芸や文化（日永うちわ、着付け、茶道、華道等）について、地域団体の方から教えてもらっている。
- ・ 運営協議会が主催者となる共同地区防災訓練に約50名の生徒が参加し、集合訓練やアルファ米の炊き出し訓練、救急法の体験を行ったり、幼稚園との合同津波避難訓練を行ったりしている。
- ・ 校区の伝統的なお祭り「大四日市祭り」の翌日、地域に残されたごみ等を一扫し美しい街の姿に戻すため、生徒会が中心となって行うボランティア活動「BC（ビューティフルシティ）への道」を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・ 「振り向けばいつも地域の人」をコンセプトに、学校教育活動の様々な場面を公開し、その都度評価してもらうようにしている。校内研究授業として扱う道徳の授業や職場体験の様子を運営協議会のメンバーに見てもらうことで、生徒にとっては学校教育活動に「教師以外の目」があることが「普通」となるようにしている。
- ・ 外国人生徒の支援ができる地域人材の発掘を、地域で生活している運営協議会から紹介してもらっている。
- ・ 運営協議会は、いわゆる「会議形式」で各部会からの報告、検証といったPDCAサイクルだけでなく、「懇談形式」として、事項書や資料のない、談話を中心とした協議会を行っている。肩ひじ張らない談話の中で、協力体制と信頼関係を強固にしようとしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・ 運営協議会では、学校運営部会、道徳・人権部会、教科授業づくり部会、生徒指導部会、特別支援教育部会、国際理解教育部会の6部会の担当教員から学校の取組を説明し、委員から意見をもらうことで、学校運営のヒントとなっている。
- ・ 意見交換会では、授業や行事の参観後に感想や評価をもらい、年度末には、学校自己評価の結果をもとに、本年度の反省と来年度に向けての意見をもらうことができた。次年度の学校づくりビジョン策定にあたり、教職員の総勤務時間の縮減について具体的かつ温かい御意見をいただき、学校づくりビジョンに盛り込むことができた。
- ・ 地域の方が学校の授業等に参画するだけでなく、生徒が地域行事に参加するようになり、コミュニティスクールの活動が双方の活動の充実につながっている。



地域スペシャリスト授業



共同地区防災訓練

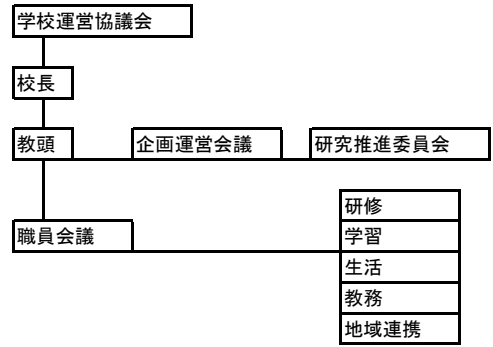
ポイント

外国人受け入れ拠点校としての課題を、学校運営協議会が中心となって解決の手立てを推進していて、課題のある学校の模範となっていると思います。

三重県亀山市	● 活動名	● 関係する学校名
	川崎小学校学校運営協議会	亀山市立川崎小学校

設置年度	平成 26 年度	学級数	18 学級	児童・生徒数	432 人
学校運営協議会の委員数	15 人	学校運営協議員の属性	川崎小学校PTA代表、川崎小学校学習ボランティア、地域代表、自治会連合会会長、まちづくり協議会会長、川崎小学校放課後子ども教室コーディネーター、川崎小学校放課後子ども教室指導者副代表、川崎小学校校長、川崎小学校教諭、名古屋大学大学院准教授、中部中学校校長、教育研究室主査		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.kameyama-mie.jp/~kblog/kawasaki/				

● 体制図



● 連絡先	亀山市立川崎小学校	☎ 0595-85-0108
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯
 「地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成」を基本理念とし、子供を介して地域と学校が結び付き、理念の達成に向け各種活動を行っている。地域関連学習年間指導計画を定め、各学年が地域の方から学ぶ学習を計画的に進めている。地域活動室が校舎内に設けられ、学習ボランティアなどの地域人材が活動する場所が確保され、日常的な支援となっている。学校運営協議会の呼びかけにより、各種地域学習、体験活動などに多くの地域人材が関わっており、コミュニティスクールの果たす役割も大きい。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

①地域関連学習の年間指導計画（全学年）の作成と実践：年間指導計画に基づき、地域関連学習を進めている。地域の方から川崎の歴史、地域の未来への思いを聞いたり、フィールドワークやフレンドリー農園（学習園）の整備と栽培活動、稲刈り、昔遊び、ふれあいフェスタ（地域の祭）への参画をしたりする。②校舎内の地域活動室を地域の方が打ち合わせや休憩するスペースとして活用している。③日常的に学習支援を行ってもらう地域の方がおり、授業に参加し、子供に寄り添いながら、分かりにくいところを個別支援したり、④付けを行ったりしている。④フレンドリークラブという地域の方を講師に招いたクラブ活動を行っている。英語、尺八、洋菓子、竹細工、ソフトバレー、わらべ歌、茶道など、専門性を活かした内容となっている。⑤校舎の引っ越しに伴い、学校関係者だけでなく、地域住民が協力して引っ越しとお別れ集会を行った。

【実施にあたっての工夫】

各種行事では子供たちが地域の一員としての意識を感じられるよう、発表や準備などで参加するようにしている。地域の方々には、重機の操作や、ドローンによる風船の空撮、伝統芸能など、専門性や得意分野を活かしてもらえるようにしている。地域活動室を設置することで、地域の方の学校での居場所ができ、学習支援がしやすくなるようにした。

● 事業を実施しての効果・成果

学校運営協議会が主体となり各種呼びかけを行うなど学校と地域の方々をつなぐ役割を果たしている。地域関連学習年間指導計画や地域活動室があることで、継続的に地域の方が学校に参画してもらえるシステムができています。今年度の引っ越しでは、災害時などにも活かせるような地域の団結力が発揮された。川崎ふれあいフェスタに向けての準備や発表など子供の参画する姿勢が年々前向きになってきている。地域の方から学ぶことを楽しみにしている子供や地域に愛着を感じている子供が多い。



旧校舎お別れ集会



能褒野開拓団から学ぼう

ポイント

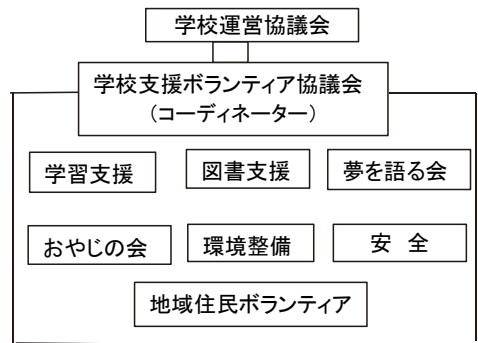
学校運営協議会が、コーディネート機能を果たし、地域連携を可能にしていると思います。地域活動室など、環境が整っているのも良いですね。

地域とともにある学校をめざして

滋賀県長浜市	● 活動名	● 関係する学校名
	高月小学校学校運営協議会	長浜市立高月小学校

設置年度	平成 24 年度	学級数	12 学級	児童・生徒数	288 人
学校運営協議会の委員数	11 人	学校運営協議員の属性	地域づくり協議会委員、民生・児童委員 PTA 本部役員（会長、副会長）等		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://takatsuki-es.nagahama.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	高月小学校学校運営協議会	☎ 0749-85-2002
-------	--------------	----------------

● 活動の概要・経緯
 ・地域で子供を見守り育てようという考えをもった方が多く、以前から学校支援組織がつけられ積極的にボランティアとして活動していた。こうした土壌を活かし、子供たちの日々の安全・安心な生活や学校支援活動を取り入れて学校教育の充実を図るため、学校・地域・保護者が連携し協働する活動を推進してきた。これらの取組を計画的・継続的に進めることにより、子供の安全を守り学びを豊かにするとともに、地域とともにある学校を創り上げてきた。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①子どもの生活改善委員会の取組
 - ・登下校中の事故・事件、SNS 等による被害から子供たちを守るため、「子どもの生活改善委員会」（PTA 本部役員、学校運営協議会委員等）を立ち上げた。具体的な取組は、登下校中のカッパ・黄帽子の着用、自転車乗車時のヘルメット着用、ゲーム・スマートフォンの使用の改善、家庭での読書活動の推進等である。
- ②学校支援の広がり
 - ・読書ボランティア・スクールガード・夢を語る会・おやじの会等の組織が長年にわたり学校支援活動を続けてきた。さらに、そうじボランティアによるそうじ指導（米糠袋での床みがき等）に地域の方が参加されている。日常の学習支援にも多くの方が協力してくださり、充実した教育活動につながっている。
- ③高月中学校区としての取組
 - ・校区カレンダーの発行。高月中学校区で小中学生と地域の方との清掃活動を行い縦のつながりを深める。課題解決にむけた研修会を開催する。

【実施にあたっての工夫】

- ①子どもの生活改善委員会の取組について
 - ・課題を明らかにし、それらの改善に向けて必要な人材を求め組織をつくり、多様な視点から議論ができるようにした。
 - ・改善策を学校のきまりとし、それらを守ることがよりよい生活につながるという当事者意識を子供たちにもたせるようにした。
 - ・子供の実態・保護者の意識アンケートの実施、検証結果の報告・改善策の提示等手続きを踏んで進めたことが、保護者の理解と協力を得ることにつながった。
- ②学校支援の広がりに関して
 - ・各組織の代表等と校内地域連携担当者が連絡を密に取り合うことで、情報が共有されスムーズな活動につながっている。
- ③高月中学校区の取組に関して
 - ・熟議を行い、地域と学校で課題を「共有」する。その課題解決に向けた取組を行う。

● 事業を実施しての効果・成果

- ・水曜日の「ノーテレビ・ノーゲーム・読書デー」については、約1年間の取組の中で保護者からは、親子の会話や親子読書が増えている等家庭での過ごし方がよくなっているという声が寄せられている。
- ・登下校の時の黄帽子、雨天時のカッパ着用が100%達成できている。単に学校から示された決まりでなく、学校運営協議会を中心とした組織の中で十分に話し合ったことで保護者の理解を得られ定着につながった。
- ・多くの方が学校支援に尽力いただくことで教育活動の充実が図られるとともに、地域とともにある学校として位置付けられることになる。



学校運営協議会委員と職員との懇談会



児童がカッパを着て登校する様子

ポイント

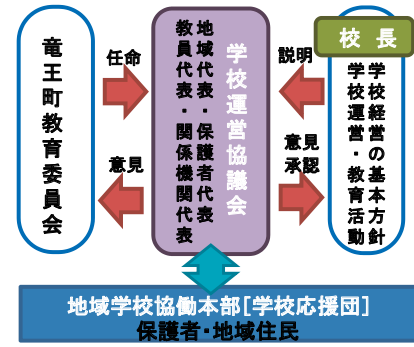
子供の生活上の課題を、学校運営協議会の話し合いで解決につなげた素晴らしい事例だと思います。こうした成功体験が学校と地域の信頼関係を深めますし、関わる大人たちの達成感にもつながると思います。

地域の各種団体・機関関係者と学校をつなぎ深化させるポスターセッション

滋賀県蒲生郡竜王町	● 活動名	● 関係する学校名
	竜王小学校学校運営協議会	竜王町立竜王小学校

設置年度	平成 26 年度	学級数	19 学級	児童・生徒数	415 人
学校運営協議会の委員数	15 人	学校運営協議員の属性	学校応援団コーディネーター、同窓会理事、スポーツ少年団本部長、元PTA会長、元PTA事務局、町公民館長、地域学校協働本部統括マネージャー他		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL	http://www.rmc.ne.jp/ryuo-es/				

● 体制図



● 連絡先	竜王町立竜王小学校	☎ 0748-57-0004
-------	-----------	----------------

● 活動の概要・経緯

平成27年度には、コミュニティ・スクール竜王小学校学校運営協議会拡大会議を開催した。各区長に出席を依頼し、「コミュニティ・スクール竜王小学校の現状や取組について説明の後、「竜王の子供の現状や課題」「子供や保護者、地域の願いをかなえる学校」についての意見交換を行った。また、子供の健全育成にかかる各種団体・機関関係者との懇談会も行った。

平成28年度には、心豊かでたくましい竜王っ子の育成をめざして、日々熱心な取組を展開していただいている地域の様々な団体や関係機関に広く声をかけ、土曜参観日を利用してポスターセッションを行った。学校、家庭、地域が同じ願いや方向性を持って、一体となる活動の一つとなった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

平成 27 年度、竜王町地域学校協働本部 [学校応援団]、竜王町立小学校同窓会、竜王町民生委員児童委員協議会、竜王町青少年育成町民会議、竜王町子ども会連合会、竜王町少年補導委員会、竜王ライオンズクラブで竜王の子供の現状や課題についての意見交換を行った。子供の健全育成にかかる各種団体・機関関係者の皆様方からの御意見を中心に地域の人材の力を引き出し、学校づくり×地域づくり×人づくりにつながるネットワークづくりを行った。

さらに平成 28 年度には、学習参観日の人権ライブコンサートの前に体育館を会場としてポスターセッション発表団体・関係機関のコーナーを設け、保護者や児童に啓発活動を行った。学校運営協議会委員は保護者を各団体のブースへ案内し、各団体の取組や活動の説明をした。これにより、地域と連携した信頼される学校づくりのために学校を支えていただいている各種団体・関係機関のことを保護者に知ってもらうことができた。

【実施にあたっての工夫】

平成 27 年度から、地域とのネットワークづくりをするため、区長会や各種関係団体との拡大会議を行った。その中で、地域の活動をもっと保護者に知ってもらうべきであるという意見が出てきた。

そこで、多くの保護者に参加していただける土曜参観日及び子育て講演会と並行して、校舎内に各関係団体のブースを設けてポスターセッションを行った。事前に、何度も準備委員会を設けたり掲示のポスターやチラシを作成し配布したりすることで、学校運営協議会と地域の各種団体、学校の関係性を深めようとした。

さらに、学校と保護者・地域のネットワークを広げ、高め合うことができるように、それぞれの団体による工夫を凝らした PR を考えていただいた。

また、学校運営協議会・各種関係団体と学校教職員との関係性を深め、気軽に学校のことについて語り合い、今後の学校応援団組織の充実を図ることもねらいとした。

● 事業を実施しての効果・成果

平成 27 年度に関係 7 団体と竜王の子供の現状や課題についての意見交換を行ったことが発端となり、平成 28 年度にポスターセッション形式で、保護者や児童に活動の様子を知ってもらうことで、学校と地域が情報を共有するようになり、ネットワークが広がった。また、さらに地域が学校に協力的になった。

その一例として、今年度は昨年度より学校応援団組織のボランティアによる授業支援が増えた。また、PTA 活動においても地域の協力によって大規模な運動場の整備が行われるなど、地域と連携した取組が組織的に行えるようになった。

教職員からは、授業や課外学習などで、地域ボランティアの協力を得やすくなり、より安全で質の高い教育活動が行えるようになり、児童は地域の方に出会うとあいさつをしっかりと行い、感謝の気持ちで授業を受けるようになっていくという報告がある。また、児童はたくさんの人に教えてもらえ、支援してもらえるので、学習内容がよくわかるとともに、楽しんで学ぶことができると話している。

今後、「地域コミュニティの中心としての学校」という視点から、校舎改築等に向けた熟議を行うことで、将来を見据えた学校運営の活性化支援を目指している。



学校運営協議会のブース



青少年育成町民会議のブース

ポイント

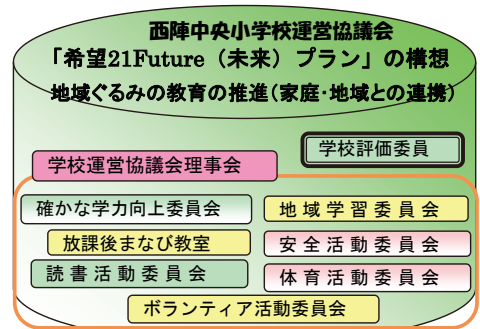
子供の現状や課題など、子供に関する広い意見を集めるための工夫として、拡大学運協やポスターセッションなどで周知・啓発に取り組んだことが素晴らしいですね。

〈希望21未来プラン〉地域ぐるみの教育の推進（家庭・地域との連携）

京都府京都市	● 活動名	● 関係する学校名
	西陣中央小学校学校運営協議会	京都市立西陣中央小学校

設置年度	平成 18 年度	学級数	21 学級	児童・生徒数	603 人
学校運営協議会の委員数	7 人	学校運営協議員の属性	自治連合会会長、住民福祉協議会会長、PTA会長 等		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/nishijincho-u/				

● 体制図



● 連絡先 京都市教育委員会生涯学習部 ☎ 075-251-0456

● 活動の概要・経緯
 平成9年、伝統ある成逸・西陣・桃菌・聚楽の4小学校が統合し、「西陣中央小学校」として開校し、21年目を迎えている。地域の自治体活動は元学区単位で行われているが4学区合同の事業も子供の活動を中心に増えている。どの元学区の方々にも、学校に対する応援や協力の根底には「地域の子は地域で育てる」といった素晴らしい思いがあり、平成18年に学校運営協議会を設置して、次代を担う子供たちが地域の方々から学んだことを生かし地域に返していけるような教育活動を推進してきた。特に全国的に有名な西陣の町に根づく伝統文化や産業についての学習は「にじの学習」と名付け、自分発の思いを大切に、本物に触れ、感じ、考え、交流し自分の言葉で発信するといった探究活動に発展してきている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

「親子メダカ教室」（7月）「親子生け花教室」（1月）：地域の方自ら郊外にめだかを採しに行き、教室開催までに時間をかけて準備を進めている。当日はめだかの見分け方や飼い方を親子で学び、家庭で飼育し命の大切さを実感。地域の方々が講師となって花への思いを大切に親子で活ける活動を通じて、花の命について考えている。（確かな学力向上委員会担当）
 「放課後絵本ラウンド」「朝の読み聞かせ」「ブックフェア」等：地域の方が毎日当番を決めて中間休みに図書の貸出しと返却を担当。本の管理・環境整備をはじめ、様々な機会をとおして本との出会いを作り、読書活動を推進。また、地域の方が英語の本の読み聞かせにも挑戦し、豊かな心の育成を推進している。（読書活動委員会担当）
 「にじの学習」支援：地域の方々講師となり、昔遊び（1年）まちなか体験（2年）浴衣の着付け・昔の暮らし・剣鉾（祭）体験（3年）華道（4年）茶道（5年）西陣織・能・雅楽（6年）の伝統文化と地域の特色を生かした学習活動を支援。学習に必要な多くの教材は委員が用意する。土曜学習にも講師として参加（地域学習委員会担当）
 「米寿のお祝い・敬老会（福祉）」：地域のボランティア活動と連携を図り、踊りや歌・手遊び・手作りプレゼントで地域のお年寄りをお祝いして交流。地域の方々プレゼントの作成や歌の練習などを支援。ボランティア精神を学び、社会に貢献できる心の育成を推進（ボランティア活動委員会担当）

【実施にあたっての工夫】

理事会の下に実行部隊である6つの企画推進委員会を位置づけ、連携。また、どの委員会にもPTA本部・教職員が入ることで地域学校協働を図り、学校評価で検証している。

● 事業を実施しての効果・成果

学校運営協議会も設置して11年目となり、子供たちや保護者・地域の方々との交流が深まってきた。地域の方が頻りに学校に足を運んでいることもあり、学校教育への関心が高く、快く学校の依頼にも応えていただいている。昨年度は創立20周年のお祝いに大勢の方が駆けつけ、今後も、子供たちのために学校を発展させていきたいとの呼びかけに呼応してもらっている。教職員も気軽に声を掛け合うことを大切にして絆を深めている。



3年「着付け体験」にじの学習



夏休み土曜学習「親子メダカ教室」

ポイント

活動の柱を知・徳・体に分類しているのが、保護者や地域にも理解しやすい活動になっているのではないかと思います。他の地域でも、組織の作り方が参考になると思います。

学校・家庭・地域が「十五の春」に責任を共有する風土づくり

大阪府河内長野市	● 活動名	● 関係する学校名
	河内長野市学校運営協議会連絡会議	河内長野市内小学校 13 校、中学校 7 校

設置年度	平成 24 年度	学級数	18 学級	児童・生徒数	604 人
学校運営協議会の委員数	15 人	学校運営協議員の属性	学校支援コーディネーター 青少年健全育成会 PTA 会長など		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有				
参考 URL					

● 体制図



● 連絡先	河内長野市教育委員会事務局教育指導課	☎ 0721-53-1111
-------	--------------------	----------------

● 活動の概要・経緯

河内長野市では、平成 15 年度より学校・PTA・地域の団体が連携して土曜日の子供の豊かな体験活動を行う「楽習室」を実施する等、従来から学校・家庭・地域が連携・協働した取組みを進めてきた。平成 20 年度より各中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、その成果を基盤に、平成 24 年度より全小学校区で学校運営協議会を立ち上げた。教育の課題や目標を地域と学校が共有し、地域総ぐるみでの取組みを進めている。また、中学校区の学校支援コーディネーターが各小学校の学校運営協議会の委員になる等、学校運営協議会と学校支援活動が一体となって取り組んでいる。近年は中学校区の小・中学校合同の学校運営協議会も開催するなど 9 年間の連続した子供の育ちを支える活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

郷土を学び、郷土に誇りを持つ子供たちを育む、河内長野市独自のカリキュラム「ふるさと学」を、全校で、地域と学校が協働して実施している。校区を地域の方と一緒に散策し地域の歴史やよさを学んだり、地域の文化財について学んだことを子供たちが地域や観光客に対して発信する「文化財子ども解説員」の取組みなど、学びによるまちづくりにつながっている。各校ともに学力向上に関する部会を設置し、放課後学習等を地域と学校が協働して実施している。また、公民館等と連携し、中学校の文化祭に地域の方の作品の展示や発表をしたり、学校だけではなく地域の文化祭となったりしている。また、地域の方が係員を担当することで、いつでも保護者や地域の方が参観することができている。警察との連携や地域の方々の参画により、公道を使って自転車の乗り方教室を実施する等、校区の実情に合わせて地域と学校が協働した多様な活動を行っている。

【実施にあたっての工夫】

- ・全体会等で各学校の実践を共有するなど、市域全体で取組みを推進している。
- ・各校ともに学校の実情に応じた部会を設置し、教職員と地域の方が一緒に課題解決に向けた取組みを行っている。
- ・コーディネーターが各小学校の学校運営協議会の委員となっているため、学校支援活動と連動した取組みができている。
- ・中学校区合同で学校運営協議会を開催することもあり、9 年間の連続した子供の育ちを支える取組みとなっている。
- ・多様な活動から、学校に関わる大人が増え、「学校・家庭・地域が責任を共有する風土」が育まれつつあり、学校を核とした地域づくりにつながっている。

● 事業を実施しての効果・成果

郷土の魅力を知り、関心を持つとともに、地域のよさを発信することができる子供たちを育成している。活動中に地域の大人と子供たちが会話を交わす場面が見られる等、多様な活動を通して地域の子供たちと大人が、顔と名前のわかる人間関係づくりができている。多様な地域の方々が活動に参画するようになり、放課後学習室の新設や図書館の開館日の拡大、人生体験を語るキャリア教育等、地域ぐるみで子供たちを育てようという様々な取組みが生まれ始めている。また、小中一貫教育も大切にしており、小中連携の「縦の糸」、学校・家庭・地域の連携である「横の糸」を交えて、9 年間の連続した子供の育ちを地域総がかりで支え、育んでいる。不登校や問題行動件数が年々減ってきており、地域総ぐるみで子供を育ててきた成果の一つである。

● その他

子ども解説員などでは、地域の良さを発信する際にタブレット型パソコンなど ICT 機器を使用して、よりわかりやすく伝えている。また、学習支援では、「東書 Web ライブラリ」の学習プリントを活用し、子供たちが取り組んだものを地域の方が答え合わせをしている。地域の方の励ましの声が子供たちの学習意欲につながっている。



子ども解説員



ボランティアの方との学習室

ポイント

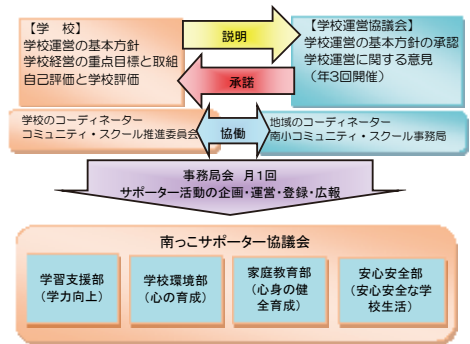
校区の特色を活かしながらのふるさと学、地域の実情に合わせた自転車教室など、地域にねざした、地域の人々を思いを感じることでできる事例だと思えます。

きょう いく 子供も大人も共に育つ、合言葉は「今日、(南小に)行く！」

広島県府中町	● 活動名	● 関係する学校名
	府中町立府中南小学校学校運営協議会	府中町立府中南小学校

設置年度	平成 26 年度	学級数	26 学級	児童・生徒数	700 人
学校運営協議会の委員数	15 人	学校運営協議員の属性	学校支援地域本部代表	1名	
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	有		地域代表	6名	
参考 URL	http://www.fuchuminami-e.hiroshima-c.ed.jp/				

● 体制図



● 連絡先	府中町立府中南小学校	☎ 082-281-9414
-------	------------	----------------

● 活動の概要・経緯

平成24～25年度、文部科学省の「コミュニティ・スクールの導入促進に関する調査研究事業」を実施し、平成26年度から今日まで、「共育」を理念に、家庭・地域が学校に参画していく仕組みを構築し、地域の力を取り入れた教育活動を推進している。目的は、児童が抱える課題を地域ぐるみで解決するための仕組みづくりで、4つのサポーター活動により課題解決を図ることが出来ている。もう一つの目的は、質の高い教育の実現で、地域人材を活用し、生活科・総合的な学習の時間の充実につながっている。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- ①サポーター登録による自主的な参加による活動
保護者や地域の方から「南っこサポーター」を募り、学習支援部（授業、放課後学習室の支援等）、学校環境部（教室の整備等）、家庭教育部（スポーツ大会の練習指導、子育て談話室の企画・運営等）、安心安全部（校外学習の引率等）で、それぞれサポーター活動を行っている。
 - ②事務局のコーディネーター的役割で円滑な活動
南っこサポーター活動の企画・運営については、学校運営協議会メンバーからなる事務局が校長と相談し、学校教育目標に応じた活動となるよう、月1回開催する事務局会議で活動の目的、内容、そのために必要な人材、呼びかけ方などを確認して進めている。
- 【実施にあたっての工夫】
- ①事務局が、校長と綿密な意思疎通を図り運営している。また、「サポーター心得」を作成し、守秘義務等の決まりを周知している。
 - ②学校運営協議会を年3回、南っこサポーター協議会を年3回開催し、縦と横のつながりで意見交流を図っている。
 - ③校長は、学校としてどのような連携協力を望むのかについて、ビジョンを明確にして伝えている。
 - ④学校教育目標の達成に向け「ベクトル」を共有するために、学校運営協議会で「共育（きょういく）」をキーワードと決め、学校教育目標を意識したサポーター活動を地域にオーダーする「学校主導型」の形をとっている。
 - ⑤活動のコンセプトを「できるときにできることを」「いつ来てもいい帰ってもいい」とし、サポーターが時間を調整できるようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

- ①家庭や地域が当事者意識をもって、学校教育目標の達成に向けた方向性を共有することができた。
- ②「子供たちのサポートは楽しい」、「サポーターさんがきてくれて嬉しい」という声があがるなど、「共育」の理念が浸透しつつある。
- ③児童会執行部が本校を「府中町一の学校」にするためにできることを自分たちで考え、学校や地域に役立とうと実践しつつある。
- ④教職員へのアンケートでは「南っこサポーターの活動への満足」は100%であり、ウィンウィンの関係が成り立っている。

● その他

- 1 地域と学校が連携・協働した基盤的な活動：学校支援地域本部コーディネーターが中心となり、地域と学校をつなぎ、サポーター登録を推進するとともに、元教員や学生等が学習支援サポーターとして学習支援を行っている。
- 2 放課後子供教室の連携・協力団体：松庭琉煎茶道、府中町シルバー人材センター、広島県金融広報委員会
- ③学習支援：地域未来塾として、元教員、地域の高校生・大学生等による学習支援活動の実施。
- ③府中南小コミュニティ・スクールの連携・協力団体：命の教育や防災キャンプの実施にあたり関係機関、団体と連携。

○学習支援：学習支援サポーターによる放課後学習教室、夏休み学習教室により個別支援を実施。



三年生の地域安全マップづくりでは、サポーターや保護者が子供たちと共に地域を歩き、一緒に作成します。



大人向けのヨカ教室やカラッセラビー教室を開催後、子育て談話室「しゃべり場」にて子育ての悩みなどを話し合います。

ポイント

事務局がコーディネート機能を果たしている好事例です。「サポーター心得」などを通じて、ボランティアの質を高めていることも他の地域の参考になると思います。

福岡県春日市	● 活動名	● 関係する学校名
	大谷小学校学校運営協議会	春日市立大谷小学校

設置年度	平成 20 年度	学級数	14 学級	児童・生徒数	398 人
学校運営協議会の委員数	18 人	学校運営協議会の属性	学識経験者（国立大学准教授）、自治会長、自治会役員 PTA会長、PTA本部役員、子ども育成会役員 主任児童委員、学校長、教頭、主幹教諭 教育委員会事務局職員		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://tanikko.jimdo.com http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/kosodate/school/e_school/otani/index.html http://www.ambitious.pref.fukuoka.jp/circle/detail?h_id=33				

● 体制図



● 連絡先	春日市教育委員会 教育部 教務課 教育総務担当	☎ 092-584-1128
-------	-------------------------	----------------

- 活動の概要・経緯
 - 平成 20 年度に学校運営協議会を設置し、学校、家庭、地域による協議、承認、評価を実施（協議会は年 8 回開催）
 - 3 実働部会を設置し、多彩な地域学校協働活動を展開
 - ・ 深い学びづくり部・・・学びナビ、谷っ子ノート、学習支援ボランティア、地域学習会
 - ・ じっくり心づくり部・・・親子でつくる「我が家の目標」、親子読書、読書ボランティア
 - ・ つよい体づくり部・・・登下校見守り、安全パトロール、アンビシャス広場（放課後子ども教室事業）
 - 「コミュニティ・スクール校区保護者説明会」を年 3 回実施し、学校、家庭、地域の取組を地域住民、保護者に積極的に公開し、共有化
 - 居住地区毎の異学年グループ（部伍会）を編成し「谷っ子部伍会活動」を実施、各自治会と連携協働して地域貢献活動を推進

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 「コミュニティ・スクール校区保護者説明会」の年 3 回実施（目標共有会・中間報告会・成果交流会）
- 部伍会リーダーの学校運営協議会参加による各部伍地区毎に地域貢献活動の企画提案を実施
- 地域連携カリキュラム「谷っ子ふるさとカリキュラム」の整備・推進
 - ・ 地域の人を生かす…地域の方から学ぶ「おもちゃづくり」「しめ縄づくり」地域ゲストティーチャーによる「米作り」「大谷太鼓」
 - ・ 地域を教材化する…春日市障がい福祉施設団体「ぱれっと館」「ゆりかもめアイの会」の方との交流
 - ・ 地域に貢献する…「谷っ子部伍会活動」
 - ・ 地域と共に学ぶ…「春日東中学校体験学習」「災害発生引き渡し訓練」

【実施にあたっての工夫】

- 「コミュニティ・スクール校区保護者説明会」に 6 年生全児童を参加させ、地域の課題等について 4 者で協議する場を設定。さらには、学校運営協議会において、「コミュニティ・スクール校区保護者説明会」へ多くの保護者に参加してもらうための開催時間の在り方や 6 年生児童の参画方法を事前に協議
- 3 実働部会を校務分掌組織と連動させ、さらに、実働部会協議の充実のため各部主務者を中心とした事前打合せを綿密に実施
- 「谷っ子部伍会活動」を全校で実施し、より主体的・問題解決的な学習へと発展させるために、活動を教育課程へ位置付け
- 学校運営協議会に部伍会リーダーが参画し、地域貢献活動について熟議することを定例化
- 「谷っ子ふるさとカリキュラム」を「地域の人を生かす」「地域を教材化する」「地域に貢献する」「地域と共に学ぶ」の 4 観点から全学年で整備

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校運営協議会に部伍会リーダーが参画し、地域貢献活動について熟議することを定例化し、「コミュニティ・スクール校区保護者説明会」で 4 者の共有化の場を設定することにより（200 名以上の保護者が参加）、学校を核とした共有基盤が醸成してきている。
- 児童、学校、保護者、地域の 4 者による目標や活動の共有化により、それぞれの立場から地域のために何が出来るかを考えることができ、地域と学校の連携・協働意識が高まり、それぞれの市民性が高まってきている。学校を核としたまちづくりにつながっている。
- 「谷っ子ふるさとカリキュラム」を 4 観点、全学年で整備したことにより、計画的、系統的に社会に開かれた教育活動を展開できている。
- 「谷っ子部伍会活動」を教育課程に位置付けたことにより、問題解決型活動の充実を図ることができている。

● その他

- 自治会提案よりコミュニティ・スクールをテーマに春日東中校区自治会役員研修会を実施。当事者意識の醸成が見られる
- 春日東中学校ブロック（春日東中、春日東小、大谷小）共育目標を設定し、小中連携活動を展開。（小小サミット、地域学習会、授業づくり研修会）



① 5 年総合「米づくり」
② 絵本読み聞かせ
③ 地域学習会
④ 校区保護者説明会
谷っ子部伍会活動
①、② 地域清掃活動
③ 夏祭
④ 学校運営協議会での企画提案

ポイント

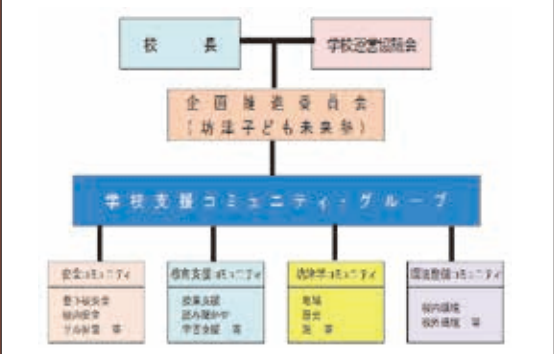
ランドデザインの描き方が秀逸で参考になります。子供たちが地域にどう貢献していくのかを考えた見通しのある活動です。教育課程に位置付けることにより、継続可能な仕組みにしているのも素晴らしいです。

コミュニティ・スクールを基盤とした義務教育学校の充実

鹿児島県南さつま市	● 活動名	● 関係する学校名
	坊津学園学校運営協議会	南さつま市立坊津学園

設置年度	平成 25 年度	学級数	10 学級	児童・生徒数	132 人
学校運営協議会の委員数	10 人	学校運営協議員の属性	現PTA会長 現PTA副会長 元PTA会長 元栗野小PTA会長 前大浦支所長 元坊津支所長 坊津地区主任児童委員 有識者3人		
地域学校協働本部との連携・協働体制の有無	無				
参考 URL	http://www.minamisatsuma.ed.jp/bounotsugakuen/				

● 体制図



● 連絡先	南さつま市立坊津学園	☎ 0993-67-0011
-------	------------	----------------

- 活動の概要・経緯
- 平成22年4月、4小学校・2中学校が施設分離型小中一貫校として再編（小1・中1）し、平成25年4月、新校舎での施設一体型小中一貫校の開校を機に、鹿児島県で初のコミュニティ・スクールとしてスタートした。
 - 学校運営協議会の年6回開催、土曜授業日の土曜委員会（委員の研修会）の開催、学校支援コミュニティ・グループとして4グループ（安全、教育支援、坊津学、環境整備）の設置など、コミュニティ・スクールの組織化に努めた。
 - 土曜授業や特例教科「坊津学（地域に学ぶ・歴史に学ぶ・海に学ぶ）」では、東京大学アライアンスセンターとの連携や学校支援コミュニティ・グループの協力を得て、地域人材、地域資源を活用した、より専門的な教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進している。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 《安全コミュニティグループ》 スクールガード・リーダー、スクールガード、110番の家で構成され、毎日の登下校指導、交通安全教室・不審者対応訓練などを通して、児童・生徒が学校生活を安全・安心に過ごせる支援をしている。
- 《教育支援コミュニティグループ》 高校生学習支援グループ、書道教室、読み聞かせグループなどで構成され、算数・図工・書写・各行事などの授業で児童・生徒がより質の高い充実した授業を受けることができる支援をしている。
- 《坊津学コミュニティグループ》 農協や漁協、NPO 団体、元気づくり委員会（地域活性化委員会）など各種団体で構成され、特例教科「坊津学」を通して、珊瑚の養殖、スキューバダイビング体験、カヌー体験など、児童・生徒がふるさと坊津について学習できる支援をしている。
- 《環境整備コミュニティグループ》 おやじの会、生け花グループなどで構成され、校内外の除草、花壇の整備、校内の生け花の設置など、児童・生徒が学校生活を快適に過ごせる支援をしている。

【実施にあたっての工夫】

- CSコーディネーターとして学校運営協議会と学校職員を各1名配置し、学校と各コミュニティ・グループとの窓口を一本化した。
- CSコーディネーターが中心となって地域の人材・資源の発掘や学校と学校支援コミュニティの連絡調整のために企画推進委員会を年2回計画し、実効ある運営をしている。
- 学校運営協議会と直結した学校支援コミュニティ・グループの各種活動をCS便り（年6回）や学校便り（毎月）、ホームページ等を利用して地域・保護者に周知した。
- 専用のコミュニティルームを設置し、恒常的な活動が展開されている。

● 事業を実施しての効果・成果

- 学校運営に対する学校運営協議会委員の意識が高まり、教育活動に対して様々な視点からの意見等が出され、保護者・地域の声を反映した学校運営がなされている。
- 学校支援コミュニティ・グループを通して、様々な教育活動に保護者、地域住民が当事者意識を持って関わる機会が増え、地域とともにある学校づくり、充実した教育活動が展開されている。
- 特例教科「坊津学」では、東京大学アライアンスセンターとの連携や地域の人材・資源を活用することで、児童・生徒が地域のよさを再発見し、ふるさとに誇りを持ち、郷土を愛する心が育まれている。
- 「元気づくり委員会」の協力を得て地域公民館で実施した宿泊学習など、地域が学習の場、キャンパスとなるなど、町づくりの一助ともなっている。

● その他

本校は、平成 29 年 4 月に鹿児島県で初の義務教育学校として開校した。特例教科「坊津学」の「海に学ぶ」の領域では、東京大学アライアンスセンターと協定書を交わし、特色ある海洋教育カリキュラムの研究・実践を平成 28 年度から行っている。



学校プールでのダイビング体験（土曜授業、鹿児島水産高校協力）



4年宿泊学習 飯ごう炊飯等（地元元気づくり委員会協力）

ポイント

コーディネーターが中核になってがんばっていますね。学校支援をより効果的・効率的にするため、地域のさらに多くの方に学校に関わってもらえるような仕掛けを企画してみてください。

参

考

资

料

「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日
文部科学大臣決定
平成29年7月18日一部改正

1 趣 旨

この要項は、地域全体で次代を担う子供たちを育成するために、地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総掛かりでの教育の実現を目指すことを目的に、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動（以下、「地域学校協働活動」という。）のうち、その内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることとする。

2 表彰の対象

表彰は、①幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等の学校と地域が連携・協働して行う学びによるまちづくり、地域人材育成、学校支援活動等の多様な活動（以下、「地域学校協働基盤活動」という。）、②「地域未来塾」、③「放課後子供教室」及び④「外部人材を活用した土曜日等の教育支援活動」等の地域学校協働活動並びに⑤「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」の仕組みと連動した地域学校協働活動のうち、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、P T A活動として行われる地域学校協働活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容であること。

(1) 組織、運営

- ア 地域や学校の実情や特色に応じた組織により、幅広い地域住民等の参画を得て、効果的な運営が行われていること。
- イ 地域と学校が、目標を共有して運営が行われており、地域と学校の関係者の連携協力が円滑に行われていること。

(2) 活動

- ア 学校や地域住民等との連絡・企画調整等を担うコーディネーターの調整のもと、地域学校協働基盤活動、地域未来塾、放課後子供教室、外部人材を活用した土曜日等の教育支援活動等、複数の活動を幅広く「地域学校協働活動」が活発かつ継続的に行われていること。
- イ 多くの地域住民等の参画による地域や学校の実情や特色に応じた創意工夫のある多様な活動を展開していること等により、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。

3 推薦方法

(1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市（以下「都道府県等」という。）に対し、上記表彰基準を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

(2) 都道府県等における推薦方法

道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記表彰基準を満たす「地域学校協働活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦に当たっては、別紙推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等は、選考の上、管内の上記表彰基準を満たす「地域学校協働活動」のうち、都道府県にあっては3件以内（ただし、特別区を含む東京都にあっては2件以内の推薦分をこれに加えることができる。）、指定都市にあっては2件以内、中核市にあっては1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考に当たっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

(3) 文部科学省における推薦

文部科学省は、上記表彰基準に基づく都道府県等からの推薦のほか、表彰するにふさわしいと判断する「地域学校協働活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記推薦方法により推薦された「地域学校協働活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

- (1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。
- (2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

8 本表彰にかかる事務

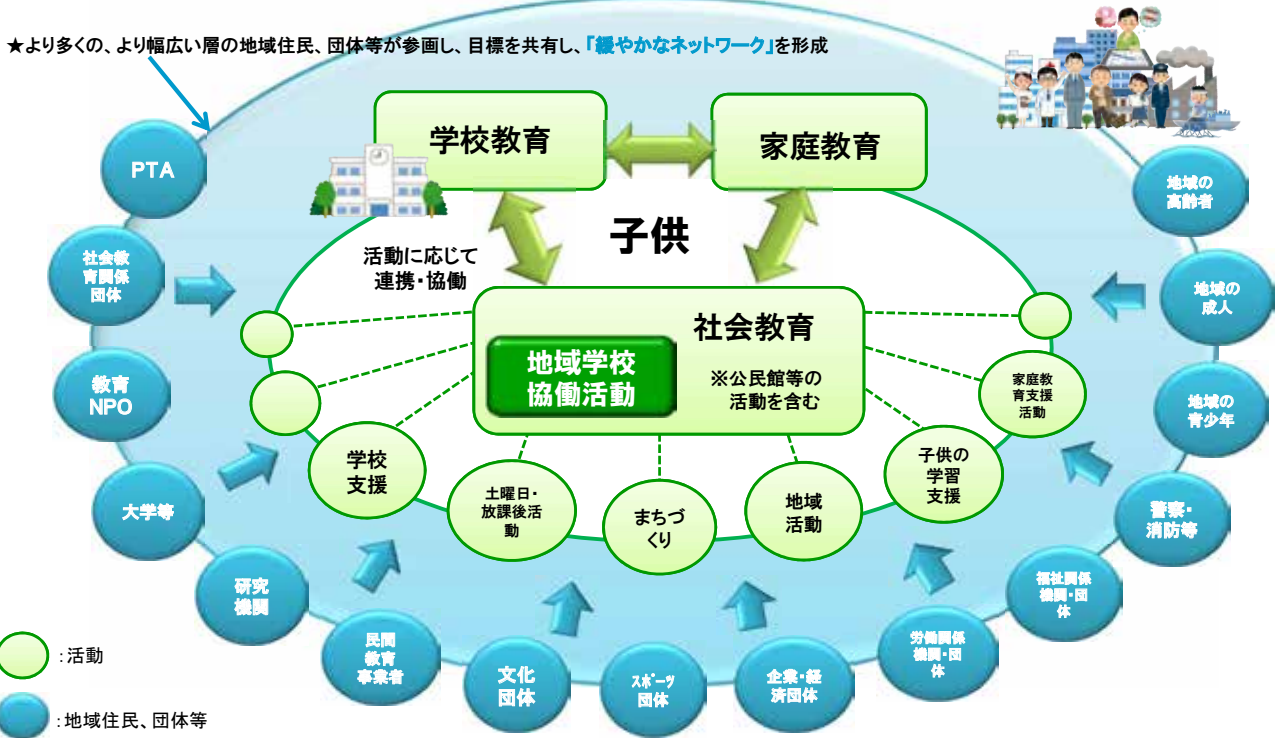
本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付（学校運営支援担当）の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

附 則

- 1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。
- 2 放課後子ども教室推進表彰要項（平成20年11月11日生涯学習政策局長決定）は、本要項の決定をもって廃止する。

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地域団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



地域学校協働活動推進事業



地域学校協働活動

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生するための活動

土曜日等の活用

外部人材を活用した教育支援活動

民間企業等の多様な経験や技能を持つ外部人材の活用により、土曜日や休日等の特色・魅力のある教育プログラムを充実。

児童の居場所

放課後子供教室

地域住民等による小学校での放課後の学習支援、体験機会の提供及び居場所づくりを拡充。

放課後児童クラブとの一体型を中心とする放課後子ども総合プランの推進

地域未来塾

地域住民の協力により、学習が遅れがちな中高生等の無料の学習支援を拡充。

貧困対策

- 地域ブランドづくり学習
- 防災学習
- 課外活動補助
- ふるさと発見学習
- 地域行事への参画 等

C協働本部

統括的な地域学校協働活動推進員 (市町村レベル)

- ・未実施地域における取組実施を推進
- ・地域学校協働活動推進員間の調整
- ・地域学校協働活動推進員の資質や活動の質の向上

B協働本部

A地域学校協働本部

従来の学校支援地域本部等を基盤とし、幅広い地域住民や団体等の参画によりネットワークを構築し、地域学校協働活動を推進

地域学校協働活動推進員 (学校区レベル)

- ・地域住民等や学校との連絡・調整
- ・地域学校協働活動の企画・推進等

- 青少年
- 大人
- 保護者・PTA
- 企業
- NPO
- 文化団体
- 高齢者
- スポーツ団体



地域学校協働活動の推進に係る参考情報



学校と地域でつくる学びの未来



地域学校協働本部、放課後子供教室、地域未来塾、外部人材を活用した教育活動等、地域学校協働活動に関する取組の概要や事例紹介、全国の実施状況、関係法令等の資料等についての情報を発信しています。



関係法令や資料(一例)

- ・新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)(中教審186号)
- ・「次世代の学校・地域」創生プラン～学校と地域の一体改革による地域創生～
- ・義務教育諸学校等の体制の充実及び運営の改善を図るための公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律等の一部を改正する法律
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審197号)
- ・次期学習指導要領(平成29年3月公示)
- ・社会教育法改正に関するQ&A
- ・平成27年度 地域学校協働活動の実施状況アンケート調査



地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン



地域学校協働本部の整備、地域学校協働活動推進員等の確保・質の向上、学校・地域住民に対する情報提供、安全・安心な活動の推進等、様々な地域における事例を紹介しています。



地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集



地域において「地域学校協働活動」の推進、「地域学校協働本部」の整備、コミュニティ・スクールの促進といった答申の提案内容に沿った活動に積極的に取り組んでいる事例を紹介しています。

地域学校協働活動事例集



「地域学校協働活動事例集」に掲載されている取組事例をはじめ、平成20年度以降に文部科学大臣から表彰を受けた活動の事例を紹介しています。

地域と学校の連携・協働の推進に向けた民間企業・団体等による教育活動参考事例集



民間企業・団体等の方々による出前授業等のプログラムの内容や、学校等で実施するまでの過程、実施により子供たちや学校が得られた成果等をまとめています。

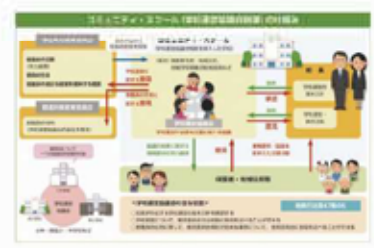
土曜学習応援団



土曜学習応援団

子供たちの土曜日、休日、放課後等における教育活動の充実に向けた取組を推進する「土曜学習応援団」に賛同している民間企業や団体等が提供する学習プログラムを検索することが可能です。

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)



コミュニティ・スクールに関する情報や資料を掲載しています。「コミュニティ・スクールパンフレット」、「学校運営協議会設置の手引き」、「ワークショップのすすめ」のダウンロードができます。

地域学校協働活動に関する WEB サイト <http://manabi-mirai.mext.go.jp>



本事例集に掲載している取組についても紹介しています。



都道府県別索引・連絡先一覧

- ・地域と学校が連携・協働した基盤的な活動…基盤活動 ・地域未来塾…未来塾 ・放課後子供教室…子供教室
 ・外部人材を活用した教育支援活動…外部人材 ・コミュニティ・スクール…コミュスク

都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
北海道	札幌市	伏古小サタデースクール	外部人材	札幌市教育委員会 生涯学習推進課	011-211-3872 http://www.fushiko-e.sapporo-c.ed.jp/	130
	札幌市	サタデースクール「時習館」	外部人材	札幌市教育委員会 生涯学習推進課	011-211-3872 http://www.teinehigashi-e.sapporo-c.ed.jp/	131
	遠別町	子どもチャレンジ教室	外部人材	遠別町教育委員会 社会教育係	01632-7-2353	132
	白糠町	白糠町土曜授業	外部人材	白糠町教育委員会 社会教育課	01547-2-2287	133
青森県	八戸市	八戸市立中居林小学校 地域密着型教育	基盤活動	八戸市立中居林小学校	0178-96-1030 http://www.hachinohe.ed.jp/nakaib_e/index.html	13
	三沢市	古間木小学校支援ボランティア	基盤活動	三沢市立古間木小学校	0176-53-3901	14
	板柳町	板柳東小学校地域学校協働活動 事業	基盤活動	板柳町立板柳東小学校	0172-77-2113	15
	むつ市	第二田名部小学校学校支援活動	基盤活動	むつ市立第二田名部小学校	0175-22-1450 https://anshin.city.mutsu.lg.jp/nita-sh/index.html	16
岩手県	大槌町	大槌町教育委員会地域学校協働 本部	基盤活動	大槌町教育委員会事務局 学務課	0193-42-6100	17
	西和賀町	いのち輝く百年創造塾	基盤活動	岩手県立西和賀高等学校	0197-84-2809 http://www2.iwate-ed.jp/nwg-h/	18
	九戸村	九戸村学校支援地域本部事業 (九曜塾)	外部人材	九戸村教育委員会 生涯学習班	0195-42-2111	134
仙台市	富沢小学校	学校支援地域本部 リンク!とみざわ	基盤活動	仙台市立富沢小学校	022-743-7303	19
	仙台市	東四かっこ放課後子ども教室	子供教室	仙台市立東四郎丸小学校	022-242-3155 http://www.sendai-c.ed.jp/~touyon/	91
	栗原市	花山小学校協働教育推進委員会	基盤活動	栗原市立花山小学校	0228-56-2250	20
宮城県	山元町	放課後子ども教室「はまっこ キッズ」	子供教室	山元町教育委員会 生涯学習課	0223-37-5116 http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/site/kosodate/2670.html	92
	大和町	吉岡地域教育協議会	基盤活動	大和町教育委員会 生涯学習課	022-345-7508 http://www.taiwa-tk.ed.jp/	21
	湯上市	天王中学校区地域学校協働活動	基盤活動	湯上市教育委員会 学校教育課	018-853-5371 http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/touko-es/ http://shisetsu.city.katagami.akita.jp/school/tennou-jh/	22
秋田県	大仙市	中仙小学校地域学校協働本部	基盤活動	大仙市立中仙小学校	0187-56-2318 www.edu.city.daisen.akita.jp/~ns-nakasensyo/	23
	鹿角市	尾去沢地域学校協働活動	基盤活動	鹿角市教育委員会 生涯学習課	0186-30-0292 http://www.ink.or.jp/~osashou/ http://www.ink.or.jp/~kanayama/	24
山形県	川西町	吉島小学校支援地域本部	基盤活動	川西町立吉島小学校	0238-44-2842	25
	上山市	かみのやま寺子屋	子供教室	上山市教育委員会 生涯学習課	023-672-1111	93
福島県	いわき市	みまや土曜たいけん隊	外部人材	いわき市教育委員会事務局 生涯学習課	0246-22-7556 http://www.iwaki.gr.fks.ed.jp/?page_id=113	135
	国見町	国見町地域学校協働本部	基盤活動	国見町教育委員会 生涯学習課	024-585-2676 https://kunimi.fcs.ed.jp	26
	金山町	金小ゆうがたクラブ	子供教室	金山町教育委員会	0241-54-5360	94
	玉川村	玉川村学校支援地域本部	基盤活動	玉川村教育委員会 学校教育課	0247-57-4633	27
茨城県	稲敷市	古渡小学校放課後子ども教室	子供教室	稲敷市教育委員会 生涯学習課	029-892-2000 http://www.city.inashiki.lg.jp/	95
	つくば市	風の会(帰国・外国人児童への 日本語指導ボランティア活動)	基盤活動	つくば市立吾妻小学校	029-851-7101 http://www.ne.jp/asahi/kazenokai/tsukuba/	28

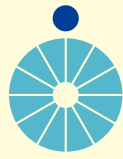
都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
栃木県	日光市	今市第三小学校 「学校支援地域協議会」	基盤活動	日光市教育委員会 生涯学習課	0288-21-5182	29
	佐野市	三轟・唐沢スクールサポートセンター	基盤活動	佐野市立北中学校	0283-23-0961 http://www.schoolnet-sano.ed.jp/kita-j/	30
群馬県	みなかみ町	新治きつづくらぶ	子供教室	みなかみ町教育委員会事務局 生涯学習推進室	0278-25-5025	96
	伊勢崎市	あずま南小学校学校運営協議会	コミュスク	伊勢崎市立あずま南小学校	0270-62-0132 http://www.isesaki-school.ed.jp/azumaminamisyo/	145
	嬭恋村	嬭恋村放課後子ども教室	子供教室	嬭恋村教育委員会事務局 社会教育係	0279-80-2330	97
埼玉県	さいたま市	辻小虹色チャレンジスクール	子供教室	さいたま市教育委員会 生涯学習部生涯学習振興課	048-829-1703	98
	さいたま市	上チャレ	未来塾	さいたま市教育委員会 生涯学習部生涯学習振興課	048-829-1703	85
	川越市	川越子どもサポート事業	基盤活動	川越市教育委員会 地域教育支援課	049-224-6086	31
	川口市	朝日東ホッと大夢	子供教室	川口市教育委員会 生涯学習課	048-259-7655 https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/04010/020/5/3860.html	99
	羽生市	みなみっ子 日本文化体験活動	基盤活動	羽生市立羽生南小学校	048-562-1901 http://www.city.hanyu.lg.jp/school/hanyuminami/	32
	深谷市	がんばル〜ム	外部人材	深谷市教育委員会 生涯学習スポーツ振興課	048-572-9581	136
千葉県	柏市	高柳西小学校ステップアップ学習会	子供教室	柏市教育委員会生涯学習部 生涯学習課	04-7191-7393 http://www.takaw-e.kashiwa.ed.jp/?page_id=13	100
	山武市	みどりみ子ども教室	子供教室	山武市教育委員会 教育部生涯学習課	0475-80-1451 shogaigakushu@city.sammu.lg.jp	101
	木更津市	木更津市放課後子ども教室	子供教室	木更津市教育委員会 生涯学習課	0438-23-5278 http://172.16.16.31/cms/index.cfm/12,29546,25,166.html	102
	野田市	川間中学校区学校支援地域本部	基盤活動	野田市教育委員会 学校教育部指導課	04-7123-1329	33
東京都	八王子市	八王子市立第六中学校学校運営協議会	コミュスク	八王子市立第六中学校	042-622-9131 http://hachioji-school.ed.jp/dai6j/	146
	江東区	やながわファミリー	基盤活動	江東区立八名川小学校	03-3631-2260 http://yngw-family315.blogspot.jp/	34
	板橋区	板一中 OSS	基盤活動	板橋区教育委員会事務局 地域教育力推進課	03-3579-2619	35
	杉並区	富士見丘中学校支援本部 [JOINT]	基盤活動	杉並区教育委員会 学校支援課	03-5307-0756	36
	あきる野市	あきるのクラブ	子供教室	東京都立あきる野学園	042-558-0222	103
	町田市	町田第三中学校「Ⅲ中未来塾」	未来塾	町田市立町田第三中学校	042-722-6095 http://www.machida-ky.ed.jp/j-machida3/	86
	横浜市	「幸ヶ谷共育倶楽部」による地域学校協働活動	基盤活動	横浜市立幸ヶ谷小学校	045-441-3170 http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohgaya/	37
	横浜市	すすき野中学校支援会による地域学校協働活動	基盤活動	横浜市立すすき野中学校	045-901-5896 http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/susukino/	38
神奈川県	川崎市	東小倉小「地域の寺子屋事業」	外部人材	川崎市教育委員会事務局 生涯学習推進課	044-200-3309 http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-14-0-0-0-0-0-0-0.html	137
	川崎市	遊びと学びの寺子屋	外部人材	川崎市教育委員会事務局 生涯学習推進課	044-200-3309 http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-14-0-0-0-0-0-0-1.html	138
	湯河原町	湯河原小学校放課後まなび教室	子供教室	湯河原町教育委員会 社会教育課	0465-62-1125 http://www.town.yugawara.kanagawa.jp/index.php?p=&d=announcing-to-public/diary&c=&type=article&art_id=2011 http://www4.airnet.ne.jp/yugawara/	104
	川崎市	宿幼くまもと応援地域本部	基盤活動	宿河原幼稚園	044-911-3199 http://www.shukugawara-kg.com/ http://www.shukugawara-kg.com/kumamoto/	39
新潟県	新潟市	新津第一小学校地域学校協働活動本部	基盤活動	新潟市教育委員会 地域教育推進課	025-226-3277 http://www.niitsuiti.city-niigata.ed.jp/	40

都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
新潟県	新潟市	笹口小学校地域学校協働活動本部	基盤活動	新潟市教育委員会 地域教育推進課	025-226-3277 http://www.sasaguchi-e.city-niigata.ed.jp	41
	見附市	見附市立田井小学校学校運営協議会	コミュニティ	見附市立田井小学校	0258-62-0479 http://www.mitsuke-ngo.ed.jp/~tai/	147
	新発田市	二葉小学校地域連携ネットワーク会議	基盤活動	新発田市立二葉小学校	0254-22-2164 http://futaba.shibata.ed.jp	42
	上越市	三和の子どもを『共に』育てる会	コミュニティ	上越市立三和中学校	025-532-2024 http://www.sanwa-j.jorne.ed.jp/	148
富山県	高岡市	土曜古府っ子教室	外部人材	高岡市教育委員会 生涯学習・文化財課	0766-20-1454	139
	朝日町	朝日中学校放課後学習相談教室	未来塾	朝日町教育委員会	0765-83-1100 http://www.asahi-j.tym.ed.jp/torikumi/gakuryokukoujousien/ http://www.town.asahi.toyama.jp/soshiki/kyoiku/ 1500516592923.html	87
石川県	金沢市	金沢市立中村町小地域学校協働本部	基盤活動	金沢市教育委員会 生涯学習課	076-220-2441 http://cms.kanazawa-city.ed.jp/nakamura-e/	43
	野々市市	館野小学校放課後子ども教室	子供教室	野々市市教育委員会 生涯学習課	076-227-6117	105
	輪島市	三井公民館子ども教室	子供教室	輪島市教育委員会 生涯学習課	0768-23-1176	106
	笛吹市	学びの広場ふえふき	子供教室	笛吹市教育委員会 生涯学習課	055-261-3339	107
山梨県	早川町	早川北小学校学校支援活動	基盤活動	早川町教育委員会	0556-45-2547 http://www.hayakawa-kitasho.ed.jp/	44
	富士吉田市	わくわく子ども教室	子供教室	富士吉田市教育委員会 生涯学習課	0555-22-1111 http://web.fujinet.ed.jp/forms/info/info.aspx?info_id=326	108
長野県	小布施町	小布施町「子ども教室」	子供教室	小布施町教育委員会	026-214-9110 http://d.hatena.ne.jp/obusekodomokyoushitsu	109
	駒ヶ根市	中沢小学校応援隊	コミュニティ	駒ヶ根市立中沢小学校	0265-83-3707 http://www.nakapo.jp	149
	佐久市	中佐都小CS応援団	基盤活動	佐久市立中佐都小学校	0267-67-3418 http://nakasato.sakushi.ed.jp/	45
岐阜県	岐阜市	黒野小学校学校運営協議会	コミュニティ	岐阜市立黒野小学校	058-239-0030 http://www.kuronomachizukuri.jp/	150
	高山市	地域に根ざした保小中一貫教育推進事業	基盤活動	荘川町まちづくり協議会事務局	05769-8-6005 http://www.shokawa.net/	46
	高山市	朝高子どもとねる会	基盤活動	高山市立朝日中学校	0577-55-3006 http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000020/1000114/1000781/1000791.html	47
	郡上市	「ふるさと」たんけん！郡上を体験！郡上こども講座	外部人材	郡上市教育委員会 社会教育課	0575-67-1128	140
静岡県	富士宮市	富士宮市立北山中学校支援地域本部	基盤活動	富士宮市立北山中学校	0544-58-1026	48
愛知県	名古屋市	川原小学校トワイライトスクール	子供教室	川原小学校 トワイライトスクール	052-762-8348 http://kawaharatwilight.blogspot.jp	110
	名古屋市	南陽小学校トワイライトルーム	子供教室	南陽小学校 トワイライトルーム	052-302-6648	111
	豊田市	浄水中学校区コミュニティ・スクール	コミュニティ	豊田市立浄水中学校	0565-42-8400 http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_josui http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=s_josukita&frame=PTA http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=c_josui	151
	田原市	田原市地域学校協働本部	基盤活動	田原市教育委員会学校教育課	0531-23-3679 http://www.city.tahara.aichi.jp/kosodate/kyoikubunka/1002935/1004287/index.html	49
	一宮市	丹陽中学校区学校運営協議会	コミュニティ	一宮市立丹陽中学校	0586-28-8756 http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~tanyo-j/	152
	清須市	清須市学校支援地域本部	基盤活動	清須市教育委員会教育部生涯学習課	052-400-2911	50
三重県	松阪市	第四小学校学校運営協議会	コミュニティ	松阪市教育委員会事務局 学校支援課	0598-53-4398	153
	四日市市	四日市市立中部中学校運営協議会	コミュニティ	四日市市立中部中学校	059-359-0114 http://www.yokkaichi.ed.jp/~chubu/cms2/htdocs/	154

都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
三重県	亀山市	川崎小学校学校運営協議会	コミュニティ	亀山市立川崎小学校	0595-85-0108 http://www.kameyama-mie.jp/~kblog/kawasaki/	155
滋賀県	長浜市	高月小学校学校運営協議会	コミュニティ	高月小学校学校運営協議会	0749-85-2002 http://takatsuki-es.nagahama.ed.jp/	156
	竜王町	竜王小学校学校運営協議会	コミュニティ	竜王町立竜王小学校	0748-57-0004 http://www.rmc.ne.jp/ryuo-es/	157
京都府	京都市	西陣中央小学校学校運営協議会	コミュニティ	京都市教育委員会 生涯学習部	075-251-0456 http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/nishijincho-s/	158
	京都市	九条弘道小学校放課後まなび教室	子供教室	京都市子ども若者はぐくみ 局 育成推進課	075-746-7610 http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=104807	112
京都府	福知山市	桃映中学校地域未来塾	未来塾	福知山市教育委員会事務局 生涯学習課	0773-22-9552	88
	向日市	地域で支える学校教育推進事業 第3向陽小学校実行委員会	基盤活動	向日市教育委員会 生涯学習課	075-931-1111 http://www.kyoto-be.ne.jp/3kouyou-es/cms/	51
	井手町	井手町まなび教室「きらきらラ ンド」	子供教室	井手町教育委員会社会教育 課	0774-82-5700	113
大阪府	大阪市	榎本小学校「いきいき」活動	子供教室	NPO法人 榎本地域活動協議会	06-6965-2123 http://www.egao-ageruyo.com/	114
	大阪市	大隅東小学校「いきいき」活動	子供教室	一般財団法人 大阪教育文化振興財団	06-6253-6211 https://www.kyoiku-shinko.jp/	115
大阪府	茨木市	水尾小学校区放課後子ども教室	子供教室	茨木市教育委員会教育総務 部社会教育振興課	072-622-5180	116
	茨木市	茨木支援学校学校支援活動（地 域交流）	基盤活動	大阪府立茨木支援学校	072-643-6951 https://www2.osaka-c.ed.jp/ibaraki-y/	52
	河内長野市	河内長野市学校運営協議会連絡 会議	コミュニティ	河内長野市教育委員会事務局 教育指導課	0721-53-1111	159
兵庫県	尼崎市	学校支援活動コーディネートモ デル事業	基盤活動	尼崎市教育委員会 社会教育課	06-4950-0405 http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/lifelong/100201 6/104gakkoushien/1005550.html	53
	三田市	ゆりのき子どもネットワーク	基盤活動	三田市市民生活部市民協働 室 多世代活躍支援課	079-559-5046 http://www.city.sanda.lg.jp/kosodate/shougakkou/yurinokidai/ kakusyuzyouhou.html	54
	朝来市	竹田まなび隊（竹田地域自治協 議会）	外部人材	竹田地域自治協議会	079-674-2128	141
奈良県	奈良市	京西中学校区地域教育協議会	基盤活動	奈良市教育委員会事務局 学校教育部地域教育課	0742-34-5366	55
	天理市	福住S・ジョブズ・スクール	外部人材	天理市立福住小学校	0743-69-2104 http://yama-too.blogspot.jp	142
	大淀町	地域と共にある大淀高校	基盤活動	奈良県立大淀高等学校	0747-52-4171 http://www.nps.ed.jp/oyodo-hs/	56
	王寺町	王寺南小学校コミュニティ	基盤活動	王寺町立王寺南小学校	0745-32-8101 http://ounansho.sakura.ne.jp/	57
和歌山県	橋本市	橋本市共有コミュニティ推進協 議会	基盤活動	橋本市教育委員会 社会教育課	0736-33-1111 http://www.city.hashimoto.lg.jp/	58
鳥取県	米子市	米子高等学校における 地域のニーズに対応した地域貢献	基盤活動	鳥取県立米子高等学校	0859-26-1311 http://www.torikyo.ed.jp/yonago-h/	59
島根県	大田市	大田わんぱく遊び隊	子供教室	大田市立中央公民館	0854-82-6630	117
	松江市	法吉子ども広場	子供教室	松江市法吉公民館	0852-21-4966 http://matsue-city-kouminkan.jp/hokki/	118
岡山県	井原市	荏原小学校支援地域本部 （地域学校協働本部）	基盤活動	井原市立荏原小学校	0866-63-0008	60
	久米南町	岡山県立誕生寺支援学校支援地 域本部（地域学校協働本部）	基盤活動	岡山県立誕生寺支援学校	086-728-2321 http://www.tanjoji.okayama-c.ed.jp/	61
広島県	広島市	庚午中学校 学校協力者会議	基盤活動	広島市教育委員会学校教育部 指導第二課	082-504-2487 http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1044	62
	廿日市市	地御前小学校区学校支援地域本 部	基盤活動	廿日市市立地御前小学校	0829-36-1021 http://www.hatsukaichi-edu.jp/jigozen-e/	63

都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
広島県	神石高原町	ゆきキッズクラブ	子供教室	神石高原町まちづくり推進課	0847-89-3332 http://www.jinsekigun.jp/ja/	119
	府中町	府中町立府中中小小学校学校運営協議会	コミュニティスク	府中町立府中中小小学校	082-281-9414 http://www.fuchuminami-e.hiroshima-c.ed.jp/	160
	岩国市	岩国きんたいきょうネット	基盤活動	岩国市立岩国中学校	0827-43-4400 http://www.iwj.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/	64
山口県	柳井市	しらかベネット	基盤活動	柳井市スクール・コミュニティセンター	0820-22-0630	65
	防府市	「牟礼は一つ 地域まるごと学校」～牟礼ミラタネット～	基盤活動	防府市教育委員会 教育部生涯学習課	0835-23-3015	66
	美馬市	江原中学校区学校支援地域本部	基盤活動	徳島県美馬市教育委員会 教育総務課	0883-52-8010	67
徳島県	鳴門市	大津西放課後子ども教室	子供教室	大津中央公民館	088-686-5569	120
	板野町	放課後子供教室 東っこ	子供教室	板野町教育委員会	088-672-0136	121
香川県	高松市	屋島東地域連携活動	基盤活動	高松市立屋島東小学校	087-843-8402 http://www.edu-tens.net/syoHP/yasimahigasiHP/	68
	丸亀市	飯山中学校区地域学校協働本部	基盤活動	丸亀市生活環境部 市民活動推進課	0877-23-2111	69
	内子町	小田小学校放課後子ども教室	子供教室	内子町教育委員会 自治・学習課	0893-44-2114	122
愛媛県	西条市	地域未来塾「さくら塾」	未来塾	西条市教育委員会 社会教育課	0897-56-5151	89
	宇和島市	高光放課後子ども教室	子供教室	宇和島市教育委員会 生涯学習課	0895-24-1111 (内線 2753)	123
	香美市	物部地域学校協働本部	基盤活動	香美市立大栃中学校	0887-58-2402 http://www.kochinet.ed.jp/odochi-j/	70
高知県	越知町	越知小学校学校支援地域本部	基盤活動	越知町立越知小学校	0889-26-1101 http://www.kochinet.ed.jp/ochi-e/	71
	土佐市	新居小学校支援地域本部	基盤活動	土佐市立新居小学校	088-856-0109 http://www.kochinet.ed.jp/nii-e/	72
	久留米市	屏水中学校区スローメディア推進活動	基盤活動	久留米市教育委員会 学校教育課	0942-30-9217	73
福岡県	春日市	大谷小学校学校運営協議会	コミュニティスク	春日市教育委員会教育部 教務課教育総務担当	092-584-1128 http://tanikko.jimdo.com http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/kosodate/school/e_school/otani/index.html http://www.ambitious.pref.fukuoka.jp/circle/detail?h_id=33	161
	直方市	直方市放課後学習	子供教室	直方市教育委員会 学校教育課	0949-25-2323	124
	苅田町	馬場小校区あそびの広場	子供教室	苅田町役場 子育て・健康課	093-588-1036	125
長崎県	佐世保市	猪調小放課後子ども教室	子供教室	佐世保市教育委員会 社会教育課	0956-24-1111 www.city.sasebo.ed.jp/es-inotsuki/asp/default.asp	126
	時津町	とぎつサタデールーム	外部人材	時津町教育委員会 社会教育課	095-882-2211 http://www.togitu.org/	143
	壱岐市	渡良っ子サポート会議	基盤活動	壱岐市立渡良小学校	0920-47-0813	74
	五島市	エンジョイ サタデースクール	外部人材	五島市教育委員会 生涯学習課	0959-72-7800	144
	産山村	うぶやま夢塾	未来塾	産山村教育委員会	0967-25-2214 http://www.ubuyama-v.jp/2017/12/22/	90
熊本県	苓北町	志岐地区地域学校協働活動	基盤活動	苓北町立志岐小学校	0969-35-0014 http://es.higo.ed.jp/shikies/	75
	和水町	菊水南小学校放課後子供教室	子供教室	和水町教育委員会 社会教育課	0968-86-2022	127

都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分	連絡先		ページ
				名称	電話番号 web URL	
大分県	臼杵市	下ノ江地区ふれあい協議会	基盤活動	臼杵市教育委員会社会教育課 (臼杵市中央公民館内)	0972-63-6444	76
	国東市	武蔵地域ネットワーク	子供教室	国東市教育委員会 社会教育課	0978-72-2121 http://www.city.kunisaki.oita.jp/	128
宮崎県	川南町	Team Kawaminami 学びのネットワークづくり事業	基盤活動	川南町教育委員会 教育課	0983-27-8019	77
	延岡市	名水っ子放課後子ども教室	子供教室	延岡市教育委員会 社会教育課	0982-22-7032	129
	小林市	小林子ども遊学会による読書活 動を通じた地域学校協働活動	基盤活動	小林市教育委員会 社会教育課	0984-22-7912	78
鹿児島県	鹿児島市	学校支援ボランティア事業 和田小学校	基盤活動	鹿児島市教育委員会 生涯学習課	099 - 813-0851 http://www.keinet.com/wadas/	79
	指宿市	川尻小学校支援地域本部	基盤活動	指宿市立川尻小学校	0993-32-2058 http://www.synapse.ne.jp/kawasirishou/	80
	志布志市	通山小学校学校応援団	基盤活動	志布志市立通山小学校	099-477-0555 http://424.ciao.jp/tooriyama-els/	81
	南さつま市	坊津学園学校運営協議会	コミュスク	南さつま市立坊津学園	0993-67-0011 http://www.minamisatsuma.ed.jp/bounotsugakuen/	162
沖縄県	浦添市	浦西中学校区地域学校協働本部	基盤活動	浦添市教育委員会教育部 生涯学習振興課	098-876-1234 (内線 6064) http://www.urasoe.ed.jp	82
	沖縄市	美東中学校地域学校協働本部	基盤活動	沖縄市教育委員会 生涯学習課	098-929-4127	83
	沖縄市	中の町小学校地域学校協働本部	基盤活動	沖縄市教育委員会 生涯学習課	098-929-4127	84



文部科学省